

科目名	基礎演習 I
科目責任者	和久田 佳代
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 教養基礎
科目の位置付	様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	<p>社会福祉、教育・保育の専門職を目指す大学生として、目標、将来像をイメージしながら、内発的・主体的に学修に取り組むことができるように初年次学生を支援する。</p> <p>大学で学ぶための基礎的な諸能力として、広い知識を獲得するための読書力、考えたことを整理し文章化する能力、自分の考えを発表する能力等を高めることを目的に、少人数の演習方式で学修を進める。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間をとりまく様々な生活現象や社会現象を、複眼的に、かつ共感しながら理解する視点を形成し、社会福祉、教育・保育への関心を深め、学ぶ動機を強める。</li> <li>2. 大学生としてのマナー・モラルを意識した行動をとることができる力を身につける。</li> <li>3. 様々な文章を読んで、趣旨を理解し、論旨を分析し、自分の考えをまとめる力をつける。</li> <li>4. 与えられた課題に対して、様々な立場を尊重しながら、意見交換する力をつける。</li> <li>5. 図書館等や各種の情報源を活用する手法を学ぶ。</li> <li>6. レジュメ、レポートの書き方を修得する。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;和久田佳代、渡辺泰宏、村上武敏、井川淳史、二宮貴之、福重浩之 (全員で毎回担当する)</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;主な担当者&gt;</p> <p>第 1 回: 学びへの導入 スチューデントスキルとスタディースキルとは 和久田佳代 事前事後学修について Moodle による学修のフィードバック</p> <p>第 2 回: 読み方のヒント 渡辺泰宏 読むことの重要性 三色ボールペン方式で読む</p> <p>第 3 回: 文章の書き方 和久田佳代 説明文には型がある 小レポートを書いてみよう (アドバイザータイム)</p> <p>第 4 回: 『質問する、問い返す』を読んで、意見交換 様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝える</p> <p>第 5 回: 『質問する、問い返す』を読んで、自分の意見をまとめる 意見交換により深まった考えを小レポートにまとめる</p> <p>第 6 回: 図書館の使い方 大学図書館を活用しよう</p> <p>第 7 回: コンピュータを活用するー基本的な使い方ー 情報倫理を学ぼう コンピュータの基本的な操作を確認しよう</p> <p>第 8 回: 社会構成員としてのマナー・モラル、キャンパスルール 井川淳史 ボランティアのすすめ (アドバイザータイム)</p> <p>第 9 回: レジュメの作り方 要旨をアウトプットする 二宮貴之 体験談から大学生活について学ぶ (1)</p> <p>第 10 回: 資料整理の仕方 授業資料・ノートを整理して活用しよう 村上武敏 体験談から大学生活について学ぶ (2)</p> <p>第 11 回: レポートの書き方 (1) レポート作成スケジュール 和久田佳代 レポートの中に文献を登場させる方法</p> <p>第 12 回: レジュメに基づき、発表する (『ロボットが家にやってきたら…』) 様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝える</p> <p>第 13 回: 定期試験・レポート課題等に対する心得 和久田佳代 学修時間・学修行動を振り返る (アドバイザータイム)</p> <p>第 14 回: レジュメに基づき、意見交換 (『ロボットが家にやってきたら…』) 意見交換により深まった考えをレポートにまとめる</p> <p>第 15 回: 学びの確認 まとめ レポート提出前にチェックリストにそって最終確認する</p>

	<p>&lt;受講者へのメッセージ&gt;演習は、毎回の授業への出席とそこでの発言等の授業参加が、通常の科目の試験と同じ重さを持っています。従って、毎回の授業出席と授業参加が、成績以前の基本的な前提となります。</p> <p>基礎演習を通して、大学での学びの基礎を身につけましょう。</p>
アクティブ ラーニング	<p>少人数グループにおいて意見交換、意見発表を行う。 毎時間後、Moodleによるフィードバックを行う。</p>
評価方法	<p>発表・発言等の平常点 50%・レポート 50% ・レポートはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。</p>
課題に対する フィード バック	<p>提出物・発表等に対するフィードバックは、授業中に行う。</p>
指定図書	<p>名古屋隆彦『質問する、問い返す 主体的に学ぶということ』岩波書店 遠藤薫『ロボットが家にやってくる…人間とAIの未来』岩波書店</p>
参考図書	<p>授業にて紹介する</p>
事前・ 事後学修	<p>主体的に学ぶ方法を身につけるために、様々な課題がある。 毎回、Moodleを使ってフィードバックを行う。(目安時間 40分)</p>
オフィス アワー	<p>和久田佳代 社会福祉学部 2709 時間については初回授業時に提示する。 渡辺泰宏 社会福祉学部 2708 村上武敏 社会福祉学部 2613 井川淳史 社会福祉学部 1608 二宮貴之 社会福祉学部 2602 福重浩之 社会福祉学部 2607</p>
実務経験に 関する記述	

科目名	基礎演習Ⅱ
科目責任者	渡辺 泰宏
単位数他	1単位 (30時間) 必修 2セメスター
DP番号と科目領域	DP3 教養基礎
科目の位置付	様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	大学で学ぶための基礎的な諸能力として、広い知識を獲得するための読書力、考えたことを整理し文章化する能力、自分の考えを発表する能力等を高めることを目的に、少人数の演習方式で学修を進める。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間をとりまく様々な生活現象や社会現象を、複眼的に、かつ共感しながら理解する視点を形成し、社会福祉への関心を深め、学ぶ動機を強める。</li> <li>2. 様々な文献や文章を読んで、趣旨を理解し、論旨を分析し、自分の考えをまとめる力をつける。</li> <li>3. 各自が関心のあるテーマを選択し、文献等で調べるなどして理解を深め、グループで討論しながら、レポート、小論文、論文の書き方を修得する。</li> <li>4. 様々な立場を尊重しながら、発表し、意見交換する力をつける。</li> <li>5. キャリアデザインに関するイメージを修得し、社会福祉専門職を目指す大学生として内発的・主体的に学修に取り組むためのモチベーションを高める。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;渡辺泰宏、村上武敏、井川淳史、和久田佳代、二宮貴之 福重浩之 (全員で毎回担当する)</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション 図書館利用・文献検索について  第2回：レポートにまとめるテーマ選択のための準備作業(1)  第3回：レポートにまとめるテーマ選択のための準備作業(2)  第4回：福祉の日記念講演に参加し、社会福祉への関心を深める  第5回：参考文献リストの作り方・研究倫理について (アドバイザータイム)  第6回：本学図書館を利用する 参考文献リストを作成する  第7回：体験談 キャリアデザイン  第8回：選択したテーマについて中間発表をし、討論する(1)  第9回：選択したテーマについて中間発表をし、討論する(2)  第10回：卒業研究発表会へ出席し、社会福祉の課題を学ぶ  第11回：卒業研究発表会へ出席し、社会福祉の課題を学ぶ  第12回：選択したテーマについて発表し、討論する(1)  第13回：選択したテーマについて発表し、討論する(2)  第14回：国家試験について・定期試験に向けて (アドバイザータイム)  第15回：レポートのまとめ (提出前の最終チェック)</p> <p>&lt;受講者へのメッセージ&gt;演習は、毎回の授業への出席とそこでの発言等の授業参加が、通常の科目の試験と同じ重さを持っています。従って、毎回の授業出席と授業参加が、成績以前の基本的前提となります。</p> <p>基礎演習を通して、大学での学びの基礎を身につけましょう。</p>

アクティブ ラーニング	あるテーマについて、文献等で調べるなどして理解を深め、さらには発表し、これについて意見交換やグループ討論を行う。
評価方法	発表・発言等の平常点 50%・レポート 50% レポートに関しては、ルーブリックを用いる。
課題に対する フィード バック	提出物・発表等に対するフィードバックは、授業中に行う。
指定図書	なし。参考書については、授業中に紹介する。
参考図書	各教員より、適宜連絡する。
事前・ 事後学修	大学図書館、地域図書館を積極的に活用することを含め、授業での課題や各自のテーマについて、文献を探し、読み、考えをまとめることを毎回ごとについて行う。(目安時間 40 分)
オフィス アワー	渡辺泰宏 社会福祉学部 2708 村上武敏 社会福祉学部 2613 井川淳史 社会福祉学部 1682 和久田佳代 社会福祉学部 2709 二宮貴之 社会福祉学部 2602 福重浩之 社会福祉学部 時間については初回授業時に提示する
実務経験に 関する記述	

科目名	英語Ⅲ
科目責任者	パターソン・ドナルド
単位数他	1単位 (30時間) 選択 3セメスター
DP 番号と科目領域	DP7 教養基礎
科目の位置付	社会福祉に関する地域社会および国際社会のニーズを捉え、社会福祉専門職として貢献し、自己研鑽することができる。
科目概要	国内外の保健・医療・福祉分野で幅広く活躍するためには、専門知識に加えて英語などの語学力が求められる。本科目では、ヘルスケア分野に特化した英語を学び、専門分野の基礎的な英語運用能力を身につける。代表的な疾病・障害に関する文献を読み、語彙力・読解力を高める。患者とのコミュニケーション、多職種間のやりとり、およびプレゼンテーションの仕方を学び、実践的なオーラル・コミュニケーション力を身につける。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ヘルスケアの専門用語、ケアに関する語彙を英語で 150 語以上覚える。</li> <li>2. 辞書を使って、専門分野の基礎的な英語文献を正確に読むことができる。</li> <li>3. バイタルの測定、気分や症状、心配事などを聞くことができる。与薬時の説明、安全確認ができる。</li> <li>4. 簡単なケアの指示、および疾病・症例の説明を英語で行うことができる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt; パターソン・ドナルド、他</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回: Introduction to the course 履修説明、Body Parts 身体の部位  第 2 回: Meeting Patients 患者登録と生活習慣アンケートをする  第 3 回: Taking a Medical History 病歴および健康状態を把握する  第 4 回: Assessing Patients' Symptoms 患者の病状や症状をアセスメントする  第 5 回: Taking Vital Signs バイタルサインを確認する  第 6 回: 発表会  第 7 回: まとめ、中間テスト  第 8 回: Assessing Pain 疾病・負傷による痛みをアセスメントする  第 9 回: Advising about Medication 処方された投薬についてアドバイスをする  第 10 回: Improving Patients' Mobility 体の機能回復を介助する  第 11 回: Maintaining a Good Diet 栄養と食餌についてアドバイスする  第 12 回: Coping with Emergencies 緊急時に対処する  第 13 回: グループ発表会  第 14 回: グループ発表会  第 15 回: まとめ</p>

アクティブ ラーニング	グループ学修、ロールプレイング、 Google Classroom の活用、
評価方法	クラスでの平常点（事前学習、授業態度）10%、小テスト20%、中間テスト20%、発表 25%、最終テスト25%
課題に対する フィード バック	小テスト・中間テストの解説、レポート・プレゼンテーションのコメント、ピア評価（プレゼンテーション）
指定図書	『Caring for People』 M. Mayazumi, T. Miyatsu, P. Hinder（作者）（Cengage センテージ）
参考図書	なし
事前・ 事後学修	Google Classroom による課題、レポート。学修時間の目安：事前学修 30 分～1 時間、事後学修 30 分～1 時間程度。
オフィス アワー	パターソン・ドナルド：金曜日 13:00-15:00、研究室：5704 号室
実務経験に 関する記述	

科目名	社会福祉学概論 I
科目責任者	佐藤 順子
単位数他	2単位(30時間) 必修 1 Semester
DP 番号と科目領域	(社福) DP2 専門基礎 (介護) DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	<p>個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや、自助から公助に至る過程について理解するための学習、わが国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、仕組みについて理解する学習および介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である障害者総合援制度について介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得する学習、個人情報保護や成年後見制度などの基礎的知識を習得する学習とする。</p> <p>福祉専門職（社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、保育士）に求められる基本的な知識・理論の体系的理解の端緒として、現代社会における社会福祉の課題・役割、社会福祉の基盤となる価値・理念・原理、社会福祉の概要、社会福祉の歴史などについて、できるだけ学生自身の生活や関心に結び付けて学ぶ。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 個や集団、社会の単位で人間を理解する視点が身に付き、生活と社会の関係性を捉えることができる</li> <li>2. 現代社会の特徴と社会福祉の意義、役割が理解できる</li> <li>3. 社会福祉の発展過程について理解できる</li> <li>4. 社会福祉、社会保障に関する法、制度、実施体制の概要が理解できる</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;佐藤 順子</p> <p>第1回：ガイダンス、グループワーク「社会福祉とは？」</p> <p>第2回：社会と生活のしくみ、社会福祉を理解するための基本的枠組み</p> <p>第3回：現代社会における社会福祉の課題～最近のニュースから～①</p> <p>第4回：現代社会における社会福祉の課題～最近のニュースから～②</p> <p>第5回：社会福祉をとりまく状況</p> <p>少子高齢社会、現代家族の動向、地域社会の変化、雇用形態の多様化</p> <p>第6回：社会福祉の基盤となる考え方 社会福祉援助者に共通する価値・理念・原理</p> <p>第7回：社会福祉の歴史 欧米の歴史</p> <p>第8回：社会福祉の歴史 日本の歴史① 古代～近代</p> <p>第9回：社会福祉の歴史 日本の歴史② 現代の福祉政策・制度の動向</p> <p>第10回：社会福祉の法と諸制度</p> <p>社会福祉関係法制、社会保障制度、社会福祉の実施主体（行政、施設）、専門職</p> <p>第11回：低所得者の福祉 貧困問題とその対策の歴史、公的扶助、生活保護</p> <p>第12回：高齢者の福祉 高齢者福祉を取り巻く状況と老後・老人問題、介護を支える諸制度</p> <p>第13回：障害者の福祉</p> <p>「障害者」の概念、共生社会実現と障害者支援のための諸制度、支援のあり方</p> <p>第14回：子ども家庭支援と福祉</p> <p>子ども・家庭を取り巻く状況と福祉政策の現状、子ども・家庭支援の制度・サービス</p> <p>第15回：その他 日本と諸外国における社会福祉の政策動向</p>

アクティブ ラーニング	発問に対する隣同志の意見交換、グループ討議、事前課題への取り組みに基づく授業などを取り入れる
評価方法	授業態度10%、課題への取り組み20%、定期試験70%
課題に対する フィード バック	毎時間冒頭で前回のリアクションペーパーに対してコメントし、学生相互の学びを共有する。
指定図書	『社会福祉概論 I 現代社会と福祉』 全社協（「社会福祉学習双書」編集委員会編）全国社会福祉協議会
参考図書	岩田正美・上野谷加代子・藤村正之著『社会福祉入門』有斐閣アルマ 古川孝順著『福祉ってなんだ』岩波ジュニア新書 菊池正治・清水教恵・田中和男・永岡正己・室田保夫編著『日本社会福祉の歴史』ミネルヴァ書房
事前・ 事後学修	事前学修：毎回の授業で学ぶ項目について、教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおくほか、講義予定表に提示した課題に取り組む 新聞をよく読み、福祉に関連する記事を集めておく 事後学修：授業後は、学びをまとめ期日までにMoodleに入力する (事前・事後学修 40分)
オフィス アワー	科目責任者の研究室は2606です。時間については授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は社会福祉の実務経験を有する社会福祉士が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	ソーシャルワーク総論Ⅰ
科目責任者	坂本 道子
単位数他	2単位(30時間) 必修 1 Semester
DP番号と科目領域	(社福)DP2 専門基礎 (介護) DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	対人援助専門職への学習の入門編として、視聴覚教材を用いながら、感性を養い、「自己理解・他者理解」「生活とは」「生活問題」などについて、専門職としての多元的複眼的なものの見方を修得する。そのうえで、福祉専門職の歴史の変遷、基本的な価値や知識、技術を取得し、現代社会における福祉専門職の役割と意義について理解することを目的とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対人援助専門職の役割と意義、および福祉専門職（社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士、保育士など）の役割と意義を説明できる</li> <li>2. 対人援助専門職の基本姿勢について説明できる。</li> <li>3. 感性と表現力・分析力を磨き、感じたこと、理解したこと、考えたことを言語化できる。</li> </ol>
授業計画	<p style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞</p> <p>第1回：オリエンテーションー「援助」「生活」ということ、「論」「演習」「実習」との関係</p> <p>第2回：社会福祉における「生活」のとらえ方</p> <p>第3回：当たり前すぎる「生活」ー生活をとらえる視点</p> <p>第4回：「生活」を客観的に見る視点ー生活問題のとらえ方</p> <p>第5回：「生活」の中で対人援助技術を磨くー自立支援の考え方、相談援助の技法、言語化</p> <p>第6回：ソーシャルワーカーの役割ー福祉専門職（資格）の役割と意義</p> <p>第7回：対人援助の概念と範囲ージェネラリストとしての援助の意義と内容</p> <p>第8回：ソーシャルワーカーの専門性ー相談援助の理念（人権尊重・社会正義・利用者本位・尊厳の保持・権利擁護・自立支援・社会的包摂・ノーマライゼーション等）</p> <p>第9回：ソーシャルワークの価値と倫理ー専門職倫理の概念、倫理綱領、倫理的ジレンマ</p> <p>第10回：ソーシャルワークの歴史①ーソーシャルワークの萌芽</p> <p>第11回：ソーシャルワークの歴史②ーソーシャルワークにおける理論化</p> <p>第12回：ソーシャルワークの歴史③ー資格制度、国際定義、ジェネラリスト、小テスト</p> <p>第13回：相談援助における権利擁護</p> <p>第14回：ソーシャルワークとチームージェネラリストとしての多職種連携の意義と内容</p> <p>第15回：まとめ；これからの福祉専門職ー相談援助にかかる専門職の概念と範囲</p>

アクティブ ラーニング	教員との双方向のコミュニケーション、学生同士の小さなロールプレイなど、演習形式も取り入れ展開する。
評価方法	授業態度 10%、毎回授業時提出小レポート 10%、中間レポート 30%、 期末試験 50%
課題に対する フィード バック	授業中に行う
指定図書	空閑浩人 2015 『ソーシャルワーク』 ミネルヴァ書房
参考図書	空閑浩人 2009 『ソーシャルワーク入門——相談援助の基盤と専門職』 ミネルヴァ書房
事前・ 事後学修	1, 授業中に配布された資料や指定図書を事前・事後に熟読し、授業内容を理解する 2, 生活の中で、授業によって得た知識を、実体験とつなぎ合わせ、自己覚知を進める (目安時間 40分)
オフィス アワー	坂本研究室 (2612) 時間は授業で提示する
実務経験に 関する記述	本科目は「対人援助技術」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	ソーシャルワーク論 I
科目責任者	福田 俊子
単位数他	2単位 (30 時間) 必修 社福 2セメスター 選択 介護 2セメスター
DP 番号と科目領域	(社福) DP2 専門基礎 (介護) DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	本科目は、ソーシャルワーク実践の基盤となる「援助関係形成の意義と方法」について理解を深めることに主眼をおき、①ソーシャルワークの対象把握と援助モデルを理解すること、②援助関係形成の原則を理解すること、③援助関係形成過程について理解することを目的としている。
到達目標	1. 4つの援助モデルについて説明できる。 2. 生活問題を人と環境の視点で捉えようとする。 3. 援助関係の重要性を認識し、自己覚知の必要性を理解する。 4. 事例を通して、バイステックの7原則の重要性について理解する。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：講義の概要説明</p> <p>第2回：「人を助けるということ」について映画から考える</p> <p>第3回：人を助けるということ (Unit0)</p> <p>第4回：社会福祉の援助活動の特徴① (Unit1 対人援助の構成要素)</p> <p>第5回：社会福祉の援助活動の特徴② (Unit2 社会福祉援助の対象)</p> <p>第6回：社会福祉の援助活動の特徴③ (Unit3 社会福祉援助の視点)</p> <p>第7回：個人モデル・環境モデル (Unit4)</p> <p>第8回：物語モデル (Unit5)</p> <p>第9回：文化モデル (Unit6)</p> <p>第10回：個別援助の展開過程と援助関係 (Unit7)</p> <p>第11回：物語モデルの展開過程 (Unit7)</p> <p>第12回：援助関係を形成するための原則① (クライアントを個人として捉える・クライアントの感情表現を大切にすること ・受けとめる・援助者は自分の感情を自覚して吟味する)</p> <p>第13回：援助関係を形成するための原則② (クライアントの自己決定を促して尊重する)</p> <p>第14回：援助関係を形成するための原則③ (秘密を保持して信頼感を醸成する)</p> <p>第15回：援助関係を形成するための原則のまとめ</p> <p>&lt;その他&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「覚えること」よりも「考えること」を大切にすること。</li> <li>・リアクションペーパーは、毎回授業の冒頭で、匿名にて使用させていただく。</li> </ul>

アクティブ ラーニング	リアクションペーパーに書かれた内容などをもとにグループディスカッションを、適宜取り入れる。
評価方法	<p>課題レポート 20%、定期試験 60%、授業への取り組み 20%として評価する。</p> <p>&lt;小レポートのテーマ・様式&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ：『社会福祉をつかむ』の第8章を読み、ユニットごとに「学んだこと」「考えたこと」「疑問に思ったこと」をまとめる。</li> <li>・字数：2400字程度、パソコン書き、表紙つき</li> </ul> <p>&lt;授業への取り組み&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習態度は毎回のリアクションペーパー等で確認する。</li> <li>・リアクションペーパーの不正提出等は大幅な減点とする。</li> </ul>
課題に対する フィード バック	ほぼ毎回、積極的にリアクションペーパーへコメントする。
指定図書	稲沢公一・岩崎晋也『社会福祉をつかむ【改訂版】』有斐閣
参考図書	授業中に、随時提示する。
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3～11回の授業では、事前に該当する教科書の単元の確認問題に取り組むこと。</li> <li>・配布資料を参考にしながら、自分にとってわかりやすい講義ノートを作成すること。</li> </ul> <p style="text-align: right;">(目安時間 40分)</p>
オフィス アワー	科目責任者は、社会福祉学部社会福祉学科の所属である。研究室は2614。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。
実務経験に 関する記述	本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	医学概論																																
科目責任者	秋山 恵美子																																
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 社福 2 セメスター 必修 介護 2 セメスター																																
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎																																
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。																																
科目概要	社会福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に理解するために初年次の学問として、まず基本的な人の身体の構造（解剖）と働き（生理）や精神に関する知識を学ぶ。そして誕生、成長・発達や老化などの日常生活に関連させながら学習を進める。さらに日常の中でみることの多い疾患や障害について理解し、リハビリテーション、国際生活機能分類（ICF）、健康のとらえ方等の学習を踏まえ、現代社会で発生している諸問題などを関連づけて考えていく力を身につける。																																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身体構造と心身の機能について、人の成長・発達と老化をふまえて理解する</li> <li>2. 様々な疾病や障害の概要について、日常生活と関連づけて理解する。</li> <li>3. リハビリテーションの概要について理解する</li> <li>4. 国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要と健康のとらえ方について理解する。</li> </ol>																																
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: right;">＜担当教員名＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 回：授業のガイダンス           身体の成長・発達、人体部位の名称、生殖器、先天性疾患</td> <td style="text-align: right;">岡田 真人</td> </tr> <tr> <td>第 2 回：心臓の構造と循環器系、心疾患、高血圧</td> <td style="text-align: right;">岡田 真人</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：腎臓の構造と泌尿器系、腎臓疾患、泌尿器系疾患</td> <td style="text-align: right;">岡田 真人</td> </tr> <tr> <td>第 4 回：精神の成長・発達、知的障害、発達障害</td> <td style="text-align: right;">秋山恵美子</td> </tr> <tr> <td>第 5 回：老化、高齢者に多い疾患、人口の高齢化と家族</td> <td style="text-align: right;">秋山恵美子</td> </tr> <tr> <td>第 6 回：呼吸器の構造と換気、呼吸器疾患、感染症、感染症対策</td> <td style="text-align: right;">鈴木千佳代</td> </tr> <tr> <td>第 7 回：内分泌器官、生活習慣と未病、糖尿病と内分泌疾患           国民健康づくり対策</td> <td style="text-align: right;">鈴木千佳代</td> </tr> <tr> <td>第 8 回：消化と吸収、水分と脱水、血液の成分、消化器疾患、           血液疾患と膠原病、歯科保健</td> <td style="text-align: right;">鈴木千佳代</td> </tr> <tr> <td>第 9 回：神経の構造と機能、脳血管疾患、神経疾患と難病</td> <td style="text-align: right;">鈴木千佳代</td> </tr> <tr> <td>第 10 回：認知症、高次脳機能障害、精神障害</td> <td style="text-align: right;">鈴木千佳代</td> </tr> <tr> <td>第 11 回：支持運動器官、骨・関節疾患、平衡機能障害、肢体不自由</td> <td style="text-align: right;">鈴木千佳代</td> </tr> <tr> <td>第 12 回：感覚器、皮膚、身体機能の調節、目・耳の疾患           視覚障害、聴覚障害</td> <td style="text-align: right;">鈴木千佳代</td> </tr> <tr> <td>第 13 回：悪性腫瘍、終末期医療と緩和ケア、内部障害、           健康の概念、日本の人口統計、産業保健</td> <td style="text-align: right;">鈴木千佳代</td> </tr> <tr> <td>第 14 回：リハビリテーション</td> <td style="text-align: right;">鈴木千佳代</td> </tr> <tr> <td>第 15 回：国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方           まとめ</td> <td style="text-align: right;">鈴木千佳代</td> </tr> </tbody> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第 1 回：授業のガイダンス 身体の成長・発達、人体部位の名称、生殖器、先天性疾患	岡田 真人	第 2 回：心臓の構造と循環器系、心疾患、高血圧	岡田 真人	第 3 回：腎臓の構造と泌尿器系、腎臓疾患、泌尿器系疾患	岡田 真人	第 4 回：精神の成長・発達、知的障害、発達障害	秋山恵美子	第 5 回：老化、高齢者に多い疾患、人口の高齢化と家族	秋山恵美子	第 6 回：呼吸器の構造と換気、呼吸器疾患、感染症、感染症対策	鈴木千佳代	第 7 回：内分泌器官、生活習慣と未病、糖尿病と内分泌疾患 国民健康づくり対策	鈴木千佳代	第 8 回：消化と吸収、水分と脱水、血液の成分、消化器疾患、 血液疾患と膠原病、歯科保健	鈴木千佳代	第 9 回：神経の構造と機能、脳血管疾患、神経疾患と難病	鈴木千佳代	第 10 回：認知症、高次脳機能障害、精神障害	鈴木千佳代	第 11 回：支持運動器官、骨・関節疾患、平衡機能障害、肢体不自由	鈴木千佳代	第 12 回：感覚器、皮膚、身体機能の調節、目・耳の疾患 視覚障害、聴覚障害	鈴木千佳代	第 13 回：悪性腫瘍、終末期医療と緩和ケア、内部障害、 健康の概念、日本の人口統計、産業保健	鈴木千佳代	第 14 回：リハビリテーション	鈴木千佳代	第 15 回：国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方 まとめ	鈴木千佳代
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																																
第 1 回：授業のガイダンス 身体の成長・発達、人体部位の名称、生殖器、先天性疾患	岡田 真人																																
第 2 回：心臓の構造と循環器系、心疾患、高血圧	岡田 真人																																
第 3 回：腎臓の構造と泌尿器系、腎臓疾患、泌尿器系疾患	岡田 真人																																
第 4 回：精神の成長・発達、知的障害、発達障害	秋山恵美子																																
第 5 回：老化、高齢者に多い疾患、人口の高齢化と家族	秋山恵美子																																
第 6 回：呼吸器の構造と換気、呼吸器疾患、感染症、感染症対策	鈴木千佳代																																
第 7 回：内分泌器官、生活習慣と未病、糖尿病と内分泌疾患 国民健康づくり対策	鈴木千佳代																																
第 8 回：消化と吸収、水分と脱水、血液の成分、消化器疾患、 血液疾患と膠原病、歯科保健	鈴木千佳代																																
第 9 回：神経の構造と機能、脳血管疾患、神経疾患と難病	鈴木千佳代																																
第 10 回：認知症、高次脳機能障害、精神障害	鈴木千佳代																																
第 11 回：支持運動器官、骨・関節疾患、平衡機能障害、肢体不自由	鈴木千佳代																																
第 12 回：感覚器、皮膚、身体機能の調節、目・耳の疾患 視覚障害、聴覚障害	鈴木千佳代																																
第 13 回：悪性腫瘍、終末期医療と緩和ケア、内部障害、 健康の概念、日本の人口統計、産業保健	鈴木千佳代																																
第 14 回：リハビリテーション	鈴木千佳代																																
第 15 回：国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方 まとめ	鈴木千佳代																																

アクティブ ラーニング	主体的に参加できるよう工夫をする。 ループリックは使用しない。
評価方法	試験 100%
課題に対する フィード バック	毎回、リアクションペーパーを配布し、学びのポイントや気づきにマークし、疑問に答えたり、コメントを付けたりし、返却する。
指定図書	『新・社会福祉士養成講座 人体の構造と機能及び疾病』中央法規出版
参考図書	必要時、適宜紹介する。
事前・ 事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読する。(40分) 事後学修：授業内容をテキストと照合し、ノートにまとめる。(40分)
オフィス アワー	社会福祉学部所属の秋山恵美子研究室(2611 研究室)にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定する。時間については、初回授業時に提示する。
実務経験に 関する記述	本科目は「医師」「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	キリスト教社会福祉
科目責任者	坂本 道子
単位数他	1 単位(15 時間) 選択 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP 1 専門
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	本講義では、これまでの社会福祉の学びを振り返りつつ、日本の社会福祉形成に重要な役割を果たしたキリスト教社会福祉実践者、あるいは強い使命感を持って実践した人々の生き様を学ぶ。これを通して、人間の「多様性」を受容・共感する態度を具体的に習得し、人や社会に協調できる共生の価値観を涵養する。受講者数によっては演習形式で進めることもある。
到達目標	1. 今まで学修を通して理解した、人間の「多様性」を踏まえ、共生の価値観をもつ。 2. その価値観を土台にして、受容的・共感的態度をもって、人や社会と協調できる。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：はじめに—キリスト教社会福祉における人物史研究の視点</p> <p style="text-align: center;">井深八重の生涯と社会福祉活動 <span style="float: right;">坂本</span></p> <p>第2回：石井十次の生涯と慈善・救済事業 <span style="float: right;">坂本</span></p> <p>第3回：石井亮一と筆子の生涯と慈善・救済事業 <span style="float: right;">坂本</span></p> <p>第4回：賀川豊彦の生涯と社会事業・社会福祉活動① <span style="float: right;">坂本</span></p> <p>第5回：賀川豊彦の生涯と社会事業・社会福祉活動② <span style="float: right;">坂本</span></p> <p>第6回：田内千鶴子の生涯と福祉活動 <span style="float: right;">坂本</span></p> <p>第7回：糸賀一雄の生涯と福祉活動 <span style="float: right;">坂本</span></p> <p>第8回：留岡幸助の生涯と慈善・感化事業, <span style="float: right;">坂本</span></p> <p style="text-align: center;">まとめ——対人援助の根底思想としての「ディアコニア」</p>

アクティブ ラーニング	事前に人物についての要約、自己学習を課する。授業後は学びを振り返り言語化する。これらの繰り返しにより、主体的な学びの方法を身につけ、知識の定着を図る。
評価方法	授業態度 20%、毎回授業時提出小レポート 30%、期末試験レポート 50% (評価基準はルーブリックで示す)
課題に対する フィード バック	授業中に行う
指定図書	室田保夫 2006 『人物でよむ近代日本社会福祉のあゆみ』 ミネルヴァ書房
参考図書	室田保夫 2013 『人物でよむ西洋社会福祉のあゆみ』 ミネルヴァ書房 一番ヶ瀬康子監修 『シリーズ 福祉に生きる』 1～63 巻 大空社 阿部志郎・岡本榮一監修・日本キリスト教社会福祉学会編 2014 『日本キリスト教社会福祉の歴史』 ミネルヴァ書房 取り上げた人物の参考図書は授業中に提示する
事前・ 事後学修	事前学修において、テキストを少なくとも1度は読み、それぞれの人物の「生い立ち」や「行ったこと」について理解しておくこと。事後学修では、知識を定着させるために、さらにテキストを熟読すること (目安時間 40 分)
オフィス アワー	坂本研究室 (2612) 時間は授業で提示する
実務経験に 関する記述	本科目は「対人援助技術」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	総合演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
科目責任者	担当指導教員
単位数他	2単位(30時間) 必修 I=6セメスター、Ⅱ・Ⅲ=7・8セメスター
DP番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	これまでのさまざまな学びを踏まえ、学生一人ひとりが専門的な学修を進めていく。読む、調べる、考える、書く、まとめる、発表する、討議する等の力を深め、応用力を養うことを目的とする。各自のテーマは、関心のある領域の担当教員の指導を受けながら学生が設定し、演習での学びを通して専門的理解を深め、その成果物を作成し発表を行う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自主的に調べ、文献資料等を活用し、まとめ、発表、討議をすることができる。</li> <li>2. 自らのテーマを見つけだすことができる。</li> <li>3. 自らのテーマ・課題に基づき、目的に向けて方法を考え、実行する、まとめる、発表する、討議することができる。</li> <li>4. 大学生生活最後の学びをまとめ、卒業研究発表会で人に伝わるように発表することができる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>本科目は、基本的に授業の進め方、内容、方法等の詳細については、担当指導教員がメンバーとの相談の上で決める。(総合演習ガイダンス参照)</p> <p>6セメスター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合演習の意義を理解と目的</li> <li>・与えられた課題を調べ、文献資料等を活用しまとめる</li> <li>・調べたこと、考えたこと等を発表し、討議する</li> </ul> <p>7セメスター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己のテーマを探す</li> <li>・自己のテーマを見つけ出す</li> <li>・自己のテーマに基づき文献を読み、自己の考えをまとめる</li> <li>・自己のテーマに基づきフィールド調査や教材等の作成を行う。 直接、人間を対象とする調査・研究を行う際は倫理的配慮を図る。</li> <li>・研究倫理について学ぶ</li> <li>・テーマをまとめ、発表する</li> </ul> <p>8セメスター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の形式にまとめる</li> <li>・卒業研究発表会の準備</li> <li>・卒業研究発表会にて発表する</li> </ul> <p>*詳細は担当指導教員のWebシラバス参照</p>

アクティブ ラーニング	少人数のゼミで行う。
評価方法	<p>&lt;社会福祉学科・介護福祉学科&gt;</p> <p>I：授業への参加状況（出席、参加度（意欲・態度）、レジュメ等）50%、レポート50%</p> <p>II：授業への参加状況（出席、参加度（意欲・態度）、レジュメ等）50%、レポート50%</p> <p>III：授業等への参加状況(出席、参加度(意欲・態度)、発表会への参加度) 40%、最終提出物 60%</p> <p>&lt;こども教育福祉学科&gt;</p> <p>I：授業への参加状況（出席、参加度（意欲・態度）、レジュメ等）50%、レポート50%</p> <p>II：授業等への参加状況(出席、参加度(意欲・態度)、発表会への参加度) 40%、最終提出物 60%</p> <p>・最終提出物はルーブリック（moodleに掲載）を用いて評価する。</p>
課題に対する フィード バック	授業内でそのつどフィードバックする。
指定図書	*担当指導教員のWeb シラバス参照
参考図書	*担当指導教員のWeb シラバス参照
事前・ 事後学修	<p>事前学習：前回の課題を調べ、発表できるようにする</p> <p>事後学習：今回の授業をふまえ自己のテーマの課題について考える</p> <p>※ 原則として、40分程度の事前・事後学習はそれぞれで実施すること</p>
オフィス アワー	*担当指導教員のWeb シラバス参照
実務経験に 関する記述	*担当指導教員のWeb シラバス参照



アクティブ ラーニング	発問に対する隣同志の意見交換、中間テストを取り入れる
評価方法	定期試験60%、中間テスト30%、授業態度 10%
課題に対する フィード バック	毎時間冒頭で前回のリアクションペーパーに対してコメントし、学生相互の学びを共有する。 中間テスト実施後解説を行う。
指定図書	「社会福祉概論Ⅰ 現代社会と福祉」 全社協（社会福祉学習双書 編集委員会編） （社会福祉学概論Ⅰですすでに購入済のもの）
参考図書	岩田正美『社会福祉への招待』放送大学教育振興会 大友信勝・永岡正己編著『社会福祉原論の課題と展望』高菅出版
事前・ 事後学修	事前学修：授業内容に該当する教科書の項目について事前に読んでおく 講義予定表に提示した課題に取り組む 事後学習：関連する国家試験過去問などに取り組む (事前・事後学修 40分)
オフィス アワー	科目責任者の研究室は2606です。時間については授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は社会福祉の実務経験を有する社会福祉士が実務の観点から踏まえて教授する科目です。

科目名	ソーシャルワーク総論Ⅱ
科目責任者	坂本 道子
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 2 Semester
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	本科目は、ソーシャルワーク総論Ⅰと同様に、ジェネラリストとしての相談援助の基盤と専門職について理解させることを目的としている。具体的には、「面接場面」の視覚教材を積み上げ方式で用い、次の3点を理解させる。①相談援助の概念と範囲 ②専門職倫理と倫理的ジレンマ ③総合的かつ包括的援助と他職種連携（チームアプローチ）の意義と内容。これらによって、専門職の役割と機能や専門性を学び、専門家を形成する。
到達目標	1. 対人援助・社会支援の意義、機能および役割を理解する。 2. 他者を様々な側面から理解できるようになる。 3. 人権尊重および社会正義に関心をもつようになる。
授業計画	<p style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞</p> <p>第1回：ソーシャルワーク総論Ⅰの振り返りと、本講義の概要</p> <p>第2回：相談援助の概念と範囲 ①——SWにかかる各種の国際定義</p> <p>第3回：相談援助の概念と範囲 ②——SWの理論と動向（前史・誕生・論争・批判・統合）</p> <p>第4回：相談援助の概念と範囲 ③——SWの理論と動向（胎動・GW・CW・日本・欧米）</p> <p>第5回：相談援助の理念 ①——相談援助サービスの視座（価値・知識・技術、専門性、視点）</p> <p>第6回：相談援助の理念 ②——相談援助サービスの視座（ジェネラリスト、利用者主体、権利擁護、エンパワメント、ストレングス、尊厳の保持、社会的包摂、自立支援）</p> <p>第7回：中間テスト、総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容 ①——ソーシャルワーカーの機能、さまざまな職種等との連携・協働</p> <p>第8回～第12回：総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容 ②③④⑤——ジェネラリストとしての社会福祉援助活動の展開過程</p> <p>第13回：相談援助における権利擁護の意義——社会福祉士が捉える権利擁護</p> <p>第14回：専門職倫理と倫理的ジレンマ——社会福祉士の価値と倫理</p> <p>第15回：相談援助にかかる専門職の概念と範囲——契約下における援助のあり方、諸外国の動向</p>

アクティブ ラーニング	授業のなかで教員と双方向のコミュニケーションを行い、主体的に考え、学ぶ態度を涵養する。毎時、授業の終わりにリアクションペーパーを記入し、学びを振り返る。15回終了時に返却された15回分のリアクションペーパーによって、半年の学びを振り返る。
評価方法	授業態度 10%、毎回授業時提出小レポート 20%、中間レポート 30%、定期試験 40%
課題に対する フィード バック	授業のなかで行う。また最後の授業で15回分の振り返りを行う。
指定図書	ソーシャルワーク総論 I から引き続き『ソーシャルワーク』空閑浩人 2015 ミネルヴァ書房を用いる
参考図書	宮本節子 2013 『ソーシャルワーカーという仕事』ちくまプリマー新書 木下大生 2015 『知りたい！ソーシャルワーカーの仕事』岩波ブックレット 赤羽克子 2015 『3 福祉士の仕事ができる本』日本実業出版社 八木亜紀子 2012 『相談援助職の記録の書き方——短時間で適切な内容を表現するテクニック』中央法規
事前・ 事後学修	1, 授業中に配布された資料や指定図書を事前・事後に熟読し、授業内容を理解する 2, 生活の中で、授業によって得た知識を、実体験とつなぎ合わせ、自己覚知を進める (目安時間 40 分)
オフィス アワー	坂本研究室 (2612) 時間は授業で提示する
実務経験に 関する記述	本科目は「対人援助技術」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	社会保障論 I
科目責任者	国京 則幸
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 5セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	(社会保障論 I・IIを通じて) 対人援助・社会支援を実践する者として求められる社会保障各種制度の基本的なしくみや制度相互間のかかわりなどを理解し(社会保障論 I)、その理解の上に、課題や実践等における社会実態的な問題のとらえ方・考え方を深める(社会保障論 II)。
到達目標	1. 社会保障各種制度のしくみ(構造/適用/給付)およびその問題・課題について理解する。 2. 社会保障(制度)の論理(考え方)を修得する。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回: 履修案内(講義概要と履修計画等について) 社会保障とは何か、社会保障制度の基本的な方法 【教科書 第 1 章、第 6 章】 ⇒社会保障にまつわる出来事</p> <p>第 2 回: 医療保障① : 医療保障とは? 【教科書 第 2 章】 ⇒医療保障とは/保険とは</p> <p>第 3 回: 医療保障② : 健康保険制度(健保) 【教科書 第 2 章】 ⇒健保制度のしくみ(構造/適用/給付)</p> <p>第 4 回: 医療保障③ : 国民健康保険制度(国保)、他 【教科書 第 2 章】 ⇒国保制度のしくみ(構造/適用/給付)、高医療制度、公費負担医療、医療制度と医療保険の接続など</p> <p>第 5 回: 社会福祉① : 社会福祉とは? 【教科書 第 7 章(、第 8 章、第 9 章)】 ⇒社会福祉とは/社会福祉基礎構造改革(‘措置から契約へ’)</p> <p>第 6 回: 社会福祉② : 高齢者福祉一介護保険を例に 【教科書 第 3 章、第 10 章】 ⇒介護を巡る問題・課題/介護保険のしくみ(構造/適用/給付)/利用手続</p> <p>第 7 回: 年金保険① : 年金とは? 【教科書 第 4 章】 ⇒年金の基本的考え方</p> <p>第 8 回: 年金保険② : 基礎年金制度 【教科書 第 4 章】 ⇒基礎年金制度のしくみ(構造/適用/給付)</p> <p>第 9 回: 年金保険③ : 厚生年金 【教科書 第 4 章】 ⇒厚生年金制度のしくみ(構造/適用/給付)</p> <p>第 10 回: 社会手当 : 児童手当、児童扶養手当 【教科書 第 11 章】 ⇒児童手当のしくみ(考え方)/児童扶養手当のしくみ(考え方)</p> <p>第 11 回: 生活保護① : 生活保護とは? 【教科書 第 12 章】 ⇒貧困とは/生活保護のしくみ(構造・考え方/給付)</p> <p>第 12 回: 生活保護② : 生活保護のしくみ 【教科書 第 12 章】 ⇒生活保護制度のしくみ(手続き)</p> <p>第 13 回: 労働保険① : 労働者災害補償保険(労災)とは? 【教科書 第 5 章】 ⇒労災とは/労災制度のしくみ(構造/適用/給付)</p> <p>第 14 回: 労働保険② : 雇用保険とは? 【教科書 第 5 章】 ⇒雇用保険とは/雇用保険のしくみ(構造/適用/給付)</p> <p>第 15 回: まとめ ※受講学生の理解等によって、回と講義内容が前後する場合があります。</p>

アクティブ ラーニング	講義各回後に Moodle を介して出される小テストを受験し、授業の予復習を行う。
評価方法	定期試験（筆記試験）70%+②小テスト30%（授業中の発言等の考慮含む）
課題に対する フィード バック	小テスト受験後、期限が到来すると、解答の解説を参照することができるようになっている。
指定図書	『新・初めての社会保障論 第2版』古橋エツ子編（法律文化社、2018年）
参考図書	なし
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あらかじめ該当する箇所（【 】内）は読んでおくこと。講義中、発言を求めます。</li> <li>・講義後、原則として毎回実施される小テストで講義の復習（+予習）を。（目安時間40分）</li> </ul>
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	

科目名	社会保障論Ⅱ
科目責任者	村上 武敏
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 6セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	(社会保障論Ⅰ・Ⅱを通じて) 対人援助・社会支援を実践する者として求められる社会保障各種制度の基本的なしくみや制度相互間のかかわりなどを理解し(社会保障論Ⅰ)、その理解の上に、課題や実践等における社会実態的な問題のとらえ方・考え方を深める(社会保障論Ⅱ)。
到達目標	1. 社会保障各種制度のしくみ(構造/適用/給付)およびその問題・課題について理解する。 2. 社会保障(制度)の論理(考え方)を修得する。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション 社会保障理念の転換と国民生活の実態</p> <p>&lt;第一部 社会保障制度を活用する&gt;</p> <p>第2回：疾病——公的医療保険制度等の活用(グループワーク)</p> <p>第3回：障害——障害者手帳・障害年金等の活用(グループワーク)</p> <p>第4回：高齢——介護保険制度等の活用(グループワーク)</p> <p>第5回：貧困——生活保護制度等の活用(グループワーク)</p> <p>&lt;第二部 社会保障制度のあり方について考える&gt;</p> <p>第6回：少子高齢化・人口減少と社会保障</p> <p>第7回：子育て支援の課題～フランスとスウェーデンを手がかりとして(グループワーク)</p> <p>第8回：高齢者介護の課題～デンマークとドイツを手がかりとして(グループワーク)</p> <p>第9回：社会保障とは何か～江口英一・川上昌子の貧困研究から ゲスト講師：川上昌子(淑徳大学名誉教授)</p> <p>第10回：「地域共生社会」「全世代型社会保障」とは何か</p> <p>第11回：共生型サービスと総合的相談支援体制の課題と展望(グループワーク)</p> <p>第12回：制度のはざまへのアプローチ～縁創造実践センターの取り組みから ゲスト講師：縁創造実践センター構成員</p> <p>第13回：「地域共生社会」政策と社会保障について考える(グループワーク)</p> <p>第14回：今日の社会保障制度と社会福祉援助論・対象論の課題</p> <p>第15回：まとめ</p>

アクティブ ラーニング	社会保障制度の活用について、さらに社会保障制度のあり方について、グループワークを通して理解を深める。
評価方法	授業への取り組み姿勢 30%、 中間レポート 20%、 定期試験 50%
課題に対する フィード バック	中間レポートについては授業においてコメントする。
指定図書	社会保障論 I の指定図書『新・初めての社会保障論 第2版』古橋エツ子編（法律文化社、2018年）を使用する。さらにもう一冊使用するが、初回の授業で指定する。
参考図書	授業ごとに提示する。
事前・ 事後学修	授業ごとに図書などを紹介する。（目安時間 40分）
オフィス アワー	社会福祉学部 2613 研究室。時間については初回授業時に提示する。
実務経験に 関する記述	本科目は「医療ソーシャルワーカー」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	公的扶助論
科目責任者	村上 武敏
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 3セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	<p>公的扶助は、国が「国民的最低限」の生活を国民に保障する制度であり、その中核をなす生活保護制度は、日本国憲法第 25 条「すべて国民は健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」という生存権を国家の義務として具体化したもので、あらゆる社会保障制度の基礎となる制度である。</p> <p>生活とは何か。そして貧困とは何か。それらを明らかにしつつ、公的扶助の社会的意義について考えたい。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における貧困の実態と貧困や格差が生じる社会構造を理解する</li> <li>2. 生活保護制度を体系的に理解する</li> <li>3. 公的扶助の社会的意義を歴史的に理解する</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：現代社会における貧困と格差</p> <p>第 2 回：貧困とは何か（1）現代社会の労働と生活</p> <p>第 3 回：貧困とは何か（2）貧困理論の歴史</p> <p>第 4 回：貧困とは何か（3）江口英一・川上昌子の貧困研究から</p> <p>第 5 回：貧困とは何か（4）事例分析による貧困の構造的な理解（グループワーク）</p> <p>第 6 回：イギリスにおける公的扶助制度の歴史</p> <p>第 7 回：日本における公的扶助の歴史</p> <p>第 8 回：生活保護制度（1）憲法と社会保障</p> <p>第 9 回：生活保護制度（2）基本原理と実施上の原則</p> <p>第 10 回：生活保護制度（3）保護基準と保護の種類（グループワーク）</p> <p>第 11 回：保護世帯の実態</p> <p>第 12 回：ホームレス状態にある人々への支援（ゲスト講義：社会活動家）</p> <p>第 13 回：貧困と自己責任論／子どもの貧困対策の課題（グループワーク）</p> <p>第 14 回：生活保護制度と自立支援政策</p> <p>第 15 回：まとめ 公的扶助とは何か</p>

アクティブ ラーニング	グループでの事例検討を通して貧困問題の本質を理解する。 グループで最低生活費を計算する。 子どもの貧困対策の現状を理解するとともに、その課題についてグループで検討する。 貧困の自己責任論から脱却するための方法について意見交換する
評価方法	授業への取り組み姿勢 30%、 中間レポート 20%、 定期試験 50%
課題に対する フィード バック	中間レポートについて、授業においてコメントする。
指定図書	『公的扶助論～低所得者に対する支援と生活保護制度』第3版 MINERVA
参考図書	授業ごとに提示する。
事前・ 事後学修	事前学修として、講義のテーマに則してその概要をテキストにより理解しておくこと。 事後学修として、講義で配布する資料に沿って理解を深めること。  (目安時間 40 分)
オフィス アワー	社会福祉学部 2613 研究室。時間については初回授業時に提示する。
実務経験に 関する記述	本科目は「医療ソーシャルワーカー」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	ソーシャルワーク論Ⅱ
科目責任者	福田 俊子
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 3セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	本科目は、ソーシャルワーク論Ⅰで学んだ「援助関係形成の意義と方法」を基盤とし、ソーシャルワークの理論および実践の実際を学修することに主眼をおき、①ソーシャルワーク理論の歴史を理解すること、②ソーシャルワークの展開過程の実際を理解すること、③初回面接技術の実際を理解することを目的としている。
到達目標	1. ソーシャルワークの展開過程を説明できる。 2. 分析的な思考にもとづいて、他者を様々な側面から理解しようとする。 3. ソーシャルワークの理論・実践史を理解している。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：講義概要・自己紹介</p> <p>第 2 回：初回面接の技術</p> <p>第 3 回：ソーシャルワークの展開過程① (インテーク)</p> <p>第 4 回：ソーシャルワークの展開過程② (アセスメント)</p> <p>第 5 回：ソーシャルワークの展開過程③ (アセスメントツール)</p> <p>第 6 回：ソーシャルワークの展開過程④ (プランニング・介入)</p> <p>第 7 回：ソーシャルワークの展開過程⑤ (モニタリング)</p> <p>第 8 回：ソーシャルワークの展開過程⑥ (終結・評価)</p> <p>第 9 回：ソーシャルワークの歴史① (1890 年代末～1910 年代)</p> <p>第 10 回：ソーシャルワークの歴史② (1920～1940 年代)</p> <p>第 11 回：ソーシャルワークの歴史③ (1950 年以降①)</p> <p>第 12 回：ソーシャルワークの歴史④ (1950 年以降②)</p> <p>第 13 回：ソーシャルワークの歴史⑤ (まとめ)</p> <p>第 14 回：ソーシャルワークの歴史 (小テストの予定)</p> <p>第 15 回：まとめ</p> <p>&lt;その他&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国家試験受験で、ソーシャルワークの歴史は必ず出題され、暗記が必要とされる。ただし、単なる暗記ではなく、歴史を自分の専門家としての成長と重ね合わせながら聞いてほしい。</li> <li>・リアクションペーパーは、毎回授業の冒頭で、匿名にて使用させていただく。</li> </ul>

アクティブ ラーニング	リアクションペーパーに書かれた内容などをもとにグループディスカッションを、適宜取り入れる。
評価方法	<p>小テスト 20%、課題レポート 20%、定期試験 50%、授業への取り組み 10%として評価する。</p> <p>&lt;小テスト・定期試験&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に出題範囲を告知する（過去の社会福祉士国家試験問題を含む）。</li> <li>・記述・穴埋め・○×式を混合して出題する。</li> </ul> <p>&lt;課題レポート&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ：映画『あしがらさん』に登場する人物をアセスメントし、支援計画をたてる。</li> <li>・様式：A4版用紙、原則としてパソコン書き（図は手書きでも可）、字数 2000 字数以上、表紙不要</li> </ul> <p>&lt;授業への取り組み&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習態度は毎回のリアクションペーパー等で確認する。</li> <li>・リアクションペーパーの不正提出は大幅な減点とする。</li> </ul>
課題に対する フィード バック	復習テスト及び小テストを実施し、その場で解答を提示する。
指定図書	社会福祉士養成講座編集委員会編『相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規出版 渡辺律子『高齢者援助における相談面接の理論と実際』医歯薬出版
参考図書	授業中に、随時提示する。
事前・ 事後学修	次回授業時に実施される復習テストにかかわる内容を復習しておくこと。（目安時間 40 分）
オフィス アワー	科目責任者は、社会福祉学部社会福祉学科の所属である。研究室は 2614。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。
実務経験に 関する記述	本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	ソーシャルワーク論Ⅲ	
科目責任者	福田 俊子	
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 4セメスター	
DP 番号と科目領域	DP2 専門	
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。	
科目概要	<p>本科目は、ソーシャルワーク総論Ⅰ・Ⅱ、及びソーシャルワーク論Ⅰ・Ⅱで修得した内容を基盤として、①グループワーク（集団援助）の理論と実際、②スーパービジョン、③相談援助における個人情報及び ICT の活用について理解することを目的としている。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. グループワークの理論と実践について、利用者のニーズと結びつけて理解することができる。</li> <li>2. スーパービジョンに関する学習を通して、自己覚知の必要性を理解し、深めようとする姿勢をもつ。</li> <li>3. 対人援助・社会支援のさまざまな関連施策、特に個人情報について理解している。</li> </ol>	
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：講義概要</p> <p>第 2 回：グループワークとは</p> <p>第 3 回：特徴的なグループワーク（回想法など）</p> <p>第 4 回：グループワークの原則と援助関係</p> <p>第 5 回：グループワークの展開過程①</p> <p>第 6 回：グループワークの展開過程②</p> <p>第 7 回：グループワークの展開過程③</p> <p>第 8 回：セルフヘルプ・グループ</p> <p>第 9 回：グループワークの歴史</p> <p>第 10 回：グループワークのまとめ</p> <p>第 11 回：スーパービジョンの意義・目的・方法</p> <p>第 12 回：スーパービジョンの実際①</p> <p>第 13 回：スーパービジョンの実際②</p> <p>第 14 回：相談援助における個人情報の保護</p> <p>第 15 回：まとめ</p> <p>&lt;その他&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「覚えること」と同時に「考えること」も大切にすること。</li> <li>・リアクションペーパーは、毎回授業の冒頭で、匿名にて使用させていただく。</li> </ul>	<p>&lt;担当教員&gt;</p> <p>福田俊子</p> <p>川向雅弘</p> <p>川向雅弘</p> <p>川向雅弘</p> <p>川向雅弘</p> <p>川向雅弘</p>

アクティブ ラーニング	復習テストなどを実施し、その場で解答を提示する。
評価方法	<p>小レポート 20%、定期試験 60%、授業への取り組み 20%として評価する。</p> <p>&lt;小レポート&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ：集団生活における集団援助の意義と役割ー『カッコーの巣の上で』からー</li> <li>・様式：2000 字程度、A4 版用紙、表紙はつけず、レポートの冒頭にテーマ・学籍番号・氏名を記入</li> </ul> <p>&lt;定期試験&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に出題範囲を告知する。</li> <li>・記述・穴埋め・○×式を混合して出題する。</li> </ul> <p>&lt;授業への取り組み&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習態度は毎回のリアクションペーパー等で確認する。</li> <li>・あなたがおススメの文献の紹介分の作成 (Moodle)</li> </ul>
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーに書かれた内容や Moodle で作成した資料をもとに、グループディスカッション等を、適宜取り入れる。
指定図書	<p>稲沢公一・岩崎晋也『社会福祉をつかむ』有斐閣</p> <p>社会福祉士養成講座編集委員会編『相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規出版</p>
参考図書	授業中に、随時提示する。
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に該当する教科書の単元を必ず読んでくること。</li> <li>・事後にも、該当する教科書の単元を読み直すこと。(目安時間 40 分)</li> </ul>
オフィス アワー	科目責任者は、社会福祉学部社会福祉学科の所属である。研究室は 2614。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。
実務経験に 関する記述	本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	ソーシャルワーク論Ⅳ	
科目責任者	福田 俊子	
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 6セメスター	
DP 番号と科目領域	DP2 専門	
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。	
科目概要	<p>本科目は、ソーシャルワーク総論Ⅰ・Ⅱ、及びソーシャルワーク論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで修得した内容を基盤として、①ケアマネジメント、②コーディネーション・ネットワークング・アウトリーチ、③スーパービジョンについて理解し、実践で活用できる力を身につけることを目的としている。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ケアマネジメント等の学習を通して、エンパワメントを意識した人と環境との調整支援の重要性を理解する。また、人間という存在および様々な社会資源と関わる意欲をもつことができる。</li> <li>2. 外部講師による専門職としての自己変容の物語を聴くことを通じて、自分の実習体験などを振り返りながら、専門職としての自己の生成について理解することができる。</li> <li>3. 分析的志向にもとづいた行動目標が設定できる。</li> </ol>	
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回： 講義概要</p> <p>第 2 回： ケースマネジメントの基本事例① (事例の共有)</p> <p>第 3 回： ケースマネジメントの基本事例① (事例の検討)</p> <p>第 4 回： ケースマネジメントの基本事例① (報告とまとめ)</p> <p>第 5 回： ケースマネジメントの基本事例② (事例の共有)</p> <p>第 6 回： ケースマネジメントの基本事例② (事例の検討)</p> <p>第 7 回： ケースマネジメントの基本事例② (報告とまとめ)</p> <p>第 8 回： ケースマネジメントの基本事例③ (事例の共有)</p> <p>第 9 回： ケースマネジメントの基本事例③ (事例の検討)</p> <p>第 10 回： ケースマネジメントの基本事例③ (報告とまとめ)</p> <p>第 11 回： スーパービジョンを受けるということ</p> <p>第 12 回： スーパービジョンを受けるということ</p> <p>第 13 回： スーパービジョンを受ける・するということ</p> <p>第 14 回： スーパービジョンを受ける・するということ</p> <p>第 15 回： まとめ</p> <p>&lt;その他&gt;</p> <p>・リアクションペーパーは、毎回授業の冒頭で、匿名にて使用させていただく。</p>	<p>&lt;担当教員名&gt;</p> <p>福田俊子・川向雅弘</p> <p>川向雅弘</p> <p>川向雅弘</p> <p>川向雅弘</p> <p>川向雅弘</p> <p>川向雅弘</p> <p>川向雅弘</p> <p>川向雅弘</p> <p>川向雅弘</p> <p>川向雅弘</p> <p>ゲストスピーカー・福田俊子</p> <p>ゲストスピーカー・福田俊子</p> <p>ゲストスピーカー・福田俊子</p> <p>ゲストスピーカー・福田俊子</p> <p>福田俊子</p>

アクティブ ラーニング	グループ学修やPBLなどを用いながら授業を進める。
評価方法	<p>レポート 60%、定期試験 40%として評価する。 レポートで評価するが、ルーブリックは用いない。</p> <p>&lt;レポート&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事例検討を通じて考えたことなどをテーマとしたレポートを課す。</li> </ul> <p>&lt;定期試験&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事前に出題範囲を告知する。</li> <li>記述・穴埋め・○×式を混合して出題する。</li> </ul> <p>&lt;授業への取り組み&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習態度は毎回のリアクションペーパー等で確認する。</li> <li>リアクションペーパーの不正提出は大幅な減点とする。</li> </ul>
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーに書かれた内容やMoodleで作成した資料をもとに、グループディスカッションを、適宜取り入れる。
指定図書	社会福祉士養成講座編集委員会編『相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規出版 北川清一他監修『ソーシャルワークへの招待』ミネルヴァ書房
参考図書	授業中に、随時提示する。
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前に該当する教科書の単元や配布資料を必ず読んでくること。</li> <li>事後にも、該当する教科書の単元を読み直すこと。(目安時間 40分)</li> </ul>
オフィス アワー	科目責任者は、社会福祉学部社会福祉学科の所属である。研究室は2614。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。
実務経験に 関する記述	本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	ソーシャルワーク実習
科目責任者	川向 雅弘
単位数他	4単位 (180時間) 選択 5～6セメスター
DP番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	社会福祉機関・施設において23日間、180時間以上の配属実習を行う。 配属実習における利用者や職員との長期的なかかわりを通じて、学内の講義、演習で学習した知識や技術が、学生自身の「身についた力」、つまり「実践力」となること、そして学生が自分の力で次につながる自己課題を明確化していくことをめざす。
到達目標	<p>これまでに獲得した社会福祉専門職としての知識・理論や技法等を総合的に活用し、実習先で出会う対象者の発達段階やニーズに合わせた支援をする実践力につなげることができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成をはかることができる。</li> <li>2. 利用者理解とその需要の把握、及び支援計画作成に必要な後技術を習得する。</li> <li>3. 利用者やその関係者との援助関係の形成をはかることができる。</li> <li>4. 利用者やその関係者への権利擁護及び支援とその評価について理解できる。</li> <li>5. 他職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの必要性を理解できる。</li> <li>6. 社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定について、組織の一員としての役割と責任について理解できる。</li> <li>7. 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際について理解できる。</li> <li>8. 当該実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体等であることについて、および具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワークング、社会資源の活用・調整・開発について理解できる。</li> <li>9. 具体的体験や相談援助を専門援助技術として概念化・理論化し体系化する能力が身に付く。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt; 川向雅弘、佐藤順子、福田俊子、村上武敏、坂本道子、落合克能</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>「社会福祉士介護福祉士養成施設指定規則」に基づき厚生労働省が別に定める施設及び事業にて、180時間の実習を行う。</p> <p>実習先の実習指導者並びにソーシャルワーク実習担当教員は、学生が上記に示す達成課題に取り組むことができるように、適宜スーパービジョンを実施する。特に実習担当教員は、実習中の巡回や帰校日の指導を通して、学生の実習状況を把握し、必要に応じて実習指導者間の連絡調整を行う。</p> <p>※ソーシャルワーク実習指導Ⅰの単位を取得できていることが履修の前提になる。</p>

アクティブ ラーニング	実習科目である。
評価方法	実習生としての責務の遂行、積極的な取り組みの姿勢、記録等を総合して行う。
課題に対する フィード バック	帰校日、実習巡回においてスーパービジョンを実施する。
指定図書	使用しない
参考図書	随時紹介する
事前・ 事後学修	実習指導者、教員によるスーパービジョンの際には、それまでの実習を振り返り、自分の感じたこと、考えたこと、話し合いたいことなどを予め考えておく。また、事前学習・事後学習として、毎日の実習ノートの作成、実習指導者からの指導コメントの振り返りにしっかり取り組むこと。(目安時間、40分)
オフィス アワー	川向雅弘(社会福祉学部社会福祉学科):2705研究室 各領域担当教員のオフィスアワーは初回授業時に提示する。
実務経験に 関する記述	本科目はソーシャルワーク等の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	ソーシャルワーク実習指導 I		
科目責任者	川向 雅弘		
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 3～4 セメスター		
DP 番号と科目領域	DP3 専門		
科目の位置付	様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。		
科目概要	<p>本科目は、ソーシャルワーク実習の事前指導として位置づけられる。</p> <p>3セメスターでは、学生が希望する実習先を選択できるよう、各領域・実習先の概要、実習で必要とされるソーシャルワークの知識と技術等について、現場の専門職による講義をとおして学習する。希望する実習領域・実習先が確定する4セメスターでは、それぞれで必要とされる知識・技術についてグループ学習を行う</p>		
到達目標	<p>実践で必要とされる社会福祉専門職としての技術について理解し、ある程度使用できることをめざす。あわせてグループ学習をとおして他者の意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習の意義、目的等を理解する。</li> <li>2. 自分の関心に沿った実習先を選択する上で必要となる知識と技術を習得する。</li> <li>3. 配属実習を行う際に必要となる実際的な知識、技術等を習得する。</li> </ol>		
授業計画	<p>&lt;担当教員&gt; 川向雅弘、佐藤順子、福田俊子、村上武敏、坂本道子、落合克能</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p><b>【3セメスター】</b></p> <p>第1回：ソーシャルワーク実習の意義と目的・目標 川向</p> <p><b>実習の分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会における実習形態</b> 各領域担当者</p> <p>第2回：外部講師による実習先を選択する上での学習 ①こども領域 坂本</p> <p>第3回： ” ②障がい領域（知的等） 川向</p> <p>第4回： ” ③障がい領域（救護等） 福田</p> <p>第5回： ” ④高齢者領域 落合・村上</p> <p>第6回： ” ⑤社協領域 佐藤</p> <p>第7回：全体オリエンテーション 今後のスケジュール 川向</p> <p>担当教員による領域別説明会 各領域担当</p> <p>各領域の実習先の活動内容・特徴の理解、実習生としての課題の理解</p> <p>第8回：担当教員による領域別説明会 各領域担当</p> <p>担当教員による相談会</p> <p>第9回：実習達成課題 川向</p> <p><b>【4セメスター】</b></p> <p>第10回：領域別学習 実習領域と施設・機関・団体に関する基本的な理解 各領域担当</p> <p>第11回： ” 実習施設・事業所・機関・団体と地域社会に関する基本的な理解 ”</p> <p>第12回： ” 学習のまとめ ”</p> <p>第13回： ” 実習先で必要とされるソーシャルワークの知識 ”</p> <p>第14回： ” 実習先で必要とされるソーシャルワークの技術 ”</p> <p>第15回：全体授業 実習計画書の作成について、個人票の書き方について 川向</p> <p>領域別学習 各領域担当</p>		

アクティブ ラーニング	実習科目である。
評価方法	授業参加態度 25%、領域別学習課題・レポート 75%。
課題に対する フィード バック	各実習領域ごとの個別学習でフィードバックを行う。
指定図書	『社会福祉用語辞典』（第9版）ミネルヴァ書房
参考図書	随時紹介する
事前・ 事後学修	今での実習体験を振り返り、ノートを読み直すなどをした上で臨む。3セメの外部講師の授業の前には、必ず予習をして臨む。 4セメスターの領域別学習の際は、実習先施設・事業所について、自ら課題を設定したうえで制度的・実践的両面での予習・復習を行いながら臨む。（目安時間 40分）
オフィス アワー	川向雅弘（社会福祉学部社会福祉学科）：2705研究室 時間帯については初回授業時に提示する。 各領域担当教員のオフィスアワーを確認しておくこと。
実務経験に 関する記述	本科目はソーシャルワーク等の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ
科目責任者	川向 雅弘
単位数他	2単位 (60時間) 選択 5～6セメスター
DP番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	<p>本科目はソーシャルワーク実習の直前学習、事後学習として位置づけられる。</p> <p>直前学習では、配属実習を行う上での最終的な準備を整えることが主な授業内容となる。</p> <p>事後学習では、配属実習の振り返り、学習のまとめ、実習報告会での発表、学習総括レポートの作成を行う。そのプロセスはグループ及び個別スーパービジョンによって進められる。</p>
到達目標	<p>ソーシャルワーク実習に向けて、それまでに獲得した社会福祉専門職としての知識・理論や技法等を総合的に活用し、対象者の発達段階やニーズに合わせた支援を行うための直前準備をする。また、実習後は、その経験を振り返り、対人援助・社会支援のための知識を深め、技術を高めるとともに、実習経験を通じて自己覚知を深めようとする姿勢をもつ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 配属実習を行う際に実際に必要となる知識、技術等を習得する。</li> <li>2. 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。</li> <li>3. 具体的な体験や援助活動をソーシャルワークとして概念化し理論化し、体系立てることができる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員&gt; 川向雅弘、佐藤順子、福田俊子、村上武敏、坂本道子、落合克能</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p><b>【実習の直前学習】</b></p> <p>第1回：全体授業：事前準備の概要、実習計画書の作成、事前訪問の意義、訪問の仕方、記録の意義、実習ノートの書き方(川向)、領域別学習 (各担当教員)</p> <p>第2回：領域別学習(各担当教員) 実習領域と施設・事業所・機関・団体に関する理解</p> <p>第3回： // 実習施設・事業所・機関・団体と地域社会に関する理解</p> <p>第4回： // 必要とされるソーシャルワークの知識・技術の修得</p> <p>第5回： // 必要とされるソーシャルワークの技術、実習計画書作成</p> <p>第6回：実習先事前訪問</p> <p>第7回：全体授業：スーパービジョン、評価票の記入の仕方、活用方法、プライバシーの尊重と守秘義務、実習生の役割(川向)、領域別学習 (各担当教員)</p> <p>第8回：個別指導(各担当教員) 実習計画書の書き方指導</p> <p>第9回： // 実習計画書の書き方指導</p> <p>第10回： // 実習計画書の書き方指導、その他</p> <p><b>【実習の事後学習】</b></p> <p>第11回：配属実習終了後のオリエンテーション(川向)</p> <p>第12回：グループスーパービジョン(各担当教員) オリエンテーション</p> <p>第13回： // 実習体験を共有する①</p> <p>第14回： // 実習体験を共有する②</p> <p>第15回： // 自己の実習体験を多面的にとらえる①</p> <p>第16回： // 自己の実習体験を多面的にとらえる②</p> <p>第17回： // 自己の実習体験の意味付けを行う①</p> <p>第18回： // 自己の実習体験の意味付けを行う②</p> <p>第19回： // 実習での成果と学習題をまとめる</p> <p>第20回：グループワーク(各担当教員) 実習報告会に向けて 方針検討</p> <p>第21回： // 発表内容をまとめる</p> <p>第22回 // 発表内容の検討</p> <p>第23回： // プレゼン方法の検討</p> <p>第24～26回 (3コマ連続授業)：実習報告会</p> <p>第27回：全体授業 実習報告会振り返り (教員全員から)</p> <p>第28回：個別スーパービジョン(各担当教員) 自己の学習内容の言語化</p> <p>第29回： // 自己の課題の明確化</p> <p>第30回： // レポート指導</p>

アクティブ ラーニング	実習科目である。
評価方法	領域別授業（事前・事後）、報告会に向けての準備等への参加状況・学習状況（提出物・実習計画書含む）40%、総括レポート60%で評価する。
課題に対する フィード バック	スーパービジョンにてフィードバックする。
指定図書	なし
参考図書	随時紹介する
事前・ 事後学修	<p>実習の直前学習においては、実習指導 I での学びの振り返り、新たな課題についての調べ学習、実習計画書の作成が課題となる。</p> <p>実習の事後学習においては、実習体験の振り返り、実習記録の読み込み、実習での学びの整理がグループスーパービジョンに臨むにあたって必要となる。（目安時間 40分）</p>
オフィス アワー	川向雅弘（社会福祉学部社会福祉学科）：2705研究室 各領域担当教員のオフィスアワーは初回授業時に提示する。
実務経験に 関する記述	本科目はソーシャルワーク等の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	高齢者福祉論
科目責任者	野田 由佳里
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 3セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	<p>高齢者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から基礎的な知識を習得する。対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する。日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する。</p> <p>高齢者の精神的・身体的特徴や障害や高齢期に社会とかかわりの変化を知り、高齢者の生活実態を理解する。生活を多面的な視点からとらえ支援するしくみや方法を学び介護福祉に関する理解を深める。</p> <p>高齢者を取り巻く社会情勢、福祉・介護需要について学ぶとともに相談援助活動において必要となる介高齢者福祉・介護保険制度やその他の社会福祉サービスについて理解する。</p>
到達目標	<p>①保健医療福祉の専門職に求められる専門分野の基本的知識を理解できる。</p> <p>②現代社会における諸問題について、特に高齢者の特徴を多面的にとらえ、発生問題や経過、解決について説明できる。</p> <p>③高齢者を取り巻く問題や生活課題について説明できる。</p> <p>④高齢社会対策についての基礎知識を得る。</p> <p>⑤介護保険制度を理解できる。</p> <p>⑥高齢者に関する制度や社会福祉サービス活用を、相談援助活動を想定して支援計画を作成できる。</p>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1回：高齢者を取り巻く社会環境の変遷</p> <p>第 2回：高齢者福祉制度の発展過程</p> <p>第 3回：高齢者福祉に関する現代的課題と社会保障制度</p> <p>第 4回：高齢者の保健福祉の発展と現行制度：小テスト①</p> <p>第 5回：老人福祉法</p> <p>第 6回：高齢者虐待の防止 高齢者の養護者に対する支援等に関する法律（高齢者虐待防止法）</p> <p>第 7回：日常生活自立支援事業と成年後見制度：小テスト②</p> <p>第 8回：高齢者の生活を支える制度と専門職（高齢者福祉と介護保険制度導入の経緯）</p> <p>第 9回：介護保険制度①：介護保険制度の目的、保険者と被保険者</p> <p>第10回：介護保険制度②：保険財政と要介護認定の仕組み：小テスト③</p> <p>第11回：介護保険制度③：保険給付／居宅サービスの種類</p> <p>第12回：介護保険制度④：保険給付／施設サービスの種類</p> <p>第13回：介護保険制度⑤：介護認定審査会、介護保険審査会、国保連の役割：テスト④</p> <p>第14回：地域共生社会の実現に向けた制度や施策／地域支援事業：地域包括ケアシステム</p> <p>第 15 回：介護実践に関連する諸制度のまとめ（権利擁護事業・個人情報保護）</p>

アクティブ ラーニング	事前課題に取り組み、当該内容を理解して授業に臨んでください。発言係の担当になった際は授業を牽引するのは学生自らだという自負を持って積極的な議論ができるよう私見をまとめてください
評価方法	小テスト5回(25%)、課題・提出物等(15%)、定期試験(60%)
課題に対する フィード バック	事後課題の解説は授業内で行います。またリアクションペーパーに関しては、授業内や Moodle などを活用し、丁寧なフィードバックを心掛けます。
指定図書	新・社会福祉士養成講座 第3版 13 高齢者に対する支援と介護保険制度 中央法規
参考図書	黒澤貞夫「福祉に学び福祉に尽くす」中央法規
事前・ 事後学修	【事前学習】 次回の授業の重要語句と該当頁を事前に提示しますので準備して下さい 【事後学修】 配布された課題プリントに取り組み、毎回の小テスト対策事後学習して下さい (事前：事後学修 目安時間 40 分)
オフィス アワー	社会福祉学部所属の野田由佳里研究室(2706 研究室)にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「社会福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	介護福祉論
科目責任者	野田 由佳里
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 2セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	<p>個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉える学習とする。障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から基礎的な知識を習得する学習とする。</p> <p>高齢者の精神的・身体的特徴や障害について理解し、高齢期に社会とのかかわりの変化を知り、高齢者の生活実態を理解する。生活を多面的な視点からとらえ、高齢者や障害をもつ人の人生を支援するしくみや方法を学び介護福祉に関する理解を深める。</p>
到達目標	<p>①高齢者の生活実態をふまえ、高齢者の福祉需要や介護需要について説明できる。</p> <p>②認知症ケアや終末期ケアについて基本的な考え方を習得し、人間観と倫理について学ぶ。</p> <p>③高齢者の心身の状態に応じた住環境について理解し、他者に伝えることができる。</p>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：介護の概念や対象：介護等に関する諸問題・実践構造・社会と生活のしくみ</p> <p>第 2 回：介護の理念：高齢者の生活実態（福祉需要）</p> <p>第 3 回：介護の対象：要介護高齢者や認知症高齢者の生活実態（介護需要・介護の概念や対象）</p> <p>第 4 回：介護各論①：自立支援（自立に向けた介護）</p> <p>第 5 回：介護各論②：家事における自立支援</p> <p>第 6 回：介護各論③：介護技術（移動・食事・入浴・排泄他）</p> <p>第 7 回：認知症ケア①：認知症ケアの基本的考え方</p> <p>第 8 回：認知症ケア②：介護する家族の支援・認知症高齢者を取り巻く地域支援</p> <p>第 9 回：終末期ケア・介護過程</p> <p>第 10 回：障害者福祉と障害者保健福祉制度</p> <p>第 11 回：高齢者支援の方法と実際</p> <p>第 12 回：高齢者を支援する専門職の役割と実際</p> <p>第 13 回：高齢者を支援する組織と役割①：行政機関の役割・社会福祉協議会</p> <p>第 14 回：高齢者を支援する組織と役割②：ボランティア団体・非営利民間活動</p> <p>第 15 回：高齢者を支援する組織と役割③：地域共生社会の実現に向けた制度や施策</p>

アクティブ ラーニング	事前課題に取り組み、当該内容を理解して授業に臨んでください。発言係の担当になった際は授業を牽引するのは学生自らだという自負を持って積極的な議論ができるよう私見をまとめてください
評価方法	小テスト 5 回 (25%)、課題・提出物等 (15%)、定期試験 (60%)
課題に対する フィード バック	事後課題の解説は授業内で行います。またリアクションペーパーに関しては、授業内や Moodle などを活用し、丁寧なフィードバックを心掛けます。
指定図書	新・社会福祉士養成講座 第3版 13 高齢者に対する支援と介護保険制度 中央法規
参考図書	パットムーア「私は三年間老人だった」朝日出版社
事前・ 事後学修	【事前学習】次回の授業の重要語句と該当頁を事前に提示しますので 40 分程度準備して下さい 【事後学修】配布された課題プリントに取り組み、毎回の小テスト対策事後学習として 40 分程度をして下さい
オフィス アワー	社会福祉学部所属の野田由佳里研究室 (2706 研究室) にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「社会福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	障害者福祉論
科目責任者	川向 雅弘
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 3セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	<p>障害の概念つまり「障害とは何か」を理解し、障がいのある人の生活を理解する科目である。障がいのある人に関わる福祉施策やサービス・利用できる社会資源、さらに、障害者福祉の基盤にあるノーマライゼーションや自立生活にかかわる思想・価値、人権についての理解を目的とする。</p> <p>障害の基礎的理解「障害」という概念形成や暮らしの歴史、障害のある人を取りまく社会環境と制度施策に焦点化し、「障害」の全体像を解説する。事例、先行文献、視覚教材等を用いて講義を行う。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「障害」とは何か、「障害児・者」の定義が説明できる。</li> <li>2. 障がいのある人が置かれてきた歴史を説明できる。</li> <li>3. 障害者福祉制度の変遷やその特徴を説明できる。</li> <li>4. 障害者総合支援法（障害者自立支援法）の意義・現状・課題が説明できる。</li> <li>5. 障がいのある人への支援について、法制度とサービスの関連づけを説明できる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：障害の基礎的理解(1)（「障害者」とは誰か）</p> <p>第2回：障害の基礎的理解(2)「障害（者）」の定義と概念（ICIDHとICFの特徴）</p> <p>第3回：障がいのある人が置かれた歴史的状況と障害者運動の歩み</p> <p>第4回：障害者福祉の理念（自立）</p> <p>第5回：障害者福祉の理念（ノーマライゼーション）</p> <p>第6回：社会福祉基礎構造改革と障害者福祉の方向性</p> <p>第7回：障害者福祉にかかわる法体系</p> <p>第8回：障害者総合支援法（理念と考え方）</p> <p>第9回：障害者総合支援法（サービス体系・財源・自己負担）</p> <p>第10回：障がいのある人を支援する機関と専門職、多職種連携</p> <p>第11回：身体に障がいのある人への支援</p> <p>第12回：知的な障がいのある人への支援</p> <p>第13回：精神に障がいのある人への支援</p> <p>第14回：障害者関連施策と地域サポート体制（雇用・住宅・教育等）</p> <p>第15回：障がいのある人と人権</p>

アクティブ ラーニング	小テストを実施します。
評価方法	授業態度：20%、レポート：40%、定期試験：40%
課題に対する フィード バック	毎回のリアクションペーパーでフィードバックを行います。
指定図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新・社会福祉士養成講座 14 『障害者に対する支援と障害者自立支援制度』 中央法規</li> <li>・『シリーズ 社会福祉の視座 社会福祉への招待』 ミネルヴァ書房</li> <li>・宮坂道夫 『ハンセン病 重監房の記録』 集英社新書</li> </ul>
参考図書	随時紹介する。
事前・ 事後学修	<p>【事前】 毎回簡単な事前課題を提示致します。また、指定図書の該当頁を熟読してから講義に臨むこと。</p> <p>【事後】 授業の中で指摘したキーワードを調べ、ノートにまとめること。(目安時間 40 分)</p>
オフィス アワー	川向雅弘 (社会福祉学部社会福祉学科)：2705 研究室 時間帯については初回授業時に提示する。
実務経験に 関する記述	本科目はソーシャルワーク等の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	児童・家庭福祉論
科目責任者	村田 哲康
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 3セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	本講義は児童家庭福祉の専門的知識を学び、その実践的取り組みがどのようなシステムや仕組みによって具現化されているか概観する。 特に社会的養護の在り方に注目し、今後の展望を明らかにしてみたい。
到達目標	1. 「子どもとは何か」 子ども観を学び考える。 2. 児童家庭福祉の概念について理解する。 3. 社会的養護の概念とその実際について理解する。 4. 児童家庭福祉の専門職と関係機関の働きについて理解する。
授業計画	<p>第 1 回：オリエンテーション (授業の目的・授業計画・授業方法等の説明)</p> <p>第 2 回：子ども家庭福祉の理念と重要概念</p> <p>第 3 回：子ども家庭福祉の歴史的展開</p> <p>第 4 回：子ども家庭福祉の法体系と実施体制</p> <p>第 5 回：子ども観の変遷</p> <p>第 6 回：子どもの権利保障</p> <p>第 7 回：社会的養護の基礎概念</p> <p>第 8 回：社会的養護の実際の取り組み</p> <p>第 9 回：子どもの貧困の現状と課題</p> <p>第 10 回：子どもの貧困についての事例検証</p> <p>第 11 回：子ども虐待の現状と課題</p> <p>第 12 回：子ども虐待の対応と予防の事例検証</p> <p>第 13 回：里親制度の概要と動向</p> <p>第 14 回：子ども家庭福祉における専門職と関係機関</p> <p>第 15 回：子ども家庭福祉の今後の課題と展望</p> <p>【備考】 授業時には毎回、最新の社会福祉六法及び社会福祉小辞典を持参し活用して下さい。(現物はどこの出版社のものでもよいので、各自で検討し購入して下さい。)</p>

アクティブ ラーニング	講義内で発問を多くし、主体的に関連科目の復習や理解度の確認を行う
評価方法	授業態度（30%）、課題レポート（70%）を勘案し、総合評価する。
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーに対してコメントするなどを通し、学びを共有する。
指定図書	『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』中央法規
参考図書	授業中に随時紹介
事前・ 事後学修	事前：関係資料等をよく読んでおくこと。 事後：授業内容の復習を行い、自分の考えをまとめておくこと。 (事前・事後学修で40分)
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	

科目名	地域福祉論 I
科目責任者	佐藤 順子
単位数他	2単位 (30時間) 選択 3セメスター
DP 番号と科目領域	DP2専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	近年、特に社会福祉法成立により、地域福祉は社会福祉の一分野にとどまらず、社会福祉の今後のあり方に関わる概念として重視されている。そこでこの科目では主に地域福祉の理論について学習する。
到達目標	福祉の専門職に必要な地域福祉に関する基本的な知識・理論を体系的に理解するとともに、現代社会に生起する諸問題について、地域社会における生活との関わりで理解し、その解決の現状について説明できることを目指す。 1. 地域福祉の発展過程について理解できる 2. 地域福祉の基本的考え方について理解できる 3. 地域福祉の主体と対象について理解できる 4. 地域福祉に係る組織、団体、専門職の役割と実際について理解できる 5. 地域福祉計画、地域福祉の財源について理解できる
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：ガイダンス、ビデオ視聴 第2回：地域社会と生活 第3回：地域福祉が重視される背景と展開 ①地域福祉の源流 第4回： // ②戦後社会福祉の発展と地域福祉 第5回：近年の地域福祉政策の動向と課題 第6回：地域共生社会の実現に向けた制度、施策 第7回：地域福祉の概要理解 日常生活圏域における地域福祉活動の実践例 第8回：中間テスト 地域福祉の基本的考え方① 地域福祉の理念と概念 第9回：地域福祉の基本的考え方② 地域福祉における住民参加の意義 第10回：地域福祉の主体と対象 第11回：地域福祉に係る組織、団体、専門職等① 社会福祉協議会と社会福祉法人等 第12回：地域福祉に係る組織、団体、専門職等② 特定非営利活動法人と民生委員・児童委員 等 第13回：地域福祉に係る組織、団体、専門職等③ 地方自治体、行政組織、専門職 第14回：地域福祉に係る組織、団体、専門職等④ 地域福祉推進基礎組織、住民参加型在宅福祉サービス、その他 第15回：地域福祉の財源 共同募金

アクティブ ラーニング	発問に対する隣同志の意見交換、中間テストを取り入れるなどして知識の定着・確認を促す
評価方法	定期試験60%、中間テスト30%、授業態度 10%
課題に対する フィード バック	毎時間冒頭で前回のリアクションペーパーに対してコメントし、学生相互の学びを共有する。 中間テスト実施後解説を行う。
指定図書	『地域福祉論 地域福祉の理論と方法』全社協（「社会福祉学習双書編集委員会」編）
参考図書	牧里毎治・杉岡直人・森本佳樹編『ビギナーズ地域福祉』有斐閣アルマ 上野谷加代子・松端克文・山縣文治編『よくわかる地域福祉』ミネルヴァ書房 井岡勉監修『住民主体の地域福祉論 理論と実践』法律文化社
事前・ 事後学修	事前学修：授業内容に該当する教科書の項目について事前に読んでおく 講義予定表に提示した課題に取り組む 事後学習：関連する国家試験過去問などに取り組む  (事前・事後学修 40分)
オフィス アワー	科目責任者の研究室は2606です。時間については授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は地域福祉の実務経験を有する社会福祉士が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	地域福祉論Ⅱ
科目責任者	佐藤 順子
単位数他	2単位 (30時間) 選択 4セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	地域福祉論Ⅰの「地域福祉の理論」についての学習を踏まえ、本科目では「地域福祉の方法」について学習する。
到達目標	福祉の専門職に必要な地域福祉に関する基本的な知識・理論を体系的に理解するとともに、地域社会とそこで生活する福祉サービスを必要とする人々について、適切なニーズ把握、支援の道筋を指摘できる。 1. 地域福祉の動向とソーシャルワークの新たな課題について理解できる 2. 地域福祉方法論の発展過程が理解できる 3. 地域福祉における地域包括ケアの意義が理解できる 4. 地域福祉の具体的な推進方法について指摘できる
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：ガイダンス ビデオ視聴 第2回：近年の社会福祉の動向と実践課題、ソーシャルワークの新たな課題 第3回：地域福祉の方法論と発展のあゆみ 第4回：コミュニティワークとコミュニティソーシャルワーク 第5回：中間テストおよび解説 第6回：地域での生活を支える地域福祉サービスの実際①地域に根差した多様な実践 第7回：地域での生活を支える地域福祉サービスの実際②日常生活自立支援事業 第8回：地域での生活を支える地域福祉サービスの実際③  ソーシャルサポートネットワークと地域包括ケアシステム 第9回：地域における福祉ニーズの把握方法と実際① 地域アセスメント 第10回：地域における福祉ニーズの把握方法と実際② 福祉ニーズの把握、アウトリーチ 第11回：社会資源の活用・調整・開発 第12回：住民参加の意義（復習）とその促進方法 第13回：福祉教育とボランティア育成 第14回：地域福祉計画の概要と意義 第15回：地域における福祉サービス評価と質の確保 学習のまとめ

アクティブ ラーニング	発問に対する隣同志の意見交換、グループ討議、事前課題への取り組みに基づく授業、中間テスト等を取り入れる
評価方法	定期試験60%、中間テスト20%、課題10%、授業態度 10%
課題に対する フィード バック	毎時間冒頭で前回のリアクションペーパーに対してコメントし、学生相互の学びを共有する。 中間テスト実施後解説を行う。
指定図書	『地域福祉論 地域福祉の理論と方法』全社協（「社会福祉学習双書編集委員会」編）
参考図書	牧里毎治・杉岡直人・森本佳樹編『ビギナーズ地域福祉』有斐閣アルマ 上野谷加代子・松端克文・山縣文治編『よくわかる地域福祉』ミネルヴァ書房 井岡勉監修『住民主体の地域福祉論 理論と実践』法律文化社
事前・ 事後学修	事前学修：毎回の授業については、教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおくことのほか、講義予定表に提示した課題に取り組む 事後学修：関連する国家試験過去問などに取り組む <p style="text-align: right;">（事前・事後学修 40分）</p>
オフィス アワー	科目責任者の研究室は2606です。時間については授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は地域福祉の実務経験を有する社会福祉士が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	社会福祉経営論																																																
科目責任者	落合 克能																																																
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 6セメスター																																																
DP 番号と科目領域	DP2 専門																																																
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。																																																
科目概要	福祉サービスの経営管理を担当している方々の講義を通して、福祉サービスにかかる組織や団体および、福祉サービスの経営と管理運営に関する基礎的知識を修得することを目的としている。社会福祉法人制度、財源、働きやすい労働環境の整備などについて学び、そのことが様々なニーズを持った利用者への適切な支援、地域共生社会の実現につながることを理解する。																																																
到達目標	以下の到達目標を達成し、社会福祉サービス提供組織の経営管理に関する様々な事象について、専門用語を使って説明できるようになる。 1. 福祉サービスの制度および福祉サービスの組織と経営の基礎的知識を修得する。 2. 福祉サービスの管理運営の方法に関する知識を修得するとともに、その実際を理解する。																																																
授業計画	<p>【担当教員】 武居 敏、落合克能</p> <table border="0"> <thead> <tr> <th>&lt;回数・日程 (6 限)&gt;</th> <th>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</th> <th>&lt;担当講師&gt;</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 回：オリエンテーション、福祉サービス提供組織の経営とは</td> <td></td> <td>武居 敏</td> </tr> <tr> <td>第 2 回：福祉サービスにおける組織と経営</td> <td>・福祉サービスにおける組織・経営、福祉サービスと制度</td> <td>落合克能</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：福祉サービスの管理運営の方法① 人事管理と労務管理</td> <td>・福祉サービス組織の現状と動向、人事・労務管理、人材育成</td> <td>鎌田裕子</td> </tr> <tr> <td>第 4 回：福祉サービスの管理運営の方法② 会計管理と財務管理</td> <td>・社会福祉法人会計基準、経営分析、経営と財務等</td> <td>井上英樹</td> </tr> <tr> <td>第 5 回：福祉サービスの管理運営の方法④ サービス管理</td> <td>・サービス管理、サービスの質の評価、苦情対応とリスクマネジメント</td> <td>野村則国</td> </tr> <tr> <td>第 6 回：福祉サービスの管理運営の方法③ 情報・施設管理</td> <td>・利用者情報の有効活用と保護、個人情報保護法、広告等</td> <td>西澤基示郎</td> </tr> <tr> <td>第 7 回：福祉サービスにかかわる組織や団体</td> <td>・社会福祉法人、特定非営利法人、その他の組織や団体</td> <td>落合克能</td> </tr> <tr> <td>第 8 回：社会福祉事業種別ごとの管理の実際：特別養護老人ホーム</td> <td></td> <td>川合厚志</td> </tr> <tr> <td>第 9 回：社会福祉事業種別ごとの管理の実際：措置関連施設</td> <td></td> <td>長谷川清太</td> </tr> <tr> <td>第 10 回：社会福祉事業種別ごとの管理の実際：障害者施設</td> <td></td> <td>宮崎弘光</td> </tr> <tr> <td>第 11 回：社会福祉事業種別ごとの管理の実際：保育所</td> <td></td> <td>富永裕美</td> </tr> <tr> <td>第 12 回：社会福祉事業種別ごとの管理の実際：在宅サービス、地域共生社会</td> <td></td> <td>吉岡誠仁</td> </tr> <tr> <td>第 13 回：福祉サービスの組織と経営の基礎理論</td> <td></td> <td>落合克能</td> </tr> <tr> <td>第 14 回：聖隷福祉事業団と社会福祉経営</td> <td></td> <td>武居 敏</td> </tr> <tr> <td>第 15 回：本科目全体のまとめ</td> <td></td> <td>落合克能</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">※都合により、講師の順番が入れ替わることがあります。</p>	<回数・日程 (6 限)>	<授業内容・テーマ等>	<担当講師>	第 1 回：オリエンテーション、福祉サービス提供組織の経営とは		武居 敏	第 2 回：福祉サービスにおける組織と経営	・福祉サービスにおける組織・経営、福祉サービスと制度	落合克能	第 3 回：福祉サービスの管理運営の方法① 人事管理と労務管理	・福祉サービス組織の現状と動向、人事・労務管理、人材育成	鎌田裕子	第 4 回：福祉サービスの管理運営の方法② 会計管理と財務管理	・社会福祉法人会計基準、経営分析、経営と財務等	井上英樹	第 5 回：福祉サービスの管理運営の方法④ サービス管理	・サービス管理、サービスの質の評価、苦情対応とリスクマネジメント	野村則国	第 6 回：福祉サービスの管理運営の方法③ 情報・施設管理	・利用者情報の有効活用と保護、個人情報保護法、広告等	西澤基示郎	第 7 回：福祉サービスにかかわる組織や団体	・社会福祉法人、特定非営利法人、その他の組織や団体	落合克能	第 8 回：社会福祉事業種別ごとの管理の実際：特別養護老人ホーム		川合厚志	第 9 回：社会福祉事業種別ごとの管理の実際：措置関連施設		長谷川清太	第 10 回：社会福祉事業種別ごとの管理の実際：障害者施設		宮崎弘光	第 11 回：社会福祉事業種別ごとの管理の実際：保育所		富永裕美	第 12 回：社会福祉事業種別ごとの管理の実際：在宅サービス、地域共生社会		吉岡誠仁	第 13 回：福祉サービスの組織と経営の基礎理論		落合克能	第 14 回：聖隷福祉事業団と社会福祉経営		武居 敏	第 15 回：本科目全体のまとめ		落合克能
<回数・日程 (6 限)>	<授業内容・テーマ等>	<担当講師>																																															
第 1 回：オリエンテーション、福祉サービス提供組織の経営とは		武居 敏																																															
第 2 回：福祉サービスにおける組織と経営	・福祉サービスにおける組織・経営、福祉サービスと制度	落合克能																																															
第 3 回：福祉サービスの管理運営の方法① 人事管理と労務管理	・福祉サービス組織の現状と動向、人事・労務管理、人材育成	鎌田裕子																																															
第 4 回：福祉サービスの管理運営の方法② 会計管理と財務管理	・社会福祉法人会計基準、経営分析、経営と財務等	井上英樹																																															
第 5 回：福祉サービスの管理運営の方法④ サービス管理	・サービス管理、サービスの質の評価、苦情対応とリスクマネジメント	野村則国																																															
第 6 回：福祉サービスの管理運営の方法③ 情報・施設管理	・利用者情報の有効活用と保護、個人情報保護法、広告等	西澤基示郎																																															
第 7 回：福祉サービスにかかわる組織や団体	・社会福祉法人、特定非営利法人、その他の組織や団体	落合克能																																															
第 8 回：社会福祉事業種別ごとの管理の実際：特別養護老人ホーム		川合厚志																																															
第 9 回：社会福祉事業種別ごとの管理の実際：措置関連施設		長谷川清太																																															
第 10 回：社会福祉事業種別ごとの管理の実際：障害者施設		宮崎弘光																																															
第 11 回：社会福祉事業種別ごとの管理の実際：保育所		富永裕美																																															
第 12 回：社会福祉事業種別ごとの管理の実際：在宅サービス、地域共生社会		吉岡誠仁																																															
第 13 回：福祉サービスの組織と経営の基礎理論		落合克能																																															
第 14 回：聖隷福祉事業団と社会福祉経営		武居 敏																																															
第 15 回：本科目全体のまとめ		落合克能																																															

アクティブ ラーニング	Moodle を活用した履修者からのリアクションや質問へのフィードバックなどを行い、履修者との対話を重視した授業進行を心がけます。課題提出などは、Moodle を活用します。
評価方法	<p>授業への取り組み状況 30%、小レポート 20%、定期試験 50%として評価します。</p> <p><b>【小レポート】</b> 「社会福祉法人の制度改革」に関する文献（授業で指定）を通読し、重要ポイントと所感（考察）を 1200 字程度で記述して頂きます。</p> <p><b>【定期試験】</b> 記述、穴埋め（選択肢なし）、穴埋め（選択肢あり）等により出題します。出題範囲は、授業内、Moodle 等で事前に告知します。</p> <p><b>【授業への取り組み】</b> 毎回のリアクションペーパー等で授業への取り組み状況（学修態度）を評価します。</p>
指定図書	『シリーズ「新・社会福祉士養成講座」11 福祉サービスの組織と経営 第 5 版』中央法規 2017 年
参考図書	『見て覚える 国試ナビ 2019』中央法規 2018 発刊予定
課題に対する フィード バック	毎回 Moodle に入力してもらいリアクションを各外部講師にお送りし、授業の冒頭でフィードバックします。また、中間レポート課題に関しても授業内でフィードバックします。
事前・ 事後学修	<p><b>【事前学修】</b> 第 1 回～第 9 回は、事前に指定図書の当該授業部分を一読して来て下さい</p> <p><b>【事後学修】</b> 授業中に指示した事後学修課題やリアクションを期日までに Moodle に入力して頂きます。また、事後学習としての中間レポート課題を課します。</p> <p style="text-align: right;">（目安時間 40 分）</p>
オフィスア ワー	社会福祉学部所属の落合研究室（2613 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。場所と時間については、各担当教員の初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は、特別養護老人ホームにおける様々な職種（生活相談員、介護職員、介護支援専門員、施設長補佐、事務長）の実務経験、また、第三者評価の受審経験、調査員としての調査経験等の実務経験を有する講師（社会福祉士）が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	医療福祉論
科目責任者	村上 武敏
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 社福 4セメスター 介護 6セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	<p>疾病にともなう生活問題と国民生活の実態、そして医療ソーシャルワーカーの歴史的任務、そこから保健医療機関における生活相談事業の社会的な必要を明らかにし、医療福祉とは何かを考える。</p> <p>さらに、保健医療機関における対人援助の方法と、そのための専門職連携および地域のネットワークづくりの視点と方法について学習する。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療福祉の歴史と社会的任務を理解する</li> <li>2. 医療福祉の対象とそれを取り巻く社会を理解する</li> <li>3. 医療福祉における実践の理論を学ぶ</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：医療福祉の今日的課題</p> <p>第 2 回：医療福祉の歴史</p> <p>第 3 回：医療保険制度</p> <p>第 4 回：診療報酬制度</p> <p>第 5 回：医療ソーシャルワーカーの業務</p> <p>第 6 回：退院援助（1）その課題</p> <p>第 7 回：退院援助（2）その展開（グループワーク）</p> <p>第 8 回：医療機関における各専門職の役割とチーム医療</p> <p>第 9 回：地域包括ケアと医療福祉のネットワーク（グループワーク）</p> <p>第 10 回：医療福祉の理論（1）疾病と貧困の悪循環（グループワーク）</p> <p>第 11 回：医療福祉の理論（2）援助論および対象論の課題</p> <p>第 12 回：医療介護制度改革とソーシャルワーク（ゲスト講義）</p> <p>第 13 回：医療法と医療施設の概要</p> <p>第 14 回：がん医療と医療福祉の課題</p> <p>第 15 回：医療福祉とは何か ―その対象と方法</p>

アクティブ ラーニング	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域のネットワークづくりの方法についてグループで検討する。</li> <li>2. 退院時カンファレンスの計画を立案する。</li> <li>3. 疾病と貧困の悪循環の本質について事例検討を通して理解する。</li> </ol>
評価方法	授業への取り組み姿勢 30%、 中間レポート 20%、 定期試験 50%
課題に対する フィード バック	中間レポートについては授業においてコメントする。
指定図書	初回の授業で指定する。
参考図書	授業ごとに提示する。
事前・ 事後学修	授業ごとに図書などを紹介する。(目安時間 40分)
オフィス アワー	社会福祉学部 2613 研究室。時間については初回授業時に提示する。
実務経験に 関する記述	本科目は「医療ソーシャルワーカー」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	社会福祉行政論
科目責任者	河村 等
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	社会福祉行政の動向や法制度の展開、国と地方自治体の関係を理解する。また、国や地方自治体の福祉計画の仕組み、特徴、役割を学び、問題点や課題を理解する
到達目標	社会福祉と行政の関係を組織・財政・計画の観点から理解する 社会福祉専門職者として、福祉行財政並びに福祉計画に関する仕組みと役割を理解する
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：オリエンテーション (授業の目的・授業計画・授業方法等の説明)</p> <p>第 2 回：福祉と制度・福祉の法制度の展開・福祉計画の概要</p> <p>第 3 回：行政の骨格・社会福祉と法制度・福祉行政の組織・社会福祉基礎構造</p> <p>第 4 回：現状の社会福祉の動向を踏まえて、福祉と制度～社会福祉基礎構造までのまとめ</p> <p>第 5 回：財政と社会福祉・一般会計予算と社会保障関係費の動向 地方自治体の財政と民生費の動向</p> <p>第 6 回：民間社会福祉事業の財源・福祉サービスの利用と費用負担 社会福祉基礎構造改革・相談過程・相談体制 専門諸機関・地域の相談システム・専門職</p> <p>第 7 回：現状の社会福祉の動向を踏まえて、財政と社会福祉～専門職までのまとめ</p> <p>第 8 回：地域 (浜松市) での社会福祉の動向、現状</p>

アクティブ ラーニング	地元地域の行政組織及び財政状況を自らが調べるにより、課題を確認し、福祉行政を身近なものと感じ理解を深める。
評価方法	筆記試験（80%）、授業態度（20%）で評価する。
課題に対する フィード バック	毎回実施するリアクションペーパーへのコメント、質問への解説を行う。
指定図書	新・社会福祉士養成講座10「福祉行財政と福祉計画」第5版 中央法規
参考図書	なし
事前・ 事後学修	事前学修：シラバスに示した該当箇所を確認、理解しておくこと。 事後学修：授業内容について、振り返り、整理しておくこと。（目安時間 40分）
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	本科目は「行政実務」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	福祉計画論	
科目責任者	佐藤 順子	
単位数他	1単位 (15時間) 選択 5セメスター	
DP番号と科目領域	DP4専門	
科目の位置付	自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。	
科目概要	福祉計画の必要性や意義、目的、主体を理解し、その策定方法を学ぶとともに、実際の福祉計画について理解や考察を深めることを目的とする	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 福祉計画についての現状とニーズ、歴史的背景を理解する</li> <li>2. 福祉計画の意義・目的・主体・評価方法などを説明できる</li> <li>3. 分野別福祉計画の実際を説明できる</li> </ol>	
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>福祉計画の意義と目的、福祉行財政と福祉計画</p> <p>第2回 福祉計画の主体と住民参加の意義</p> <p>第3回 福祉計画の種類と実際① 高齢者関係計画</p> <p>第4回 福祉計画の種類と実際② 障害者関係計画</p> <p>第5回 福祉計画の種類と実際③ こども・若者関係計画</p> <p>第6回：福祉計画の種類と実際④ 地域福祉関係計画</p> <p>第7回 福祉計画の策定過程と留意点</p> <p>第8回 福祉計画の評価方法 まとめ</p>	<p>&lt;担当教員名&gt;</p> <p>佐藤順子</p> <p>佐藤順子</p> <p>野田由佳里</p> <p>川向雅弘</p> <p>大場義貴</p> <p>佐藤順子</p> <p>佐藤順子</p> <p>佐藤順子</p>

アクティブ ラーニング	講義内で発問を多くし、主体的に関連科目の復習や理解度の確認を行う
評価方法	授業態度10% 課題20%、定期試験70%
課題に対する フィード バック	毎回リアクションペーパーに対するコメントを講義内で、またはMoodleなどを活用して行う
指定図書	新・社会福祉士養成講座「福祉行財政と福祉計画」中央法規
参考図書	授業の中で提示する
事前・ 事後学修	事前学修：居住市町村における各福祉計画を市町村HPで検索し、概要をまとめる その他、講義予定表を確認の上、履修済み科目との関連や当該科目でのポイントを整理した上で授業に臨む 事後学修：関連する国家試験過去問などに取り組む 各講義で学んだ法律、制度などを時系列で整理し、年表などを作成する (事前・事後学修 40分)
オフィス アワー	科目責任者の研究室は2606です。時間については授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は社会福祉・精神保健福祉の実務経験を有する社会福祉士・精神保健福祉士が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	就労支援論
科目責任者	川向 雅弘
単位数他	1単位(15時間) 選択 4セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	「人が働くということ」を様々な角度から考え、職を得て働き続けることを支える社会の仕組みを学びます。「働くこと」をめぐる「意味」「権利」「自立」「支援」等と社会保障との関連に着目しながら、社会的に不利な立場にある人の就労支援の現状について検討します。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会的に不利な立場にある人の就労を支える社会制度の現状について理解する。</li> <li>2. 個人の生活保障のあり方についての視点をもつ。</li> <li>3. 以上のことと、社会福祉、労働政策、教育政策、社会的理解との関係と課題を理解する。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員&gt; 川向雅弘</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション（歴史にみる「人」と「労働」）</p> <p>第2回：雇用・就労の動向と社会保障の関係</p> <p>第3回：雇用・就労と社会的支援が必要な人</p> <p>第4回：就労支援の現状と課題①—障害者と就労支援</p> <p>第5回：就労支援の現状と課題②—低所得者と就労支援</p> <p>第6回：就労支援の現状と課題③—生活保護制度の中の就労支援</p> <p>第7回：就労支援と教育・福祉・労働にかかわる機関と専門職の役割、その連携</p> <p>第8回：まとめ（社会的に不利な立場にある人と就労支援）</p>

アクティブ ラーニング	Moodle を活用し小テスト等を行います。
評価方法	授業態度：20%、定期試験：80%
課題に対する フィード バック	毎回リアクションペーパーを用いてフィードバックを行います。
指定図書	MINERVA 社会福祉士養テキストブック 16「就労支援」ミネルヴァ書房
参考図書	『シリーズ 社会福祉の視座 社会福祉への招待』ミネルヴァ書房
事前・ 事後学修	【事前】毎回の授業終了時に提示する次回授業のキーワードを調べておく。 【事後】受講後は特に配布した資料を整理し、関連する問題等を調べてみる。(目安時間 40分)
オフィスア ワー	川向雅弘 (社会福祉学部社会福祉学科)：2705研究室 時間帯については初回授業時に提示する。
実務経験に 関する記述	本科目はソーシャルワーク等の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	司法福祉論
科目責任者	山本 幸則
単位数他	1単位 (15時間) 選択 6セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	「司法福祉」の意味・範囲は一義的ではない。ただ中心となるのは「更生保護制度」である。刑事司法手続きの流れ、刑務所の現状、福祉的視点及び福祉職関与の必要性などの基礎知識の習得を目指す。
到達目標	司法福祉諸分野制度等について俯瞰的な理解を得る。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;山本幸則、堂元京子</p> <p>第1回：司法福祉の意味と刑務所の実情を知る 山本幸則</p> <p>第2回：成人の刑事手続きの流れを知る① 山本幸則</p> <p>第3回：成人の刑事手続きの流れを知る② 山本幸則</p> <p>第4回：非行少年の手続きを知る① 山本幸則</p> <p>第5回：非行少年の手続きを知る② 山本幸則</p> <p>第6回：罪を犯した人の現状を知る (知的障害者、精神障害者、高齢者、女性) 山本幸則</p> <p>第7回：成年後見制度 (実践現場から) 堂元京子</p> <p>第8回：刑事手続・非行少年の手続に関わる組織・人の整理 山本幸則</p>

アクティブ ラーニング	なし
評価方法	筆記試験 100%による
課題に対する フィード バック	筆記試験の回答例を提示する
指定図書	『司法福祉 罪を犯した人への支援の理論と実践』 加藤幸雄・前田忠弘監修 藤原正範・古川隆司編 法律文化社
参考図書	『獄窓記』『累犯障害者』いずれも山本讓司著 新潮文庫
事前・ 事後学修	予習としてはテキストの該当箇所におおまかに目を通すこと、復習として授業で扱った箇所を精読していただきたい。(目安時間 40分)
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	本科目は司法書士(成年後見分野)の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	社会調査論
科目責任者	落合 克能
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 6セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	社会調査とは国や地方自治体、企業や学校、社会福祉などの各種法人、または個人が、ある社会的な問題意識に基づいて情報（データ）を収集し、収集したデータを演繹的又は帰納的に描写、解釈、分析し、調査対象について理解を深め、課題を整理したり、対応策を立案したりする一連の営みである。本科目では社会調査の意義と目的及び方法の概要、統計法の概要、社会調査における倫理について理解し、量的および質的なデータの整理と分析の方法について学習する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・倫理を含む社会調査における基礎的知識を修得できる。</li> <li>・社会調査における量的なデータの収集方法、分析方法について理解できる。</li> <li>・社会調査における質的なデータの収集方法、分析方法について理解できる。</li> </ul>
授業計画	<p style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞</p> <p>第 1 回：社会調査の基礎 1（社会調査とは、社会福祉分野における社会調査）  第 2 回：社会調査の基礎 2（社会調査の意義、目的、統計法の概要） 調査対象と方法  第 3 回：社会調査の基礎 3（社会調査における倫理と個人情報保護、IT の活用）</p> <p>第 4 回：量的調査の方法 1（量的調査の特徴と種類）  第 5 回：量的調査の方法 2（調査票の作成方法、調査票の配布と回収）  第 6 回：量的データと分析法 1（単純集計、表計算ソフトの具体的活用方法）  第 7 回：量的データと分析法 2（1 変量の性質を表す記述統計量）  第 8 回：量的データと分析法 3（2 変量の性質を表す記述統計量）  第 9 回：量的データと分析法のまとめ</p> <p>第 10 回：質的調査の方法 1（質的調査の特徴と種類）  第 11 回：質的調査の方法 2（調査設計と対象者の選定）  第 12 回：質的調査の方法 3（調査手法と調査の実施）  第 13 回：質的データと分析法 1（KJ 法・グラウンデッドセオリー）  第 14 回：質的データと分析法 2（KJ 法を体験的に理解する）  第 15 回：質的データと分析法のまとめ</p>

アクティブ ラーニング	エクセルを使用した量的調査結果の処理過程に関しては、コンピュータールームにおいて実践的な講義を行います。また、授業内ではチャレンジ問題を用いて学修の成果を確認しながら授業を進めます。課題提出などは、Moodle を活用します。
評価方法	授業への取り組み状況 30%、中間レポート 20%、定期試験 50%として評価します。 <b>【小レポート】</b> 指定データ（授業時に配信）をエクセルにより分析処理したファイルを提出して頂きます。分析処理は、度数分布表の作成、クロス表の作成、グラフの作成を行って頂きます。 <b>【定期試験】</b> 記述、計算、穴埋め（選択肢なし）、穴埋め（選択肢あり）等により出題します。出題範囲は、授業内、Moodle 等で事前に告知します。 <b>【授業への取り組み】</b> 毎回のリアクションペーパー等で授業への取り組み状況（学修態度）を評価します。
指定図書	『シリーズ「新・社会福祉士養成講座」5 社会調査の基礎 第3版』中央法規（2015）
参考図書	『社会調査の基礎 社会調査士A・B・C・D 科目対応』弘文堂 2012 『ソーシャルワーク・リサーチの方法』相川書房 2004
課題に対する フィード バック	毎回 Moodle に入力してもらったリアクションに対しては、次回の授業の冒頭でフィードバックします。また、中間レポート課題についても授業内でフィードバックします。
事前・ 事後学修	<b>【事前学修】</b> 授業前に指定図書の予定授業範囲を読み、分からない箇所を下線を引いてきて下さい。また、授業前に配信される量的データに関して自分なりの分析を試みて下さい。 <b>【事後学修】</b> 授業中に指示した事後学修課題やリアクションを期日までに Moodle に入力して頂きます。また、授業で行った内容に関する中間レポート課題を提出して頂きます。 （目安時間 40分）
オフィスア ワー	社会福祉学部所属の落合研究室（2613 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。場所と時間については、各担当教員の初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は、特別養護老人ホームにおける様々な職種（生活相談員、介護職員、介護支援専門員、施設長補佐、事務長）の実務経験、また、第三者評価の受審経験、調査員としての調査経験等の実務経験を有する講師（社会福祉士）が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	社会福祉発達史
科目責任者	坂本道子
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択 社福 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	隔年開講科目なので、2019 年度は開講しない。来年度は西洋社会福祉の歴史、特に人物史に焦点を当て、社会福祉はどのように発達したのかについて考察を深める。テキストによって、イギリスやヨーロッパ諸国、アメリカで活躍した著名な人物の生きざまを通して、近代西洋社会福祉における福祉の展開を学び、自らの福祉への取り組みの原点を考察する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉の基本的な考えに基づき、近現代社会における諸問題を理解する。</li> <li>2. 近現代社会における諸問題について、その発生原因や経過、その解決の現状について説明できる。</li> <li>3. 人物史を学ぶことによって、自らの福祉を学ぶ姿勢を考察する。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt; 坂本道子</p> <p>第1回：オリエンテーション、人物史研究の視点、近代西洋社会福祉の歴史概要</p> <p>第2回：社会調査から社会保障の動きにかかわった人々</p> <p>第3回：セツルメント運動から生活改良の動きへかかわった人々</p> <p>第4回：子ども問題に寄り添った人々</p> <p>第5回：障がい者問題に寄り添った人々</p> <p>第6回：対人援助の根底思想に関わった人々</p> <p>第7回：宗教と社会福祉</p> <p>第8回：実践の共通点と継承されること</p>

アクティブ ラーニング	人数によっては演習形式で進めることもある。
評価方法	授業態度40%、定期試験レポート60%
課題に対する フィード バック	授業中に提示する
指定図書	室田保夫 2013『人物でよむ西洋社会福祉のあゆみ』ミネルヴァ書房
参考図書	シリーズ『福祉に生きる』大空社
事前・ 事後学修	事前学修：興味ある人物について調べ、発表する準備をする。また、テキストや資料を熟読することにより、大きな流れと基本知識を理解する 事後学修：再度テキストや資料を熟読することにより、知識を定着させ、学ぶ楽しみを味わう
オフィス アワー	坂本研究室 (2612) 時間は授業で提示する
実務経験に 関する記述	本科目は「対人援助技術」の実務経験を有する実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	臨床心理学
科目責任者	藤田 美枝子
単位数他	2単位(30時間) 選択 社福 4セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	臨床心理学は、心理学を中心とした知識や理論を用いて、こころの問題を抱えた人やその家族の理解と援助の方法を研究・実践する学問であり、現代社会において関心が高まっている学問である。主には、心理検査・心理治療・地域援助という3領域から成り立っており、各領域は、有機的なつながりを持ちながら対人援助を実践する。歴史や理論を辿りながら、臨床心理学がどのように地域社会で発展し役に立ってきたのかを学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床心理学の基本的な知識を習得し、包括的に理解する。</li> <li>2. 福祉現場における保育士やソーシャル・ワーカーとして、心理学的な知見を活用できる態度や知識を身につける。</li> <li>3. 日常生活において活用できる臨床心理学の知識を習得・体験しながら、自己理解に努める。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回： パーソナリティの心理</p> <p>第2回： パーソナリティをみる ―パーソナリティ検査法―</p> <p>第3回： 心の成り立ち ―交流分析とエゴグラム―</p> <p>第4回： 無意識のはたらき ―夢とコンプレックス―</p> <p>第5回： 自己を見つめる ―自己評価―</p> <p>第6回： 自己をつかむ ―自我同一性―</p> <p>第7回： 対人関係の心理</p> <p>第8回： 乳幼児期と母子関係</p> <p>第9回： 対人関係を振り返る ―対人地図―</p> <p>第10回： 対人態度を知る ―基本的対人態度―</p> <p>第11回： 人とのかかわり方 ―社会的スキル―</p> <p>第12回： 心理臨床の実際 ―乳幼児期―</p> <p>第13回： 心理臨床の実際 ―児童期―</p> <p>第14回： 心理臨床の実際 ―思春期から成人期―</p> <p>第15回： 心理臨床の地域活動と領域</p>

アクティブ ラーニング	心理テストの概要版等を使用しながら、実際のパーソナリティのアセスメントを学ぶ。
評価方法	筆記試験（70%）、課題提出物（30%）、計100% （課題提出物については、毎回の講義終了後のリアクションペーパーの提出状況と内容等の全体から判断する）
課題に対する フィード バック	毎回リアクションペーパーの意見や問題提起を全員で共有しながら進める。
指定図書	「これからを生きる心理学」 川瀬正裕・松本真理子・丹治光浩 著 ナカニシヤ出版
参考図書	参考書については、授業中に授業中に随時連絡する。
事前・ 事後学修	教科書を事前によく読んでおくこと。事後学習はノートを見直し、質問を考えて次回の授業に臨むこと。（目安時間は、事前・事後学習それぞれ40分程度）
オフィス アワー	2号館6階の2610 研究室。時間については初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「臨床心理士」の実務経験を有する講師が、子ども家庭福祉における心理臨床の実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	発達心理学
科目責任者	細田 直哉
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 社福 2 Semester
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	生涯発達の土台となる乳幼児期および児童期以降の発達を教科書と DVD を用いて丁寧に確認し、各時期の発達の特徴とそれに応じた学習環境および援助を理解する授業です。授業を受動的に受けるのではなく、学んだことや自己学習の成果を主体的にまとめ、各年齢についての自分の学びを 1 冊のファイル (ポートフォリオ) にして提出する必要があります。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育・教育の実践にかかわる心理学の基礎知識を身につける。</li> <li>2. 子どもの発達過程を理解し、その過程と援助の仕方を具体的に説明できる。</li> <li>3. 発達が人や物や事象との相互作用の中で起こることを理解し、説明できる。</li> <li>4. 生涯発達の観点から、発達過程や初期経験の重要性と保育・教育との関連性が説明できる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業計画・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：オリエンテーション：授業の概要・「発達」と「学習」</p> <p>第 2 回：子どもの「自分づくり」の発達過程と保育・教育</p> <p>第 3 回：0 歳児前半の発達と保育</p> <p>第 4 回：0 歳児後半の発達と保育</p> <p>第 5 回：1～2 歳児の発達と保育</p> <p>第 6 回：2～3 歳児の発達と保育</p> <p>第 7 回：ポートフォリオ中間発表会</p> <p>第 8 回：3～4 歳児の発達と保育</p> <p>第 9 回：4～5 歳児の発達と保育</p> <p>第 10 回：5～6 歳児の発達と保育</p> <p>第 11 回：児童期以降の発達と教育・学習①生涯発達と発達援助</p> <p>第 12 回：児童期以降の発達と教育・学習②発達障害と発達支援</p> <p>第 13 回：「成長」「発達」「学習」・子ども観と教育観</p> <p>第 14 回：心理学理論のまとめ ①発達の理論</p> <p>第 15 回：心理学理論のまとめ ②学習の理論</p> <p>定期試験</p>

アクティブ ラーニング	各自の興味関心に沿って授業内容に関連したことを 事後学修としてポートフォリオにまとめていきます。
評価方法	ポートフォリオ 100%
課題に対す るフィード バック	ポートフォリオはルーブリックを示すと共に評価して返却。
指定図書	河原紀子『0歳～6歳 子どもの発達と保育の本』(学研) その他、授業内容に関連したプリントを適宜配布します。
参考図書	バターワース・ハリス『発達心理学の基本を学ぶ』(ミネルヴァ書房)、田中昌人『子どもの発達と診断1～5』(大月書店)、田中真介監修『発達がわかれば子どもが見える』(ぎょうせい)、園と家庭を結ぶ「げんき」編集部『乳児の発達と保育：遊びと育児』(エイデル研究所)
事前・ 事後学修	事前：教科書の該当の章を読んでから授業に臨む。(10分) 事後：ポートフォリオ作りを各自進める。(60分)
オフィス アワー	時間については初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「子育て支援ひろばの発達相談員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて 教授する科目です。



アクティブ ラーニング	事前課題を与え、課題についてグループワークを行い理解を深める。 また、Think-Pair-Share を行っていく。
評価方法	定期試験 (60%)、確認テスト (20%)、課題 (20%)
課題に対する フィード バック	授業毎のリアクションペーパーを用いて提出してもらうものとし、質問や意見については授業中に回答する。 授業後半に確認テストを行い、グループ単位で復習を行う。不明な点がある場合、解説する。
指定図書	指定無し
参考図書	よくわかる特別支援教育[第2版] (湯浅恭正 編著 ミネルヴァ書房)
事前・ 事後学修	事前学修：事前課題のテーマを示しまとめる (30分程度) 事後学修：授業の配布資料と確認テストを復習する (10分)
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3514 研究室 時間等：毎週水曜日 12時～13時 上記以外でもメール (nobuhisa-i@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください
実務経験に 関する記述	本科目は特別支援教育巡回相談の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	トップマネジメント論		
科目責任者	佐藤 順子		
単位数他	1単位 (15時間) 選択 7 Semester		
DP 番号と科目領域	DP6専門		
科目の位置付	社会福祉専門職としての責務と役割を自覚し、住民や多様な専門職と連携・協働することができる。		
科目概要	<p>トップマネジメントとは一般的に経営層のことを指すが、特に方針、目標を決め、その目標を達成する「マネジメントシステム」の責任を負う人を意味する。</p> <p>本講義では、質の高い福祉サービスを安定的に提供するために必要なマネジメントに関わる“ヒト、モノ、カネ、情報”等の資源に関する専門的知識・技術を学び、所属する施設・事業所や法人のマネジメントについて深く理解し、関わることのできる組織の一員になること、そして将来、直接マネジメントに携わることのできる人材の養成をめざす</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設・事業所、法人等のマネジメントについて「チームリーダー」の立場で理解できる</li> <li>2. 福祉サービスの基本理念と倫理の徹底・浸透のための方法を理解できる</li> <li>3. 福祉マネジメントに必要な“ヒト、モノ、カネ、情報”等に関する専門的な考え方を理解できる</li> <li>4. 所属する施設・事業所、法人の使命・計画、運営・経営に関することを理解した組織の一員となる準備ができる</li> </ol>		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション 福祉サービスの基本理念と倫理</p> <p>第2回：法人・事業所のガバナンス</p> <p>第3回：組織の戦略と事業計画、事業報告（PDCAサイクル）</p> <p>第4回：サービスマネジメントとは</p> <p>第5回：人事、労務管理</p> <p>第6回：地域協働</p> <p>第7回：社会福祉法人の地域貢献① 考え方</p> <p>第8回：社会福祉法人の地域貢献② 事例</p> </td> <td style="vertical-align: top; padding-left: 20px;"> <p>&lt;担当教員名&gt;</p> <p>佐藤順子（落合克能）</p> <p>落合克能</p> <p>落合克能</p> <p>落合克能</p> <p>佐藤順子</p> <p>佐藤順子</p> <p>佐藤順子</p> <p>佐藤順子</p> </td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">（マネジメント・ICT コースが推奨するマネジメント特論もあわせて受講することが望ましい）</p>	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション 福祉サービスの基本理念と倫理</p> <p>第2回：法人・事業所のガバナンス</p> <p>第3回：組織の戦略と事業計画、事業報告（PDCAサイクル）</p> <p>第4回：サービスマネジメントとは</p> <p>第5回：人事、労務管理</p> <p>第6回：地域協働</p> <p>第7回：社会福祉法人の地域貢献① 考え方</p> <p>第8回：社会福祉法人の地域貢献② 事例</p>	<p>&lt;担当教員名&gt;</p> <p>佐藤順子（落合克能）</p> <p>落合克能</p> <p>落合克能</p> <p>落合克能</p> <p>佐藤順子</p> <p>佐藤順子</p> <p>佐藤順子</p> <p>佐藤順子</p>
<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション 福祉サービスの基本理念と倫理</p> <p>第2回：法人・事業所のガバナンス</p> <p>第3回：組織の戦略と事業計画、事業報告（PDCAサイクル）</p> <p>第4回：サービスマネジメントとは</p> <p>第5回：人事、労務管理</p> <p>第6回：地域協働</p> <p>第7回：社会福祉法人の地域貢献① 考え方</p> <p>第8回：社会福祉法人の地域貢献② 事例</p>	<p>&lt;担当教員名&gt;</p> <p>佐藤順子（落合克能）</p> <p>落合克能</p> <p>落合克能</p> <p>落合克能</p> <p>佐藤順子</p> <p>佐藤順子</p> <p>佐藤順子</p> <p>佐藤順子</p>		

アクティブ ラーニング	発問に対する隣同志の意見交換、グループ討議を取り入れるなどして知識の定着・確認を促す
評価方法	定期試験80%、授業態度20%
課題に対する フィード バック	毎時間冒頭で前回のリアクションペーパーに対してコメントし、学生相互の学びを共有する。
指定図書	『福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程テキスト チームリーダー編』 全国社会福祉協議会 『シリーズ「新・社会福祉士養成講座」11 福祉サービスの組織と経営 第5版』中央法規
参考図書	必要に応じ、授業の中で提示する
事前・ 事後学修	事前学修：授業内容に該当する教科書の項目について事前に読んでおく 講義予定表に提示した課題に取り組む 事後学修：関連する国家試験過去問などに取り組む (事前・事後学修 40分)
オフィス アワー	科目責任者の研究室は2606です。時間については授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は社会福祉の実務経験を有する社会福祉士が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	アダプテッド・スポーツ
科目責任者	和久田 佳代
単位数他	2単位 (30時間) 選択 2 Semester
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	スポーツの意義と価値、アダプテッド・スポーツの概念と意義を理解し、障がいや様々な状況にアダプテッドする方法を学び、福祉・教育の現場における支援に活かすことができるようになる。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. スポーツの意義と価値を理解し、アダプテッド・スポーツとは何か、いかに大切であるかを理解する。</li> <li>2. 障がいや様々な状況に応じたスポーツ活動や大会、指導者の役割について、理解する。</li> <li>3. 障がいや様々な状況に応じてアダプテッドする方法を学び、福祉・教育の現場における支援に活かせるようになる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：スポーツの意義と価値 学びへの導入 スポーツとは〇〇〇である</p> <p>第 2 回：障がいとは アダプテッド・スポーツとは何か 障がい者福祉施策とのかかわり</p> <p>第 3 回：アダプテッド・スポーツの歴史 パラリンピック以前 パラリンピックの発展</p> <p>第 4 回：人間の権利としてのスポーツ 「失ったものを嘆くな。今あるものを最大限活かせ」</p> <p>第 5 回：身体障がいとスポーツ (1) 身体障がいの理解と支援 車いす利用者 その他の肢体不自由</p> <p>第 6 回：身体障がいとスポーツ (2) 視覚障がい 聴覚障がい</p> <p>第 7 回：身体障がいとスポーツ (実技) 障がいに応じた工夫・実践</p> <p>第 8 回：知的障がいとスポーツ (1) 知的障がいの理解と支援</p> <p>第 9 回：知的障がいとスポーツ (2) 発達障がいの理解と支援</p> <p>第 10 回：知的障がいとスポーツ (実技) 障がいに応じた工夫・実践</p> <p>第 11 回：精神障がいとスポーツ 精神障がいの理解</p> <p>第 12 回：精神障がいとスポーツ (実技) 障がいに応じた工夫・実践</p> <p>第 13 回：国内外における障がい者スポーツ大会 パラリンピック、スペシャルオリンピックス、全国障害者スポーツ大会 他</p> <p>第 14 回：安全管理 スポーツ事故の現状と対策 救急処置</p> <p>第 15 回：指導者の役割、倫理 障がい者スポーツ指導者制度</p> <p>&lt;受講者へのメッセージ&gt; 初級障がい者スポーツ指導員（日本障がい者スポーツ協会公認）の指定科目です。資格取得</p>

	<p>希望者は、同時に地域実践アクティブラーニング（アダプテッド・スポーツ）を履修することが望ましい。履修希望の学生は、第1回目から出席してください。</p> <p>体育館での実技時は、運動着、体育館シューズを用意してください。</p>
アクティブラーニング	<p>意見交換を多く行い、学び合います。</p> <p>体育館での実技と連動しながら行います。</p>
評価方法	<p>筆記試験60%、授業及び課題への取組（関心・意欲・態度、Moodleフィードバック）40%</p>
課題に対するフィードバック	<p>Moodle やメールを活用し、フィードバックする。</p>
指定図書	<p>日本障がい者スポーツ協会編「新版 障がい者スポーツ指導教本 初級・中級」ぎょうせい</p>
参考図書	<p>矢部京之助編「アダプテッド・スポーツの科学」市村出版</p> <p>植木章三「イラスト アダプテッド・スポーツ概論」東京教学社</p> <p>齊藤まゆみ「教養としてのアダプテッド体育・スポーツ学」大修館書店</p>
事前・事後学修	<p>授業に集中できるよう、体調を整えて授業に臨む。</p> <p>毎回、授業後にMoodleにてフィードバックを行う。</p> <p>授業での学びを実習等に活用する。目安時間40分。</p>
オフィスアワー	<p>和久田佳代 社会福祉学部 2709</p> <p>時間については初回授業時に提示</p>
実務経験に関する記述	<p>本科目は「障がい者スポーツ指導員」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。</p>

科目名	国際福祉実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
科目責任者	太田雅子
単位数他	2単位(90時間) 選択 4～8セメスター
DP番号と科目領域	DP7 専門
科目の位置付	社会福祉に関する地域社会および国際社会のニーズを捉え、社会福祉専門職として貢献し、自己研鑽することができる。
科目概要	国際福祉実習Ⅰ～Ⅳは、国際社会に貢献できる人材育成を行うために、実際に会議に出かけ、その国の様々な社会福祉事情や文化を体験することにより、価値観の多様性や異文化を受容することを学ぶ。国際的な視野を養い、グローバルな社会福祉の課題解決のための考察を行う(アクティブラーニング) ※ 国際福祉実習Ⅰ～Ⅳは、期間を意味する。2週間の場合は、Ⅰのみ履修。4週間の場合は、Ⅰ・Ⅱを履修。6週間・8週間の場合はⅠ～Ⅲ、Ⅰ～Ⅳの履修となる。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 聖隷の理念に基づく海外での社会福祉事業の展開について理解することができる。</li> <li>2. 訪問する国の社会福祉の現況を体験的に学び、国際的な視野を持つことができる。</li> <li>3. 日本の社会福祉の概要について、様々な資料を用いて実習先の人に報告・説明することができる。</li> <li>4. 自らの海外での体験を実習目標にもとづいて振り返り、発表することができる。</li> <li>5. 価値観の多様性や異文化を受容しながら福祉職としての任務と使命を理解することができる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;科目担当者&gt; 太田雅子 川向雅弘 大川井宏明</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習事前指導(渡航前) 国際福祉実習の目的について-「聖隷の理念と歴史」との関係を含む 実習施設について調べる-実習施設についての発表 実習日程・内容について、渡航に関するガイダンス(英語学習を含む)</li> <li>・本実習 実習先: インド聖隷希望の家(知的障害者教育施設) 韓国 東明高齢者福祉センター(高齢者施設)・東明児童福祉センター(児童養護施設) ブラジル希望の家福祉協会(重症心身障害者施設) 実習内容 見学・観察実習 参加実習 実習先での講義やディスカッション、プレゼンテーション、他施設視察 評価・反省(まとめ)</li> <li>・実習事後指導(帰国後) 自己評価(評価表の項目に沿って)を行う 個別面談(施設側からの評価表が届き次第)を行い、自己覚知をする 実習報告会の準備をする 実習報告会にて発表する</li> </ul>

アクティブ ラーニング	事前指導・事後指導においてはグループ学修を中心に実施する
評価方法	評価については、現地の実習担当者からの評価、実習記録、実習レポート、事後学習における評価などで、総合的に行う。具体的な評価項目は、以下の通りある。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習指導者の評価</li> <li>・事前事後学習の取り組み（レポートを含む）</li> <li>・実習報告会での成果発表      ルーブリックは用いない。</li> </ul>
課題に対す るフィード バック	実習報告会を実施し、報告内容についてフィードバックを行う
指定図書	資料配布
事前・ 事後学修	事前学習：実習先の国の文化等調べる 事後学習：発表等から他からの質疑応答によりさらに調べ答える
オフィス アワー	科目責任者の研究室は2604です。時間については授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は、社会福祉士として社会福祉現場の実務経験、保育士・幼稚園教諭として認定こども園での実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅰ	※社会福祉学科
科目責任者	福田 俊子	
単位数他	2単位 (30 時間) 必修 社福 2 Semester	
DP 番号と科目領域	DP3 専門	
科目の位置付	様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。	
科目概要	<p>ソーシャルワークにかかわる講義科目との関連性を反映させながら、ソーシャルワーカーに求められる知識と技術を実践的に習得することを目的としている。具体的な支援場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とした演習形式により、①実践に必要な人間の理解（自己覚知と他者理解）、②他者への情報伝達に必要な基礎的なコミュニケーション能力を養い、ソーシャルワークの相談援助技術の土台となる基本的なコミュニケーション技術の習得を図る。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己覚知の必要性を理解し、深めようとする姿勢をもつ。</li> <li>2. 受容的・共感的態度をもって、対人関係を形成しようとする姿勢をもつ。</li> <li>3. 自らの役割を理解し、他者と協働しようとする姿勢をもつ。</li> </ol>	
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;      &lt;担当教員&gt; 福田俊子、佐藤順子</p> <p>第 1 回： オリエンテーション、自己紹介・他己紹介</p> <p>第 2 回： 自己理解と他者理解 ①—エゴグラム等心理性格テストによる自己理解</p> <p>第 3 回： 自己理解と他者理解 ②—ジョハリの窓等を活用した自己理解</p> <p>第 4 回： 自己理解と他者理解 ③—食べさせられる体験、聞こえない体験</p> <p>第 5 回： 自己理解と他者理解 ④—話せない体験、見えない体験</p> <p>第 6 回： 自己理解と他者理解 ⑤—車いす体験、高齢者体験、振り返り</p> <p>第 7 回： コミュニケーションの基礎 ①—ラポールを確立するための面接者の態度（ビデオ）</p> <p>第 8 回： コミュニケーションの基礎 ②—ノンバーバルコミュニケーションの点検と実際</p> <p>第 9 回： コミュニケーションの基礎 ③—面接におけるラポールと傾聴の重要性（ビデオ）</p> <p>第 10 回： コミュニケーションの基礎 ④—バーバルコミュニケーションの実際 ①</p> <p>第 11 回： コミュニケーションの基礎 ④—バーバルコミュニケーションの実際 ②</p> <p>第 12 回： コミュニケーション技法と面接の基礎 ①—促しの技法、繰返しの技法、要約の技法</p> <p>第 13 回： コミュニケーション技法と面接の基礎 ②—共感の技法、開いた質問、閉じた質問、対決の技法、沈黙の技法</p> <p>第 14 回： コミュニケーション技法と面接の基礎 ③—面接場面のロールプレイ</p> <p>第 15 回： まとめ</p>	

アクティブ ラーニング	ムードルでの課題提示等
評価方法	授業への取組姿勢 50%、レポート 50% レポートについてはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対する フィード バック	リアクションペーパー
指定図書	授業ごとに教員作成の資料等を配布します。ビデオ教材を使用し（視聴していただき）ます。
参考図書	岩間伸之著「逐語で学ぶ 21 の技法「対人援助のための相談面接技術」
事前・ 事後学修	事前に配布する資料を予習、復習しておく（目安時間 40 分）
オフィス アワー	科目責任者は、社会福祉学部社会福祉学科の所属である。研究室は 2614。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。
実務経験に 関する記述	本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅱ	※社会福祉学科
科目責任者	川向 雅弘	
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 社福 3セメスター	
DP 番号と科目領域	DP3 専門	
科目の位置付	様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。	
科目概要	<p>ソーシャルワークにかかわる他の科目との関連性を反映させながら、ソーシャルワーカーに求められる知識と技術について実践的に習得することを目的とする。具体的な支援場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とした演習形式により、基本的な面接技法を習得するために、「価値」と「面接におけるコミュニケーション」の2つの内容に焦点化する。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己覚知の必要性を理解し、それを深める。</li> <li>2. 受容的・共感的態度をもって、対人関係を形成できるようにする。</li> <li>3. 相談援助における価値と倫理について理解を深める。</li> </ol>	
授業計画	<p>&lt;担当教員&gt; 川向雅弘、村上武敏</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：社会福祉専門職の価値 ①（価値と倫理）</p> <p>第3回：社会福祉専門職の価値 ②（社会正義）</p> <p>第4回：社会福祉専門職の価値 ③（社会公正）</p> <p>第5回：自他の価値 ①（価値と価値観）</p> <p>第6回：自他の価値 ②（個人的価値と社会的価値）</p> <p>第7回：自他の価値 ③（価値の形成）</p> <p>第8回：自他の価値 ④（価値の変位）</p> <p>第9回：自他の価値 ⑤（価値の定着）</p> <p>第10回：面接におけるコミュニケーション ①（援助者の基本姿勢と原則）</p> <p>第11回：面接におけるコミュニケーション ②（基本的コミュニケーション）</p> <p>第12回：面接におけるコミュニケーション ③（基本的応答技法とその活用）</p> <p>第13回：面接におけるコミュニケーション ④（傾聴・共感・指示・焦点化）</p> <p>第14回：面接におけるコミュニケーション ⑤（対象者の意味世界を捉える）</p> <p>第15回：まとめ</p>	

アクティブ ラーニング	演習科目です。
評価方法	授業への取り組み姿勢：30%、前半レポート：40%、後半レポート：30% レポートについてはルーブリックを用いて評価する。
課題に対する フィード バック	演習グループに教員が随時関与しフィードバックします。
指定図書	『シリーズ 社会福祉の視座 ソーシャルワークへの招待』ミネルヴァ書房
参考図書	随時紹介します。
事前・ 事後学修	次回演習への準備が事前課題となります。また、次回演習への準備には学びの整理（事後学修）が必須です。演習のリアクションにはMoodleを活用します。（目安時間40分）
オフィス アワー	川向雅弘（社会福祉学科：2705 研究室）時間帯については初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目はソーシャルワークの実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅲ	※社会福祉学科
科目責任者	大場 義貴	
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 社福 4 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP4 専門	
科目の位置付	自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。	
科目概要	本科目では、ソーシャルワークにかかわる他の科目との関連性を反映させながら、ソーシャルワーカーに求められる知識と技術について、実践的に習得することを目的とする。そのために、様々な事例を用い、具体的な支援場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とした演習により、相談援助等の手法（インテークからアセスメント）を理解・習得する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者、児童、障がい、低所得、社会的排除など、危機状態にある事例を通して相談援助の実際を理解する</li> <li>2. 上記の事例をもとに、相談援助の過程、特にインテークからアセスメントまでの意義・目的・方法・留意点等について理解する</li> </ol>	
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt; 大場義貴、福田俊子</p> <p>第 1 回：オリエンテーション（授業の目的・授業計画・授業方法の説明） 面接技法の復習（促し、繰り返し、要約、解釈、共感等） 大場・福田</p> <p>第 2 回：社会的排除にかかわる事例の理解 大場・福田</p> <p>第 3 回：高齢者にかかわる事例① 事例の理解 大場・福田</p> <p>第 4 回：高齢者にかかわる事例② インテーク面接 大場・福田</p> <p>第 5 回：高齢者にかかわる事例③ アセスメント 大場・福田</p> <p>第 6 回：高齢者にかかわる事例④ まとめ 大場・福田</p> <p>第 7 回：低所得者・知的障害にかかわる事例① 事例の理解 大場・福田</p> <p>第 8 回：低所得者・知的障害にかかわる事例② インテーク面接 大場・福田</p> <p>第 9 回：低所得者・知的障害にかかわる事例③ アセスメント 大場・福田</p> <p>第 10 回：低所得者・知的障害にかかわる事例④ まとめ 大場・福田</p> <p>第 11 回：児童にかかわる事例① 事例の理解 大場・福田</p> <p>第 12 回：児童にかかわる事例② インテーク面接 大場・福田</p> <p>第 13 回：児童にかかわる事例③ アセスメント 大場・福田</p> <p>第 14 回：児童にかかわる事例④ まとめ 大場・福田</p> <p>第 15 回：まとめ 大場・福田</p>	

アクティブ ラーニング	毎回、グループ学修を行います。 第4回、第8回、第12回ではロールプレイングやワークシートを使用します。 課題提出などは、Moodleを活用します。
評価方法	授業への取り組み姿勢50%、定期試験（レポート）50%として評価します。授業はグループ学習を中心とした形態になる。したがって、取組の姿勢では、単に出席するだけでなく、積極的にグループに参加する姿勢などを評価します。 レポートはルーブリックを用いて評価します。ルーブリックの内容は授業中に別紙にて提示します。
課題に対する フィード バック	①演習グループに教員が随時関与しフィードバックを行います。 ②Moodle へのリアクション・事後学修課題は全体場でフィードバックを行います。 ③個別に質問がある場合は、オフィスアワーで対応します。
指定図書	授業ごとに教員作成の資料等を配布します。ビデオ教材を使用し（視聴していただき）ます。
参考図書	『対人援助のための相談面接技術—逐語で学ぶ21の技法』中央法規2008 『シリーズ 社会福祉の視座 ソーシャルワークへの招待』ミネルヴァ書房2017
事前・ 事後学修	事前学修：授業中に次回の事前学修課題を提示します。期日までにMoodleに入力して下さい。 事後学修：授業中に当回事後学修課題を提示します。期日までにMoodleに入力して下さい。 (目安時間40分)
オフィス アワー	自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。場所と時間については、各担当教員の初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅳ	※社会福祉学科
科目責任者	福田 俊子	
単位数他	2単位 (30 時間) 社福 選択 5セメスター	
DP 番号と科目領域	DP5 専門	
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。	
科目概要	<p>ソーシャルワークにかかわる他の科目との関連性を反映させながら、ソーシャルワーカーに求められる知識と技術について、実践的に習得することを目的としている。具体的な支援場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とした演習形式により、総合的かつ包括的な援助にかかわる相談援助事例を体系的に取り上げる。また、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定して実技指導を行う。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 個人や家族を対象とした相談援助の実際について理解を深め、対象に合わせてさまざまな関連施策を適用できる。</li> <li>2. 事例をもとにアセスメントから評価まで、できる力を養う。</li> <li>3. グループ討議を通じて、自分の役割を把握し、的確にその役割を果たすことができる。</li> </ol>	
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;福田俊子、大場義貴</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：オリエンテーション（授業の目的・授業計画・授業方法の説明）</p> <p>第 2 回：事例研究①－支援計画①  (① 役割の決定 ②事例の理解 ③何を聴くかの整理・面接の準備)</p> <p>第 3 回：事例研究①－支援計画②  (① 模擬面接（援助計画作成のための面接）②不足情報の収集)</p> <p>第 4 回：事例研究①－支援計画③（援助計画の策定：本人・環境のニーズの整理）</p> <p>第 5 回：事例研究①－支援計画④（援助計画の策定）：ニーズと社会資源のマッチング）</p> <p>第 6 回：事例研究①－支援計画⑤（援助計画の策定）：まとめ</p> <p>第 7 回：事例研究①－支援計画⑥（①事例の発表 ②ロールプレイの実施）</p> <p>第 8 回：事例研究①のまとめ</p> <p>第 9 回：事例研究②－①（事例研究①で作成した支援計画からその後の大まかな展開を検討する）</p> <p>第 10 回：事例研究②－②（「支援の実施」→「支援の実施の結果」までの詳細な物語を創る）</p> <p>第 11 回：事例研究②－③「支援の実施の結果」→「モニタリング」までの物語を創る）</p> <p>第 12 回：事例研究②－④発表会にむけてこれまで作成してきた物語の提示の仕方などを検討し、準備を整える：①発表会に向けての役割分担 ②発表の予行演習</p> <p>第 13～14 回：発表会</p> <p>第 15 回：効果測定、終結、アフターケアに関する解説およびまとめ</p>	

アクティブ ラーニング	本科目は演習科目である。
評価方法	授業への取組姿勢 50%、定期試験（レポート） 50%として評価する。 （授業はグループ学習が中心とした形態になる。したがって、取組の姿勢では、単に出席するだけではなく、積極的にグループに参加する姿勢などを評価する。） レポートはルーブリックを用いて評価する。評価内容は、授業中に提示する。
課題に対する フィード バック	リアクションペーパー・事後学習課題に対するフィードバックは全体授業で実施する。
指定図書	授業中に、随時資料等を配布する。
参考図書	授業中に、随時提示する。
事前・ 事後学修	各回の授業では、達成課題が提示される。あらかじめ必要な知識を復習したり、授業時間内で達成できない場合には、次回の授業までに授業時間外で自主的に集まり、課題を達成しておいたりすることが必要となる。 （目安時間 40 分）
オフィス アワー	科目責任者は、社会福祉学部社会福祉学科の所属である。研究室は 2614。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。
実務経験に 関する記述	本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅴ	※社会福祉学科
科目責任者	佐藤 順子	
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 社福 6 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP7 専門	
科目の位置付	社会福祉に関する地域社会および国際社会のニーズを捉え、社会福祉専門職として貢献し、自己研鑽することができる。	
科目概要	ソーシャルワークにかかわる他の科目との関連性を反映させながら、ソーシャルワーカーに求められる知識と技術について、実践的に習得することを目的としている。具体的な支援場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とした演習形式により、ソーシャルワークにおける地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用し実技指導を行う。	
到達目標	福祉に関する地域社会のニーズや背景を論理的に把握し、専門職として貢献することができる実践力を身につける 1. 地域福祉の援助技術の概要を理解する 2. 地域・コミュニティ、住民の意味を理解する 3. コミュニティワーク、コミュニティソーシャルワークの方法として 住民ニーズの把握方法、住民参加の促進方法、社会資源の活用・開発、要援護者に関する情報収集、アウトリーチ、ネットワークづくりについて理解し、技術を習得する	
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>佐藤順子、川向雅弘 第1回：オリエンテーション（授業の目的・授業計画・授業方法の説明） 実習中に体験した「地域との関わり」 第2回：地域を知る① 第3回：地域を知る② 第4回：地域住民のニーズを知る 第5回～6回：地域課題解決のためのプログラム案（社会資源開発）検討 第7回：地域課題解決のためのプログラム案（社会資源開発）発表 第8回：前半振り返り 第9回：個別ニーズを把握する 第10回～11回：個別ニーズをアセスメントする 第12回～13回：個別支援計画を策定する 第14回：地域での展開を考える 第15回：まとめ	

アクティブ ラーニング	演習科目です
評価方法	授業への取組姿勢30%、事前課題20%、定期試験（レポート）50%として評価します。 レポートについてはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対する フィード バック	毎回グループワークで取り組んだ課題、リアクションペーパーに対するフィードバックを行う
指定図書	なし 授業中に資料を配布
参考図書	筒井のり子著『ワークブック社会福祉援助技術演習 コミュニティソーシャルワーク』ミネル ヴァ書房
事前・ 事後学修	事前学修：地域福祉論Ⅰ・Ⅱの内容、特に地域福祉の実践例や推進方法について、復習をし ておくこと。また、地域住民の一人として、自分や家族の地域での生活に関する意識、地域で の助け合い活動などに対する考えを把握して臨むこと。さらには、過去の実習体験を振り返り、 社会福祉施設・事業所、利用者と地域との関係についてあらかじめ考察しておくこと。 事後学修：事後学修課題を提示するので期日までにMoodleに入力または提出すること。 (目安時間40分)
オフィス アワー	科目責任者の研究室は2606です。時間については授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目はソーシャルワークの実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目で す。

科目名	ソーシャルワーク演習VI	※社会福祉学科
科目責任者	福田 俊子	
単位数他	1単位 (15時間) 選択 社福 7 Semester	
DP番号と科目領域	DP6 専門	
科目の位置付	社会福祉専門職としての責務と役割を自覚し、住民や多様な専門職と連携・協働することができる。	
科目概要	<p>ソーシャルワークにかかわる他の科目との関連性を反映させながら、ソーシャルワーカーに求められる知識と技術について、実践的に習得することを目的としている。ソーシャルワーク実習での個別的体験を踏まえ、具体的な相談援助事例を学生自ら作成することで、相談援助に係る実践的な知識と技術を習得できるようになることを目的とする。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習体験の中から利用者とのかかわりから事例を作成する作業を通じて、分析的思考に基づいた援助者としての行動目標を設定できる。</li> <li>2. これまでのソーシャルワーク関連科目との関連を意識しながら、人間の多様性を踏まえた事例を作成することができる。</li> <li>3. グループ討議を通じて、他者と協働することができる。</li> </ol>	
授業計画	<p>&lt;担当教員&gt;福田俊子、川向雅弘          演習グループを4グループ編成し、各教員が2グループを担当する。</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション・ガイダンス（小グループでの実習の学びの振り返り）</p> <p>第2回：ジレンマ事例の作成①（ジレンマ事例の共有、大まかな筋書きの作成）</p> <p>第3回：ジレンマ事例の作成②（大まかな筋書きの作成）</p> <p>第4回：ジレンマ事例の作成③（大まかな筋書きの作成、プレゼンテーションの準備）</p> <p>第5回：ジレンマ事例の作成④（プレゼンテーションの準備）</p> <p>第6回：ジレンマ事例の作成⑤（発表会の予行演習）</p> <p>第7・8回：事例発表会・まとめ          ロールプレイによるジレンマ事例から、「ソーシャルワーカーの強み」についての考察を発表する。（20分発表×グループ数）</p>	

アクティブ ラーニング	本科目は演習科目である。
評価方法	授業への取組姿勢 50%、定期試験（レポート） 50%として評価する。 （授業はグループ学習が中心とした形態になる。したがって、取組の姿勢では、単に出席するだけではなく、積極的にグループに参加する姿勢などを評価する。） レポートはルーブリックを用いて評価する。評価内容は、授業中に提示する。
課題に対する フィード バック	リアクションペーパー・事後学習課題に対するフィードバックは全体授業で実施する。
指定図書	授業中に、随時資料等を配布する。
参考図書	授業中に、随時提示する。
事前・ 事後学修	各回の授業では、達成課題が提示される。予め必要となる知識を復習したり、授業時間内で達成できない場合には、次回の授業までに授業時間外で自主的に集まり、課題を達成しておいたりすることが必要となる。 （目安時間 40 分）
オフィス アワー	科目責任者は、社会福祉学部社会福祉学科の所属である。研究室は 2614。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。
実務経験に 関する記述	本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	臨床原論																		
科目責任者	福田 俊子																		
単位数他	1単位 (15時間) 必修 社福 7～8セメスター																		
DP番号と科目領域	DP7 専門基礎																		
科目の位置付	社会福祉に関する地域社会および国際社会のニーズを捉え、社会福祉専門職として貢献し、自己研鑽することができる。																		
科目概要	本科目は、ソーシャルワークの原点や原理に立ち戻り、学科所属教員らによる「支援とは何か」「専門性とは何か」といったテーマに基づいた講義をきくことで、学生自身がこれらのテーマについて調べ、考え、そして自らの言葉で表現できるようになることを目的とし、社会福祉学科において積み重ねてきた講義、演習、実習の学修を総括する。																		
到達目標	1. 多様な人間や社会のありようを再認識し、自己の価値観を確認する。 2. これまでの学修を振り返りながら、自己の将来像を表現できるようになる。 3. 自分の言葉を用いて、各テーマにかかわる意見を表現できるようになる。																		
授業計画	大場義貴、川向雅弘、佐藤順子、福田俊子、佐々木正和、村上武敏  <table border="0" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">＜授業内容・テーマ等＞</th> <th style="text-align: left;">＜担当教員＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回： 講義概要</td> <td>福田俊子</td> </tr> <tr> <td>第2回： 専門家であること</td> <td>福田俊子</td> </tr> <tr> <td>第3回： 社会福祉実践とは何か</td> <td>村上武敏</td> </tr> <tr> <td>第4回： 思春期のメンタルヘルス</td> <td>大場義貴</td> </tr> <tr> <td>第5回： ソーシャルワーカーの訪問支援</td> <td>佐々木正和</td> </tr> <tr> <td>第6回： ソーシャルワーカー機能としてのアドボカシー</td> <td>川向雅弘</td> </tr> <tr> <td>第7回： 福祉コミュニティをつくる</td> <td>佐藤順子</td> </tr> <tr> <td>第8回： まとめ</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員＞	第1回： 講義概要	福田俊子	第2回： 専門家であること	福田俊子	第3回： 社会福祉実践とは何か	村上武敏	第4回： 思春期のメンタルヘルス	大場義貴	第5回： ソーシャルワーカーの訪問支援	佐々木正和	第6回： ソーシャルワーカー機能としてのアドボカシー	川向雅弘	第7回： 福祉コミュニティをつくる	佐藤順子	第8回： まとめ	
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員＞																		
第1回： 講義概要	福田俊子																		
第2回： 専門家であること	福田俊子																		
第3回： 社会福祉実践とは何か	村上武敏																		
第4回： 思春期のメンタルヘルス	大場義貴																		
第5回： ソーシャルワーカーの訪問支援	佐々木正和																		
第6回： ソーシャルワーカー機能としてのアドボカシー	川向雅弘																		
第7回： 福祉コミュニティをつくる	佐藤順子																		
第8回： まとめ																			
アクティブラーニング	テーマに沿ったグループディスカッション、Moodle への課題提出などがなされる。																		
評価方法	毎回の小レポート 40% (5点×8回) 総括レポート 60% レポートはルーブリックを用いて評価する。評価内容は、授業中に提示する。																		
課題に対するフィードバック	各回の授業冒頭で、前回の授業を担当した教員より、フィードバックがなされる。																		
指定図書	授業中に、随時資料等を配布する。																		
参考図書	授業中に、随時提示する。																		

事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前：Moodle 等に提示された事前課題には必ず取り組むこと。</li> <li>・事後：授業で取り上げられたことだけでなく、自主的に調べた内容も加味してレポートを作成すること。 (目安時間 40 分)</li> </ul>
オフィス アワー	科目責任者は、社会福祉学部社会福祉学科の所属である。研究室は 2614。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。
実務経験に 関する記述	本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	社会福祉入門
科目責任者	川向 雅弘
単位数他	2単位(30時間) 必修 社福 1・2 Semester
DP番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	本科目は、「専門職連携の基礎」と連動した科目であり、ソーシャルワークの基盤である「ソーシャルワーカーの意義と役割」「他職種の専門性と役割」を学ぶ。当事者、外部講師、他学部教員の講義を通して、前半は、社会福祉の対象者の生活に関わる専門職の実践について、後半は、ソーシャルワーカーが連携する他職種の実践について理解を目標とする。
到達目標	1. 社会福祉現場の実際にふれることで、社会福祉の学びへの意識が高まる。 2. 社会福祉専門職がおこなう社会福祉活動を知る。 3. 連携する他職種の支援の実際を理解し、専門職連携の意味を知る。
授業計画	<p>&lt;担当教員&gt; 川向雅弘</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p><b>【春Semester】</b></p> <p>第1回：オリエンテーション：社会福祉の支援領域について 川向雅弘</p> <p>第2回：ソーシャルワーカーの役割と実際①（医療福祉領域） ゲストスピーカー</p> <p>第3回：ソーシャルワーカーの役割と実際②（精神保健福祉領域） ゲストスピーカー</p> <p>第4回：ソーシャルワーカーの役割と実際③（社会的排除の領域） ゲストスピーカー</p> <p>第5回：ソーシャルワーカーの役割と実際④（司法福祉領域） ゲストスピーカー</p> <p>第6回：ソーシャルワーカーの役割と実際⑤（就労支援領域） ゲストスピーカー</p> <p>第7回：自らの実践から振り返る「ソーシャルワーカー」 社会福祉学科教員</p> <p>第8回：春Semester講義の振り返り（グループディスカッション） 川向雅弘</p> <p><b>【秋Semester】</b></p> <p>第9回：看護師の役割と実際①（病棟ケア） 看護学部教員</p> <p>第10回：看護師の役割と実際②（在宅ケア） 看護学部教員</p> <p>第11回：養護教諭の役割と実際 看護学部教員</p> <p>第12回：作業療法士の役割と実際 リハビリテーション学部教員</p> <p>第13回：臨床心理士の役割と実際 ゲストスピーカー</p> <p>第14回：自らの実践から振り返る「多専門職連携」 社会福祉学科教員</p> <p>第15回：秋Semester講義の振り返り（グループディスカッション） 川向雅弘</p>

アクティブ ラーニング	グループ学習を取り入れる。
評価方法	授業への取り組み：40%、期末レポート：60% レポートについては、ルーブリックを用いて評価する。
課題に対する フィード バック	各 Semester 最終回にゲストスピーカーの講義に対するフィードバックを行う。
指定図書	なし
参考図書	随時紹介する。
事前・ 事後学修	事前学習として、次回テーマ領域について、新聞記事等を確認して望むこと。また、各回の講義内容に関する文献・新聞記事等について事後学習を行うこと。(目安時間 40 分)
オフィスア ワー	川向雅弘 (社会福祉学部社会福祉学科)：2705 研究室 時間帯については初回授業時に提示する。
実務経験に 関する記述	本科目は、社会福祉専門職、臨床心理士、養護教諭、看護師等の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	社会福祉演習
科目責任者	福田 俊子
単位数他	2単位 (30 時間) 必修 社福 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	基礎演習Ⅰ・Ⅱをふまえ、社会福祉の専門的な学修を進めるうえで必要となる能力や知識を修得しながら、各自が社会福祉のどのような領域や課題について専門的に学んでいきたいのかを考え、自らの専門性を培うための足がかりとする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会に生きるさまざまな人たちの暮らしについて、考えることができる。</li> <li>2. 社会福祉のさまざまな領域を知り、興味・関心を持つことができる。</li> <li>3. 図書館で文献資料の収集ができ、関心のある論文などを見つけ、要約することができる。</li> <li>4. 自分の興味・関心と社会福祉の領域を結びつけ、レポートをまとめ、発表することができる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;福田俊子、佐藤順子、村上武敏 (3名で3グループを担当する)</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション 今後の授業の進め方等についての話し合い、アイスブレイクによるグループ作り</p> <p>第2回：基本的な文献の読解① 教員によるプレゼンテーションを通して、文献の読み方、レジユメの作成方法、文献や注引用方法等のモデル提示</p> <p>第3回：文献の収集方法の理解 図書館を活用して専門的な文献資料の収集方法の理解</p> <p>第4回：文献リストの作成 文献検索機能を用い、各自の興味あるテーマについての参考文献リストの試行的作成</p> <p>第5回：基本的な文献の読解② 学生が分担しあい、担当箇所についてレジユメを準備し発表(学生をグループ①～⑤に分ける)、それをふまえてのグループ討議</p> <p>学生グループ①</p> <p>第6回： 〃 学生グループ②</p> <p>第7回： 〃 学生グループ③</p> <p>第8回： 〃 学生グループ④</p> <p>第9回： 〃 学生グループ⑤</p> <p>第10回：自分の興味・関心あるテーマの絞り込み テーマレポート作成に向け、各自がテーマを決定。 テーマレポートの個別指導を経て、発表(学生をグループ①～⑤に分ける)、それを踏まえてのグループ討議 学生グループ①</p> <p>第11回： 〃 学生グループ②</p> <p>第12回： 〃 学生グループ③</p> <p>第13回： 〃 学生グループ④</p> <p>第14回： 〃 学生グループ⑤</p> <p>第15回： 授業のまとめ</p> <p>グループにわかれ、一人の担当教員の演習に所属することになります。担当教員は、皆さんと一緒に考え、それぞれの興味・関心を自分のテーマに結び付けていくお手伝いをさせていただきます。少人数のグループだからこそ、積極的なディスカッションへの参加をお願いします。</p>

アクティブ ラーニング	本科目は演習科目である。
評価方法	授業への取り組み状況 (60%)、テーマレポート (40%) レポートはルーブリックを用いて評価する。評価内容は、授業中に提示する。
課題に対する フィード バック	授業時間内に、適宜、フィードバックは実施する。
指定図書	授業中に、随時資料等を配布する。
参考図書	授業中に、随時提示する。
事前・ 事後学修	提示された課題に対しては、あらかじめ必要な知識を復習すること。 共通の文献を分担発表する場合は、必ず当該部分を予め通読して授業に臨むこと グループ発表にあたっては、授業時間外で自主的に集まり、課題を達成しておくこと。 個人発表の場合は、ゼミメンバーに内容が伝わりやすいレジュメなどを準備しておくこと (目安時間 40 分)
オフィス アワー	科目責任者は、社会福祉学部社会福祉学科の所属である。研究室は 2614。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。
実務経験に 関する記述	本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	インターンシップ入門
科目責任者	村上 武敏
単位数他	2単位 (60 時間) 必修 社福 1～2セメスター
DP 番号と科目領域	DP1 専門
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	社会福祉施設の利用者や職員との交流を通して、それらに対する理解を促進し、これから受講する様々な講義において具体的なイメージをもって学習に取り組めるようにする。また、実習の手続きや実習を通して、今後の実習のための基礎をつくるとともに社会人としての育成を図る。
到達目標	<p>事前学習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>これから様々な実習に臨み、さらに社会福祉の実践者となるための心構えをする。</li> <li>実習プログラムの流れを理解する。</li> <li>実習先となる社会福祉施設の概要と、その根拠となる法律について理解する。</li> </ol> <p>実習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>福祉施設利用者や職員とのコミュニケーション、関係づくりの基礎を習得する。</li> <li>利用者の生活を理解する。</li> <li>職員の日常業務を理解する。</li> <li>実習施設の概要と社会的な意義について理解する。</li> </ol> <p>事後学習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>実習体験を多面的に捉えなおす。</li> <li>実習体験をグループでまとめて報告する。</li> <li>実習体験をレポートにまとめる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員&gt;村上武敏、大場義貴、福田俊子、川向雅弘</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>事前学習 (春セメスター)</p> <p>第1回: オリエンテーション</p> <p>第2回: 実習の心構え・実習記録の書き方</p> <p>第3回: 報告会 ①施設の概要 ②根拠となる法律</p> <p>第4回: 実習の準備と実習中の諸注意</p> <p>実習 (9月) 4日間、社会福祉施設にて実習</p> <p>事後学習 (秋セメスター)</p> <p>第5回: 実習体験の振り返り</p> <p>第6回: グループスーパービジョン</p> <p>第7回: 実習報告会のための準備 ① 報告資料の作成</p> <p>第8回: 実習報告会のための準備 ② 中間報告とスーパービジョン</p> <p>第9回～第10回: 実習報告会 (障害者領域・高齢者領域)</p>
アクティブラーニング	実習科目である

評価方法	<p>実習への取り組み姿勢（事前訪問、実習への参加、実習先の評価、記録物の内容） 60%</p> <p>授業への取り組み姿勢（授業への参加、報告会に向けた取り組み、期末レポート） 40%</p> <p>レポートで評価するが、ルーブリックは用いない。</p>
課題に対するフィードバック	<p>報告会については、終了後に各教員がコメントする。</p> <p>期末レポートについては、担当教員ごとにコメントする。</p>
指定図書	なし
参考図書	担当教員ごとに提示する。
事前・事後学修	<p>実習までに、実習施設の概要や根拠法を把握しておくこと</p> <p>実習後は、実習報告会と期末レポートの作成に向けて、実習体験を整理しておくこと（目安時間 40 分）</p>
オフィスアワー	担当教員それぞれの研究室にて実施。時間は初回の授業において提示する。
実務経験に関する記述	本科目はソーシャルワーク・ケアワークの実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	インターンシップ I	※社会福祉学科
科目責任者	福田 俊子	
単位数他	2単位 (90 時間) 必修 社福 4 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP5 専門	
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。	
科目概要	<p>1 年次のインターンシップ入門における学修をふまえ、学生が自分の目指す社会福祉援助者像を明確化していくために、本科目は 10 日間程度の配属実習を含んだ授業構成となっている。多様な社会福祉施設等の利用者とのコミュニケーションを通じて、その現状を理解するとともに、社会福祉援助者として必要とされる実践力とは何かについて、考察することを目的とする。また、施設・病院等の課題解決に主体的に関与することを目的とした授業である。</p> <p>なお、実習の事後学習は、インターンシップ I 実習指導で行われる。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的なコミュニケーション技術を使用し、受容的・共感的態度を形成することができる。</li> <li>2. 社会福祉施設等の多様な現状や対象者のニーズを理解することができる。</li> <li>3. 他の学生や職員とのチームワークを考えながら行動できる。</li> </ol>	
授業計画	<p>&lt;担当教員&gt;福田俊子、川向雅弘、佐藤順子、佐々木正和</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事前学習プログラム       <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回：オリエンテーション・ガイダンス</li> <li>第2回：実習記録の書き方及び実習中の諸注意</li> <li>第3回：グループ別学習①（実習施設の概要及び利用者の理解）</li> <li>第4回：グループ別学習②（事前訪問のための準備、3年生からの引き継ぎ）</li> <li>第5回：事前訪問</li> <li>第6回：グループ別学習③（事前訪問のフィードバック、実習テーマの共有）</li> </ul> </li> <li>2. 配属実習       <p>国家資格の取得及び3年次のソーシャルワーク実習先にかかわる希望、使用可能な交通手段など総合的に勘案した結果決定された、大学の近隣にある実習先において、10月から12月までの10日間程度、週1回半日の配属実習を行う。</p> <p>※実習中のスーパービジョン並びに事後学習については、社会福祉演習Ⅱの授業で行う。</p> </li> </ol> <p>&lt;その他&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習を含む授業科目であるため、積極的な授業への参加が重要であることを理解して履修してほしい。</li> <li>・「インターンシップ I 実習指導」も必ず履修すること。</li> </ul>	

アクティブ ラーニング	本科目は、施設・病院等の課題解決に主体的に関与することを目的とした実習科目である。
評価方法	授業への取り組み状況 20% (事前学習への参加状況) 実習への取り組み状況 80% (事前訪問・実習への参加状況、記録物の内容) 実習への取り組みはルーブリックを用いて評価する。評価内容は、授業中に提示する。
課題に対する フィード バック	事前学習プログラムでは、リアクションペーパー・事後学習課題に対するフィードバックは全 体授業で実施する。
指定図書	授業中に、随時資料等を配布する。
参考図書	授業中に、随時提示する。
事前・ 事後学修	・事前：提示された課題はすべて ・事後 (配属実習)：実習ノートは、必ず、その日のうちに記録すること。実習中に分からない ことがあった場合、できるだけ自主的に調べてみる。 (目安時間 40 分)
オフィス アワー	社科目責任者は、会福祉学部社会福祉学科の所属である。研究室は 2614。オフィスアワーの時 間については、初回授業時に提示する。
実務経験に 関する記述	本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて 教授する科目です。

科目名	インターンシップ I 実習指導
科目責任者	福田 俊子
単位数他	2単位 (30 時間) 必修 社福 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	本科目は、インターンシップ I の実習中における学内スーパービジョン及び事後学習として位置づけられる。10 日間程度の配属実習を行った後、グループ並びに個別スーパービジョンを適宜実施しながら、配属実習全体を振り返り、まとめる。実習体験の総括は、実習報告会及びレポートの作成によって行われる。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的なコミュニケーション技術を使用し、受容的・共感的態度を形成することができる</li> <li>2. 他の学生の語りに耳を傾け、自らの実習体験を振り返ることができる。</li> <li>3. 社会福祉施設等の多様な現状や対象者のニーズを理解することができる。</li> <li>4. 社会福祉援助者に必要とされる実践力とは何か、自分の言葉を使って表現できる。</li> <li>5. さまざまなかかわりを通して、自己理解を深める。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員&gt;福田俊子、川向雅弘、佐藤順子、佐々木正和</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;      教員ごとに小グループに分かれ、以下の授業を展開する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 配属実習中のスーパービジョン       <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回：実習初日の実習体験にかかわるスーパービジョン (実習ノートの書き方を含む)</li> <li>第2回：実習2日目の実習体験にかかわるスーパービジョン (実習ノートの書き方を含む)</li> <li>第3回：実習3日目の実習体験にかかわるスーパービジョン</li> <li>第4回：実習4日目の実習体験にかかわるスーパービジョン</li> <li>第5回：実習5日目の実習体験にかかわるスーパービジョン (前半実習のまとめを含む)</li> <li>第6回：実習6日目の実習体験にかかわるスーパービジョン</li> <li>第7回：実習7日目の実習体験にかかわるスーパービジョン</li> <li>第8回：実習8日目の実習体験にかかわるスーパービジョン</li> <li>第9回：実習9日目の実習体験にかかわるスーパービジョン</li> <li>第10回：実習最終日の実習体験にかかわるスーパービジョン (実習全体のまとめを含む)</li> </ul> </li> <li>2. 事後学習プログラム       <ul style="list-style-type: none"> <li>第11回：全体授業、オリエンテーション、グループ別学習①)</li> <li>第12回：グループ別学習② (実習報告会にむけた発表準備：テーマの設定)</li> <li>第13回：グループ別学習③ (実習報告会にむけた発表準備：内容、発表方法の検討)</li> <li>第14・15回：実習報告会、まとめ</li> </ul> </li> </ol> <p>&lt;その他&gt;      ・インターンシップ I を必ず履修すること。</p>

アクティブ ラーニング	本科目は演習科目である。
評価方法	授業への取り組み状況 50% (実習中のスーパービジョン・事後学習への参加状況) 総括レポート 50% レポートはルーブリックを用いて評価する。評価内容は、授業中に提示する。
課題に対する フィード バック	授業時間内に、適宜、フィードバックは実施する。
指定図書	授業中に、随時資料等を配布する。
参考図書	授業中に、随時提示する。
事前・ 事後学修	配属実習中のスーパービジョンでは、率直に自分の感じたことや考えたことを話したいことをあらかじめ考えておくこと。 事後学習プログラムでは、自分の授業に対する参加度について必ず振り返ること。 (目安時間 40 分)
オフィス アワー	科目責任者は、社会福祉学部社会福祉学科の所属である。研究室は 2614。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。
実務経験に 関する記述	本科目は「ケアワーク・ソーシャルワーク」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	精神保健福祉制度論 I
科目責任者	佐々木 正和
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 社福 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	1. 精神保健福祉に関する法律や制度の変遷と内容を理解する。 2. 精神保健福祉実践に関する現状と課題および精神保健福祉士の役割について理解する。
到達目標	障害者自立支援法、精神保健福祉法、精神保健福祉士法など、わが国の精神障害者福祉に関する法律を中心に、その歴史的変遷と内容を理解する。そのうえで、精神保健福祉に関する行政組織、施設・機関の現状および精神保健福祉施策(関連施策を含む)の現状と課題を明らかにする。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：授業オリエンテーション</p> <p>第 2 回：精神病患者監護法から精神保健法成立までの経緯</p> <p>第 3 回：精神保健法から精神保健福祉法成立までの経緯</p> <p>第 4 回：精神保健福祉法成立の意義とその後の変化</p> <p>第 5 回：障害者自立支援法成立による変化</p> <p>第 6 回：精神保健福祉法の構成①</p> <p>第 7 回：精神保健福祉法の構成②</p> <p>第 8 回：精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割</p> <p>第 9 回：精神保健福祉法の最近の動向</p> <p>第 10 回：障害者基本法と精神障害者施策との関わり</p> <p>第 11 回：障害者自立支援法における精神障害者の福祉サービスの実際</p> <p>第 12 回：精神障害者等を対象とした福祉施策・事業の実際</p> <p>第 13 回：精神障害者の相談援助活動と精神保健福祉法</p> <p>第 14 回：相談援助活動と精神保健福祉に関する制度とサービスの相互作用の理解</p> <p>第 15 回：全体の整理</p>

アクティブ ラーニング	ロールプレイを用いた事例検討等を行います。課題提出などは、Moodle を活用し双方向の情報提供を行います。
評価方法	定期試験（筆記試験）60%、課題提出物（リアクションペーパー）20%、議論への参加姿勢 20%、計 100%
課題に対する フィード バック	ムードルにてリアクションペーパーを記述してください。毎回の講義で、リアクションペーパーでいただいた感想や質問等へのフィードバックをします。
指定図書	精神保健福祉士養成セミナー⑥精神保健福祉の制度・サービスと生活支援システム(第6版)へるす出版
参考図書	随時紹介
事前・ 事後学修	教科書を毎回読み込んでいくため、事前に該当する単元を読んでおく。また、配布する法律条文等プリントを事後に繰り返し学習しておく。 (目安時間 40 分)
オフィス アワー	研究室は 2605 研究室です。時間は初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	精神保健福祉制度論Ⅱ
科目責任者	佐々木 正和
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 社福 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	精神障害者に関連する社会保障制度の概要を理解する。また、更生保護制度（概要と精神障害者福祉との関係、更生保護制度における関係機関や団体との連携）および医療観察法（概要と医療観察法における精神保健福祉士の専門性と役割）について学ぶ。さらに、社会資源の調整・開発に関わる社会調査の意義、目的、倫理、方法及び活用について事例を用いながら学ぶ。
到達目標	1. 精神障害者の制度政策の概要の理解を深める。 2. 司法における精神保健福祉士の役割を理解する。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;佐々木正和・ゲストスピーカー</p> <p>第 1 回：精神障害者に関連する社会保障制度の概要① 社会政策と社会福祉制度</p> <p>第 2 回：精神障害者に関連する社会保障制度の概要② 医療保険制度・介護保険制度</p> <p>第 3 回：相談援助に係る行政組織と民間組織</p> <p>第 4 回：福祉サービス提供施設・機関の役割</p> <p>第 5 回：専門職や地域の支援者等 担当：ゲストスピーカー</p> <p>第 6 回：刑事司法と更生保護制度</p> <p>第 7 回：保護観察所と更生保護制度の担い手</p> <p>第 8 回：司法・医療・福祉の連携の必要性と実際</p> <p>第 9 回：医療観察法の意義と内容・医療観察法の審判と精神保健参与員の役割</p> <p>第 10 回：指定入院医療機関における処遇・地域における処遇</p> <p>第 11 回：社会復帰調整官の役割と実際・精神保健福祉士の仕事</p> <p>第 12 回：社会調査の意義と目的・対象・倫理</p> <p>第 13 回：量的調査法と質的調査法の違いと活用における留意点・ICT の活用方法</p> <p>第 14 回：社会調査をもとに社会資源の調整・開発に結び付けた事例</p> <p>第 15 回：まとめ</p>

アクティブ ラーニング	ロールプレイを用いた事例検討等を行います。課題提出などは、Moodle を活用し双方向の情報提供を行います。
評価方法	リアクションペーパー30%、定期試験 70%
課題に対する フィード バック	ムードルにてリアクションペーパーを記述してください。毎回の講義で、リアクションペーパーでいただいた感想や質問等へのフィードバックをします。
指定図書	精神保健福祉士養成セミナー⑥精神保健福祉の制度・サービスと生活支援システム(第6版)へるす出版 (精神保健福祉制度論 I で使用した教科書を使用します)
参考図書	なし
事前・ 事後学修	教科書を毎回読み込んでいくため、事前に該当する単元を読んでおく。また、配布する法律条文等プリントを事後に繰り返し学習しておく。 (目安時間 40 分)
オフィス アワー	研究室は 2605 研究室です。時間は初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	精神保健生活支援システム論
科目責任者	大場 義貴
単位数他	2単位(30時間) 選択 社福 7～8セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	精神障害者（精神科受診の発達障害者を含む）の生活支援の意義と特徴及び精神障害者の居住支援に関する制度・施策と相談援助活動について理解する。また、職業リハビリテーションの概念及び精神障害者の就労支援に関する制度・施策と相談援助活動（その他の日中活動支援を含む）及び行政機関における精神保健福祉士の相談援助活動について理解する。
到達目標	1. 精神障害者の概念、精神障害者の生活の実際、精神障害者の生活と人権について理解する。 2. 精神障害者の居住支援、精神障害者の就労支援、精神障害者の生活支援システム、市町村における相談援助及びその他の行政機関における相談援助について理解する。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>(春セメスター)</p> <p>第1回：障害者基本法・精神保健福祉法における精神障害、精神障害者の特性</p> <p>第2回：精神障害者の生活と人権、精神障害者と家族の状況</p> <p>第3回：精神障害者と地域社会、精神障害者の生活支援の理念と概念</p> <p>第4回：行政機関における相談援助システム <span style="float:right">ゲストスピーカー</span></p> <p>第5回：精神障害者の居住支援制度の歴史的展開、居住の場の確保と精神保健福祉士の役割</p> <p>第6回：精神障害者の居住支援に関わる専門職と役割、今後の居住支援</p> <p>第7回：地域生活支援システム（精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム）</p> <p>第8回：精神障害者の雇用・就業支援制度の歴史的展開</p> <p>第9回：精神障害者の就業支援制度の概要 就労とは～働くことの意義 <span style="float:right">ゲストスピーカー</span></p> <p>第10回：福祉的就労における支援の実際、雇用・就労支援における近年の動向</p> <p>(秋セメスター)</p> <p>第11回：精神科地域連携クリティカルパス</p> <p>第12回：クライシスケアシステム（自殺予防ネットワーク、自殺未遂者支援）</p> <p>第13回：社会参加、余暇活動</p> <p>第14回：統合的生活モデル①（世界のベストプラクティス）</p> <p>第15回：統合的生活モデル②（日本のベストプラクティス）</p>

アクティブ ラーニング	毎回グループ学修、反転授業を行います。 課題提出などは、Moodle を活用します。
評価方法	100 点満点とし、授業への取り組み 50% (事前・事後学修含)、レポート 50%として評価します。 レポートはルーブリックを用いて評価します。ルーブリックの内容は授業中に別紙にて提示します。
課題に対する フィード バック	リアクションペーパー・事後学習課題は全体場でフィードバックを行います。 個別に質問がある場合は、オフィスアワーで対応します。
指定図書	新・精神保健福祉士養成講座 第7巻『精神障害者の生活支援システム』中央法規出版
参考図書	『精神障害者のための就労支援ガイドブック』野中猛・松為信雄編 金剛出版
事前・ 事後学修	事前学修：授業中に次回の事前学修課題を提示します。期日までに Moodle に入力して下さい。 事後学修：授業中に当回事後学修課題を提示します。期日までに Moodle に入力して下さい。 (目安時間 40 分)
オフィス アワー	研究室は 2608 です。時間については初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「臨床心理士」、「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて 教授する科目です。

科目名	精神保健ソーシャルワーク総論
科目責任者	佐々木 正和
単位数他	2単位 (30 単位) 選択 社福 2 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	精神保健ソーシャルワーカー総論の講義では、ソーシャルワーカーとしての精神保健福祉士の役割を理解していく。ソーシャルワーク理論を歴史的に概観していくことで、ソーシャルワークの定義と、構成要素である知識・価値・技術を理解していく。また、実際のソーシャルワーク事例をふまえながら実践でのソーシャルワークの理解を深めていく。
到達目標	①ソーシャルワーク理論の基礎的な理解を深める ②精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談の概要について理解する ③精神障害者の相談援助に係る専門職の概念と範囲について、事例検討しながら理解していく
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：ソーシャルワーカーとしての精神保健福祉士① 精神保健福祉士の役割と意義</p> <p>第2回：ソーシャルワーカーとしての精神保健福祉士② 現代社会と精神保健福祉士（ソーシャルワーカーの実践）</p> <p>第3回：ソーシャルワーカーとしての精神保健福祉士③ 現代社会と精神保健福祉士（チームアプローチ、他職種連携）</p> <p>第4回：ソーシャルワーカーの定義と構成要素① ソーシャルワーカーの定義と構成要素①ソーシャルワーカーの価値・理念と原則</p> <p>第5回：ソーシャルワーカーの定義と構成要素② ソーシャルワーク関係における価値、理念と原則</p> <p>第6回：精神保健福祉領域におけるソーシャルワーカーの歴史① 諸外国の歴史</p> <p>第7回：精神保健福祉領域におけるソーシャルワーカーの歴史② 日本の歴史</p> <p>第8回：ソーシャルワーク理論と展開過程① 実践モデル、ジェネラリスト・ソーシャルワーカーの意義</p> <p>第9回：ソーシャルワーク理論と展開過程② 地域を基盤として生活支援としてのソーシャルワーク</p> <p>第10回：ソーシャルワーク理論と展開過程③ 協働作業としてのソーシャルワークの展開過程〈インテーク・契約・アセスメント・支援計画・支援の実施〉 ロールプレイ実施</p> <p>第11回：ソーシャルワーク理論と展開過程④精神科当事者の活動 ゲストスピーカー</p> <p>第12回：ソーシャルワーク理論と展開過程⑤ 社会福祉調査・研究</p> <p>第13回：精神保健福祉領域における他職種連携とソーシャルワーク① チームアプローチと他職種連携（IPW）</p> <p>第14回：精神保健福祉領域における他職種連携とソーシャルワーク② 精神保健福祉領域における精神保健福祉士の生活支援</p> <p>第15回：精神保健福祉領域における他職種連携とソーシャルワーク③ メンタルヘルスと精神保健福祉士の役割：</p>

アクティブ ラーニング	ロールプレイを用いた事例検討等を行います。課題提出などは、Moodle を活用し双方向で情報提供を行います。
評価方法	リアクションペーパー30%、定期試験 70%
課題に対する フィード バック	ムードルにてリアクションペーパーを記述してください。毎回の講義で、リアクションペーパーでいただいた感想や質問等へのフィードバックをします。
指定図書	精神保健福祉士養成セミナー③ 『精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）（専門）』 へるす出版
参考図書	なし
事前・ 事後学修	教科書を毎回読み込んでいくため、事前に該当する単元を読んでおく。また、配布する歴史年表等プリントを事後に繰り返し学習しておく。 (目安時間 40 分)
オフィス アワー	研究室は 2605 研究室です。時間は初回授業時に提示します。 備考：[履修上の注意] 精神保健福祉士指定科目です。
実務経験に 関する記述	本科目は「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	精神保健ソーシャルワーク各論 I
科目責任者	佐々木 正和
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 社福 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	精神医療の特性（精神医療の歴史・動向や精神科病院の特性の理解を含む。）と、精神障害者に対する支援の基本的考え方について理解する。 精神障害者を対象とした相談援助技術（個別援助、集団援助の過程と、相談援助に係る関連援助や精神障害者と家族の調整及び家族支援を含む。）の展開について理解する。
到達目標	1. 精神保健医療福祉の歴史と動向を理解すると共に、精神障害者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識を得る。 2. 相談援助の過程及び対象との援助関係について理解する。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当 佐々木正和・ゲストスピーカー&gt;</p> <p>第 1 回：障害者福祉の理念と精神障害① ノーマライゼーション・リハビリテーション</p> <p>第 2 回：障害者福祉の理念と精神障害② 生活の質（QOL）・自立支援・ソーシャルインクルージョン</p> <p>第 3 回：精神障害者の人権</p> <p>第 4 回：障害者権利条約の理念</p> <p>第 5 回：精神保健福祉の歴史と理念 精神保健福祉の歴史①（治安対策と監護）</p> <p>第 6 回：精神保健福祉の歴史②（地域ケアと入院医療）</p> <p>第 7 回：精神保健福祉の歴史③（地域ケアと社会復帰）</p> <p>第 8 回：精神保健福祉の現状と課題</p> <p>第 9 回：精神保健福祉の領域におけるソーシャルワークの動向</p> <p>第 10 回：精神科医療における権利擁護 担当：ゲストスピーカー</p> <p>第 11 回：日本の PSW の歴史・精神保健福祉士の国家資格化</p> <p>第 12 回：精神保健福祉士の専門性と倫理① 導入期・混乱期</p> <p>第 13 回：精神保健福祉士の専門性と倫理② 展開期・拡大期</p> <p>第 14 回：精神保健福祉士の倫理と業務</p> <p>第 15 回：まとめ 具体的事例検討</p>

アクティブ ラーニング	ロールプレイを用いた事例検討等を行います。課題提出などは、Moodle を活用し双方向の情報提供を行います。
評価方法	リアクションペーパー30%、定期試験 70%
課題に対する フィード バック	ムードルにてリアクションペーパーを記述してください。毎回の講義で、リアクションペーパーでいただいた感想や質問等へのフィードバックをします。
指定図書	精神保健福祉士養成セミナー④ 精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I (第 6 版) へるす出版
参考図書	なし
事前・ 事後学修	教科書を毎回読み込んでいくため、事前に該当する単元を読んでおく。また、配布する歴史年表等プリントを事後に繰り返し学習しておく。 (目安時間 40 分)
オフィス アワー	研究室は 2605 研究室です。時間は初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	精神保健ソーシャルワーク各論Ⅱ
科目責任者	大場 義貴
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 社福 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	社会福祉専門職としての責務と役割を自覚し、住民や多様な専門職と連携・協働することができる。
科目概要	精神障害者の地域生活の実態とこれらを取り巻く社会情勢及び地域相談援助における基本的な考え方、技法について学ぶ。また、地域生活を支援する保健・医療・福祉等の包括的な支援（地域精神保健福祉活動）の意義と展開について学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 相談援助活動のための面接技術及び相談援助・家族調整・支援の実際と事例の支援過程（医療機関、福祉事業所、地域社会を含む）について理解する。</li> <li>2. 地域を基盤にした相談援助の主体と対象（精神障害者の生活実態とこれらを取り巻く社会情勢、医療、福祉の状況を含む）について理解する。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt; 大場義貴 &lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回 精神障害者を対象とした精神保健福祉士の面接の構造と技術  第2回 面接に必要な精神保健福祉士の資質、技術、態度  第3回 精神保健ソーシャルワーク面接の特徴</p> <p>第4回 グループ支援の展開過程・概要と理論  第5回 精神科デイケア・SST の実際 <span style="float: right;">ゲストスピーカー</span></p> <p>第6回 精神保健福祉士が行う家族への個別支援・家族心理教育  第7回 精神保健福祉士が行う家族 SST・家族教室</p> <p>第8回 事例分析①（背景と個別性の理解）  第9回 事例分析②（関連専門職種との連携）</p> <p>第10回 精神保健福祉士が行う訪問型支援（ACT・生活訓練訪問型・訪問看護）  第11回 個別支援とネットワーク型支援</p> <p>第12回 精神障害者を対象としたケアマネジメント  第13回 チーム医療における精神保健福祉士の役割・生活支援の理念と精神保健福祉士の役割</p> <p>第14回 災害時における精神保健福祉士の役割  第15回 スーパービジョンとコンサルテーション</p>

アクティブ ラーニング	毎回グループ学修、反転授業を行います。 第8・9回は発表（プレゼンテーション）を行います。 課題提出などは、Moodle を活用します。
評価方法	100 点満点とし、定期試験（筆記試験）70%、授業への取り組み・発表 20%、事前事後学修提出 状況 10%として評価します。
課題に対す るフィード バック	リアクションペーパー・事後学習課題は全体場でフィードバックを行います。 個別に質問がある場合は、オフィスアワーで対応します。
指定図書	精神保健福祉士養成セミナー4（第6版）精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I へるす出版
参考図書	なし
事前・ 事後学修	事前学修：授業中に次回の事前学修課題を提示します。期日までに Moodle に入力して下さい。 事後学修：授業中に当回事後学修課題を提示します。期日までに Moodle に入力して下さい。 （目安時間 40 分）
オフィス アワー	研究室は 2608 です。時間については初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「臨床心理士」、「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教 授する科目です。

科目名	精神保健ソーシャルワーク演習 I
科目責任者	大場 義貴
単位数他	2単位(30時間) 選択 社福 7セメスター
DP番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	精神保健ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化、理論化、体系化していくことができる能力を涵養する。
到達目標	1. 精神保健福祉士に求められる総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助事例を体系的、実践的に理解する。 2. 精神保健福祉支援における諸課題を、概念化、理論化、体系化して理解する。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt; 大場義貴、佐々木正和</p> <p>第1回：精神保健福祉士としての価値 大場・佐々木</p> <p>第2回：精神保健福祉士としての技術 大場・佐々木</p> <p>第3回：精神保健福祉士としての視点 大場・佐々木</p> <p>第4回：退院支援、地域移行①インテーク・アセスメント・プランニング・モニタリング 大場・佐々木</p> <p>第5回：退院支援、地域移行②効果測定と支援の評価・終結とアフターケア 大場・佐々木</p> <p>第6回：就労（雇用）支援① インテーク・アセスメント・プランニング・モニタリング 大場・佐々木</p> <p>第7回：就労（雇用）支援② 効果測定と支援の評価・終結とアフターケア 大場・佐々木</p> <p>第8回：ネットワーキング・社会資源の活用・調整・開発 大場・佐々木</p> <p>第9回：地域における精神保健（自殺、ひきこもり等） 大場・佐々木</p> <p>第10回：実習場面のふりかえり①（当事者理解） 大場・佐々木</p> <p>第11回：実習場面のふりかえり②（医療機関の機能と精神保健福祉士） 大場・佐々木</p> <p>第12回：実習場面のふりかえり③（福祉事業所・行政等機能との精神保健福祉士） 大場・佐々木</p> <p>第13回：実習場面のふりかえり④（発表と評価） 大場・佐々木</p> <p>第14回：地域における精神保健福祉啓発活動開発①（グループワーク） 大場・佐々木</p> <p>第15回：地域における精神保健福祉啓発活動開発②（発表と評価） 大場・佐々木</p>

アクティブ ラーニング	毎回、グループ学修を行います。 第4回、第6回ではロールプレイングを行います。 課題提出などは、Moodle を活用します。
評価方法	100点満点とし、定期試験（レポート）50%、授業への取り組み・発表・事前事後学修提出状況50%として評価します。 レポートはルーブリックを用いて評価します。ルーブリックの内容は授業中に別紙にて提示します。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパー・事後学習課題は全体場でフィードバックを行います。 個別に質問がある場合は、オフィスアワーで対応します。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・ 事後学修	事前学修：授業中に次回の事前学修課題を提示します。期日までにMoodleに入力して下さい。 事後学修：授業中に当回事後学修課題を提示します。期日までにMoodleに入力して下さい。 (目安時間 40分)
オフィス アワー	研究室は2608です。時間については初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	精神保健ソーシャルワーク演習Ⅱ	
科目責任者	大場 義貴	
単位数他	2単位(30時間) 選択 社福 8セメスター	
DP番号と科目領域	DP5 専門	
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。	
科目概要	精神保健ソーシャルワーク実習の経験を踏まえ、長期入院をしている精神障害者の生活上の課題や、必要な支援やについて把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、体系化し、実践できる能力を涵養するため、個別並びに集団による実技指導を行う。	
到達目標	1. 個人指導並びに集団指導による、精神障害者及び家族への具体的な援助場面を想定した、模擬面接（ロールプレイ）を実施し、インテーク（受理面接）、アセスメント（課題分析）、プランニング（支援の計画）、支援の実施、モニタリング（経過観察）を組み立てる。 2. 家族間の調整（模擬面接）や、関係者との模擬ケア会議を企画、実施できる。	
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 大場義貴、佐々木正和 第1回： オリエンテーション・精神保健福祉士の行う相談援助の原則・事例の理解 第2回： 初回面接の準備（クライアントの理解、かかわり方の検討） 大場・佐々木 第3回： 初回面接の実施（ロールプレイ）とアセスメント 大場・佐々木 第4回： アセスメントと第2回目面接の準備 大場・佐々木 第5回： 第2回目面接の実施（ロールプレイ）とアセスメント 大場・佐々木 第6回： 家族（弟）面接の準備 大場・佐々木 第7回： 家族（弟）面接の実施（ロールプレイ）とアセスメント 大場・佐々木 第8回： 個別支援計画のプランニング① クライアントに関する情報の整理 大場・佐々木 第9回： ロールプレイを通してクライアントと家族関係の多面性を理解する 大場・佐々木 第10回： 個別支援計画のプランニング② 個別支援計画の作成 大場・佐々木 第11回： 個別支援計画の立案③ 個別支援計画の説明の準備 大場・佐々木 第12回： クライアントに対して支援計画の説明（ロールプレイ） 大場・佐々木 第13回： モニタリングと個別支援計画の再プランニング 大場・佐々木 第14回： 効果測定と支援の評価・終結とアフターケア 大場・佐々木 第15回： 精神保健福祉士の行う相談援助の実際・スーパービジョン 大場・佐々木	

アクティブ ラーニング	毎回、グループ学修を行います。 第3・5・7・9・12回ではロールプレイングを行います。 課題提出などは、Moodle を活用します。
評価方法	100 点満点とし、定期試験（レポート）50%、授業への取り組み・発表・事前事後学修提出状況 50%として評価します。 レポートはルーブリックを用いて評価します。ルーブリックの内容は授業中に別紙にて提示し ます。
課題に対す るフィード バック	リアクションペーパー・事後学習課題は全体場でフィードバックを行います。 個別に質問がある場合は、オフィスアワーで対応します。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・ 事後学修	事前学修：授業中に次回の事前学修課題を提示します。期日までに Moodle に入力して下さい。 事後学修：授業中に当回事後学修課題を提示します。期日までに Moodle に入力して下さい。 (目安時間 40 分)
オフィス アワー	研究室は 2608 です。時間については初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目で す。

科目名	精神保健ソーシャルワーク実習指導
科目責任者	佐々木 正和
単位数他	3単位(90時間) 選択 社福 6～8セメスター
DP番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	精神保健ソーシャルワーク実習を通して、精神障害者のおかれている現状や生活の実態や生活上の困難について理解すると共に、具体的な体験や援助活動を、専門的知識及び技術として概念化、理論化、体系化していくことができる能力を習得するための、事前準備、事後の振り返りを行う。精神保健ソーシャルワーク実習を効果的にすすめるために、「実習の手引き」及び「ワークシート」を活用する。実習後においては、必要な個別指導を行う。
到達目標	1. 精神保健ソーシャルワーク実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。 2. 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt; 佐々木正和 大場義貴 (両名が1回から45回まで担当)</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>実習前</p> <p>第1回：実習と実習指導における個別指導及び集団指導の意義 佐々木・大場</p> <p>第2回：実習現場の理解 (各論)：就労支援① (講義) (ゲストスピーカー)</p> <p>第3回：実習現場の理解 (各論)：就労支援② (グループワーク) 佐々木・大場 (ゲストスピーカー)</p> <p>第4回：実習現場の理解 (各論)：行政機関① (講義) (ゲストスピーカー)</p> <p>第5回：実習現場の理解 (各論)：行政機関②(グループワーク) 佐々木・大場 (ゲストスピーカー)</p> <p>第6回：実習現場の理解 (各論)：精神科病院① (講義) (ゲストスピーカー)</p> <p>第7回：実習現場の理解 (各論)：精神科病院②(グループワーク) 佐々木・大場 (ゲストスピーカー)</p> <p>第8回：実習現場の理解 (各論)：地域活動支援センター・相談支援事業所など 佐々木・大場</p> <p>第9回：実習現場の理解 (各論)：精神科デイケア・訪問看護など 佐々木・大場</p> <p>第10・11回：実習先を選択するための学習・個別課題の設定 (グループワーク・個別指導)</p> <p>第12回：実習先で必要とされる専門的知識と技術に関する理解 佐々木・大場</p> <p>第13回：「実習記録」の記録内容及び記録方法に関する理解 佐々木・大場</p> <p>第14・15回：精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解 佐々木・大場</p> <p>第16・17回：実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解 佐々木・大場</p> <p>第18・19回：巡回指導 (訪問指導、スーパービジョン) の意義について 佐々木・大場</p> <p>第20～22回：実習先の特徴の整理・実習計画書の作成 佐々木・大場</p> <p>第23・24回：実習計画の発表 佐々木・大場</p> <p>第25・26回：中間報告会 佐々木・大場</p> <p>第27・28回：中間報告会</p> <p>実習後</p> <p>第29・30回：グループスーパービジョン 佐々木・大場</p> <p>第31～36回：実習の振り返りと実習報告会準備 佐々木・大場</p> <p>第37～40回：実習報告会 佐々木・大場</p> <p>第41回：実習報告会振りかえり</p> <p>第42回：専門職としての理解：当事者からの学び① (講義) (ゲストスピーカー)</p> <p>第43回：専門職としての理解：当事者からの学び②(グループワーク) 佐々木・大場 (ゲストスピーカー)</p> <p>第44回：専門職としての理解：家族からの学び① (講義) (ゲストスピーカー)</p> <p>第45回：専門職としての理解：家族からの学び②(グループワーク) 佐々木・大場 (ゲストスピーカー)</p>

アクティブ ラーニング	グループワークやロールプレイを用いた事例検討等を行います。課題提出などは、Moodle を活用し双方向で情報提供を行います
評価方法	授業への取り組み50%、定期試験（レポート）50%によって行う。 レポートについてはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対する フィード バック	ムードルにてリアクションペーパーを記述してください。毎回の講義で、リアクションペーパーでいただいた感想や質問等へのフィードバックをします。
指定図書	① 株) みらい 『ソーシャルワーク実習ノート（第2版）』 ②実習の手引き
参考図書	なし
事前・ 事後学修	各回の進行に応じて、課題を課しますので、事前学修をして授業に臨んで下さい。また、事後学習として、講義で学んだことを振り返るための課題を課します。 （目安時間 40 分）
オフィス アワー	研究室は 2605 研究室です。時間は初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	精神保健ソーシャルワーク実習
科目責任者	佐々木 正和
単位数他	5単位(210時間) 選択 7 Semester
DP番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	<p>精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得すると共に、総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。</p> <p>学生が以下に示す達成課題に取り組むことができるように、実習先の実習指導者並びに実習担当教員は、実習状況を把握し、適宜指導を行う。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。</li> <li>2. 精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員&gt; 佐々木正和 大場義貴 (実習巡回指導は両名が行う)</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>精神科病院等の病院において実習を行う学生は、患者への個別支援を経験するとともに、原則的に次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①入院時又は急性期の患者及びその家族への相談援助</li> <li>②退院又は地域移行・地域支援に向けた、患者及びその家族への相談援助</li> <li>③多職種や病院外の関係機関との連携を通じた援助</li> </ol> <p>精神科診療所において実習を行う学生は、患者への個別支援を経験するとともに、原則的に次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①治療中の患者及びその家族への相談援助</li> <li>②日常生活や社会生活上の問題に関する、患者及びその家族への相談援助</li> <li>③地域の精神科病院や関係機関との連携を通じた援助</li> </ol> <p>地域の障害福祉サービス事業を行う施設等や精神科病院等の医療機関の実習を通して、原則的に次に掲げる事項をできる限り経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。また、不足する内容に関しては、精神保健ソーシャルワーク実習にて補う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成</li> <li>②利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成</li> <li>③利用者やその関係者(家族・親族・友人等)との支援関係の形成</li> <li>④利用者やその関係者(家族・親族・友人等)への権利擁護及び支援とその評価</li> <li>⑤精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際</li> <li>⑥精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解</li> <li>⑦施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解</li> <li>⑧施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の実際</li> <li>⑨当該実習先が地域社会の中の施設・機関・事業者・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解</li> </ol>

アクティブ ラーニング	ムードル上で講義や講演会の情報等の情報交換を双方向で行う。
評価方法	実習への取り組み70%、定期試験（レポート）30%によって行う。 レポートについてはルーブリックを用いて評価するルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対する フィード バック	実習巡回、帰校日等で随時指導します。
指定図書	①（株）みらい『ソーシャルワーク実習ノート（第2版）』（3年次購入済み）、②実習の手引き 各回の進行に応じて、次回の事前学修の内容を実習指導者と相談し、準備をして臨んで下さい。 また、各回の事後学修を日誌にて記入して下さい。巡回指導の際、確認し指導します。
参考図書	なし
事前・ 事後学修	各回の進行に応じて、次回の事前学修の内容を実習指導者と相談し、準備をして臨んで下さい。 また、各回の事後学修を日誌にて記入して下さい。巡回指導の際、確認し指導します。 各回20分程度の復習と、20分程度の予習をして実習に臨んでください。
オフィス アワー	研究室は2605 研究室です。時間は初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	精神障害リハビリテーション I
科目責任者	佐々木 正和
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 社福 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	精神障害リハビリテーションの理念、意義を理解し、精神障害者が「主体的に生きる」ことを支えるための構成及びプロセスについて具体的に学習する。さらにその実際の中で精神保健福祉士としての視点、役割を確認し、精神障害リハビリテーションにおける専門性に基いた精神保健福祉士の実践を理解する。
到達目標	1. 歴史的経過を踏まえた精神科リハビリテーションの意義を理解できる。 2. 精神障害リハビリテーションにおける精神保健福祉士の実践の意義を理解できる。 3. 生活支援の視点を理解できる。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回 講義のオリエンテーション</p> <p>第 2 回 リハビリテーションの概念、定義</p> <p>第 3 回 リハビリテーションの分野、理念と意義、基本原則</p> <p>第 4 回 精神科リハビリテーションの歴史と概念 ／精神科リハビリテーションの理念と意義 ① (セルフヘルプ活動・クラブハウスモデル)</p> <p>第 5 回 精神科リハビリテーションの理念と意義 ② (ストレンガス・エンパワメント・リカバリー)</p> <p>第 6 回 精神科リハビリテーションの基本原則</p> <p>第 7 回 精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割／専門職との連携</p> <p>第 8 回 精神科リハビリテーションの対象／精神科リハビリテーションにかかわる専門職</p> <p>第 9 回 精神科リハビリテーションサービスの実施機関・施設と関連事業 ①</p> <p>第 10 回 精神科リハビリテーションサービスの実施機関・施設と関連事業 ②</p> <p>第 11 回 精神科リハビリテーションのプロセス (基本プロセス)</p> <p>第 12 回 精神科リハビリテーションのプロセス (展開)</p> <p>第 13 回 精神科リハビリテーションのプロセス (地域におけるリハビリテーション)</p> <p>第 14 回 精神科リハビリテーションのプロセス (疾病の経過、ライフサイクルと精神科リハビリテーション)</p> <p>第 15 回 まとめ</p>
アクティブラーニング	該当なし
評価方法	リアクションペーパー20%、定期試験 (筆記試験) 80% レポートについてはルーブリックを用いて評価するルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対するフィードバック	ムードルにてリアクションペーパーを記述してください。毎回の講義で、リアクションペーパーでいただいた感想や質問等へのフィードバックをします。

指定図書	精神保健福祉士養成セミナー⑤ 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ（第6版） へるす出版
参考図書	授業中に随時連絡
事前・ 事後学修	教科書を毎回読み込んでいくため、事前に該当する単元を読んでおく。また、配布する歴史年表等プリントを事後に繰り返し学習しておく。 (目安時間 40 分)
オフィス アワー	研究室は 2605 研究室です。時間は初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	精神障害リハビリテーションⅡ
科目責任者	大場 義貴
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 社福 7セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	精神保健福祉におけるリハビリテーションの基本的枠組みの理解と具体的な目的、技法を学び、地域生活の支援のあり方、社会資源の活用、地域相談や関係機関との連携など、ケアマネジメント、コミュニティワークの実際を理解する。
到達目標	1. 精神保健福祉におけるリハビリテーションの目的や基本的考え方、技法を理解する。 2. 社会生活を基礎とした支援技法、専門職として連携の在り方について理解を深める。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：オリエンテーション 精神障害者を対象としたリハビリテーションの意義・目的</p> <p>第 2 回：精神科リハビリテーションにおける支援技法①（作業療法、集団精神療法）</p> <p>第 3 回：精神科リハビリテーションにおける支援技法②（認知行動療法の基礎）</p> <p>第 4 回：精神科リハビリテーションにおける支援技法③（SST の方法と展開）</p> <p>第 5 回：精神科リハビリテーションにおける支援技法④（心理教育、チームアプローチ）</p> <p>第 6 回：発達障害の 2 次障害と精神科リハビリテーション</p> <p>第 7 回：精神科リハビリテーションサービス①（デイケア・ナイトケア）</p> <p>第 8 回：精神科リハビリテーションサービス②（居住支援・就労支援）</p> <p>第 9 回：地域生活支援とネットワーキング ケアマネジメント</p> <p>第 10 回：仲間による地域生活支援① ピアサポート・リカバリー</p> <p>第 11 回：仲間による地域生活支援② ピアサポーター <span style="float: right;">ゲストスピーカー</span></p> <p>第 12 回：精神保健福祉ボランティアの育成と活用</p> <p>第 13 回：精神保健福祉ボランティアの実際 <span style="float: right;">ゲストスピーカー</span></p> <p>第 14 回：児童・思春期・青年期の精神障害リハビリテーション</p> <p>第 15 回：精神疾患の子どもへの影響と支援のあり方</p>

アクティブ ラーニング	毎回グループ学修、反転授業を行います。 課題提出などは、Moodle を活用します。
評価方法	100 点満点とし、授業への取り組み 50% (事前・事後学修含)、レポート 50%として評価します。 レポートはルーブリックを用いて評価します。ルーブリックの内容は授業中に別紙にて提示します。
課題に対する フィード バック	リアクションペーパー・事後学習課題は全体場でフィードバックを行います。 個別に質問がある場合は、オフィスアワーで対応します。
指定図書	精神保健福祉士養成セミナー5 (第 6 版) 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ へるす出版 (精神障害リハビリテーションⅠ使用テキスト)
参考図書	ストレングスモデル[第 3 版]—リカバリー志向の精神保健福祉サービス (2014) チャールズ・A・ ラップ (著), リチャード・J・ゴスチャ (著), 田中 英樹 監訳 (翻訳) 精神障害者支援の思想と戦略 QOLからHOLへ (2018) 田中英樹/著
事前・ 事後学修	事前学修：授業中に次回の事前学修課題を提示します。期日までに Moodle に入力して下さい。 事後学修：授業中に当回事後学修課題を提示します。期日までに Moodle に入力して下さい。 (目安時間 40 分)
オフィス アワー	研究室は 2608 です。時間については初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点で踏まえて教授する科目です。

科目名	精神医学 I
科目責任者	山末 英典
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 社福 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	精神保健福祉士は精神障がい者に対する心理社会的サポートを提供する際、中心的役割を担うため精神医学に関する知識が欠かせない。本科目では精神医学の成り立ち、精神疾患の症状やその評価法、代表的な精神疾患の概要などについて学習する。
到達目標	1. 精神医学の成り立ち、精神疾患の概念と診断について理解する。 2. 一般的な精神疾患について基礎知識を身に付け、説明することができる。
授業計画	<p>&lt; 授業内容・テーマ等 (担当教員名) &gt;</p> <p>第1回：ガイダンス・精神医学とは (山末英典)</p> <p>第2回：精神現象の生物学的理解 (市川太祐)</p> <p>第3回：精神医学の歴史・精神障害の概念と分類 (市川太祐)</p> <p>第4回：精神症状学 (横倉正倫)</p> <p>第5回：診断の手順と方法 (横倉正倫)</p> <p>第6回：精神科で行われる検査法 (竹林淳和)</p> <p>第7回：器質性・症状性精神障害 (竹林淳和)</p> <p>第8回：中毒性精神障害・依存と嗜癖 (和久田智靖)</p> <p>第9回：統合失調症 (和久田智靖)</p> <p>第10回：気分障害 (うつ病、双極性障害) (桑原斉)</p> <p>第11回：神経症 (不安障害、ストレス障害など) ( )</p> <p>第12回：摂食障害・睡眠障害・性機能不全 (亀野陽亮)</p> <p>第13回：神経発達障害 (栗田大輔)</p> <p>第14回：行動と情緒の障害 (市川太祐)</p> <p>第15回：総括 (土屋賢治)</p>

アクティブ ラーニング	なし
評価方法	筆記試験 100%
課題に対する フィード バック	筆記試験の解答例の提示
指定図書	『新・精神保健福祉士養成講座（1）精神疾患とその治療 第2版』 中央法規出版
参考図書	『ICD-10 精神および行動の障害—臨床記述と診療ガイドライン—』 医学書院 『DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引き』 医学書院
事前・ 事後学修	授業に先立って指定図書の該当部分を通読すること。（目安時間 40 分）
オフィス アワー	科目責任者の所属学部、研究室：浜松医科大学医学部医学科、精神医学講座 授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	本科目は「精神科医療」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	精神医学Ⅱ
科目責任者	山末 英典
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 社福 5セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	本科目では、精神科ではどのような治療が、どのような環境・法制度のもとで行われているのかについて基本的な知識を学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神疾患に対する治療法を知り、どのような精神疾患に対して用いられるかを理解する。</li> <li>2. 精神科の治療構造を知り、それぞれどのような疾患、病状に適応されるかを理解する。</li> <li>3. 精神疾患に対する治療の一般的な流れについて理解する。</li> <li>4. 精神医学に関連した法制度について理解する。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等 (担当教員名) &gt;</p> <p>第1回：ガイダンス・精神科医療とは (山末英典)</p> <p>第2回：精神障害の治療 (1) 薬物療法 (栗田大輔)</p> <p>第3回：精神障害の治療 (2) 精神療法 (栗田大輔)</p> <p>第4回：精神障害の治療 (3) 精神科リハビリテーション (高貝就)</p> <p>第5回：精神障害の治療 (4) 環境・社会療法 (高貝就)</p> <p>第6回：精神科医療機関の治療構造 (1) 疾病構造の変化 (亀野陽亮)</p> <p>第7回：精神科医療機関の治療構造 (2) 外来診療／在宅医療 (亀野陽亮)</p> <p>第8回：精神科医療機関の治療構造 (3) 入院診療 (宇佐美梨奈)</p> <p>第9回：精神科医療機関の治療構造 (4) 医療観察法 (宇佐美梨奈)</p> <p>第10回：精神科医療における人権擁護 (1) 精神科治療と入院形態 (桑原斉)</p> <p>第11回：精神科医療における人権擁護 (2) インフォームド・コンセント (桑原斉)</p> <p>第12回：精神科医療における人権擁護 (3) 隔離・拘束 ( )</p> <p>第13回：精神科医療における人権擁護 (4) 精神科救急システム／移送制度 ( )</p> <p>第14回：関連諸機関同士の連携 (1) 治療の導入／再発予防／退院促進 (土屋賢治)</p> <p>第15回：総括 (土屋賢治)</p>

アクティブ ラーニング	なし
評価方法	筆記試験 100%
課題に対する フィード バック	筆記試験の解答例の提示
指定図書	『新・精神保健福祉士養成講座（1）精神疾患とその治療 第2版』中央法規出版
参考図書	『ICD-10 精神および行動の障害—臨床記述と診療ガイドライン—』医学書院 『DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引き』医学書院
事前・ 事後学修	授業に先立って指定図書の該当部分を通読すること。（目安時間 40 分）
オフィス アワー	科目責任者の所属学部、研究室：浜松医科大学医学部医学科、精神医学講座 授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	本科目は「精神科医療」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	精神保健学 I
科目責任者	堀 雅博
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 社福 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神の健康と、精神の健康に関連する要因及び精神保健の概要を学ぶ。</li> <li>・精神保健の視点からみた現代社会における課題とアプローチを、家族、学校教育、勤労者の問題を通して学ぶ。</li> </ul>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神の健康についての基本的な考え方と精神保健学の役割について、近代日本社会の変貌を念頭に置きながら理解する。</li> <li>2. 精神保健福祉士として人々の精神保健を維持・増進するために、専門機関や関係職種との連携について理解する。</li> </ol>
授業計画	<p>〈授業内容・テーマ〉 (p ~p )は、指定図書該当ページを示しています。</p> <p>第 1 回：精神保健の概要と課題 (p1~p14)</p> <p>第 2 回：精神の健康とその要因① 社会構造の変化と新しい健康観(p15~p23)</p> <p>第 3 回：精神の健康とその要因② ライフサイクルと精神の健康 (p24~p35)</p> <p>第 4 回：精神の健康とその要因③ ストレスと精神の健康(p36~p40)</p> <p>第 5 回：精神の健康とその要因④ 生活習慣と精神の健康／精神の健康・精神疾患(p41~p50)</p> <p>第 6 回：精神の健康への関与と支援 (p51~p75)</p> <p>第 7 回：家族の課題とアプローチ① 現代日本の家族特徴／結婚生活／出産・育児 (p77~p101)</p> <p>第 8 回：家族の課題とアプローチ② 社会的ひきこもり／病気療養と介護／高齢者(p102~p116)</p> <p>第 9 回：家族の課題とアプローチ③ 相談する機関／精神保健福祉士の役割(p117~p133)</p> <p>第 10 回：学校教育の課題とアプローチ① 現代日本の学校教育と生徒児童の特徴(p135~p161)</p> <p>第 11 回：学校教育の課題とアプローチ② 教職員の精神保健／専門職と関係法規 (p162~p177)</p> <p>第 12 回：勤労者の課題とアプローチ① 現代日本の労働環境 (p179~p185)</p> <p>第 13 回：勤労者の課題とアプローチ② うつ病と過労自殺(p186~p192)</p> <p>第 14 回：勤労者の課題とアプローチ③ 飲酒やギャンブル／心身症と生活習慣病(p193~p203)</p> <p>第 15 回：勤労者の課題とアプローチ④ 問題解決のための機関と法規／PSW の役割(p204~p216)</p> <p>各授業内容に関連した項目をその都度解説します。(たとえば第 13 回では「うつ病について」)</p>

アクティブ ラーニング	なし
評価方法	定期試験(65%)とレポート(35%)の評価を総合的に判断し、合否を決定します。 レポートのテーマと作成の要点については、授業中に随時指示します。
課題に対する フィード バック	定期試験の内容を早めに予告し、解答例を提示します。 個々のリアクションペーパーを総括し、次回の授業の冒頭に総合的なコメントを行います。
指定図書	新・精神保健福祉士養成講座『第2巻 精神保健の課題と支援』(第3版) 中央法規出版
参考図書	授業中に随時指示します。
事前・ 事後学修	授業は指定図書に沿って行いますので、事前に該当ページに目を通してきてください。 各回の授業内容をまとめたプリントを配布しますので、事後学修に利用してください。 1コマあたりの事前・事後学修時間の目安は、合計約40分とします。
オフィス アワー	授業に関する質問は、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	本科目は精神科医師の実務経験を有する講師が、実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	精神保健学Ⅱ
科目責任者	山田 谷一
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 社福 4セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神保健を維持、増進するために機能している、専門機関や関係職種との役割と連携について理解する。</li> <li>・WHO などの国際機関や諸外国における精神保健活動の現状と対策について理解する。</li> </ul>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神保健の視点から見た現代社会の課題における精神保健学上の課題や対策を学び、精神保健福祉士の役割を理解する。</li> <li>2. 地域精神保健に関する諸活動と精神保健に関する偏見・差別等の課題を学び、精神保健に関する専門職種（保健師等）と国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携について理解する。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割① 発達障害者に対する対策</p> <p>第 2 回：精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割② アルコール問題/薬物依存対策</p> <p>第 3 回：精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割③ うつ病と自殺防止対策</p> <p>第 4 回：精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割④ 認知症高齢者に対する対策</p> <p>第 5 回：精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割⑤ 社会的ひきこもりに対する対策</p> <p>第 6 回：精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割⑥ 災害時の精神保健に対する対策 /PSW の役割</p> <p>第 7 回：精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ① 現代社会と精神保健/災害被災者の精神保健/犯罪被害者の精神保健</p> <p>第 8 回：精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ② ニート・若年無業者と精神保健/ホームレス及び貧困問題と精神保健</p> <p>第 9 回：精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ③ 性別違和と精神保健/多文化と精神保健</p> <p>第 10 回：精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ④ 緩和ケアと精神保健</p> <p>第 11 回：地域精神保健に関する諸活動① 精神保健に関する調査/資源開発</p> <p>第 12 回：地域精神保健に関する諸活動② ネットワークづくり</p> <p>第 13 回：地域精神保健に関する諸活動③ 地域精神保健と関係法規/精神保健に関する人材育成</p> <p>第 14 回：諸外国の精神保健活動の現状及び対策 世界の精神保健の実情/WHO などの国際機関の活動</p> <p>第 15 回：まとめ</p>

アクティブ ラーニング	グループワークを行います。
評価方法	授業態度 10%、リアクションペーパー10%、筆記試験 80% 計 100%
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーへのコメント、筆記試験の結果と復習の提示
指定図書	新・精神保健福祉士養成講座『第2巻 精神保健の課題と支援』第3版 中央法規出版
参考図書	授業中に随時連絡
事前・ 事後学修	授業は指定図書に沿って行いますので、事前学修として事前に目を通してきてください。 事後学修としては各回の授業内容のプリントを配布しますので、復習に利用してください。 (目安時間 40 分)
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	本科目は精神衛生相談員等の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	ライフサイクルとソーシャルワーク I
科目責任者	村上 武敏
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 社福 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	<p>ライフサイクルは、ラウントリーの貧困研究から明らかにされた生涯を通して見たときの生活水準の波動のことであり、これにより社会保障制度による国民への生活保障の必要が認識されることとなった。</p> <p>本科目では、児童期から老年期までの人の一生「ゆりかごから墓場まで」を支援するソーシャルワーカーにおいて必要な視点を獲得する。医療機関、行政機関、高齢者施設などにおいてソーシャルワーカーを志す方は必ず履修していただきたい。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. それぞれのライフステージにおける生活課題の特徴と共通する課題を理解する</li> <li>2. それぞれのライフステージにおけるソーシャルワークの課題を理解する</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：オリエンテーションーライフサイクルとは何か、ソーシャルワークとは何か</p> <p>第 2 回：子どもの虐待と貧困について (ゲスト講義) ——児童相談所から</p> <p>第 3 回：子どもの貧困問題とソーシャルワーク (グループワーク)</p> <p>第 4 回：子どもの貧困問題とソーシャルワーク (グループワーク)</p> <p>第 5 回：子どもの貧困問題とソーシャルワーク (研究発表)</p> <p>第 6 回：医療・介護をめぐる課題について</p> <p>第 7 回：傷病にともなう生活問題とソーシャルワーク (ゲスト講義) ——医療福祉相談室から</p> <p>第 8 回：傷病にともなう生活問題とソーシャルワーク (グループワーク)</p> <p>第 9 回：傷病にともなう生活問題とソーシャルワーク (グループワーク)</p> <p>第 10 回：傷病にともなう生活問題とソーシャルワーク (研究発表)</p> <p>第 11 回：高齢者の貧困・社会的孤立とソーシャルワーク (ゲスト講義) ——地域包括支援センターから</p> <p>第 12 回：高齢者の生活問題とソーシャルワーク (グループワーク)</p> <p>第 13 回：高齢者の生活問題とソーシャルワーク (グループワーク)</p> <p>第 14 回：高齢者の生活問題とソーシャルワーク (研究発表)</p> <p>第 15 回：まとめ——ライフサイクルとソーシャルワークの課題</p>

アクティブ ラーニング	児童福祉、医療福祉、高齢者福祉、これら3つの領域においてグループ学習をおこなう。
評価方法	授業への取り組み姿勢 70%、 期末レポート 30% レポートで評価するが、ルーブリックは用いない。
課題に対する フィード バック	研究発表後にコメントする。
指定図書	なし
参考図書	授業において提示する。
事前・ 事後学修	毎日新聞に目を通すこと。そして、私たちが暮らす社会について問題意識を持つこと。 (目安時間 40 分)
オフィス アワー	社会福祉学部 2613 研究室。時間については初回授業時に提示する。
実務経験に 関する記述	本科目は「医療ソーシャルワーカー」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	ライフサイクルとソーシャルワークⅡ
科目責任者	大場 義貴
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 社福 2セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	<p>本科目は、社会福祉学科の独自科目であり、2セメスターのライフサイクルとソーシャルワークⅠとの連続性を持っている選択必修の科目である。ライフステージの前半部分の「子ども・若者」が現代社会において直面しやすい諸問題を、社会福祉学的視点から理解することに主眼をおく。教員からの講義、グループワーク、学生の発表を1セットとする学修形式を通して、保健医療福祉の専門職者としての必要な知識を身につける。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会の子ども・若者の諸問題を保健医療福祉の専門職者として、社会福祉学的視点から理解できる</li> <li>2. グループワークを通して活発に意見交換ができ、発表資料を作成・発表することができる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt; : 大場義貴          &lt;授業内容・テーマ等&gt;          第1回：子ども・若者を巡る現代社会の諸問題と政策の動向</p> <p>第2回：若者の社会的自立・若者の自殺（講義）          第3回：若者の社会的自立・若者の自殺（グループワーク）          第4回：若者の社会的自立・若者の自殺（発表）</p> <p>第5回：不登校・ひきこもり（講義）          第6回：不登校・ひきこもり（グループワーク）          第7回：不登校・ひきこもり（発表）</p> <p>第8回：ライフサイクルと心理・社会的支援（講義）</p> <p>第9回：発達障害・いじめ（講義） <span style="float: right;">ゲストスピーカー（大須賀優子）</span>          第10回：発達障害・いじめ（グループワーク）          第11回：発達障害・いじめ（発表）</p> <p>第12回：母子保健・子育て（講義） <span style="float: right;">ゲストスピーカー（山名礼子）</span>          第13回：母子保健・子育て（グループワーク）          第14回：母子保健・子育て（発表）</p> <p>第15回：まとめ</p>

アクティブ ラーニング	第3・6・10・13回はグループ学修を行います。 第4・7・11・14回は発表（プレゼンテーション）を行います。 課題提出などは、Moodle を活用します。
評価方法	100点満点とし、定期試験（レポート）60%、授業への取り組み・発表・事前事後学修提出状況40%として評価します。 レポートはルーブリックを用いて評価します。ルーブリックの内容は授業中に別紙にて提示します。
課題に対する フィード バック	リアクションペーパー・事後学習課題は全体場でフィードバックを行います。 個別に質問がある場合は、オフィスアワーで対応します。
指定図書	なし。講義内容に応じた資料を配付。
参考図書	子ども・若者政策のフロンティア；伊藤 良高, 大津 尚志, 中谷 彪, 永野 典詞: 晃洋書房
事前・ 事後学修	事前学修：授業中に次回の事前学修課題を提示します。期日までにMoodleに入力して下さい。 事後学修：授業中に当回事後学修課題を提示します。期日までにMoodleに入力して下さい。 (目安時間 40分)
オフィス アワー	研究室は2608です。時間については初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「臨床心理士」、「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	マネジメント演習
科目責任者	佐藤 順子
単位数他	2単位 (30時間) 選択 社福 7セメスター
DP 番号と科目領域	DP6専門
科目の位置付	社会福祉専門職としての責務と役割を自覚し、住民や多様な専門職と連携・協働することができる。
科目概要	社会福祉経営論、トップマネジメント論で理論的に学んだことが、社会福祉施設・事業所、法人等の現場でどのように運用・実践されているのかについて、フィールドワークをとおして具体的に学ぶとともに、施設・事業所、法人のマネジメントに関わる現代的課題について、主体的に探索し、学修し、理解を深める。
到達目標	福祉専門職に求められるマネジメントの基本的な知識・理論をもとに、現場で求められる課題設定の視点、解決に向けた展望を描くことができる。 1. 社会福祉施設・事業所、法人の運営、経営について、実際に現場に赴いて関係者から説明を受ける中で、具体性、現実性をもって理解できる 2. 施設・事業所、法人などの組織運営をする上での現代的課題について、主体的に課題設定し解決策を導くことができる。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：A法人 運営の実際① 見学</p> <p>第3回：〃 運営の実際② 講話</p> <p>第4回：〃 学びのまとめ</p> <p>第5回：B法人 運営の実際① 見学</p> <p>第6回：〃 運営の実際② 講義</p> <p>第7回：〃 学びのまとめ</p> <p>第8回：C法人 運営の実際① 見学</p> <p>第9回：〃 運営の実際② 講義</p> <p>第10回：〃 学びのまとめ</p> <p>第11回：マネジメントに関する自由研究・発表①</p> <p>第12回：マネジメントに関する自由研究・発表②</p> <p>第13回：マネジメントに関する自由研究・発表③</p> <p>第14回：マネジメントに関する自由研究・発表④</p> <p>第15回：まとめ</p>

アクティブ ラーニング	演習科目である
評価方法	授業への参加態度（見学後のミニレポート含む）60% 定期試験（レポート） 40% レポートについてはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対するフィード バック	毎回の授業のまとめ、リアクションペーパーについては、毎回フィードバックする
指定図書	授業の中で、毎回関連する資料を配布する
参考図書	特になし
事前・ 事後学修	事前学修：社会福祉経営論や、（履修している学生はトップマネジメント論）の復習をする 実際の施設・事業所・法人見学に際しては、予習をする。 マネジメントに関する自由研究・発表に向けた学修を進める 事後学修：見学後には必ずミニレポートを提出する  (事前・事後学修 40分)
オフィス アワー	科目責任者の研究室は2606です。時間については授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目はソーシャルワークの実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	スクール（学校）ソーシャルワーク論
科目責任者	平川 悦子
単位数他	2単位（30時間） 選択 社福 5 Semester
DP 番号と科目領域	DP1 専門
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 今日の学校教育現場にスクールソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性を理解する</li> <li>2. スクールソーシャルワークの発展過程について理解する</li> <li>3. 海外のスクールソーシャルワーカーの役割と活動について理解する</li> <li>4. スクールソーシャルワークの実践モデルについて理解する</li> <li>5. スクールソーシャルワーカーへのスーパービジョンの必要性について理解する</li> </ol>
科目概要	<p>スクールソーシャルワークの理論と実践を学ぶことにより、子ども（児童生徒）達が健やかに育つ環境をつくるために、現代の日本の社会においてスクールソーシャルワークは何をすべきかを考える。</p> <p>今日の児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域の現状を把握したうえで、スクールソーシャルワークの国内外における発展過程、実践モデル等について学ぶ。事例も取り入れ、実践的な理解も深める。</p>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：オリエンテーション</p> <p>第 2 回：子ども（児童生徒）をめぐる学校・家庭・地域の問題① 学校における問題（不登校、非行、いじめ等）</p> <p>第 3 回：子ども（児童生徒）をめぐる学校・家庭・地域の問題② 家庭の抱える課題（児童虐待、子どもの貧困等）</p> <p>第 4 回：子ども（児童生徒）をめぐる学校・家庭・地域の問題③ 発達障がいと特別支援教育</p> <p>第 5 回：スクールソーシャルワークの目的と価値・倫理</p> <p>第 6 回：海外におけるスクールソーシャルワークの発展と現状</p> <p>第 7 回：日本におけるスクールソーシャルワークの展開と課題</p> <p>第 8 回：スクールソーシャルワークの実践モデル</p> <p>第 9 回：スクールソーシャルワークの支援方法（マイクロレベル）</p> <p>第 10 回：スクールソーシャルワークの支援方法（メゾレベル）</p> <p>第 11 回：支援ケース会議の重要性、進め方</p> <p>第 12 回：スクールソーシャルワークの支援方法（マクロレベル）</p> <p>第 13 回：スーパービジョン体制、方法</p> <p>第 14 回：日本の教育施策の動向とスクールソーシャルワークの役割</p> <p>第 15 回：まとめ</p>

アクティブ ラーニング	グループディスカッションによる事例検討を行います。
評価方法	授業への取り組み50% レポート50%
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーについては、コメントを付記し次回授業時に返却します。
指定図書	山野則子・野田正人・半羽利美佳編著「よくわかるスクールソーシャルワーク 第2版」 ミネルヴァ書房
参考図書	随時紹介
事前・ 事後学修	学校、地域、子ども家庭に関する話題や報道に関心をもって授業に臨んでください。 配布資料について熟読し理解を深めてください。(目安時間 40 分)
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	本科目は「スクールソーシャルワーカー」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	スクールソーシャルワーク演習
科目責任者	帖佐 加代
単位数他	1単位 (15時間) 選択 社福 6セメスター
DP番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	社会福祉専門職としての責務と役割を自覚し、住民や多様な専門職と連携・協働することができる。
科目概要	学校や教育機関において、子どもたちの最善の利益を目標にソーシャルワークを実践するスクールソーシャルワーカーに求められる知識と技術について、実践的に習得できるように、グループワークやロールプレイなどの演習を行い、様々な事例や場面について体験できるようにする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ミクロ実践として具体的な事例に対しアセスメント、プランニング、モニタリングを実際に展開することができる。</li> <li>2. メゾ実践として、ケース会議をロールプレイにおいて運営することができる。</li> <li>3. マクロ実践として、ニーズに対してどのようにアプローチを行うか検討し、新たな仕組みを開発する視点をもつことができる。</li> <li>4. スクールソーシャルワーク実践を記録化すること、それを通してスクールソーシャルワークの視点を説明できると同時に、記録用紙を創造し、蓄積していく力をつける。</li> </ol>
授業計画	<p style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞ <span style="float: right;">＜担当教員名＞</span></p> <p>第1回：オリエンテーション（授業の目的・授業計画や方法の説明）</p> <p style="text-align: center;">学校教育現場が抱える課題と学校教育現場におけるソーシャルワークの価値</p> <p>第2回：ソーシャルワークの対象者理解（子ども、家庭、地域、学校）</p> <p>第3回：スクールソーシャルワーク実践（ミクロプラクティス①）</p> <p>第4回：スクールソーシャルワーク実践（ミクロプラクティス②）</p> <p>第5回：スクールソーシャルワーク実践（メゾプラクティス）</p> <p>第6回：スクールソーシャルワーク実践（マクロプラクティス）</p> <p>第7回：スクールソーシャルワーク実践</p> <p>第8回：スクールソーシャルワークを維持・発展させる力（記録やデータの蓄積を行うこと、スーパービジョン、評価）</p>

アクティブ ラーニング	毎回、グループディスカッションを行います。
評価方法	授業への取り組み 50% レポート 50%
課題に対する フィード バック	リアクションペーパー・事後学習課題は全体場でフィードバックを行います。
指定図書	『よくわかるスクールソーシャルワーク』 山野則子編著 ミネルヴァ書房
参考図書	『学校でソーシャルワークをすること』 鈴木庸裕編著 学事出版 『スクールソーシャルワーカー実務テキスト』 金沢ますみ 学事出版 授業中に随時連絡します
事前・ 事後学修	学校、地域、子ども家庭に関する話題や報道に関心をもって授業に臨んでください。 配布資料について熟読し、理解を深めてください。 (目安時間 40 分)
オフィス アワー	授業に関する質問は、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	本科目はスクールソーシャルワークの実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	スクールソーシャルワーク実習指導
科目責任者	大場 義貴
単位数他	2単位 (30時間) 選択 社福 6～7セメスター
DP番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	<p>スクールソーシャルワーク実習の意義について理解するために、学校現場等を知り、学校組織を体験的に学ぶ。また、スクールソーシャルワーク実習にかかる個別指導並びに集団指導を通して学校における相談援助活動やソーシャルワーク実践にかかる知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。</p> <p>講義（実習指導）と、グループ学習及び個別指導を通して、主体的にスクールソーシャルワーク実習の準備を行う。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育の場で生かせる社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等総合的に対応できる能力を習得する。</li> <li>2. 具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を養う。</li> <li>3. ソーシャルワークが展開されるべく新しい現場に入るという意味を理解し、開拓の視点を養う。</li> </ol>
授業計画	<p style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞</p> <p style="text-align: center;">第6セメスター</p> <p>第 1回：オリエンテーション・スクールソーシャルワーク実習の意義</p> <p>第 2回：スクールソーシャルワークの対象となる児童生徒、家族の理解</p> <p>第 3回：学校、教育委員会、教育センター、適応指導教室など基本的な理解</p> <p>第 4回：実習先で必要とされる相談援助（子ども、家族、教員対象）に係る知識と技術に関する理解</p> <p>第 5回：スクールソーシャルワークの実際（個別面接、ケース会議、連携会議など）</p> <p>第 6回：浜松市の子ども相談体制についての理解 (ゲストスピーカー)</p> <p>第 7回：実習計画の作成（前半実習）</p> <p>第 8回：実習計画の発表</p> <p>第 9回：実習記録ノートへの記録内容及び記録方法に関する理解、 実習における個人のプライバシー保護と守秘義務等の理解</p> <p style="text-align: center;">第7セメスター</p> <p>第 10回：前半実習のふり返り</p> <p>第 11回：実習計画の作成（後半実習）</p> <p>第 12回：巡回指導</p> <p>第 13回：実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理</p> <p>第 14回：ソーシャルワーク実習としての不足分のレポート、実習総括レポートの作成</p> <p>第 15回：実習の評価全体総括会（実習報告会）</p>

アクティブ ラーニング	グループ学修を行います。課題提出などは、Moodle を活用し双方向で情報提供を行います
評価方法	100 点満点とし、授業への取り組み・発表・事前事後学修提出状況 50%、定期試験（レポート）および実習報告書 50%として評価します。 レポートはルーブリックを用いて評価します。ルーブリックの内容は授業中に別紙にて提示します。
課題に対する フィード バック	Moodle にてリアクションペーパーを記述してください。次回の講義でリアクションペーパー でいただいた感想や質問等へのフィードバックをします。
指定図書	なし。随時資料を配付。
参考図書	『学校ソーシャルワーク演習』門田光司・鈴木庸裕編著 ミネルヴァ書房 『スクールソーシャルワーカーの学校理解』鈴木庸裕編著 ミネルヴァ書房 『スクールソーシャルワーカー実践事例集』門田光司・奥村賢一監修 中央法規
事前・ 事後学修	各回の進行に応じて、課題を課しますので、事前学修をして授業に臨んで下さい。また、事後 学習として、講義で学んだことを振り返るための課題を課します。 （目安時間 40 分）
オフィス アワー	研究室は 2608 研究室です。時間は初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「臨床心理士」、「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて 教授する科目です。

科目名	スクールソーシャルワーク実習
科目責任者	大場 義貴
単位数他	2単位 (90 時間) 選択 社福 6～7セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	<p>1. 児童生徒たちが過ごす学校現場等を知り、学校組織を体験的に学び、理解を深める。</p> <p>2. スクールソーシャルワーカーとして求められる資質、技能、倫理から、福祉が一次分野でない教育現場における課題を見つけられる力を養う。</p> <p>3. 教職員ほかとの連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。</p> <p>4. 子どもや家族、教職員から自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。</p> <p>・学生は、実習担当者（スクールソーシャルワーカー）による指導、教育委員会や学校の指導を受けるものとする。</p> <p>・スクールソーシャルワーク実習指導担当教員は、巡回指導等を通して、学生及び実習担当者（スクールソーシャルワーカー、教育委員会や学校）との連絡調整を密に行い、学生の実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を十分に行うものとする。</p>
到達目標	<p>1. 学校組織の理解が深まり、スクールソーシャルワーカーとして求められる教育現場における課題が理解できる。</p> <p>2. 教職員ほかとの連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解できる。</p> <p>3. 子どもや家族、教職員に対し、総合的に対応できる能力を習得する。</p>
授業計画	<p style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞</p> <p>大学が指定する学校・機関・組織にて90時間以上実習を行い、以下の内容を修得する。</p> <p>①児童生徒・家族の理解、学校、教育委員会、教育センター、適応指導教室など基本的な理解、ニーズ把握と支援計画の作成</p> <p>②児童生徒、教職員、教育委員会、事例や学校に関する関係者との基本的コミュニケーションを通じた、円滑な人間関係の形成</p> <p>③児童生徒・家族、学校、教育委員会などとの援助関係の形成</p> <p>④児童生徒・家族への権利擁護、学校、教育委員会など含めての支援（エンパワーメント含む）と評価</p> <p>⑤校内におけるケース会議や学年会議でのケース検討における進め方の実際</p> <p>⑥校内や関係機関含めた多職種によるチームアプローチの実際</p> <p>⑦社会福祉士としての職業倫理、教員など学校関係者の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解</p> <p>⑧学校運営、学校組織、教育委員会組織の実際</p> <p>⑨市の児童生徒への相談体制について理解し、学校がどのようにつながっているのかを学ぶ。具体的なネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解</p>
アクティブラーニング	実習科目です
評価方法	100点満点とし、実習への取り組み70%、報告書（報告会用）30%にて行う。
課題に対するフィードバック	実習巡回、帰校日等で随時指導します。

指定図書	実習の手引き（大学から配付）
参考図書	なし
事前・事後学修	各回の進行に応じて、次回の事前学修の内容を実習指導者と相談し、準備をして臨んで下さい。また、各回の事後学修を日誌にて記入して下さい。巡回指導の際、確認し指導します。 (目安時間 40 分)
オフィスアワー	研究室は 2608 研究室です。時間は初回授業時に提示します。
実務経験に関する記述	本科目は「臨床心理士」、「精神保健福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	ファミリーソーシャルワーク
科目責任者	佐藤 順子
単位数他	2単位 (30時間) 選択 7セメスター
DP番号と科目領域	DP2専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	本講義では、子どもと家族をめぐる問題を具体的にどのように解決していくか、解決の際にどのような手法や理論や技術をもちいて関わるか体験をとおして学習する。対人援助職に就こうと計画している学生は是非この科目を履修してほしい。かならず現場で役に立つ理論・技法・倫理観などが体験学習から取得できるだろう。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族がシステムであることへの理解</li> <li>2. 問題はシステム上にあることへの理解</li> <li>3. 問題は社会システムからも影響を受けていることへの理解である。</li> </ol>
授業計画	<p style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞</p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 現代における家族とは 家族のいろいろ</p> <p>第3回 家族の問題のいろいろ</p> <p>第4回 いろいろな家族に対して過去、どのような解決方法を実践してきたか</p> <p>第5回 偽解決とは 偽解決からの脱出法 解決努力が問題をつくる?</p> <p>第6回 事例に応じて用いる家族療法の技法はちがう 家族構造と家族の連鎖</p> <p>第7回 システムとは 問題を構成するシステムとは</p> <p>第8回 事例に応じてシステムを解明する 重大事件から底辺に流れる家族システムを解明</p> <p>第9回 社会構成主義とは 「世界は言葉によって構成される」とは?</p> <p>第10回 ナラティブモデル ドナントストーリーとオルタナティブストーリー「不登校の解決」</p> <p>第11回 ナラティブモデルを描画で応用する 子どもの心身症の問題の解決</p> <p>第12回 ナラティブモデルと短期療法 ブリーフセラピーで夫婦の問題を解決する</p> <p>第13回 短期療法で問題を解決する 思い込からの脱出 うつ病の治療の例</p> <p>第14回 システック家族療法と家族の構造 その中の短期療法 事例から</p> <p>第15回 まとめ エコシステック認識論の今後</p>

アクティブ ラーニング	体験学習を中心に自らの言葉で学習を深め、時にはnet 検索から知識を拡大して家族の置かれている現実を多角的に理解し解決を思考する参加型の授業形態をとる。
評価方法	授業内容を記述式リアクションペーパーにまとめて提出する 40% 最終回に提出する課題でのテスト 60%
課題に対する フィード バック	毎回グループワークで取り組んだ課題、リアクションペーパーに対するフィードバックを行う
指定図書	なし
参考図書	授業の中で紹介する
事前・ 事後学修	事前学習：指示するテーマに関する情報収集(40分) 事後学習：授業内容の復習(40分)
オフィス アワー	2606
実務経験に 関する記述	本科目は社会福祉の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	ジョブコーチ論
科目責任者	川向 雅弘
単位数他	1単位(15時間) 選択 社福 7 Semester
DP番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	障害者雇用制度の基礎、障害者雇用及び就労支援の現状を把握し、ジョブコーチ支援の考え方や支援方法の基礎を理解します。特に、障害者雇用における職場環境の工夫、仕事を分かりやすく教える方法、ナチュラルサポートの形成方法などの実際を現場実務者から学びます。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害者雇用制度の基礎知識を身につける。</li> <li>2. 就労支援に関わる社会資源や制度の基礎知識を身につける。</li> <li>3. ジョブコーチの支援を理解する。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員&gt; 川向雅弘</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回 : ジョブコーチ支援の実際①</p> <p>第2回 : 障害特性を理解する① —自閉症の人が見ている世界—</p> <p>第3回 : 障害特性を理解する② —自閉症の人を正しく理解する—</p> <p>第4回 : 障害者雇用と法制度① —障害者総合支援法の中の就労支援—</p> <p>第5回 : 障害者雇用と法制度② —法定雇用率制度—</p> <p>第6回 : 知的障害者と就労支援 (就労継続支援事業所現場学習)</p> <p>第7回 : 知的障害者と就労支援 (就労継続支援事業所現場学習)</p> <p>第8回 : ジョブコーチの支援の実際②</p> <p style="text-align: center;">ゲストスピーカー (支援機関のジョブコーチ)</p>

アクティブ ラーニング	現場学習やゲストスピーカーから支援の実際を学びます。
評価方法	授業態度:20%、現場学習レポート：40%、期末レポート：40% レポートはルーブリックを用いて評価する。
課題に対する フィード バック	毎回の授業でリアクションペーパーへのコメント・解説等を行います。
指定図書	なし プリント等を配布します。
参考図書	小川浩編著『ジョブコーチハンドブック』エンパワメント研究所
事前・ 事後学修	【事前】自分自身のアルバイト体験や家族の労働を通して、人が「働く」こと、「労働」の意味を 考えて下さい。また、障害者就労支援事業所を見学するにあたって障害者総合支援 法についての事前学修が必要になります。 【事後】自身の生活場面（アルバイト先等）で障害者の就労の可能性をイメージして下さい。 (目安時間 40 分)
オフィス アワー	川向雅弘（社会福祉学部社会福祉学科）：2705研究室 時間帯については初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目はソーシャルワークの実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です

科目名	医療ソーシャルワーク演習
科目責任者	村上 武敏
単位数他	1単位 (15時間) 選択 社福 5 Semester
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	社会福祉専門職としての責務と役割を自覚し、住民や多様な専門職と連携・協働することができる。
科目概要	<p>保健医療機関において、子どもから高齢者まであらゆる年齢階層の人たちが直面する生活問題について、医療職種をはじめとする様々な専門職との協働により、いかに解決に導くのか。その方法論の習得を目的としてグループ学習を行う。</p> <p>医療提供体制の効率化と地域包括ケアシステムの構築、「医療から介護へ」という流れのなかで医療職と協働して問題解決にあたる医療ソーシャルワーカー、地域包括支援センター社会福祉士、ケアマネジャー、行政社会福祉士などを志す方に受講を勧めたい。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 疾病にともなう生活問題の解決に向けた方法論を習得する</li> <li>2. 医療職を含む多職種協働と地域のネットワークづくりの方法について習得する</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：医療介護制度改革とソーシャルワーク</p> <p>第2回：医療福祉にかかわる制度の活用（グループワーク）</p> <p>第3回：多職種協働における視点と方法（グループワーク）</p> <p>第4回：疾病と貧困の悪循環について理解する（グループワーク）</p> <p>第5回：インテーク・アセスメント・支援計画の実際（グループワーク）</p> <p>第6回：医療ソーシャルワーカーの実践について ゲスト講師：聖隷浜松病院 MSW</p> <p>第7回：地域のネットワークづくりの実践について ゲスト講師：在宅連携センターつむぎ MSW</p> <p>第8回：地域のネットワークづくりの視点と方法（グループワーク）</p>

アクティブ ラーニング	演習科目である
評価方法	授業への取り組み姿勢 70%、 期末レポート 30% レポートで評価するが、ルーブリックは用いない。
課題に対する フィード バック	期末レポートについてコメントする。
指定図書	なし
参考図書	授業において提示する。
事前・ 事後学修	毎回、授業の終了時に、事前・事後学修の内容について説明する。 (目安時間 40 分)
オフィス アワー	社会福祉学部 2613 研究室。時間については初回授業時に提示する。
実務経験に 関する記述	本科目は「医療ソーシャルワーカー」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	医療ソーシャルワーク実習指導
科目責任者	村上 武敏
単位数他	2単位 (30 時間) 社福 選択 6～7セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	「医療ソーシャルワーク実習」をより実り多いものとするために、事前学習として、実習で必要となる知識を習得するとともに、そのなかで問題意識を明確にして実習計画を作成する。 また、事後学習として、スーパービジョンやグループ学習を通して実習体験を理論的に整理するとともに実習報告会を実施する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習において必要とされる知識を習得する</li> <li>2. 実習の目的にかなう実習計画書を作成する</li> <li>3. 医療ソーシャルワーカー業務の実際について理解する</li> <li>4. 医療福祉の対象と方法について理解する。</li> <li>5. 医療福祉を取り巻く環境について理解する。</li> <li>6. 実習体験を体系的に報告する。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; 事前学習 (6セメスター) 第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：①病院の組織と医療相談室の役割</p> <p style="text-align: center;">②聖隷三方原病院見学</p> <p style="text-align: center;">ゲスト講師：聖隷三方原病院 MSW</p> <p>第3回：浜松市役所訪問 ①生活保護課の仕事 ②高齢者福祉課の仕事 ③児童相談所の仕事</p> <p style="text-align: center;">講師：福祉総務課、中区生活福祉課、高齢者福祉課、児童相談所</p> <p>第4回：4年生の実習体験報告と進路について</p> <p>第5回：リハビリテーション病院における MSW の業務</p> <p>第6回：実習領域の選択 第7回：実習計画の検討 第8回：実習のまとめ</p> <p>事後学習 (7セメスター) 第9回：グループスーパービジョン 第10回：個別スーパービジョン① 第11回：個別スーパービジョン② 第12回：実習報告会の準備① 第13回：実習報告会の準備② 第14回～15回：実習報告会</p>
アクティブラーニング	実習科目である

評価方法	授業への取り組み姿勢 70%、 期末レポート 30% レポートで評価するが、ルーブリックは用いない。
課題に対するフィードバック	報告会においてコメントする。 期末レポートについてコメントする。
指定図書	なし
参考図書	授業ごとに提示する。
事前・事後学修	授業ごとに課題を提示する。(目安時間 40分)
オフィスアワー	社会福祉学部 2613 研究室。時間については初回授業時に提示する。
実務経験に関する記述	本科目は「医療ソーシャルワーカー」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	医療ソーシャルワーク実習
科目責任者	村上 武敏
単位数他	2単位 (90 時間) 選択 6～7セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	<p>医療機関（病院・診療所・老人保健施設）またはその関連施設の医療福祉部門において、10日間の配属実習を行う。「医療ソーシャルワーク実習指導」と合わせて、医療機関と医療福祉について理解を深める。</p> <p>本科目の履修においては、「医療福祉論」と「医療ソーシャルワーク演習」の単位取得が原則となるが、編入学など個別事情に配慮する。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療ソーシャルワーカー業務の実際について理解する。</li> <li>2. 医療福祉の対象と方法について理解する。</li> <li>3. 医療福祉を取り巻く環境について理解する。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>10日間の配属実習を行う。</p> <p>実習先の実習指導者ならびに医療ソーシャルワーク実習担当教員は、学生が上記に示す達成課題に取り組むことができるように、適宜スーパービジョンを実施する。また、実習担当教員は、実習中の巡回などを通して学生の実習状況を把握し、必要に応じて実習指導者間の連絡調整を行う。</p>

アクティブ ラーニング	実習科目である
評価方法	実習への取り組み姿勢や実習記録等を総合して評価する。
課題に対する フィード バック	評価後に実習記録をお返しする。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・ 事後学修	一日の実習の振り返りと実習記録の作成に2時間、翌日の実習計画の作成に30分を必要とする。
オフィス アワー	2613 研究室にて実施。時間は初回の授業において提示する。
実務経験に 関する記述	本科目は「医療ソーシャルワーカー」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	生活サポート演習 I
科目責任者	高山 暢子
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 社福 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 専門
科目の位置付	様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	本科目は、初年次における大学での学びとして社会福祉専門職に必要な基礎的技術を身につけて使用できることや、様々な立場や意見を尊重しながら自らの意見を伝達し説得できるコミュニケーション力を身につけることを目的としている。したがって、利用者の障害特性に応じたコミュニケーションを理解し、適切に対応できるコミュニケーションスキルを身につける。
到達目標	1. 社会福祉専門職に必要な基礎的技術を身につける。 2. 福祉現場で遭遇する利用者のコミュニケーション障害の原因、型、症状などを理解する。 3. それぞれの障害を抱える人の生活やコミュニケーションの特性を理解できる。 4. コミュニケーション障害のアセスメントの方法、対応法の在り方及び評価法を身につける。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：ガイダンス、コミュニケーション方法を学ぶ意義と目的 コミュニケーション障害を伴う利用者とは</p> <p>第 2 回： コミュニケーション障害のアセスメント（言語による観察の視点）</p> <p>第 3 回： コミュニケーション障害のアセスメント（非言語による観察の視点）</p> <p>第 4 回： 対応の技術①：高次脳機能障害（認知系）の利用者への対応</p> <p>第 5 回： 対応の技術②：高次脳機能障害（行為系）の利用者への対応</p> <p>第 6 回： 対応の技術③：失語症（運動性失語）の利用者への対応</p> <p>第 7 回： 対応の技術④：失語症（感覚性失語）の利用者への対応</p> <p>第 8 回： 対応の技術⑤：構音障害・発声障害の利用者への対応</p> <p>第 9 回： 対応の技術⑥：聴力障害（難聴・聾）の利用者への対応</p> <p>第 10 回： 対応の技術⑦：視力障害（弱視）の利用者への対応</p> <p>第 11 回： 対応の技術⑧：視力障害（盲）の利用者への対応</p> <p>第 12 回： 対応の技術⑨：発達障害・知的障害の利用者への対応</p> <p>第 13 回： 対応の技術⑩：精神障害の利用者への対応（認知症は別途）</p> <p>第 14 回： 対応の技術⑪：身体に障害がある高齢の利用者への対応</p> <p>第 15 回： 対応の技術⑫： 認知症がある高齢の利用者への対応</p>

アクティブ ラーニング	グループディスカッション、発表、ロールプレイングを通して双方向授業を実施する。
評価方法	レポート 60%、授業態度 20%、課題提出物 20%
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーについては、次の授業時フィードバックを行うこととする。
指定図書	なし。
参考図書	授業中に随時連絡。
事前・ 事後学修	事前学修：毎回、事前課題を提示します。 事後学習：授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。 (目安時間 40 分)
オフィス アワー	介護福祉専門学校教員室にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。 時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	生活サポート演習Ⅱ
科目責任者	高山 暢子
単位数他	2単位(30時間) 選択 社福 2 Semester
DP番号と科目領域	DP3 専門
科目の位置付	様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	社会福祉専門職に必要な基礎的技術を身につけ、介護技術を安全に安楽に活用できるように、身体の構造・機能を理解した上で演習をおこない、介護現場で応用できる生活支援技術を習得する。演習を通して相手の気持ちに寄り添うためのコミュニケーション能力を習得する。
到達目標	1. 生活支援技術の原理と原則を理解する。 2. ボディメカニクスを応用し、安全で安楽な介護技術を身につけている。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション、ボディメカニクスの原理と応用（講義・演習）</p> <p>第2回：ベッドメイキング・シーツ交換（講義・演習）</p> <p>第3回：ベッド上での移動の方法の理解と技術（演習）</p> <p>第4回：持ち上げない移動・移乗技術（演習）</p> <p>第5回：車いすについての知識と技術（演習）</p> <p>第6回：食事援助の原則と食事介護を受ける体験（講義・演習）</p> <p>第7回：車いす上、ベッド上での食事介護を受ける体験（演習）</p> <p>第8回：座位での更衣動作と介護（講義・演習）</p> <p>第9回：寝たきりでの更衣動作と介護（演習）</p> <p>第10回：排泄動作と介護—トイレ・ポータブルトイレ（講義・演習）</p> <p>第11回：排泄動作と介護—おむつ（演習）</p> <p>第12回：清潔動作—口腔ケア及び義歯の洗浄（講義・演習）</p> <p>第13回：清潔動作—入浴及び清拭（演習）</p> <p>第14回：生活サポートと 環境整備</p> <p>第15回：生活サポートの再確認とまとめ</p>

アクティブ ラーニング	グループディスカッション、発表、ロールプレイングを通して双方向授業を実施する。
評価方法	レポート 60%、授業態度 20%、課題提出物 20%
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーについては、次の授業時フィードバックを行うこととする。
指定図書	写真でわかる生活支援技術/インターメディカ
参考図書	授業中に随時連絡。
事前・ 事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読する。 事後学習：授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。 (目安時間 40 分)
オフィス アワー	介護福祉専門学校教員室にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。 時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	インターンシップⅡ	※社会福祉学科
科目責任者	佐藤 順子	
単位数他	2単位 (90 時間) 選択 社福 7セメスター	
DP 番号と科目領域	DP 1 専門	
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。	
科目概要	自主実習やコースが提供する実習プログラムなどを活用しながら、3年次秋セメスターにて学生自身が選択したコース（マネジメントコース、保健医療ソーシャルワークコース、アクティブライフコース）に関わる専門性を高めたり、各自の興味・関心を深めたりすることを目的とする。本科目は10日間程度の配属実習や大学以外の機関や団体が提供しているインターンシッププログラムなどを用いて、授業は展開される。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. これまでに学修してきた知識・技術を活用し、援助者としての自己の将来像で必要とされる実践力を身につける</li> <li>2. 主体的に利用者や職員とかかわりながら、人間の多様性を踏まえたうえで、人や社会と協働できる力を身につける</li> </ol>	
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;佐藤順子</p> <p>学生各自の関心や目的に応じて、担当教員と相談しつつ自主的に実習を計画する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事前学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当教員によるオリエンテーション</li> <li>・実習計画書の作成</li> </ul> </li> <li>2. 配属実習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・一つの社会福祉施設・機関・団体において10日間の実習を実施</li> <li>・日ごとの実習目標の立案</li> <li>・実習記録の作成</li> <li>・実習先におけるスーパービジョン</li> </ul> </li> <li>3. 事後学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内におけるスーパービジョン</li> </ul> </li> </ol>	

アクティブ ラーニング	実習科目です
評価方法	事前・事後学習への取り組み 20% 配属実習での取り組み 40% 定期試験（レポート） 40%
課題に対する フィード バック	事前、事後をとおして、課題に対するフィードバックを行う
指定図書	特になし
参考図書	特になし
事前・ 事後学修	配属実習中のスーパービジョンでは、率直に自分の感じたことや考えたことを話したいことをあらかじめ考えておくこと。 事後学習プログラムでは、自分の授業に対する参加度について必ず振り返ること。 (目安時間 40 分)
オフィス アワー	科目責任者の研究室は 2606 です。時間は初回の授業において提示します。
実務経験に 関する記述	本科目はソーシャルワークの実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	福祉実習 I	※社会福祉学科
科目責任者	佐藤 順子	
単位数他	2単位(90時間) 選択 社福 2～8セメスター	
DP番号と科目領域	DP5 専門	
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。	
科目概要	<p>特定領域の理解促進、将来の進路決定など、自らの学習課題、目的に応じ、実習時期、実習先、実習内容を主体的に決定し、社会福祉施設・機関等で10日間実習を行う。</p> <p>実習前には事前学習を行い実習先についての理解を深め、自らの実習の目標を明確化する。また実習後については教員によるスーパービジョンをとおして学習を深め、学びをレポートにまとめる。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉の利用者の状況および社会福祉従事者の仕事を含めて社会福祉の現場を理解する。</li> <li>2. 社会福祉従事者の視点や実践方法を学ぶ。</li> <li>3. 卒業後の進路を決定するための素材を得る。</li> </ol>	
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>学生各自の関心や目的に応じて、担当教員（3年秋～4年生については総合演習の教員）と相談しつつ自主的に実習を計画する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事前学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当教員によるオリエンテーション</li> <li>・実習計画書の作成</li> </ul> </li> <li>2. 配属実習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・一つの社会福祉施設・機関・団体において10日間の実習を実施</li> <li>・日ごとの実習目標の立案</li> <li>・実習記録の作成</li> <li>・実習先におけるスーパービジョン</li> </ul> </li> <li>3. 事後学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内におけるスーパービジョン</li> </ul> </li> </ol> <p>注) 福祉実習は、Ⅰ～Ⅳまであり、一か所10日間の実習であればⅠのみ履修、20日間の場合はⅠ・Ⅱを同時に履修できる。また、2～8セメスターの範囲でⅣまで履修でき、Ⅰを履修済の場合はⅡ、Ⅰ・Ⅱを履修済の場合は、Ⅲを履修するということになる。</p>	

アクティブ ラーニング	実習科目です
評価方法	事前学習 10% (実習計画書含む)、配属実習 60%、事後学習 30% (実習後のレポート含む)
課題に対する フィード バック	実習後、スーパービジョンを行います
指定図書	必要に応じて示す
参考図書	特になし
事前・ 事後学修	実習までに、実習施設の概要を十分に把握しておく 実習中は毎日実習を振り返り、実習記録を記入し、実習先に提出する (目安時間 40 分)
オフィス アワー	科目責任者の研究室は 2606 です。時間については授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目はソーシャルワークの実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	福祉実習Ⅱ	※社会福祉学科
科目責任者	佐藤 順子	
単位数他	2単位(90時間) 選択 社福 2～8セメスター	
DP番号と科目領域	DP5 専門	
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。	
科目概要	<p>特定領域の理解促進、将来の進路決定など、自らの学習課題、目的に応じ、実習時期、実習先、実習内容を主体的に決定し、社会福祉施設・機関等で10日間実習を行う。</p> <p>実習前には事前学習を行い実習先についての理解を深め、自らの実習の目標を明確化する。また実習後については教員によるスーパービジョンをとおして学習を深め、学びをレポートにまとめる。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉の利用者の状況および社会福祉従事者の仕事を含めて社会福祉の現場を理解する。</li> <li>2. 社会福祉従事者の視点や実践方法を学ぶ。</li> <li>3. 卒業後の進路を決定するための素材を得る。</li> </ol>	
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>学生各自の関心や目的に応じて、担当教員（3年秋～4年生については総合演習の教員）と相談しつつ自主的に実習を計画する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事前学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当教員によるオリエンテーション</li> <li>・実習計画書の作成</li> </ul> </li> <li>2. 配属実習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・一つの社会福祉施設・機関・団体において10日間の実習を実施</li> <li>・日ごとの実習目標の立案</li> <li>・実習記録の作成</li> <li>・実習先におけるスーパービジョン</li> </ul> </li> <li>3. 事後学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内におけるスーパービジョン</li> </ul> </li> </ol> <p>注) 福祉実習は、Ⅰ～Ⅳまでであり、一か所10日間の実習であればⅠのみ履修、20日間の場合はⅠ・Ⅱを同時に履修できる。また、2～8セメスターの範囲でⅣまで履修でき、Ⅰを履修済の場合はⅡ、Ⅰ・Ⅱを履修済の場合は、Ⅲを履修するということになる。</p>	

アクティブ ラーニング	実習科目です
評価方法	事前学習 10% (実習計画書含む)、配属実習 60%、事後学習 30% (実習後のレポート含む)
課題に対する フィード バック	実習後、スーパービジョンを行います
指定図書	必要に応じて示す
参考図書	特になし
事前・ 事後学修	実習までに、実習施設の概要を十分に把握しておく 実習中は毎日実習を振り返り、実習記録を記入し、実習先に提出する (目安時間 40 分)
オフィス アワー	科目責任者の研究室は 2606 です。時間については授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目はソーシャルワークの実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	福祉実習Ⅲ	※社会福祉学科
科目責任者	佐藤 順子	
単位数他	2単位(90時間) 選択 社福 2～8セメスター	
DP番号と科目領域	DP5 専門	
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。	
科目概要	<p>特定領域の理解促進、将来の進路決定など、自らの学習課題、目的に応じ、実習時期、実習先、実習内容を主体的に決定し、社会福祉施設・機関等で10日間実習を行う。</p> <p>実習前には事前学習を行い実習先についての理解を深め、自らの実習の目標を明確化する。また実習後については教員によるスーパービジョンをとおして学習を深め、学びをレポートにまとめる。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉の利用者の状況および社会福祉従事者の仕事を含めて社会福祉の現場を理解する。</li> <li>2. 社会福祉従事者の視点や実践方法を学ぶ。</li> <li>3. 卒業後の進路を決定するための素材を得る。</li> </ol>	
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>学生各自の関心や目的に応じて、担当教員（3年秋～4年生については総合演習の教員）と相談しつつ自主的に実習を計画する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事前学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当教員によるオリエンテーション</li> <li>・実習計画書の作成</li> </ul> </li> <li>2. 配属実習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・一つの社会福祉施設・機関・団体において10日間の実習を実施</li> <li>・日ごとの実習目標の立案</li> <li>・実習記録の作成</li> <li>・実習先におけるスーパービジョン</li> </ul> </li> <li>3. 事後学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内におけるスーパービジョン</li> </ul> </li> </ol> <p>注) 福祉実習は、Ⅰ～Ⅳまであり、一か所10日間の実習であればⅠのみ履修、20日間の場合はⅠ・Ⅱを同時に履修できる。また、2～8セメスターの範囲でⅣまで履修でき、Ⅰを履修済の場合はⅡ、Ⅰ・Ⅱを履修済の場合は、Ⅲを履修するということになる。</p>	

アクティブ ラーニング	実習科目です
評価方法	事前学習 10% (実習計画書含む)、配属実習 60%、事後学習 30% (実習後のレポート含む)
課題に対する フィード バック	実習後、スーパービジョンを行います
指定図書	必要に応じて示す
参考図書	特になし
事前・ 事後学修	実習までに、実習施設の概要を十分に把握しておく 実習中は毎日実習を振り返り、実習記録を記入し、実習先に提出する (目安時間 40 分)
オフィス アワー	科目責任者の研究室は 2606 です。時間については授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目はソーシャルワークの実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	福祉実習Ⅳ	※社会福祉学科
科目責任者	佐藤 順子	
単位数他	2単位(90時間) 選択 社福 2～8セメスター	
DP番号と科目領域	DP5 専門	
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。	
科目概要	<p>特定領域の理解促進、将来の進路決定など、自らの学習課題、目的に応じ、実習時期、実習先、実習内容を主体的に決定し、社会福祉施設・機関等で10日間実習を行う。</p> <p>実習前には事前学習を行い実習先についての理解を深め、自らの実習の目標を明確化する。また実習後については教員によるスーパービジョンをとおして学習を深め、学びをレポートにまとめる。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉の利用者の状況および社会福祉従事者の仕事を含めて社会福祉の現場を理解する。</li> <li>2. 社会福祉従事者の視点や実践方法を学ぶ。</li> <li>3. 卒業後の進路を決定するための素材を得る。</li> </ol>	
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>学生各自の関心や目的に応じて、担当教員（3年秋～4年生については総合演習の教員）と相談しつつ自主的に実習を計画する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事前学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当教員によるオリエンテーション</li> <li>・実習計画書の作成</li> </ul> </li> <li>2. 配属実習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・一つの社会福祉施設・機関・団体において10日間の実習を実施</li> <li>・日ごとの実習目標の立案</li> <li>・実習記録の作成</li> <li>・実習先におけるスーパービジョン</li> </ul> </li> <li>3. 事後学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内におけるスーパービジョン</li> </ul> </li> </ol> <p>注) 福祉実習は、Ⅰ～Ⅳまであり、一か所10日間の実習であればⅠのみ履修、20日間の場合はⅠ・Ⅱを同時に履修できる。また、2～8セメスターの範囲でⅣまで履修でき、Ⅰを履修済の場合はⅡ、Ⅰ・Ⅱを履修済の場合は、Ⅲを履修するということになる。</p>	

アクティブ ラーニング	実習科目です
評価方法	事前学習 10% (実習計画書含む)、配属実習 60%、事後学習 30% (実習後のレポート含む)
課題に対する フィード バック	実習後、スーパービジョンを行います
指定図書	必要に応じて示す
参考図書	特になし
事前・ 事後学修	実習までに、実習施設の概要を十分に把握しておく 実習中は毎日実習を振り返り、実習記録を記入し、実習先に提出する (目安時間 40 分)
オフィス アワー	科目責任者の研究室は 2606 です。時間については授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目はソーシャルワークの実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	人間の尊厳と自立
科目責任者	横尾 恵美子
単位数他	2単位 (30 時間) 必修 介護 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP1 専門基礎
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う。 介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う。 介護実践において人間の尊厳と自立がどのように生かされているかを理解することができるように、人権思想や福祉理念の歴史の変遷の授業展開ではできるだけ事例等を活用し講義を行う。
到達目標	1. 人間の尊厳と人権の考え方を知り、理解することができる。 2. 人権思想や福祉理念の歴史の変遷が理解できる。 3. 人間の尊厳や自立の概念が理解できる 4. 生活支援における人間の尊厳・自立を理解できる。 5. 介護福祉の倫理的課題への対応力の基礎を養う。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回： 人間を理解するということ</p> <p>第 2 回： 人間の尊厳と人権・福祉理念について考える</p> <p>第 3 回： 人間の尊厳と人権・福祉理念について事例で検討する</p> <p>第 4 回： 尊厳と自立の概念をめぐる歴史と仕組み(1)人権、尊厳、自立の歴史的経緯</p> <p>第 5 回： 尊厳と自立の概念をめぐる歴史と仕組み(2)福祉関係の法律の理念・目的・内容</p> <p>第 6 回： 尊厳と自立をめぐる歴史と仕組み(3)障害のある人の人権の歴史</p> <p>第 7 回： 人間の尊厳・自立と生活(1) 事例で考える人間の尊厳</p> <p>第 8 回： 人間の尊厳・自立と生活(2) 事例で考える人間の自立・自律</p> <p>第 9 回： 人間の尊厳・自立と生活(3) 生きる意義を考える</p> <p>第 10 回： 介護における尊厳の保持・自立支援(1)介護における権利擁護と人権尊重</p> <p>第 11 回： 介護における尊厳の保持・自立支援(2)介護における自立支援</p> <p>第 12 回： 介護における尊厳の保持・自立支援(3)介護における尊厳保持と自立支援実践</p> <p>第 13 回： 法制度・社会の仕組みからみた人間の尊厳と自立</p> <p>第 14 回： 介護福祉の価値と倫理</p> <p>第 15 回： 事例から見る介護福祉の倫理的課題</p>

アクティブ ラーニング	iPAD を使用して授業展開をします。またグループで話し合っ て意見をまとめて発表すること もあります。
評価方法	課題レポート 60%、授業態度 20%、小テスト 20%によって評価する。
課題に対 するフィ ードバ ック	毎回のリアクションペーパーや課題はその都度コメントをつけて返却を します。 小テストは実施授業時に答合わせをします。
指定図書	「最新 介護福祉士養成講座 1 人間の理解」中央法規出版
参考図書	特になし
事前・ 事後学 修	事前学習：次回の授業の重要語句を事前に提示する。その言葉を調べてくる。 授業後に課題プリントを配布する。プリントを毎回授業開始時に提出する。(目安時間 40 分)
オフィス アワー	初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	発達と老化 I
科目責任者	秋山 恵美子
単位数他	2単位 (30 時間) 必修 介護 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	<p>人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。</p> <p>老化という高齢者のたどる過程を成長ととらえ、発達段階と考えることにより、介護現場で出会う高齢者の心理的身体的特徴が理解でき、適切な介護実践が可能となる基礎力を培う。</p> <p>発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的な知識を修得するための授業を行う。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間の成長と発達の基礎的な知識を学習し、理解を深める。</li> <li>2. 老年期の発達と成熟の特徴を学び老化に伴うこころとからだの変化と日常生活への影響を学習する。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：ガイダンス 発達心理学の視点</p> <p>第 2 回：人間の成長と発達の基礎的理解①—発達とは</p> <p>第 3 回：人間の成長と発達の基礎的理解②—人間の発達段階と発達課題</p> <p>第 4 回：人間の成長と発達の基礎的理解③—発達と個人差</p> <p>第 5 回：老年期の発達と成熟—老化とは</p> <p>第 6 回：老年期の発達と成熟—老年期の発達課題の留意点</p> <p>第 7 回：老化が及ぼす心理的影響</p> <p>第 8 回：老いの価値観・受容</p> <p style="padding-left: 40px;">主観的幸福感、QOL・生きがいの視点</p> <p>第 9 回：老いの価値観・受容</p> <p style="padding-left: 40px;">老年期の適応課題とパーソナリティ</p> <p>第 10 回：高齢者のこころの問題と精神障害</p> <p>第 11 回：要介護による高齢者の心理</p> <p>第 12 回：老化に伴うこころとからだの変化と生活</p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">演習</span> 資料 3 種「高齢者の特徴」、「加齢による身体的機能の変化」、「高齢者に起こりやすい状態」を基にロールプレイ「高齢者のゲストスピーカー役」</p> <p>第 13 回：老化に伴う身体的機能の変化と日常生活への影響</p> <p>外見上の変化・免疫機能の変化・感覚機能の変化、咀嚼機能や消化機能の変化</p> <p>第 14 回：老化に伴う身体的機能の変化と日常生活への影響</p> <p>循環器の機能の変化・呼吸器の機能の変化、筋・骨・関節の機能の変化・泌尿器・生殖機能の変化</p> <p>第 15 回：老化に伴う知的機能の変化と日常生活への影響</p> <p>記憶機能の変化、認知機能の変化</p>

アクティブ ラーニング	グループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。 リアクションペーパーはmoodleにて提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりとりを紙上で実現する。ラーニングコモンズでの調べ学習と発表を実施する。
評価方法	授業態度 20% 確認小テスト (奇数授業回)・課題提出物 20% 定期試験 60% 演習・レポートで評価するが、ルーブリックは使用しない。
課題に対する フィード バック	moodleにて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	最新・介護福祉士養成講座 12 巻「発達と老化の理解」中央法規出版
参考図書	必要時、適宜紹介する。
事前・ 事後学修	事前学修: 当日授業の単元のテキスト部分を熟読する。奇数回の確認小テストの準備をする。(40分) 事後学修: 授業で提示したテキストの演習課題をノートにまとめ、疑問点を調べる。(40分)
オフィス アワー	社会福祉学部所属の秋山恵美子研究室 (2611 研究室) にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	発達と老化Ⅱ
科目責任者	秋山 恵美子
単位数他	2単位 (30 時間) 必修 介護 7 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	<p>人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。</p> <p>高齢者と健康ということで、高齢者に多い疾患や老化に伴うところとからだの変化と生活への影響などを理解し、介護過程の展開の根拠となる知識を修得する。</p> <p>①高齢者に多い疾患とその症状の現れ方の特徴を学び、実際に生活する場面と関連づけ理解する。</p> <p>②老化に伴うところとからだの変化と生活への影響を理解し、生活支援の中でいつもの違いを感じとり、医療職とどのように連携するのかについて学習する。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の疾患と生活上の留意点分かる。</li> <li>2. 高齢者に多い疾患と老化に伴うところとからだの変化と生活への影響の留意点分かる。</li> <li>3. 保健医療職との連携のポイント分かる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：振り返り：人間の成長と発達の基礎的理解、高齢者と健康  <u>演習</u> 50年後を描く→疾病・障害カードのくじ引き→自分の気持ちの変化書き出し→発表</p> <p>第2回：高齢者の症状・疾患の特徴(慢性、複数疾患)</p> <p>第3回：高齢者の症状・疾患の特徴(非定型的な症状、閉じこもりと廃用症候群, 社会・家族の影響)</p> <p>第4回：高齢者に多い症状・訴えとその留意点(痛み(腹痛・骨・筋肉・関節)、めまい)</p> <p>第5回：高齢者の症状・疾患の特徴(体重減少・食欲不振、しびれ、浮腫)</p> <p>第6回：高齢者の症状・疾患の特徴(咳・痰、息切れ・息苦しさ、掻痒感)</p> <p>第7回：高齢者の症状・疾患の特徴(不眠、便秘、下痢、誤嚥、出血)</p> <p>第8回：高齢者に多い病気と老化に伴うところとからだの変化と生活上の留意点(生活習慣病)</p> <p>第9回：高齢者に多い病気と老化に伴うところとからだの変化と生活上の留意点(骨・関節系の病気)</p> <p>第10回：高齢者に多い病気と老化に伴うところとからだの変化と生活上の留意点(歯・口腔の病気、目の病気、耳の病気、皮膚の病気)</p> <p>第11回：高齢者に多い病気と老化に伴うところとからだの変化と生活上の留意点(呼吸器系の病気、腎・泌尿器系の病気、消化器系の病気)</p> <p>第12回：高齢者に多い病気と老化に伴うところとからだの変化と生活上の留意点(循環器系の病気、脳・神経系の病気、精神の病気)</p> <p>第13回：高齢者に多い病気と老化に伴うところとからだの変化と生活上の留意点(介護保険の特定疾患、感染)</p> <p>第14回：保健医療職との連携—保健医療職とのチームケアの必要性 事例1</p> <p>第15回：保健医療職との連携—保健医療職との連携のポイント 事例2</p>

アクティブ ラーニング	グループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。 リアクションペーパーはmoodleにて提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりとりを紙上で実現する。ラーニングコモンズでの調べ学習と発表を実施する。
評価方法	授業態度 20% 確認小テスト (奇数授業回)・課題提出物 20% 定期試験 60% 演習・レポートで評価するが、ルーブリックは使用しない。
課題に対する フィード バック	moodleにて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	最新・介護福祉士養成講座 12 巻「発達と老化の理解」中央法規出版
参考図書	必要時、適宜紹介する。
事前・ 事後学修	事前学修: 当日授業の単元のテキスト部分を熟読する。奇数回の確認小テストの準備をする。(40分) 事後学修: 授業で提示したテキストの演習課題をノートにまとめ、疑問点を調べる。(40分)
オフィス アワー	社会福祉学部所属の秋山恵美子研究室 (2611 研究室) にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	認知症の理解 I
科目責任者	植田 裕太郎
単位数他	2単位数 (30 時間) 必修 介護 3セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	<p>認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得することを目的とし、認知症の人の取り巻く状況や原因疾患、主要な症状について習得する科目である。</p> <p>認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解を学習し、認知症の原因となる疾患及び心身の変化や心理症状を理解する。さらに、認知症を取り巻く状況を理解するために、認知症のケアの歴史や理念、社会的環境についても学ぶ。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知症の取り巻く状況を理解し、社会的環境について学ぶことができる。</li> <li>2. 認知症の医学的・心理的側面に関する基礎的知識を習得し、述べることができる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：認知症を取り巻く状況(1) 認知とは、認知症の定義について</p> <p>第 2 回：認知症を取り巻く状況(2) 認知症ケアの歴史、理念</p> <p>第 3 回：認知症を取り巻く状況(3) 認知症高齢者に向けた政策</p> <p>第 4 回：認知症に関する主要な症状(1) 中核症状(1) 記憶障害、見当識障害</p> <p>第 5 回：認知症に関する主要な症状(2) 中核症状(2) 失語、失行、失認、実行機能障害等</p> <p>第 6 回：認知症に関する主要な症状(3) 周辺症状(1) 心理症状</p> <p>第 7 回：認知症に関する主要な症状(4) 周辺症状(2) 行動症状</p> <p>第 8 回：認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解(1) 認知機能の変化が生活に及ぼす影響</p> <p>第 9 回：認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解(2) 認知機能の変化が心理状態に及ぼす影響</p> <p>第 10 回：認知症の原因となる病気(1) アルツハイマー型認知症</p> <p>第 11 回：認知症の原因となる病気(2) 脳血管性認知症</p> <p>第 12 回：認知症の原因となる病気(3) レビー小体型認知症、ピック病</p> <p>第 13 回：認知症の原因となる病気(4) クロイツフェルト・ヤコブ病、アルコール性認知症</p> <p>第 14 回：認知症の原因となる病気(5) 若年性認知症</p> <p>第 15 回：認知症で行われる検査、治療</p>

アクティブ ラーニング	調べ学修、グループディスカッション、発表なども行う。リアクションペーパーはmoodleに提出する。
評価方法	筆記試験 60%、授業態度 20%、課題提出物 20%
課題に対する フィード バック	moodleにて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座 13 認知症の理解』 中央法規
参考図書	なし
事前・ 事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40分) 事後学習：授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。(40分)
オフィス アワー	専門学校所属の植田裕太郎研究室(1608 研究室)にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	認知症の理解Ⅱ
科目責任者	植田 裕太郎
単位数他	2単位 (30 時間) 必修 介護 7セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	<p>認知症に関する知識を深めるとともに、認知症の人を中心に捉え本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する科目です。</p> <p>認知症ケアの理解、認知症の人を支援する家族への支援を多職種連携の視点から学習し、実践できることを目的とします。</p> <p>認知症に伴う生活への影響と認知症ケアについて理解し、認知症の人や家族への支援、認知症の人を支える多職種の連携・協働の在り方を学びます。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知症に伴う生活への影響と認知症ケアについて理解できる。</li> <li>2. 認知症の人を支える、地域、家族の支援の在り方について理解できる。</li> <li>3. 認知症の人を支える、多職種連携・協働について理解できる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：認知症の人へのかかわりの基本</p> <p>第 2 回：認知症の進行に応じた介護(1) 初期の認知症への介護</p> <p>第 3 回：認知症の進行に応じた介護(2) 初期の認知症への介護</p> <p>第 4 回：認知症の進行に応じた介護(3) 初期の認知症への介護</p> <p>第 5 回：認知症の進行に応じた介護(4) 終末期の認知症への介護</p> <p>第 6 回：認知症に伴う生活への影響と認知症ケア(1) 認知症の症状と環境の関係</p> <p>第 7 回：認知症に伴う生活への影響と認知症ケア(2) 認知症の型</p> <p>第 8 回：認知症の人の介護過程(1) 行動の背景</p> <p>第 9 回：認知症の人の介護過程(2) アセスメントの視点</p> <p>第 10 回：認知症の人の介護過程(3) 介護計画</p> <p>第 11 回：地域におけるサポート体制 -地域包括支援センターの役割・機能</p> <p>第 12 回：地域におけるサポート体制 -ボランティア、サポーターの役割・機能</p> <p>第 13 回：認知症の人を支援する多職種連携と協働 チームアプローチ</p> <p>第 14 回：家族への支援の在り方(1) -家族のレスパイト</p> <p>第 15 回：家族への支援の在り方(2) -家族会と介護教室</p>

アクティブ ラーニング	調べ学修、グループディスカッション、発表なども行う。リアクションペーパーはmoodleに提出する。
評価方法	筆記試験 60%、授業態度 20%、課題提出物 20%
課題に対する フィード バック	moodleにて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座 13 認知症の理解』 中央法規
参考図書	なし
事前・ 事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40分) 事後学習：授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。(40分)
オフィス アワー	専門学校所属の植田裕太郎研究室 (1608 研究室) にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	障害の理解
科目責任者	井川 淳史
単位数他	2単位 (30 時間) 必修 介護 5セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	<p>障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。</p> <p>支援を必要とする人々を深く理解するとともに、その生活課題を分析し、解決するための基礎的な能力を身につけることを目的とする。</p> <p>障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的な知識について解説する。また、チームアプローチや家族への支援については、実践例を紹介しながら講義を行う。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 他者をさまざまな側面から理解し、障害のある人に対する適切な支援方法について説明できる。</li> <li>2. 受容的・共感的態度をもって支援するために必要な、障害の医学的側面の基礎知識について、適切な用語を用いて説明できる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：障害の医学的・心理的側面の基礎的知識 身体障害(1) 視覚障害の種類と原因、特性</p> <p>第2回：障害の医学的・心理的側面の基礎的知識 身体障害(2) 聴覚障害、言語機能障害の種類と原因、特性</p> <p>第3回：障害の医学的・心理的側面の基礎的知識 身体障害(3) 重複障害のある人の生活</p> <p>第4回：障害の医学的・心理的側面の基礎的知識 身体障害(4) 肢体不自由の種類と原因、特性</p> <p>第5回：障害の医学的・心理的側面の基礎的知識 身体障害(5) 内部障害の種類と原因、特性</p> <p>第6回：障害の医学的・心理的側面の基礎的知識 知的障害の種類と原因、特性</p> <p>第7回：障害の医学的・心理的側面の基礎的知識 精神障害の種類と原因、特性</p> <p>第8回：障害の医学的・心理的側面の基礎的知識 高次脳機能障害高次脳機能障害の種類と原因、特性</p> <p>第9回：障害の医学的・心理的側面の基礎的知識 発達障害の種類と原因、特性</p> <p>第10回：障害の医学的・心理的側面の基礎的知識 重症心身障害重症心身障害のある人の生活</p> <p>第11回：障害の医学的・心理的側面の基礎的知識 難病の種類と原因、特性</p> <p>第12回：障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援 障害のある人の心理 障害の受容、適応と適応機制</p> <p>第13回：障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援 障害に伴う機能の変化と日常生活への影響障害のある人の特性を踏まえたアセスメント</p> <p>第14回：連携と協働 チームアプローチ、多職種連携・協働による支援</p> <p>第15回：家族への支援 家族の受容段階や介護力に応じた支援</p>

アクティブ ラーニング	グループディスカッション、発表、ロールプレイングを通して双方向授業を実施する。また、リアクションペーパーはMoodleに提出する。
評価方法	筆記試験 60%、課題提出（リアクションペーパー） 20%、授業参加度 20%
課題に対する フィード バック	Moodleに提出されたリアクションペーパーについては、次の授業時冒頭でフィードバックを行うこととする。
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座 14 障害の理解』中央法規
参考図書	授業中に随時連絡
事前・ 事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40分) 事後学習：授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。(40分)
オフィス アワー	社会福祉学部所属の井川淳史研究室（1608 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	こころとからだ I
科目責任者	秋山 恵美子
単位数他	2単位 (30 時間) 必修 介護 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	<p>介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。</p> <p>福祉専門職者に求められる基本的な知識・理論を体系的に理解し、対人支援を必要とする人々の生活課題を解決するための基礎的な能力を身につけることを目的とする。</p> <p>介護実践に必要な観察力、判断力の基盤となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識について講義を行う。</p>
到達目標	<p>1. 他者をさまざまな側面から理解するために、対人援助に必要な人間の心理について、適切な用語で説明できる。</p> <p>2. 他者をさまざまな側面から理解するために、介護技術の根拠となる人体の構造や機能について、適切な用語で説明できる。</p>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：こころのしくみの理解(1) 健康とは何かについて理解する。</p> <p>第2回：こころのしくみの理解(2) 人間の欲求、自己概念と尊厳について理解する。</p> <p>第3回：こころのしくみの理解(3) こころのしくみの基礎について理解する。</p> <p>第4回：こころのしくみの理解(4) 認知のしくみについて理解する。</p> <p>第5回：こころのしくみの理解(5) 意欲・動機づけのしくみについて理解する。</p> <p>第6回：こころのしくみの理解(6) 適応のしくみ、防衛機制について理解する。</p> <p>第7回：からだのしくみの理解(1) からだのしくみの基礎について理解する。</p> <p>第8回：からだのしくみの理解(2) 神経系の名称について理解する。</p> <p>第9回：からだのしくみの理解(3) 骨・筋系の名称について理解する。</p> <p>第10回：からだのしくみの理解(4) 感覚器系の名称について理解する。</p> <p>第11回：からだのしくみの理解(5) 呼吸器・消化器系の名称について理解する。</p> <p>第12回：からだのしくみの理解(6) 生殖器・内分泌系の名称について理解する。</p> <p>第13回：からだのしくみの理解(7) 循環器系の名称について理解する。</p> <p>第14回：からだのしくみの理解(8) からだの動き、関節の運動と関節可動域について理解する。</p> <p>第15回：からだのしくみの理解(9) ボディメカニクスについて理解する。</p>

アクティブ ラーニング	グループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。 リアクションペーパーはmoodleにて提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりとりを紙上で実現する。ラーニングコモンズでの調べ学習と発表を実施する。
評価方法	授業態度 20% 確認小テスト (奇数授業回)・課題提出物 20% 定期試験 60% 演習・レポートで評価するが、ルーブリックは使用しない。
課題に対する フィード バック	moodleにて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	最新・介護福祉士養成講座 12 巻「発達と老化の理解」中央法規出版
参考図書	必要時、適宜紹介する。
事前・ 事後学修	事前学修:当日授業の単元のテキスト部分を熟読する。奇数回の確認小テストの準備をする。(40分) 事後学修:授業で提示したテキストの演習課題をノートにまとめ、疑問点を調べる。(40分)
オフィス アワー	社会福祉学部所属の秋山恵美子研究室 (2611 研究室) にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	こころとからだⅡ
科目責任者	秋山 恵美子
単位数他	2単位 (30 時間) 必修 介護 4セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	<p>介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。</p> <p>福祉専門職者に求められる基本的な知識・理論を体系的に理解し、対人支援を必要とする人々の生活課題を解決するための基礎的な能力を身につけることを目的とする。</p> <p>移動、身じたく、食事の支援を行う上で必要な心理面、身体面の知識について講義を行う。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 他者をさまざまな側面から理解するために必要な、移動、身じたく、食事に関するところとからだのしくみについて、適切な用語で説明できる。</li> <li>2. 学修したところとからだのしくみについて、介護福祉実践場面と関連付けて、自らの言葉で説明できる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：移動に関連したところとからだの基礎知識について理解する。</p> <p>第2回：移動に関連したところとからだのしくみについて理解する。</p> <p>第3回：機能の低下・障害が及ぼす移動への影響について理解する。</p> <p>第4回：生活場面におけるところとからだの変化と医療職との連携について理解する。</p> <p>第5回：移動能力向上が生活に与える影響を理解する。</p> <p>第6回：身じたくに関連したところとからだの基礎知識について理解する。</p> <p>第7回：身じたくに関連したところとからだのしくみについて理解する。</p> <p>第8回：機能の低下・障害が及ぼす整容行動への影響について理解する。</p> <p>第9回：生活場面におけるところとからだの変化の気づきと医療職との連携について理解する。</p> <p>第10回：咀嚼と嚥下から口腔機能について理解する。</p> <p>第11回：食事に関連したところとからだの基礎知識について理解する。</p> <p>第12回：食事に関連したところとからだのしくみについて理解する。</p> <p>第13回：機能の低下・障害が及ぼす食事への影響について理解する。</p> <p>第14回：生活場面におけるところとからだの変化の気づきと医療職との連携について理解する。</p> <p>第15回：食事摂取能力向上が生活に与える影響を理解する。</p>

アクティブ ラーニング	グループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。 リアクションペーパーはmoodleにて提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりとりを紙上で実現する。ラーニングコモンズでの調べ学習と発表を実施する。
評価方法	授業態度 20% 確認小テスト (奇数授業回)・課題提出物 20% 定期試験 60% 演習・レポートで評価するが、ルーブリックは使用しない。
課題に対する フィード バック	moodleにて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	最新・介護福祉士養成講座 12 巻「発達と老化の理解」中央法規出版
参考図書	必要時、適宜紹介する。
事前・ 事後学修	事前学修: 当日授業の単元のテキスト部分を熟読する。奇数回の確認小テストの準備をする。(40分) 事後学修: 授業で提示したテキストの演習課題をノートにまとめ、疑問点を調べる。(40分)
オフィス アワー	社会福祉学部所属の秋山恵美子研究室 (2611 研究室) にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	こころとからだⅢ
科目責任者	秋山 恵美子
単位数他	2単位 (30 時間) 必修 介護 7セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門基礎
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	<p>介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。</p> <p>福祉専門職者に求められる基本的な知識・理論を体系的に理解し、対人支援を必要とする人々の生活課題を解決するための基礎的な能力を身につけることを目的とする。</p> <p>入浴・清潔保持、排泄、休息・睡眠、人生の最終段階のケアを行う上で必要な心理面、身体面の知識について講義を行う。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 他者をさまざまな側面から理解するために必要な、入浴・清潔保持、排泄、休息・睡眠、人生の最終段階のケアに関連するこころとからだのしくみについて、適切な用語で説明できる。</li> <li>2. 学修したこころとからだのしくみについて、介護福祉実践場面と関連付けて、自らの言葉で説明できる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：入浴・清潔保持に関連したこころとからだの基礎知識について理解する。</p> <p>第2回：入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみについて理解する。</p> <p>第3回：機能の低下・障害が及ぼす入浴・清潔保持への影響について理解する。</p> <p>第4回：生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携について理解する。</p> <p>第5回：排泄に関連したこころとからだの基礎知識について理解する。</p> <p>第6回：排泄に関連したこころとからだのしくみについて理解する。</p> <p>第7回：機能の低下・障害が及ぼす排泄への影響について理解する。</p> <p>第8回：生活場面におけるこころとからだの変化と医療職との連携について理解する。</p> <p>第9回：休息・睡眠に関連したこころとからだの基礎知識について理解する。</p> <p>第10回：休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみについて理解する。</p> <p>第11回：機能の低下・障害が及ぼす休息・睡眠への影響について理解する。</p> <p>第12回：生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携について理解する。</p> <p>第13回：人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ</p> <p>「死」の捉え方、終末期から危篤、死亡時のからだについて理解する。</p> <p>第14回：人生の最終段階のケアについて事例をもとに理解する。</p> <p>第15回：人生の最終段階のケアにおける医療職との連携について理解する。</p>

アクティブ ラーニング	グループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。 リアクションペーパーはmoodleにて提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりとりを紙上で実現する。ラーニングコモンズでの調べ学習と発表を実施する。
評価方法	授業態度 20% 確認小テスト (奇数授業回)・課題提出物 20% 定期試験 60% 演習・レポートで評価するが、ルーブリックは使用しない。
課題に対するフィード バック	moodleにて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	最新・介護福祉士養成講座 12 巻「発達と老化の理解」中央法規出版
参考図書	必要時、適宜紹介する。
事前・ 事後学修	事前学修:当日授業の単元のテキスト部分を熟読する。奇数回の確認小テストの準備をする。(40分) 事後学修:授業で提示したテキストの演習課題をノートにまとめ、疑問点を調べる。(40分)
オフィス アワー	社会福祉学部所属の秋山恵美子研究室 (2611 研究室) にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	介護の基本 I
科目責任者	井川 淳史
単位数他	2単位 (30 時間) 必修 介護 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。 尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解する。 介護を必要とする人の理解を深め、生活の個別性に対応するために、生活の多様性や社会との関わりを理解する。
到達目標	1. 尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念について説明ができる。 2. 介護福祉の基本となる理念を基本にすえた生活支援について考えることができる。 3. 介護を必要とする人について、人間の多様性・複雑性をふまえて考えることができる。 4. 介護を必要とする障がい者や高齢者の暮らしの実際を理解する。 5. 介護を必要とする人の生活環境を理解する。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回： 介護とは・介護福祉の基本となる理念とは</p> <p>第 2 回： 介護の概念・定義、介護福祉の理念とは</p> <p>第 3 回： 「介護」の見方・考え方の変化</p> <p>第 4 回： 介護問題の背景</p> <p>第 5 回： 介護の専門性 (介護福祉の基本理念)</p> <p>第 6 回： 介護を必要とする人に合わせた生活支援 (介護福祉の基本理念と利用者の個別性)</p> <p>第 7 回： 介護を必要とする人の理解</p> <p>第 8 回： 他者への共感的かかわり (他者理解・自己理解)</p> <p>第 9 回： 私たちの生活の理解 (介護を必要とする人の生活の理解)</p> <p>第 10 回： 高齢者や障害のある人たちの暮らしと介護</p> <p>第 11 回： 「そのひとらしさ」と「生活ニーズの理解」</p> <p>第 12 回： 介護を必要とする人の生活環境の理解</p> <p>第 13 回： 事例で考える介護福祉の基本となる理念 (人間の尊厳保持や自立支援) 実践</p> <p>第 14 回： 事例で考える個別支援 (介護を必要とする人の理解と支援)</p> <p>第 15 回： 自らの「介護観」をはぐぐむことの重要性</p>

アクティブ ラーニング	グループディスカッション、発表、ロールプレイングを通して双方向授業を実施する。また、 リアクションペーパーはMoodleに提出する。
評価方法	レポート 60%、課題提出（リアクションペーパー） 20%、授業参加度 20%
課題に対する フィード バック	Moodleに提出されたリアクションペーパーについては、次の授業時冒頭でフィードバックを行 うこととする。
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座 第3巻 介護の基本 I』中央法規
参考図書	授業中に随時連絡
事前・ 事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40分) 事後学習：授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。(40分)
オフィス アワー	社会福祉学部所属の井川淳史研究室（1608 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワー を設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	介護の基本Ⅱ
科目責任者	植田 裕太郎
単位数他	2単位 (30 時間) 必修 介護 2セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	<p>地域を基盤とした生活の継続性を支援するために、尊厳を支える介護や自立に向けた介護を理解するための学習とする。</p> <p>対人支援を必要とする人々を深く理解するとともに、その生活課題を分析し、解決するための基礎的な能力を身につけることを目的とする。</p> <p>尊厳を支える介護について理解を深め、さらに自立に向けた介護について、ICF の概念やリハビリテーションとも関連づけて解説するとともに、自立支援介護の実践例も紹介しながら講義を行う。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人権尊重について理解を深め、QOL やノーマライゼーションの用語を用いて、尊厳を支える介護について説明できる。</li> <li>2. 対人援助の意義、機能および役割について理解を深め、ICF やリハビリテーションの用語を用いて、自立に向けた介護について説明できる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：介護が必要な人々の人権擁護について理解し、利用者主体の介護実践について考える。</p> <p>第 2 回：身体拘束をなくすための具体的な支援方法を理解する。</p> <p>第 3 回：感情労働としての介護を理解する。</p> <p>第 4 回：尊厳を支える介護 QOL (Quality of Life) について理解する。</p> <p>第 5 回：ノーマライゼーションの考え方とその実現について理解する。</p> <p>第 6 回：自立・自律の考え方を理解し、自己決定・自己選択、自立支援について考える。</p> <p>第 7 回：生活意欲への働きかけとエンパワメント、利用者主体について理解する。</p> <p>第 8 回：介護における ICF のとらえ方について理解する。</p> <p>第 9 回：ICF を活かしたアセスメントの視点を理解し、個別ケアについて考える。</p> <p>第 10 回：自立に向けた介護 介護実践におけるリハビリテーションの考え方を理解する。</p> <p>第 11 回：リハビリテーションの考え方を活かした介護予防、自立支援介護について理解する。</p> <p>第 12 回：リハビリテーション専門職との連携について理解する。</p> <p>第 13 回：自立支援介護の実践例をみて、その支援方法を理解する。</p> <p>第 14 回：事例をもとに、病院・施設でのリハビリテーションについて理解する。</p> <p>第 15 回：事例をもとに、在宅でのリハビリテーションについて理解する</p>

アクティブ ラーニング	調べ学修、グループディスカッション、発表なども行う。リアクションペーパーはmoodleに提出する。
評価方法	筆記試験 60%、授業態度 20%、課題提出物 20%によって評価する。
課題に対する フィード バック	moodleにて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	「最新・介護福祉士養成講座 3 介護の基本 I」中央法規出版
参考図書	授業中に随時提示
事前・ 事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40分) 事後学習：授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。(40分)
オフィス アワー	専門学校所属の植田裕太郎研究室(1608 研究室)にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	介護の基本Ⅲ
科目責任者	佐野仁美
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 介護 3 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	<p>介護福祉士に求められる倫理、役割と機能を理解し、その倫理観や自立した生活を支える介護に必要な能力を身につけることを目的とする。</p> <p>介護福祉士の役割と機能について解説するとともに、介護サービスの内容と提供方法および利用方法について講義を行う。尊厳の保持や自立に向けた介護のあり方、リハビリテーションや ICF についても学びを深める。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護福祉士に求められる倫理について説明できる。</li> <li>2. 生活支援における介護福祉士の役割と機能について説明できる。</li> <li>3. 介護福祉士が関わる様々な生活支援の意義やニーズを ICF の視点で理解し、様々なニーズを抱える利用者に対して提供する生活支援について説明できる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：介護福祉士に求められる倫理  日本介護福祉士会倫理綱領（介護従事者の職業倫理・プライバシー保護 個人情報保護）</p> <p>第2回：介護問題の背景・求められる介護福祉士像・利用者の人権と保護</p> <p>第3回：社会福祉士及び介護福祉士法・介護福祉士の定義（名称独占・業務独占）</p> <p>第4回：社会福祉士及び介護福祉士法・介護福祉士の役割と機能</p> <p>第5回：養成制度・登録状況・介護における専門職集団としての役割と機能</p> <p>第6回：介護職が行う生活支援（身体拘束禁止・高齢者虐待・児童虐待 他）</p> <p>第7回：身体介護・相談援助・家族支援の意義と介護福祉士の専門性・独自性</p> <p>第8回：生きがいを大切にする生活支援・日常生活の拡大に向けた生活支援の進め方</p> <p>第9回：尊厳ある介護実践の意義と利用者の QOL、ノーマライゼーションとの関係</p> <p>第10回：ICF の視点に基づくアセスメントによる生活支援の特徴（生活意欲・エンパワメント）</p> <p>第11回：ケアプラン・ケアマネジメントの流れ・意味と仕組み</p> <p>第12回：介護保険制度の理解（介護保険のサービスの種類・サービス報酬・算定基準）</p> <p>第13回：介護サービスの概要 居宅系サービス・施設系サービスの提供の場と特性</p> <p>第14回：介護実践におけるリハビリテーション・居住環境の違い（病院・施設・介護予防）</p> <p>第15回：リハビリテーションスタッフとの連携を活かした介護実践の進め方</p>

アクティブ ラーニング	グループ学修、発表を取り入れた授業を行う。
評価方法	筆記試験 60%、授業態度 20%、課題提出物 20%、計 100%
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆記試験の解答例はオフィスアワーにて提示する。</li> <li>・提出されたリアクションペーパーはコメントを入れ、次回以降の授業で全体へのフィードバック及び個人への返却を行う。</li> </ul>
指定図書	『最新 介護福祉士養成講座 4 介護の介基Ⅱ』中央法規出版
参考図書	随時紹介する。
事前・ 事後学修	<p>事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。</p> <p>事後学修：講義内容について振り返り整理しておく。 (目安時間 40 分)</p>
オフィス アワー	専門学校棟教員室 (6104) にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	介護の基本IV
科目責任者	佐野仁美
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 介護 4セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している
科目概要	<p>「尊厳の保持」「自立支援」の介護の考え方を理解するとともに、介護を必要とする人の生活を支えるしくみを捉えるための学習とする。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。</p> <p>保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を理解するとともに、その生活課題を分析し、解決するための基礎的な能力を身につけることを目的とする。</p> <p>介護福祉実践において、協働する多職種の機能と役割について理解を深め、さらに介護従事者の安全、介護従事者の心身の健康管理について実践例を紹介しながら講義を行う。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護福祉実践における協働する多職種の機能と役割について説明できる。</li> <li>2. 介護従事者の安全、心身の健康管理の方策について説明できる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：介護を必要とする人の生活を支えるための介護実践における連携の意義と目的について理解する。</p> <p>第2回：多職種連携（チームアプローチ）について理解する。</p> <p>第3回：協働する多職種の機能と役割について理解する。</p> <p>第4回：協働する多職種の機能と役割のあり方と連携について理解する。</p> <p>第5回：利用者を取り巻く多職種連携の実際について理解する。</p> <p>第6回：実践例をもとに、利用者を取り巻く多職種連携について理解を深める。</p> <p>第7回：地域連携の意義について理解する。</p> <p>第8回：地域連携の目的について理解する。</p> <p>第9回：地域連携にかかわる機関について理解する。</p> <p>第10回：地域連携にかかわるインフォーマルなサービスについて理解する。</p> <p>第11回：利用者を取り巻く地域連携の実際について理解する。</p> <p>第12回：介護従事者の安全について理解する。</p> <p>第13回：実践例をもとに、介護従事者の安全について理解を深める。</p> <p>第14回：介護従事者の心身の健康管理について理解する。</p> <p>第15回：実践例をもとに、介護従事者の心身の健康管理について理解を深める。</p>

アクティブ ラーニング	グループ学修、発表を取り入れた授業を行う。
評価方法	筆記試験 60%、授業態度 20%、課題提出物 20%、計 100%
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆記試験の解答例はオフィスアワーにて提示する。</li> <li>・提出されたリアクションペーパーはコメントを入れ、次回以降の授業で全体へのフィードバック及び個人への返却を行う。</li> </ul>
指定図書	『最新 介護福祉士養成講座 4 介護の介基Ⅱ』中央法規出版
参考図書	随時紹介する。
事前・ 事後学修	<p>事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。</p> <p>事後学修：講義内容について振り返り整理しておく。 (目安時間 40 分)</p>
オフィス アワー	専門学校棟教員室 (6104) にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	介護の基本V
科目責任者	佐野仁美
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 介護 5セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している
科目概要	<p>「尊厳の保持」「自立支援」という介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を生活の観点から捉えるため、保健医療福祉職としての事故防止・安全対策・リスクマネジメントをはじめとした、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習をする。</p> <p>「尊厳の保持」「自立支援」という介護の考え方を理解し、自立とはなにか、自立を促すことの危険性を防護するために何をすべきかを考えます。介護における安全の確保とリスクマネジメントについて利用者側とサービス提供側双方の立場から考え、介護従事者の安全も含めた具体的な事例検討を中心にして学ぶ。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保健医療福祉の専門職に求められる専門分野の基本的知識・理論や技能を体系的に理解する。</li> <li>2. 対人援助・社会支援の問題を解決するための方法を説明することができる。</li> <li>3. 介護職と利用者の介護における安全の確保するための留意点を理解する。</li> <li>4. 介護におけるリスクマネジメントの必要性とその方法について学ぶ。</li> <li>5. 施設及び在宅介護に伴う事故について知識を深め、その予防方法と対処法を学ぶ。</li> <li>6. 利用者の事故防止・安全対策・感染対策、介護従事者の安全についても考えることができる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：自立に向けた介護① 介護における安全の確保</p> <p>第 2 回：自立に向けた介護① 介護現場におけるリスクマネジメント（セーフティマネジメント）</p> <p>第 3 回：自立に向けた介護① 観察の視点・正確な生活支援技術</p> <p>第 4 回：介護従事者の安全① 介護事故とヒヤリハット（予測・分析）</p> <p>第 5 回：介護従事者の安全① 事故防止と安全対策</p> <p>第 6 回：介護従事者の安全① 環境改善とリスクマネジメント（セーフティマネジメント）</p> <p>第 7 回：自立に向けた介護② 服薬・生活医行為・受診援助</p> <p>第 8 回：自立に向けた介護② 医療職とのアプローチ&lt;転倒・転落防止・骨折予防&gt;</p> <p>第 9 回：介護従事者の安全② 防火・防災対策・地域とのネットワーク（緊急連絡システム）</p> <p>第 10 回：介護従事者の安全② 感染予防の意義と実際介護</p> <p>第 11 回：自立に向けた介護③ 感染予防の基礎知識と技術</p> <p>第 12 回：自立に向けた介護③ 衛生管理・利用者の生活の安全&lt;鍵の閉め忘れ・消費者被害&gt;</p> <p>第 13 回：介護従事者の安全③ 介護従事者の健康管理①腰痛予防と対策</p> <p>第 14 回：介護従事者の安全③ 介護従事者の健康管理②感染予防と対策&lt;感染管理&gt;</p> <p>第 15 回：介護従事者の安全③ リスクマネジメント（セーフティマネジメント）</p>

アクティブ ラーニング	グループ学修、発表を取り入れた授業を行う。
評価方法	筆記試験 60%、授業態度 20%、課題提出物 20%、計 100%
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆記試験の解答例はオフィスアワーにて提示する。</li> <li>・提出されたリアクションペーパーはコメントを入れ、次回以降の授業で全体へのフィードバック及び個人への返却を行う。</li> </ul>
指定図書	『最新 介護福祉士養成講座 4 介護の介基Ⅱ』中央法規出版
参考図書	随時紹介する。
事前・ 事後学修	<p>事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。</p> <p>事後学修：講義内容について振り返り整理しておく。 (目安時間 40 分)</p>
オフィス アワー	専門学校棟教員室 (6104) にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	介護の基本VI
科目責任者	植田 裕太郎
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 介護 7セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	<p>「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方と、介護を必要とする人の生活を支えるしくみを理解し、生活の観点からとらえるための学習とする。介護福祉士が行う様々な生活支援の意義と役割について理解するとともに、介護福祉士の倫理を理解し、専門職者として意識を高める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉士及び介護福祉士法の役割と介護福祉士の倫理（職業倫理）について学習する。</li> <li>2. 利用者の人権と介護について身体拘束や虐待など多方面から学ぶ。</li> <li>3. プライバシーの保護の意義と介護職の役割を学習する。</li> </ol>
到達目標	介護福祉士が関わる様々な生活支援の意義やニーズを理解し、様々なニーズを抱える利用者に対して、尊厳の保持や倫理的思考で捉えることができる。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回 ガイダンス及び介護の基本VIの学習内容の説明と進め方「介護福祉士の職業倫理とは」</p> <p>第2回 介護問題の背景・求められる介護福祉士像・利用者の人権と保護</p> <p>第3回 どのようにしたら利用者の人権が護れるか・・・グループワーク</p> <p>第4回 介護実践における介護福祉士の倫理 日本介護福祉士会倫理綱領</p> <p>第5回 介護実践における介護福祉士の倫理 介護福祉士の職業倫理</p> <p>第6回 介護実践における介護福祉士の倫理 プライバシー保護</p> <p>第7回 介護実践における介護福祉士の倫理 個人情報保護、その他</p> <p>第8回 介護実践における介護福祉士の倫理 介護職が行う生活の継続性の支援を振り返り 尊厳・人権がどのように護られていたか・・・グループワーク</p> <p>第9回 身体拘束禁止について・・・講義</p> <p>第10回 身体拘束禁止・・・事例からグループワーク</p> <p>第11回 高齢者虐待・児童虐待について・・・講義</p> <p>第12回 高齢者虐待・児童虐待について・・・1事例からグループワーク</p> <p>第13回 高齢者虐待の事例から グループで発表</p> <p>第14回 児童虐待 の事例から グループで発表</p> <p>第15回 まとめ・解説</p>

アクティブ ラーニング	グループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。 リアクションペーパーは moodle にて提出する。
評価方法	授業への参加態度 10% 課題提出 10% 定期試験 80%
課題に対する フィード バック	moodle にて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ』中央法規
参考図書	なし
事前・ 事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40分) 事後学習：授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。(40分)
オフィス アワー	専門学校所属の植田裕太郎研究室 (1608 研究室) にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	生活支援技術 I
科目責任者	佐野仁美
単位数他	2単位 (60 時間) 選択 介護 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	<p>尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する科目とする。</p> <p>「居住環境整備」「移動」「身じたく」について、介護場面での支援方法を学ぶ。</p>
到達目標	<p>1. 他者を様々な側面から理解するために必要な生活支援の理解ができる。</p> <p>2. 「居住環境整備」「移動」「身じたく」の意義を理解し役割モデルを対象に支援ができる。</p>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：ガイダンス、生活とは何か、生活支援の理解</p> <p>第 2 回：自立に向けた居住環境の整備、安全で心地よい生活の場づくり</p> <p>第 3 回：ボディメカニクス、ベッドメイキング講義、ベッドメイキング (2 人で行う)</p> <p>第 4 回：ベッドメイキング (1 人で行う)</p> <p>第 5 回：ベッドメイキング (ベッドに臥床している人がいる場合①)</p> <p>第 6 回：ベッドメイキング (ベッドに臥床している人がいる場合②)</p> <p>第 7 回：実技確認 ベッドメイキング</p> <p>第 8 回：自立へ向けた移動の介護、移動の意義と目的、安全で気兼ねなく動けることを支える介護</p> <p>第 9 回：車いすの基本知識、使用方法</p> <p>第 10 回：ベッド上での移動</p> <p>第 11 回：起き上がりの介護、立ち上がりの介護</p> <p>第 12 回：移乗の介護 (端座位⇔車いす)</p> <p>第 13 回：移乗の介護 (仰臥位⇔車いす)</p> <p>第 14 回：移乗の介護 (椅座位⇔車いす)</p> <p>第 15 回：移乗の介護 (福祉用具を用いた移乗)</p> <p>第 16 回：実技確認 移動の介助、移乗の介助</p> <p>第 17 回：車いすでの移動 講義</p> <p>第 18 回：車いすでの移動 演習</p> <p>第 19 回：2 動作歩行、3 動作歩行、杖歩行の方法</p> <p>第 20 回：歩行、杖歩行の介護</p> <p>第 21 回：実技確認 歩行、杖歩行の介護</p> <p>第 22 回：自立に向けた身じたくの介護、身じたくの意義と目的、生活習慣と装いの楽しみを支える介護</p> <p>第 23 回：衣服の着脱介護 (座位、かぶり)</p> <p>第 24 回：衣服の着脱介護 (座位、前開き)</p> <p>第 25 回：衣服の着脱介護 (臥位)</p> <p>第 26 回：実技確認 衣類の着脱介護</p> <p>第 27 回：整容行動に関するアセスメントと介助の技法</p> <p>第 28 回：整容 演習</p> <p>第 29 回：口腔ケア 演習</p> <p>第 30 回：まとめ</p>

アクティブ ラーニング	演習科目です。
評価方法	筆記試験 60%、授業態度 30%、課題提出物 10%、計 100%
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆記試験の解答例はオフィスアワーにて提示します。</li> <li>・提出されたリアクションペーパーはコメントを入れ、次回以降の授業で全体へのフィードバック及び個人への返却を行います。</li> </ul>
指定図書	『最新 介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ』中央法規出版
参考図書	随時紹介する。
事前・ 事後学修	<p>事前学修：シラバスに示された指定図書の該当箇所を熟読しておく</p> <p>事後学修：授業で行った技術を自身の日常生活動作に関連付け、繰り返し実践する (目安時間 40 分)</p>
オフィス アワー	専門学校棟教員室 (6104) にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	生活支援技術Ⅱ
科目責任者	佐野仁美
単位数他	2単位 (60 時間) 選択 介護 2セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 専門
科目の位置付	様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	<p>尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する科目とする。</p> <p>「入浴・清潔保持」「排泄」「食事」について、介護場面での支援方法を学ぶ。</p>
到達目標	<p>1. 入浴・清潔保持、排泄、食事の意義と目的を理解し、基本的な支援方法について修得し、役割モデルを対象に支援を行うことができる。</p> <p>2. 自らの役割を理解し、必要に応じて他の職種と協働することを説明できる。</p>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：ガイダンス、生活支援の理解、自立に向けた入浴・清潔保持の介護</p> <p>第 2 回：入浴の意義と目的、入浴に関する利用者のアセスメント、さまざまな入浴介助の方法</p> <p>第 3 回：入浴・清潔保持（シャワー浴）</p> <p>第 4 回：入浴・清潔保持（個別浴槽）</p> <p>第 5 回：入浴・清潔保持（特殊浴槽①）</p> <p>第 6 回：入浴・清潔保持（特殊浴槽②）</p> <p>第 7 回：入浴・清潔保持（部分浴：手浴）</p> <p>第 8 回：入浴・清潔保持（部分浴：足浴）</p> <p>第 9 回：入浴・清潔保持（ベッド上での洗髪）</p> <p>第 10 回：入浴・清潔保持（清拭）</p> <p>第 11 回：入浴・清潔保持の介護のまとめ</p> <p>第 12 回：自立に向けた排泄の介護、意義・目的、利用者のアセスメント</p> <p>第 13 回：排泄に関する基礎知識、気持ちよい排泄を支える介護、他の職種の役割と協働</p> <p>第 14 回：トイレでの排泄</p> <p>第 15 回：ポータブルトイレでの排泄</p> <p>第 16 回：ベッド上での排泄（尿器、差し込み便器）</p> <p>第 17 回：ベッド上での排泄（オムツ①）</p> <p>第 18 回：ベッド上での排泄（オムツ②）</p> <p>第 19 回：実技確認 排泄の介助</p> <p>第 20 回：排泄の介護のまとめ</p> <p>第 21 回：自立に向けた食事の介護、意義と目的、利用者のアセスメント</p> <p>第 22 回：食事に関する基礎知識、おいしく食べることを支える介護、他の職種の役割と協働</p> <p>第 23 回：脱水予防</p> <p>第 24 回：食事に使用する様々な福祉用具</p> <p>第 25 回：食事形態の違い 講義</p> <p>第 26 回：食事形態の違いによる食事介助の実際</p> <p>第 27 回：ベッド上での食事の介護の技法</p> <p>第 28 回：口腔ケア</p> <p>第 29 回：食事の介護のまとめ</p> <p>第 30 回：生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携</p>

アクティブ ラーニング	演習科目です。
評価方法	筆記試験 60%、授業態度 30%、課題提出物 10%、計 100%
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆記試験の解答例はオフィスアワーにて提示します。</li> <li>・提出されたリアクションペーパーはコメントを入れ、次回以降の授業で全体へのフィードバック及び個人への返却を行います。</li> </ul>
指定図書	『最新 介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ』中央法規出版
参考図書	随時紹介する。
事前・ 事後学修	<p>事前学修：シラバスに示された指定図書の該当箇所を熟読しておく</p> <p>事後学修：授業で行った技術を自身の日常生活動作に関連付け、繰り返し実践する (目安時間 40 分)</p>
オフィス アワー	専門学校棟教員室 (6104) にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	生活支援技術Ⅲ
科目責任者	秋山 恵美子
単位数他	2単位 (60 時間) 選択 介護 4セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 専門
科目の位置付	様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	<p>尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し本人主体の生活が継続でき、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する科目とする。</p> <p>安全に安楽な生活支援を理解し、実践するための介護技術や知識を習得する。</p> <p>利用者の抱える内部障害や神経疾患、高次脳機能障害、コミュニケーション障害、精神・知的障害や寝たきり状態などで生ずる様々な生活困難に対して、アセスメントが的確にでき、障害に応じた自立に向けた家事の介護や適切な生活の場を提供するための援助技法を学習する。</p> <p>その人のライフスタイルに応じたその人らしい人生の最終段階を過ごすための生活支援を可能とするための実践技法を学習する。</p>
到達目標	尊厳の保持の視点を大切にし、様々な障害を抱える利用者に対し、適切な生活の場や家事援助・生活支援が提供でき、安心して人生の最終段階における介護が提供できる技術を習得する。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;秋山恵美子、佐藤豊展、金谷節子</p> <p>第 1 回：ガイダンス、生活支援の理解と医学、家政学、リハビリテーション学、宗教学などの関係</p> <p>第 2 回：自立に向けた居住環境の整備の意義、目的、他職種との連携</p> <p>第 3 回：自立に向けた生活空間と介護—生活の場、住み慣れた地域での生活・居住環境のアセスメント（ICFの視点に基づく全体像・安全な生活の場）</p> <p>第 4 回：浴室、台所、安全性、快適性、プライバシー・バリアフリー、ユニバーサルデザイン、ユニットケア、施設等での住宅の工夫、他</p> <p>第 5-6 回：嚥下のメカニズム・嚥下に関する用語の理解</p> <p>第 7 回：発達と老化・嚥下訓練におけるチームアプローチ</p> <p>第 8 回：嚥下訓練におけるチームアプローチ・嚥下調整食</p> <p>第 9 回：嚥下障害の直接訓練・介助方法</p> <p>第 10 回：自立に向けた食事の介護の意義・目的</p> <p>第 11 回：高齢者・嚥下障害者の食事</p> <p>第 12 回：嚥下調整食ピラミッド</p> <p>第 13 回：嚥下調整食の基本・水分摂取</p> <p>第 14 回：調理実習【人気のある嚥下調整食】</p> <p>第 15 回：個別対応の実際・バッククッキング・訪問時の調理</p> <p>第 16 回：在宅訪問の実際・簡易的栄養評価の仕方</p> <p>第 17 回：自立に向けた家事の介護の意義・目的</p> <p>第 18 回：自立に向けた家事の介護に参加することを支える支援・利用者の状況に応じた介助・家事に関する利用者の ICF の視点に基づくアセスメント</p> <p>第 19-20 回：自立に向けた家事の介護の技法—洗濯・裁縫・衣類・寝具の衛生管理</p> <p>第 21 回：自立に向けた家事の介護の技法③—掃除・買い物&lt;家庭経営、家計の管理&gt;</p> <p>第 22 回：自立に向けた家事の介護の技法④—運動・感覚障害、認知機能低下の方の工夫</p> <p>第 23-24 回：人生の最終段階における介護の意義、実践の在り方</p> <p>第 25 回：臥床状態の寝具交換</p> <p>第 26 回：グリーンケア</p> <p>第 27 回：人生の最終段階における尊厳の保持・事前意思確認</p> <p>第 28 回：人生の最終段階における利用者 ICF に基づくアセスメント</p> <p>第 29 回：人生の最終段階における介護実践の技法：医療との連携</p> <p>第 30 回：看取りのための制度、臨終時の対応</p>

アクティブ ラーニング	グループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。 リアクションペーパーは moodle にて提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりと りを紙上で実現する。ラーニングコモンズでの調べ学習と発表を実施する。
評価方法	授業態度 20% 確認小テスト (奇数授業回)・課題提出物 20% 定期試験 60% 演習・レポートで評価するが、ルーブリックは使用しない。
課題に対す るフィード バック	moodle にて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバック を行う。
指定図書	最新・介護福祉士養成講座 12 巻「発達と老化の理解」中央法規出版
参考図書	必要時、適宜紹介する。
事前・ 事後学修	事前学修: 当日授業の単元のテキスト部分を熟読する。奇数回の確認小テストの準備をする。(40 分) 事後学修: 授業で提示したテキストの演習課題をノートにまとめ、疑問点を調べる。(40 分)
オフィス アワー	社会福祉学部所属の秋山恵美子研究室 (2611 研究室) にて、自由に相談に応じるオフィスアワ ーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「管理栄養士・言語聴覚士・看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえ て教授する科目です。

科目名	生活支援技術Ⅳ
科目責任者	井川 淳史
単位数他	2単位 (60 時間) 選択 介護 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP1 専門
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	<p>尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、その人の潜在能力を引き出し、見守りを含めた適切な生活支援介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得するための学習としています。また、支援の対象者を深く理解するとともに、その生活課題を分析し、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習を目的とする。</p> <p>さまざまな障害に対する理解を深め、介護場面での支援方法について、講義と演習を実施します。また、利用者の状態・状況に応じて自立に向けた移動の介護、自立に向けた身じたくの介護、自立に向けた食事の介護、自立に向けた入浴・清潔保持の介護、自立に向けた排泄の介護について学ぶ。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 利用者をさまざまな側面から理解するために必要な、障害の状態に応じた基本的な支援方法について習得し、自らの言葉で説明することができる。</li> <li>2. 利用者の状態・状況に応じて自立に向けた移動の介護、自立に向けた身じたくの介護、自立に向けた食事の介護、自立に向けた入浴・清潔保持の介護、自立に向けた排泄の介護の留意点について、説明することができる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回と第2回：利用者の状態・状況に応じた介助の留意点、知的障害のある人の生活の理解  第3回と第4回：知的障害のある人への介護過程の展開  第5回と第6回：利用者の状態・状況に応じた介助の留意点、精神障害のある人の生活の理解  第7回と第8回：精神障害のある人の生活支援、精神障害のある人への介護過程の展開  第9回と第10回：障害・視覚障害のいろいろ、特性と視覚障害リハビリテーションについての理解  第11回と第12回：視覚障害者に関する諸制度と生活の質を向上させる福祉機器を知る  第13回と第14回：視覚障害者の生活・就労の支援についての理解  第15回と第16回：視覚障害者の介助・ガイドの必要性と技術の理解  第17回と第18回：視覚障害者の介助・ガイドの留意点  第19回～第21回：利用者の状態・状況に応じた介助の留意点、高次脳機能障害のある人の生活の理解  高次脳機能障害のある人への介護過程の展開  第22回と第23回：利用者の状態・状況に応じた介助の留意点、発達障害のある人の生活の理解  発達障害のある人の生活支援と環境整備、発達障害のある人への介護過程の展開  第24回と第25回：利用者の状態・状況に応じた介助の留意点  重症心身障害のある人の生活の理解、重症心身障害のある人への介護過程の展開  第26回と第27回：利用者の状態・状況に応じた介助の留意点  重複障害（盲ろう）のある人の生活の理解、介護過程の展開  第28回と第29回：感覚機能・運動機能が低下している人の介助の留意点  （自立に向けた移動・身じたくの介護・食事・入浴・清潔保持・排泄の介護）  第30回：認知・知覚機能が低下している人の介助の留意点  （自立に向けた移動・身じたくの介護・食事・入浴・清潔保持・排泄の介護）</p>

アクティブ ラーニング	グループディスカッション、発表、ロールプレイングを通して双方向授業を実施する。また、リアクションペーパーはMoodleに提出する。
評価方法	筆記試験 60%、課題提出（リアクションペーパー） 20%、授業参加度 20%
課題に対する フィード バック	Moodleに提出されたリアクションペーパーについては、次の授業時冒頭でフィードバックを行うこととする。
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ』中央法規、 『最新・介護福祉士養成講座 14 障害の理解』中央法規
参考図書	授業中に随時連絡
事前・ 事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40分) 事後学習：授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。(40分)
オフィス アワー	社会福祉学部所属の井川淳史研究室（1608 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	生活支援技術V
科目責任者	富安 奈穂美
単位数他	2単位 (60 時間) 選択 介護 7セメスター
DP 番号と科目領域	DP1 専門
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	<p>尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、その人の潜在能力を引き出し、見守りを含めた適切な生活支援介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得するための学習としています。また、支援の対象者を深く理解するとともに、その生活課題を分析し、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習を目的とする。</p> <p>さまざまな障害に対する理解を深め、介護場面での支援方法について、講義と演習を実施します。また、利用者の生活支援の理解、自立に向けた居住環境の整備、休息・睡眠の介護、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用について学ぶ。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 他者をさまざまな側面から理解するために必要な、障害の状態に応じた基本的な支援方法について習得し、自らの言葉で説明することができる。</li> <li>2. 利用者の状態・状況に応じて生活支援の理解、自立に向けた居住環境の整備、休息・睡眠の介護、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用の留意点について、説明することができる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回と第2回：利用者の状態・状況に応じた介助の留意点、内部障害に応じた介護の理解</p> <p>第3回と第4回：心臓機能障害のある人への支援 ①利用者理解・環境整備</p> <p>第5回と第6回：心臓機能障害のある人への支援 ②生活支援・多職種連携</p> <p>第7回と第8回：呼吸器機能障害のある人への支援 ①利用者理解・環境整備</p> <p>第9回と第10回：呼吸器機能障害のある人への支援 ②生活支援・多職種連携</p> <p>第11回と第12回：肝機能障害のある人への支援 ①利用者理解・環境整備</p> <p>第13回と第14回：肝機能障害のある人への支援 ②生活支援・多職種連携</p> <p>第15回と第16回：腎機能障害のある人への支援 ①利用者理解・環境整備</p> <p>第17回と第18回：腎機能障害のある人への支援 ②生活支援・多職種連携</p> <p>第19回と第21回：膀胱・直腸機能障害のある人への支援 ①利用者理解・環境整備</p> <p>第22回と第23回：膀胱・直腸機能障害のある人への支援 ②生活支援・多職種連携</p> <p>第24回と第25回：HIV 感染症による免疫機能障害のある人への支援 ①利用者理解・環境整備</p> <p>第26回と第27回：HIV 感染症による免疫機能障害のある人への支援 ②生活支援・多職種連携</p> <p>重複障害</p> <p>第28回と第29回：内部障害のある方への生活支援についてグループワーク</p> <p>(自生活支援の理解、自立に向けた居住環境の整備、休息・睡眠の介護、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用)</p> <p>第30回 : 内部障害のある方への生活支援についてのまとめ (生活支援の理解、自立に向けた居住環境の整備、休息・睡眠の介護、人生の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用)</p>

アクティブ ラーニング	
評価方法	筆記試験 80%、授業態度 20%によって評価する。
課題に対する フィード バック	提出されたリアクションペーパーについては、次の授業時冒頭でフィードバックを行うこととする。
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ』中央法規、 『最新・介護福祉士養成講座 14 障害の理解』中央法規
参考図書	授業中に随時連絡
事前・ 事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40分) 事後学習：授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。(40分)
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	介護過程 I
科目責任者	野田由佳里
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 介護 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	<p>本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。他の科目で学習した知識や技術を統合して適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。</p> <p>他学科で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開するための基礎となるもので人間関係の成立過程、課題解決課程の中の人間関係の成立過程に注目した科目である。おもに対象者理解に焦点をあてて学習する。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護過程の意義を理解できる</li> <li>2. 人間関係の成立過程の基礎である自己理解、他者理解、ができる。</li> <li>3. 対象者のくらし、時代の背景が理解できる。</li> <li>4. かかわりの意義を理解できる</li> <li>5. プロセスレコードを用いて人間関係を形成できる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回 ガイダンス：介護過程の意義と基礎的理解・・・介護過程の目的</p> <p>第2回 利用者理解：「関心」かんしんとは・・・マザーテレサの世界</p> <p>第3回 利用者理解：かんしんを持つとは・・・GW発表</p> <p>第4回 利用者理解：くらしとは何か・私の「くらし」あなたの「くらし」こころの花束</p> <p>第5回 利用者理解：利用者（対象者）の「くらし」生きてきた時代の理解</p> <p>第6回 利用者理解：「くらし」60代、70代、80代の時代の違いの理解</p> <p>第7回 利用者理解：「私（高齢者の名前）の青春」・・・発表会</p> <p>第8回 人間関係形成：かかわり（観察）の重要性</p> <p style="padding-left: 40px;">偏見とは・・・思い込み 正常異常 認知症老人の詩</p> <p>第9回 人間関係形成：自己理解・他者理解</p> <p>第10回 人間関係形成：介護過程は人間関係から成り立つ プロセスレコード</p> <p>第11回 人間関係形成：プロセスレコード 講義</p> <p>第12回 人間関係形成：プロセスレコード 演習</p> <p>第13回 人間関係形成：介護過程の視点に気づく、</p> <p>第14回 人間関係形成：気づきを介護過程の展開に活かす</p> <p>第15回 レクリエーション及びまとめ</p>

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題を行うことで、主体的な参加を促し、授業内容の理解が進むようポイントを明確にします</li> <li>・事後課題では国試対策を意識して課題に取り組むことで次回以降に向けてのポイントを明確にします</li> </ul>
評価方法	授業への参加態度（10%）振り返りレポート毎回（45%） 定期レポート3回（45% 1回あたり15パーセント）
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回フィードバックをします。課題が目標到達できない場合は再提出をして頂くなど丁寧なフィードバックを心掛けます</li> </ul>
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座第9巻 介護過程』中央法規出版
参考図書	森 繁樹「介護過程の展開」中央法規
事前・ 事後学修	<p>【事前学習】毎回事前課題を提示致しますので25分程度は取り組むようにしてください。また初回授業時に配布する講義予定表を参考に指定図書の該当頁を熟読してから講義に臨んでください。テキストを読んでから授業に臨みましょう。</p> <p>【事後学修】講義後、振り返りレポートを作成して毎回のポイントをまとめてください。 (目安時間40分)</p>
オフィス アワー	社会福祉学部所属の野田由佳里研究室（2706 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	介護過程Ⅱ
科目責任者	荒川 あつ子
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 介護 2セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	<p>本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。他の科目で学習した知識や技術を統合して、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。</p> <p>他学科で学習した知識や技術を統合して、介護計画を立案し適切な介護サービスが提供できる能力を養うための基礎的学習を行う。課題解決過程の各構成要素を理解し、実習前のシミュレーションとしてロールプレイを行う。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護過程展開の意義、目的、目標及びサイクルを理解できる。</li> <li>2. 構成要素のアセスメントの目的、方法が習得できる。</li> <li>3. 構成要素の計画の立案の目的、方法が習得できる。</li> <li>4. 構成要素の実施、評価の意義、方法、視点の理解ができる。</li> <li>5. 事例を通して一連の流れを理解する</li> <li>6. ロールプレイを取り入れ①情報収集、②情報の分析・解釈、③計画立案、④実施、⑤評価の一連の流れをシミュレーションできる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：ガイダンス 介護過程Ⅰの振り返り、介護過程の意義と基礎的理解・目的・目標及びサイクル</p> <p>第2回：介護過程の課題解決過程のための構成要素</p> <p>第3回：情報収集の目的、方法、「かかわる」（観察の方法）</p> <p>第4回：情報の解釈・分析 それぞれの情報をどう統合させるか 情報の解釈・分析 統合された情報からどのような課題が見出せるか</p> <p>第5回：計画の立案 介護者が見出した課題と対象者の思いはどのように違うか</p> <p>第6回：計画の立案 長期目標・短期目標の視点、妥当性 具体的な計画の立て方</p> <p>第7回：実施、評価、展開</p> <p>第8回：事例：グループワーク ロールプレイ演習、情報収集</p> <p>第9回：事例：グループワーク 情報のまとめ</p> <p>第10回：事例：介護過程とチームアプローチ/チームとしての介護過程の展開</p> <p>第11回：事例：解釈・分析（個人）</p> <p>第12回：事例：計画の立案（個人）</p> <p>第13回：事例：ロールプレイ演習、実施、（個人）」</p> <p>第14回：事例：評価</p> <p>第15回：事例：展開</p>

アクティブ ラーニング	講義内で主体的に参加できるよう発問や教材の工夫を行い、学びを深めるようにします。
評価方法	課題レポート 40%、課題提出物 40%、グループワーク参加度 20%
課題に対する フィード バック	講義内でフィードバックを行います。最終課題のフィードバックは書面で行います。
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座第9巻 介護過程』中央法規出版
参考図書	授業中に随時紹介します。
事前・ 事後学修	【事前学習】事前課題を提示致しますので取り組むようにしてください。 また、指定図書の該当項目を熟読してから講義に臨んでください。 【事後学習】講義後、毎回ポイントをまとめてください。(目安時間 40 分)
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。
実務経験に 関する記述	本科目は社会福祉士の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	介護過程Ⅲ
科目責任者	野田由佳里
単位数他	1単位(30時間) 選択 介護 3セメスター
DP番号と科目領域	DP1 専門
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	<p>本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。他の科目で学習した知識や技術を統合して、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。</p> <p>他科目で学んだ知識や技術を統合し、個別の生活課題や潜在能力を引き出すためのアセスメント、自立支援に沿った介護計画の立案、実施、評価までの一連の思考過程を介護実習Ⅱの事例や追体験できる ICF の概念に基づいた介護過程の展開事例を活用し、介護過程の展開方法について理解を深め、さらに、情報の関連図や介護過程の展開ツールを紹介し、利用者の心身の状況に応じた介護過程の実践的展開能力を身につける。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護過程の展開方法について理解を深めることができる。</li> <li>・介護過程の実践的展開能力が身についている。</li> </ul>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：ガイダンス、介護過程の意義と基礎的理解、介護過程の構成要素復習 追体験の目的</p> <p>第2回：アセスメントの実際—テキストの関連図と「介護過程の展開における情報の関連図」</p> <p>第3回：アセスメントの実際—演習／介護実習Ⅱの情報の関連図を描いてみよう。</p> <p>第4回：アセスメントの実際—演習／介護実習Ⅱの情報の関連図の発表</p> <p>第5回：アセスメントの実際—演習／介護実習Ⅱの情報の関連図の文章化</p> <p>第6回：アセスメントの実際—演習／介護実習Ⅱの情報の関連図の文章化発表</p> <p>第7回：介護実習Ⅱの事例検討（情報収集に対する解釈・分析の適切性）</p> <p>第8回：介護実習Ⅱの事例検討（情報収集に対する解釈・分析の適切性）</p> <p>第9回：介護過程とチームアプローチ「介護過程の展開ツール」の紹介</p> <p>第10回：「ICFに基づく介護過程の展開」と「介護過程の展開ツールの比較」</p> <p>第11回：介護過程の展開の理解：実践事例—介護老人保健施設で生活するSさんの事例</p> <p>第12回：介護過程の展開の理解：実践事例—「Sさんの結果に対する評価のありかた」</p> <p>第13回：介護過程の展開の理解：実践事例—障害者支援施設で生活するFさんの事例</p> <p>第14回：介護過程の展開の理解：実践事例—「Fさんの結果に対する評価のありかた」</p> <p>第15回：まとめ</p>

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題を行うことで、主体的な参加を促し、授業内容の理解が進むようポイントを明確にします</li> <li>・事後課題では国試対策を意識して課題に取り組むことで次回以降に向けてのポイントを明確にします</li> </ul>
評価方法	授業への参加態度（10%）振り返りレポート毎回（45%） 定期レポート3回（45% 1回あたり15パーセント）
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回フィードバックをします。課題が目標到達できない場合は再提出をして頂くなど丁寧なフィードバックを心掛けます</li> </ul>
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座第9巻 介護過程』中央法規出版
参考図書	森 繁樹「介護過程の展開」中央法規
事前・ 事後学修	<p>【事前学習】毎回事前課題を提示致しますので25分程度は取り組むようにしてください。また初回授業時に配布する講義予定表を参考に指定図書の該当頁を熟読してから講義に臨んでください。テキストを読んでから授業に臨みましょう。</p> <p>【事後学修】講義後、振り返りレポートを作成して毎回のポイントをまとめてください。 (目安時間40分)</p>
オフィス アワー	社会福祉学部所属の野田由佳里研究室（2706研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	介護過程Ⅳ
科目責任者	野田 由佳里
単位数他	1単位 (30時間) 選択 介護 4 Semester
DP番号と科目領域	DP1 専門
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	<p>本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。他の科目で学習した知識や技術を統合して、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。</p> <p>介護実習で行った介護過程の実践を総合的に評価し、介護福祉士に必要な思考方法及び知識や技術を倫理的かつ包括的に整理し理解したうえで事例研究や発表等を通じて、自己の提供した介護実践（生活支援）の根拠を持って表現する。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護実習で行った受け持ち利用者の介護過程を総合的に捉え、かつ高い倫理観からの視点から評価考察ができる。</li> <li>2. 人間形成過程から保健医療福祉の専門職者として必要な豊かな教養を身につけることができる。</li> <li>3. 自己に対する評価が適切にできる。</li> <li>4. 事例研究や発表体験等を通して、根拠をふまえた報告ができる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回 ガイダンス・ケーススタディとは・・・</p> <p>第2回 介護過程記録用紙と関連図の情報を基に根拠作成</p> <p>第3回 利用の現在、過去、未来全体像をとらえる</p> <p>第4回 実習における介護過程の振り返り：介護過程とチームアプローチ</p> <p>第5回 発表会の持ち方について</p> <p>第6回 ケーススタディの骨格を作成（実習記録の振り返りから情報の根拠）</p> <p>第7回 ケーススタディの骨格を作成（何をして何を学んだか）</p> <p>第8回 ケーススタディの骨格を作成（はじめに）</p> <p>第9回 ケーススタディの骨格を作成（内容の筋書きを作る）</p> <p>第10回 ケーススタディの骨格を作成（構成を考える）</p> <p>第11回 発表会準備（プレゼンテーション作成）</p> <p>第12回 発表会準備（プレゼンテーション・シュミレーション）</p> <p>第13回 介護過程の展開の理解「事例報告会」にて発表 1</p> <p>第14回 介護過程の展開の理解「事例報告会」にて発表 2</p> <p>第15回 指導を受けて修正</p>

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題・事後課題を行うことで、主体的な参加を促し、授業内容の理解が進むようポイントを明確にします</li> <li>・毎回の到達目標やねらいを明確に提示します</li> <li>・ワーキンググループを形成し、学生相互の学び合いを重要視します</li> </ul>
評価方法	<p>ポスター発表課題 (50%)・ケーススタディ (50%)          評価はルーブリックを用いる。ルーブリックの内容は授業中に提示する。</p>
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の課題提出を Moodle 利用し、まとめなどをフィードバックします。課題が目標到達できない場合は再提出をして頂くなど丁寧なフィードバックを心掛けます</li> </ul>
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座第9巻 介護過程』中央法規
参考図書	杉山孝博「イラストでわかる高齢者のからだと病気」中央法規
事前・ 事後学修	<p>【事前学習】毎回事前課題を提示致しますので25分程度は取り組むようにしてください。また初回授業時に配布する講義予定表を参考に指定図書の該当頁を熟読してから講義に臨んでください。テキストを読んでから授業に臨みましょう。</p> <p>【事後学修】講義後、振り返りレポートを作成して毎回のポイントをまとめてください。          (目安時間 40分)</p>
オフィス アワー	社会福祉学部所属の野田由佳里研究室 (2706 研究室) にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	介護過程V
科目責任者	野田 由佳里
単位数他	1単位 (30時間) 選択 介護 5 Semester
DP番号と科目領域	DP1 専門
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。
科目概要	<p>本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。他の科目で学習した知識や技術を統合して、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。</p> <p>本科目では、利用者の個別性を理解し、人生に寄り添った生活支援を行う介護福祉士だから知ることができる「生活することの意味」や「人生の尊さ」「介護福祉士の仕事の魅力」などを、介護過程の実践的展開を通して学ぶ。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人の暮らしは、さまざまな要因が複雑に絡み合って成り立っていることを理解する。</li> <li>2. 介護福祉士としての感性を磨き、人とのかかわりの重要性を理解する。</li> <li>3. 介護過程の実践的展開を通して、生活することの意味、人生の尊さ、介護福祉士としての仕事の魅力を理解し介護観を言語化できる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：ガイダンス 介護過程の復習</p> <p>第2回：介護福祉士の仕事の魅力</p> <p>第3回：介護過程の展開の理解—事例検討1 (精神障害：統合失調症)</p> <p>第4回：介護過程の展開の理解—事例検討1 (GW：疾患の理解)</p> <p>第5回：介護過程の展開の理解—事例検討2 (GW：ロールプレイ準備)</p> <p>第6回：介護過程の展開の理解—事例検討2 (グループワーク)</p> <p>第7回：介護過程の展開の理解—事例検討3 (資料の準備)</p> <p>第8回：介護過程の展開の理解—事例検討3 (発表会)</p> <p>第9回：介護過程の展開の理解—事例検討4 (若年型認知症) (失語症)</p> <p>第10回：介護過程の展開の理解—事例検討4 (GW：疾患の理解)</p> <p>第11回：介護過程の展開の理解—事例検討5 (失語症)</p> <p>第12回：介護過程の展開の理解—事例検討5 (グループワーク)</p> <p>第13回：介護過程の展開の理解—事例検討6 (資料の準備)</p> <p>第14回：介護過程の展開の理解—事例検討6 (発表会)</p> <p>第15回：介護観をまとめる</p>

アクティブ ラーニング	事例検討ではグループワークを行うので、グループ内のディスカッションに積極的に参加すること。
評価方法	レポート 50%、課題提出物 50% レポートはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対する フィード バック	レポート・リアクションペーパーへのコメント・返却
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座第9巻 介護過程』中央法規
参考図書	矢原隆行「よくわかる介護福祉研究入門」保育社 公益社団法人日本介護福祉士会「介護福祉士がすすめる多職種連携」
事前・ 事後学修	【事前学習】シラバスに示した指定図書の該当頁を熟読してから講義に臨むこと。 【事後学習】授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。 (目安時間 40 分)
オフィス アワー	社会福祉学部所属の野田由佳里研究室 (2706 研究室) にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。 (yukari-n@seirei.ac.jp)
実務経験に 関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	コミュニケーション技術 I
科目責任者	井川 淳史
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 介護 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 専門
科目の位置付	様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	<p>介護実践に必要なコミュニケーション能力を養い、利用者・家族とのコミュニケーション技法とチームにおけるコミュニケーションの方法を修得する科目です。さらに、チームと連携をとるための記録方法・報告の方法を修得する。</p> <p>介護を必要とする人とのコミュニケーションの技法を講義と演習を通して体感し、さまざまなコミュニケーション場面に応用できる能力を養います。また、介護におけるチームのコミュニケーションや、記録の意味と方法について事例を通して身につける。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護を必要とする人とのコミュニケーションにおける基本的な姿勢と技法が理解できる。</li> <li>2. 介護におけるチームのコミュニケーション、記録・報告・会議の意義と目的が理解できる。</li> <li>3. 記録の具体的な書き方や留意点が理解できる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：介護を必要とする人とのコミュニケーションとは</p> <p>第 2 回：介護におけるコミュニケーションの意義、目的</p> <p>第 3 回：介護におけるコミュニケーションの役割</p> <p>第 4 回：受容・共感・傾聴</p> <p>第 5 回：利用者・家族との関係づくり</p> <p>第 6 回：介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション</p> <p>第 7 回：利用者・家族とのコミュニケーションの実際</p> <p>第 8 回：利用者の意欲を引き出す技法</p> <p>第 9 回：利用者や家族の意向を引き出す技法</p> <p>第 10 回：介護におけるチームのコミュニケーションや連携</p> <p>第 11 回：介護における記録の意義と目的</p> <p>第 12 回：記録による情報の共有化</p> <p>第 13 回：報告・連絡・相談</p> <p>第 14 回：会議</p> <p>第 15 回：事例による記録の演習</p>

アクティブ ラーニング	グループディスカッション、発表、ロールプレイングを通して双方向授業を実施する。また、リアクションペーパーはMoodleに提出する。
評価方法	レポート 60%、授業態度 30%、課題提出物 10%
課題に対する フィード バック	Moodleに提出されたリアクションペーパーについては、次の授業時冒頭でフィードバックを行うこととする。
指定図書	「最新・介護福祉士養成講座第5巻 コミュニケーション技術」中央法規
参考図書	授業中に随時連絡
事前・ 事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40分) 事後学習：授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。(40分)
オフィス アワー	社会福祉学部所属の井川淳史研究室(1608研究室)にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	コミュニケーション技術Ⅱ
科目責任者	井川 淳史
単位数他	1単位 (30時間) 選択 介護 4 Semester
DP番号と科目領域	DP3 専門
科目の位置付	様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	<p>コミュニケーション機能の障害を抱える利用者の特性に応じたコミュニケーション技術の基本的理論を理解し、技術を習得します。また、対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学ぶ。</p> <p>コミュニケーション機能の障害を抱える利用者の実態、原因や障害症状、生活障害を学び、障害の特性に応じたコミュニケーション実践の理論を学び技術を修得します。さらに、当事者の介護における家族とのコミュニケーションや、介護におけるチームのコミュニケーションについても学ぶ。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 利用者の障害の特性に応じたコミュニケーションや、生活困難や意思疎通の在り方を理解できる。</li> <li>2. 利用者の特性に応じたコミュニケーションの実践が適切に行える基礎知識や技術が身につく。</li> <li>3. 介護における家族とのコミュニケーションや、介護におけるチームのコミュニケーションが理解できる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：ガイダンス、障害の特性に応じたコミュニケーション技法の実際</p> <p>第2回：コミュニケーション機能の障害を抱える利用者との介護</p> <p>第3回：コミュニケーション機能の障害の原因と症状</p> <p>第4回：感覚機能が低下している人とのコミュニケーション</p> <p>第5回：失語症の特性に応じたコミュニケーション</p> <p>第6回：構音障害の特性に応じたコミュニケーション</p> <p>第7回：視力の障害に応じたコミュニケーション</p> <p>第8回：聴力（聞こえ）の障害に応じたコミュニケーション</p> <p>第9回：知的障害の特性に応じたコミュニケーション</p> <p>第10回：精神障害の特性に応じたコミュニケーション</p> <p>第11回：認知症の特性に応じたコミュニケーション</p> <p>第12回：若年性認知症の特性に応じたコミュニケーション</p> <p>第13回：介護における家族とのコミュニケーションの理解</p> <p>第14回：介護におけるチームのコミュニケーションの理解</p> <p>第15回：事例による特性に応じたコミュニケーション演習</p>

アクティブ ラーニング	グループディスカッション、発表、ロールプレイングを通して双方向授業を実施する。また、リアクションペーパーはMoodleに提出する。
評価方法	レポート 60%、授業態度 30%、課題提出物 10%
課題に対する フィード バック	Moodleに提出されたリアクションペーパーについては、次の授業時冒頭でフィードバックを行うこととする。
指定図書	「最新・介護福祉士養成講座第5巻 コミュニケーション技術」中央法規
参考図書	授業中に随時連絡
事前・ 事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40分) 事後学習：授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。(40分)
オフィス アワー	社会福祉学部所属の井川淳史研究室(1608研究室)にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	医療的ケア I
科目責任者	秋山 恵美子
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 介護 4 セメスター
DP 番号と科目領域	DP2 専門
科目の位置付	社会福祉専門職に求められる専門分野の基本的な知識・理論を体系的に修得している。
科目概要	医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する学習とする。福祉の専門職に求められる医療的ケアについて基本的な知識・理論や技能を体系的に学ぶ。本科目では、医療的ケアに関する制度の概要や感染予防、安全管理体制等、医療的ケア実施の基礎を学び、現在社会における諸問題について、その発生原因や経過、その解決の現状について説明することができる。また医療的ケアⅡにつなげる。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療的ケアとはどういうものか説明できる。</li> <li>2. 介護福祉士が「喀痰吸引」や「経管栄養」の医行為の一部を業として行うことができるようになった背景について説明できる。</li> <li>3. 医療的ケアを安全に実施するための医療的ケア実施の基礎について理解できる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>医療的ケア実施の基礎</p> <p>第 1 回：ガイダンス 医療的ケアとは</p> <p>第 2 回：医行為について</p> <p>第 3 回：喀痰吸引等制度（社会福祉士および介護福祉士法の改正）</p> <p>第 4 回：医療的ケアと喀痰吸引等の背景</p> <p>第 5 回：喀痰吸引や経管栄養の安全な実施</p> <p>第 6 回：救急蘇生</p> <p>第 7 回：感染予防</p> <p>第 8 回：介護職の感染予防</p> <p>第 9 回：「清潔保持と感染予防（ガウンテクニック、使い捨て手袋など）」 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">演習</span></p> <p>第 10 回：療養環境の清潔、消毒法／消毒と滅菌</p> <p>第 11 回：身体・精神の健康／健康状態を知る項目／急変状態について</p> <p>第 12 回：「バイタルサインの見方」 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">演習</span></p> <p>第 13 回：呼吸器のしくみ</p> <p>第 14 回：消化器のしくみ</p> <p>第 15 回：医療的ケア実施の基礎について</p>

アクティブ ラーニング	グループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。 リアクションペーパーはmoodleにて提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりとりを紙上で実現する。ラーニングコモンズでの調べ学習と発表を実施する。
評価方法	授業態度 20% 確認小テスト (奇数授業回)・課題提出物 20% 定期試験 60% 演習・レポートで評価するが、ルーブリックは使用しない。
課題に対する フィード バック	moodleにて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	最新・介護福祉士養成講座 12 巻「発達と老化の理解」中央法規出版
参考図書	必要時、適宜紹介する。
事前・ 事後学修	事前学修:当日授業の単元のテキスト部分を熟読する。奇数回の確認小テストの準備をする。(40分) 事後学修:授業で提示したテキストの演習課題をノートにまとめ、疑問点を調べる。(40分)
オフィス アワー	社会福祉学部所属の秋山恵美子研究室 (2611 研究室) にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	医療的ケアⅡ
科目責任者	秋山 恵美子
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 介護 5セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する学習とする。 医療的ケアは、医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。 本科目では、高齢者及び障害児・者の喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）と経管栄養（基礎的知識・実施手順）を修得する。
到達目標	1. 喀痰吸引・経管栄養で使用する器具・機材と保管方法について説明できる。 2. 喀痰吸引（基礎的知識、実施手順）・経管栄養（基礎的知識、実施手順）について説明できる。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）</p> <p>第1回：喀痰吸引とは、人工呼吸器と吸引</p> <p>第2回：子どもの吸引、吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意</p> <p>第3回：呼吸器系の感染と予防（吸引との関連）、急変状態、喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認、急変・事故発生時の対応と事前対策</p> <p>第4回：喀痰吸引器で用いる器具・機材とそのしくみ、清潔保持</p> <p>第5回：吸引の技術と留意点</p> <p>第6回：痰の吸引に伴うケア</p> <p>第7回：報告及び記録</p> <p>経管栄養（基礎的知識・実施手順）</p> <p>第8回：経管栄養法とは</p> <p>第9回：注入する内容に関する知識、経管栄養実施上の留意点</p> <p>第10回：急変・事故発生時の対応と事前対策</p> <p>第11回：子どもの経管栄養、経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意</p> <p>第12回：経管栄養に関する感染と予防、経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認</p> <p>第13回：経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔保持</p> <p>第14回：経管栄養の技術と留意点</p> <p>第15回：経管栄養に必要なケア、報告及び記録</p>

アクティブ ラーニング	グループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。 リアクションペーパーは moodle にて提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりとりを紙上で実現する。ラーニングコモンズでの調べ学習と発表を実施する。
評価方法	授業態度 20% 確認小テスト (奇数授業回)・課題提出物 20% 定期試験 60% 演習・レポートで評価するが、ルーブリックは使用しない。
課題に対する フィード バック	moodle にて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	最新・介護福祉士養成講座 12 巻「発達と老化の理解」中央法規出版
参考図書	必要時、適宜紹介する。
事前・ 事後学修	事前学修: 当日授業の単元のテキスト部分を熟読する。奇数回の確認小テストの準備をする。(40分) 事後学修: 授業で提示したテキストの演習課題をノートにまとめ、疑問点を調べる。(40分)
オフィス アワー	社会福祉学部所属の秋山恵美子研究室 (2611 研究室) にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	医療的ケアⅢ
科目責任者	秋山 恵美子
単位数他	1単位 (30時間) 選択 介護 6セメスター
DP番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する学習とする。 本科目では、高齢者及び障害児・者の喀痰吸引・経管栄養・救急蘇生法（基礎的知識・実施手順）について講義を行ったうえで、シミュレーターを用いた演習を行い、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施するための知識・技術を修得する。
到達目標	1. 喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）を身につける。 2. 経管栄養（基礎的知識・実施手順）を身につける。 3. 救急蘇生法（基礎的知識・実施手順）を身につける。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員&gt;秋山恵美子、高山暢子</p> <p>第1回：喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）基礎理論（喀痰吸引に必要な人体の構造と機能）</p> <p>第2回：喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）基礎理論（急変時の対応）</p> <p>第3回：喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）基礎理論（口腔内および鼻腔内）</p> <p>第4回：喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）基礎理論（気管カニューレ内部）</p> <p>第5回：喀痰吸引のシミュレーターを用いて演習</p> <p>第6回：喀痰吸引のシミュレーターを用いて演習</p> <p>第7回：経管栄養（基礎的知識・実施手順）基礎理論（経管栄養に必要な人体の構造と機能）</p> <p>第8回：経管栄養（基礎的知識・実施手順）基礎理論（急変時の対応）</p> <p>第9回：経管栄養（基礎的知識・実施手順）基礎理論（胃瘻および腸瘻による経管栄養）</p> <p>第10回：経管栄養（基礎的知識・実施手順）基礎理論（経鼻経管栄養）</p> <p>第11回：経管栄養のシミュレーターを用いて演習</p> <p>第12回：経管栄養のシミュレーターを用いて演習</p> <p>第13回：医療的ケア実施の基礎「救急蘇生法」</p> <p>第14回：救急蘇生法をシミュレーターを用いて演習</p> <p>第15回：救急蘇生法をシミュレーターを用いて演習</p>

アクティブ ラーニング	グループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。 リアクションペーパーはmoodleにて提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりとりを紙上で実現する。ラーニングコモンズでの調べ学習と発表を実施する。
評価方法	授業態度 20% 確認小テスト (奇数授業回)・課題提出物 20% 定期試験 60% 演習・レポートで評価するが、ルーブリックは使用しない。
課題に対する フィード バック	moodleにて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	最新・介護福祉士養成講座 12 巻「発達と老化の理解」中央法規出版
参考図書	必要時、適宜紹介する。
事前・ 事後学修	事前学修: 当日授業の単元のテキスト部分を熟読する。奇数回の確認小テストの準備をする。(40分) 事後学修: 授業で提示したテキストの演習課題をノートにまとめ、疑問点を調べる。(40分)
オフィス アワー	社会福祉学部所属の秋山恵美子研究室 (2611 研究室) にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	介護総合演習 I
科目責任者	野田 由佳里
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 介護 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP3 専門
科目の位置付	様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	<p>介護実習 I を開始するに当たって、介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。実習の目的と意義を把握し、実習施設の概要を理解すると共に、自己が行った介護を客観的に振り返り、評価できる能力を高める。</p> <p>実習の目的と意義を把握し、実習施設の概要を理解する。介護実習 I に向けての心構え、予備知識、動機づけの準備を行い、介護実習 I の目的・目標を理解し、目標に向けて達成できるようにする。また、実習内容の知識の確認・実習記録の意義や記入方法について理解する。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習に必要な事前学習ができる。</li> <li>・実習の心構えを述べるができる。</li> <li>・実習の事前準備（記録物、身なりなど）ができる。</li> <li>・実習中の記録の提示、指導を受け入れ、期日までに課題に取り組む姿勢ができる。</li> <li>・実習後の振り返りを行い、改善することができる。</li> </ul>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;野田由佳里</p> <p>第 1 回：オリエンテーション（介護実習の位置づけ I・II・III 段階） 実習要項配布・実習のイメージ DVD・介護総合演習 I の概要説明</p> <p>第 2 回：介護実習の流れの理解 ①実習種別</p> <p>第 3 回：介護実習の流れの理解 ②実習先種別</p> <p>第 4 回：実習の意義・実習目的・目標の理解・グループワークの説明（高齢者の理解）</p> <p>第 5 回：実習先に関する知識面での理解（生活の場の理解・介護老人福祉施設 特別養護老人ホーム）</p> <p>記録練習 1・感性教育 1（季節感を感じよう『季語』）</p> <p>第 6 回：実習先に関する知識面での理解（通所介護）</p> <p>記録練習 2・感性教育 2（クラフト制作・折り紙）</p> <p>第 7 回：実習先に関する知識面での理解（障害者施設）</p> <p>記録練習 3・感性教育 3（高齢者に馴染みのある唱歌）</p> <p>第 8 回：実習先についてのグループ発表・介護実習 I オリエンテーション</p> <p>第 9 回：実習へ向けての準備（個人票・プロフィール作成）</p> <p>第 10 回：介護実習記録の書き方・記録様式及び資料配布</p> <p>第 11 回：配属発表・申し送りノート確認・模擬スーパービジョン</p> <p>第 12 回：計画書の作成</p> <p>第 13 回：身だしなみ、実習における心構え・事前訪問</p> <p>第 14 回：先輩からの応援メッセージ・直前オリエンテーション（実習に必要な技術面の理解度チェック）</p> <p>第 15 回：事後指導 介護実習 I（前半分）終了後のオリエンテーション</p> <p>実習の振り返り/実践を通じた介護の知識や技術の統合化</p>

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題・事後課題を行うことで、主体的な参加を促し、授業内容の理解が進むようポイントを明確にします</li> <li>・毎回の到達目標やねらいを明確に提示します</li> <li>・ワーキンググループを形成し、学生相互の学び合いを重要視します</li> </ul>
評価方法	振り返りレポートによる評価（40%）、課題・提出物による評価（60%）
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の課題提出を Moodle 利用し、まとめなどのフィードバックをします。課題が目標到達できない場合は再提出をして頂くなど丁寧なフィードバックを心掛けます</li> </ul>
指定図書	「最新・介護福祉士養成講座第 10 巻 介護総合演習・介護実習」中央法規出版
参考図書	後藤真澄「介護実習に役立つコミュニケーションの良い例・悪い例」中央法規
事前・ 事後学修	<p>【事前学習】グループワーク発表に必要な内容について調べ学習を 40 分程度行う。提出物については計画的に準備を行う。</p> <p>【事後学習】グループワーク後の振り返りを行う。</p>
オフィス アワー	社会福祉学部所属の野田由佳里研究室（2706 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	介護総合演習Ⅱ
科目責任者	井川 淳史
単位数他	1単位(30時間)選択 介護 2 Semester
DP番号と科目領域	DP3 専門
科目の位置付	様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。
科目概要	<p>介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、個別的な生活支援を展開する介護過程という援助手法に基づいた実習体験をもとに介護福祉専門性を求めることを目的としています。</p> <p>介護実習Ⅰ(前半)の振り返りと、介護実習Ⅰ(後半)にむけての準備の授業となります。目標の達成の計画を立て、実習を有意義に行うため、実習に対する心構えや実習生としてのあり方について学ぶ。知識と技術の統合や介護過程の展開の能力等について介護実践の科学的探究を行います。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習に必要な事前学習ができる。</li> <li>・実習の心構えを述べるができる。</li> <li>・実習前の準備(記録物、身なりなど)を行い、知識と技術の統合ができる。</li> <li>・実習中の記録の提示、指導を受け入れ、期日までに課題に取り組む姿勢ができる。</li> <li>・実習後の振り返りを行い、改善することができる。</li> <li>・実習を通して、介護実践の科学的探究ができる。</li> </ul>
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt;井川 淳史 &lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション・申し送りノート作成・実習報告会説明</p> <p>第2回：実習報告会(介護実習Ⅰ前半)準備</p> <p>第3回：実習報告会(介護実習Ⅰ前半)</p> <p>第4回：実習報告会(介護実習Ⅰ前半)</p> <p>第5回：実習目的・目標の理解 *申し送りノート及び実習日誌提出 グループワークの説明(実習先・ロールクラフト)</p> <p>第6回：実習先の理解(生活の場の理解・有料老人ホーム) 実習施設に関する事前学習(知識と技術の統合)</p> <p>第7回：実習先の理解(訪問介護) 感性教育(クラフト制作・ロールクラフト)</p> <p>第8回：実習先についてのグループ発表 実習に必要な事前学習(介護実践の科学的探究)</p> <p>第9回：実習へ向けての準備(個人票・プロフィール作成)</p> <p>第10回：介護実習記録の書き方&lt;良い記録&gt;記録様式及び資料配布</p> <p>第11回：配属発表・申し送りノート確認・スーパービジョン</p> <p>第12回：計画書の作成</p> <p>第13回：身だしなみ、実習における心構え・事前訪問</p> <p>第14回：直前オリエンテーション</p> <p>第15回：事後指導</p>

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題・事後課題を行うことで、主体的な参加を促し、授業内容の理解が進むようポイントを明確にします</li> <li>・毎回の到達目標やねらいを明確に提示します</li> <li>・ワーキンググループを形成し、学生相互の学び合いを重要視します</li> </ul>
評価方法	振り返りレポートによる評価（40%）、課題・提出物による評価（60%）
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の課題提出を Moodle 利用し、まとめなどのフィードバックをします。課題が目標到達できない場合は再提出をして頂くなど丁寧なフィードバックを心掛けます</li> </ul>
指定図書	「最新・介護福祉士養成講座第 10 巻 介護総合演習・介護実習」中央法規出版
参考図書	なし
事前・ 事後学修	<p>【事前学習】グループワーク発表に必要な内容について調べ学習を 40 分程度行う。提出物については計画的に準備を行う。</p> <p>【事後学習】グループワーク後の振り返りを行う。</p>
オフィス アワー	社会福祉学部所属の井川淳史研究室（1608 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	介護総合演習Ⅲ
科目責任者	秋山 恵美子
単位数他	1単位(30時間)選択 介護 3セメスター
DP番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	<p>介護実習Ⅰの振り返りと介護実習Ⅱに向けて、介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。</p> <p>実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーションを行う。実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の理解ができる。</p> <p>介護実習Ⅰ(後半)の振り返りと介護実習Ⅱの目標に沿った事前学習・実習中の指導・実習後のまとめ方を学ぶ。</p> <p>介護実習Ⅱにおいて、これまで学んだ学内の学びの知識と技術を統合し、介護過程を通し介護場面に適応できる柔軟性や応用力、介護実践の科学的探究能力を養う。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護実習Ⅰ(後半)後の振り返りを行い、改善し目標の達成を自ら評価することができる。</li> <li>・介護実習Ⅰ(後半)で培った学びを具体的に表現し共有することができる。</li> <li>・介護実習Ⅱの教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーションを行い、実習に必要な知識や技術、介護過程の基礎の理解ができる。</li> <li>・他科目で学習した知識や技術を統合し、具体的な介護サービスの提供の基本となる介護実践の科学的探究力を習得することができる。</li> </ul>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション・申し送りノート作成・実習報告会説明</p> <p>第2回：学びの共有・実習報告会準備</p> <p>第3回：実習報告会(介護実習Ⅰ後半)</p> <p>第4回：実習報告会(介護実習Ⅰ後半)</p> <p>第5回：実習目的・目標の理解 *申し送りノート及び実習日誌提出 グループワークの説明(実習先・レクリエーション)</p> <p>第6回：実習先の理解(生活の場の理解・老人保健施設) 利用者の日内変動①身体面 ②精神面</p> <p>第7回：実習先の理解(生活の場の理解・障害者施設)</p> <p>第8回：実習へ向けての準備により、知識と技術の統合を図る(個人票・プロフィール作成)・記録様式及び資料配布</p> <p>第9回：配属発表・申し送りノート確認・スーパービジョン 実習先についてのグループ発表・介護実習に必要な知識の確認</p> <p>第10回：計画書の作成・介護過程の展開様式確認 身だしなみ、実習における心構え・事前訪問</p> <p>第11回：ICF視点の生活支援技術の基礎復習及び確認①移動・居住環境②排泄入浴食事</p> <p>第12回：直前オリエンテーション 変則勤務が影響を及ぼす介護従事者の健康 ①身体面 ②精神面</p> <p>第13回：介護実習Ⅱの帰校日指導 第1回目 (主に記録の指導)</p> <p>第14回：介護実習Ⅱの帰校日指導 第2回目 (プロセスレコード検討会)</p> <p>第15回：事後指導 介護過程の振り返りにより、介護実践の科学的探究を図る ①自己ケース ②モデルケース</p>

アクティブ ラーニング	グループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。 リアクションペーパーは moodle にて提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりとりを紙上で実現する。
評価方法	振り返りレポートによる評価（40%）、課題・提出物による評価（60%）
課題に対する フィード バック	moodle にて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	「最新・介護福祉士養成講座第 10 巻 介護総合演習・介護実習」中央法規出版
参考図書	必要時、適宜紹介する。
事前・ 事後学修	事前学習:グループワーク発表に必要な内容について調べ学習を 40 分程度行う。提出物については計画的に準備を行う。 事後学習:グループワーク後の振り返りを行う。
オフィス アワー	社会福祉学部所属の秋山恵美子研究室（2611 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「看護師」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	介護総合演習Ⅳ
科目責任者	井川 淳史
単位数他	1単位 (30時間) 選択 介護 4セメスター
DP番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	介護実習Ⅱの振り返りと介護実習Ⅲの教育効果を上げるための科目である。また、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習としています。 実習の意義を理解した上で、実習先施設の特徴、および機能に応じた介護実践ができる知識と技術を統合することに重点を置いています。実習の目的を達成するため介護実践の科学的探究を行い、受容的・共感的な態度で対人関係を形成し、利用者理解に重点を置いた授業となります。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護実習Ⅰ、Ⅱの振り返り、自己評価を踏まえまとめ発表することができる。</li> <li>2. 介護実習Ⅲにむけて、介護実習前の介護技術の確認や施設等の理解を深める。</li> <li>3. 授業で習得した介護過程の展開の理解を実習の利用者に提供できる能力を身につける。</li> <li>4. 他科目で学習した知識や技術を統合し、実習で体得した知識や技術を統合した具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得することができる。</li> <li>5. 実習後の振り返りを行い、介護実践の科学的探究ができる。</li> <li>6. 介護実習全体の目標達成度を自ら評価することができる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション・申し送りノート作成・実習報告会説明</p> <p>第2回：学びの共有・実習報告会準備</p> <p>第3回：実習報告会</p> <p>第4回：実習報告会</p> <p>第5回：実習目的・目標の理解 *申し送りノート及び実習日誌提出 グループワークの説明〈身体拘束・レクリエーション〉</p> <p>第6回：利用者の理解①（「私の利用者」介護過程の展開相互チェック） 感性教育1〈季節感を感じよう『詩 冬』〉</p> <p>第7回：利用者の理解②（「私の利用者」介護過程の展開相互チェック） 感性教育2〈クラフト制作 ステンドグラス〉</p> <p>第8回：実習へ向けての準備（個人票・プロフィール作成）・記録様式及び資料配布</p> <p>第9回：配属発表・申し送りノート確認・スーパービジョン レクリエーションのグループ発表</p> <p>第10回：計画書の作成・介護過程の展開様式確認 身だしなみ、実習における心構え・事前訪問</p> <p>第11回：ICF視点の生活支援技術の応用実践</p> <p>第12回：直前オリエンテーション</p> <p>第13回：介護実習Ⅲの帰校日指導 第1回目（アセスメント指導）</p> <p>第14回：介護実習Ⅲの帰校日指導 第2回目（介護過程の展開指導）</p> <p>第15回：事後指導・総合的な介護福祉サービスの理解（介護実践の科学的探究）</p>

アクティブ ラーニング	グループディスカッション、発表、ロールプレイングを通して双方向授業を実施する。
評価方法	振り返りレポートによる評価（40%）、課題・提出物による評価（60%） レポートは、ルーブリックを用いて評価する。ルーブリック内容は授業中に配布資料等によって提示する。 【備考】本教科は介護福祉士受験資格取得に必要とされ、最終実習に向けての準備科目です。したがって、特に授業態度及び課題提出物を重視します。
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーについては、次の授業時冒頭でフィードバックを行うこととする。
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習』中央法規出版
参考図書	なし
事前・ 事後学修	事前学修：グループワーク発表に必要な内容について調べ、提出物作成は計画的に準備を行う。 （40分） 事後学修：グループワーク後の振り返りを行う。（40分）
オフィス アワー	社会福祉学部所属の井川淳史研究室（1608 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	介護実習 I
科目責任者	野田由佳里
単位数他	2単位 (90 時間) 選択 介護 1 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	<p>地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する学習とする。</p> <p>介護実習は学内で学んだ生活支援技術・基礎的な知識を統合させる場である。介護実習 I では多様な生活の場の理解、基礎的な生活支援技術とコミュニケーションに重点をおいた実習を行う。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践ができ、人間関係の形成が図ることができる。</li> <li>2. 利用者の生活の場の多様性を理解し、多職種協働の実践の重要性を理解できる</li> <li>3. 介護を必要とする利用者の個別的な支援を理解し、基本的な生活支援技術について指導を受けながら実践できる。</li> <li>4. 介護福祉士の職業倫理について理解できる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt; 野田由佳里、秋山恵美子</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>(1) 実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① コミュニケーションが比較的容易な利用者との関わりを通して自己を振り返り、自己覚知を高める。</li> <li>② 利用者のニーズと介護の機能、介護職員の役割について学ぶ。</li> <li>③ 個々の生活リズムや個性を理解するという観点から、様々な生活の場における個別ケアについて学ぶ。</li> <li>④ 老人福祉施設・障害者施設・訪問介護事業所・通所介護事業所などさまざまな生活の場における介護実践について学ぶ。</li> <li>⑤ 介護過程の実践的展開の基礎となる知識を学ぶ。</li> <li>⑥ 地域における生活支援の実践について学ぶ。</li> </ol> <p>(2) 実習時期</p> <p>第1セメスター (1年次) 8月～9月の中で12日間</p> <p>(介護実習 I ①:前半分)</p> <p>学生はグループに分かれて、老人福祉施設実習で5日間、障害者支援施設で1日間実施。</p> <p>(介護実習 I ②:後半分)</p> <p>学生はグループに分かれて、有料老人ホームで5日間、訪問介護事業所で1日間実施。</p>

アクティブ ラーニング	実習科目です。
評価方法	実習評価表 70%、実習記録 30%
課題に対する フィード バック	実習中はスーパービジョンならびに実習巡回時に、実習後は担当教員との面談時に、課題に対するフィードバックを行う。
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座第 10 巻 介護総合演習・介護実習』中央法規出版
参考図書	なし
事前・ 事後学修	事前学習：実習前に、介護総合演習、生活支援技術で学修した内容を復習しておく（60 分） 事後学習：所定の様式をすべてまとめる。介護総合演習の授業と連動させ、実習中に学んだことの復習を行う（60 分）
オフィス アワー	社会福祉学部所属の野田由佳里研究室（2706 研究室）、秋山恵美子研究室（2611 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、介護総合演習 I の初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	介護実習Ⅱ
科目責任者	野田由佳里
単位数他	4単位（180時間）選択 介護 2セメスター
DP番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	<p>本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。</p> <p>障害者または高齢者の施設において、担当利用者に対する介護過程の展開を行う。学習した知識や技術を統合して利用者の全体像を捉え、課題を明確にし、個別介護計画を立案する。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設の社会的役割について理解し、職員（介護職、その他の職種）との連携の必要性とその方法を理解できる。</li> <li>2. 生活支援技術の適正に用いることができる。</li> <li>3. 利用者とのコミュニケーションを通して、利用者の生活全体に即した介護のニーズを把握し、個別介護計画を立案できる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt; 野田由佳里、井川淳史</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>(1) 実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 障害者または高齢者の施設において、障害レベルに応じて求められる生活支援技術の適切な使い方について学ぶ。</li> <li>② 個々の生活リズムや特性を理解し、適切な情報収集、課題分析について学ぶ。そのうえで、担当利用者の介護計画を立案し、介護過程の実践的展開について学ぶ。</li> <li>③ 多職種協働の実践について学ぶ。</li> </ol> <p>(2) 実習時期</p> <p>第2セメスター（1年次）2月～3月の中で23日間（4週間）</p>

アクティブ ラーニング	実習科目です。
評価方法	実習評価表 70%、実習記録 30%
課題に対する フィード バック	実習中はスーパービジョンならびに実習巡回時に、実習後は担当教員との面談時に、課題に対するフィードバックを行う。
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座第 10 巻 介護総合演習・介護実習』中央法規出版
参考図書	なし
事前・ 事後学修	事前学習：実習前に、介護総合演習、生活支援技術で学修した内容を復習しておく（60 分） 事後学習：所定の様式をすべてまとめる。介護総合演習の授業と連動させ、実習中に学んだことの復習を行う（60 分）
オフィス アワー	社会福祉学部所属の野田由佳里研究室（2706 研究室）、井川淳史研究室（1608 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、介護総合演習Ⅱの初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	介護実習Ⅲ
科目責任者	野田由佳里
単位数他	4単位（180時間）選択 介護 3セメスター
DP番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。 介護の実体験を通して、学内で学んだ知識・技術・の統合を図る。スーパービジョンを受けながら担当利用者の介護過程の展開を行う。また、介護福祉士としての職業倫理を身につけ専門職者としての自己の介護観・死生観を確立する学習とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 利用者のニーズに応じた介護過程の展開ができる。</li> <li>2. 福祉サービス全体の理解を深め、チームの一員として介護を遂行できる。</li> <li>3. 利用者の能力を引き出し、個々の状態に応じた生活支援を展開できる。</li> <li>4. 多職種連携について理解できる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt; 野田由佳里、井川淳史</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 施設運営のプログラムに参加し、サービス全般の理解を深める。</li> <li>② 介護計画の立案→実践→評価→再計画という個別介護の一連の介護過程の展開を学ぶ。</li> <li>③ 個々の生活リズムや特性を理解し、適切な情報収集、課題分析について学ぶ。そのうえで、担当利用者の介護計画を立案し、介護過程の実践的展開について学ぶ。</li> <li>④ 介護過程の展開を通して、多職種協働の実践について学ぶ。</li> <li>⑤ 介護過程の展開を通して、地域における生活支援の実践について学ぶ。</li> </ol>

アクティブ ラーニング	実習科目です。
評価方法	実習要綱に記載された評価基準に基づいて評価を行う。
課題に対する フィード バック	実習中はスーパービジョンならびに実習巡回時に、実習後は担当教員との面談時に、課題に対するフィードバックを行う。
指定図書	『最新・介護福祉士養成講座第10巻 介護総合演習・介護実習』中央法規出版
参考図書	なし
事前・ 事後学修	事前学習：実習前に、介護総合演習、生活支援技術で学修した内容を復習しておく（60分） 事後学習：所定の様式をすべてまとめる。介護総合演習の授業と連動させ、実習中に学んだことの復習を行う（60分）
オフィス アワー	社会福祉学部所属の野田由佳里研究室（2706研究室）、秋山恵美子研究室（2611研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、介護総合演習Ⅲの初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	ソーシャルワーク演習 I	※介護福祉学科
科目責任者	落合 克能	
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 介護 2セメスター	
DP 番号と科目領域	DP3 専門	
科目の位置付	様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。	
科目概要	<p>社会福祉士及び介護福祉士としての実践の基礎となる人間および人間の関係性に関する理解を深め、対人援助を行う際の人間関係の形成に必要なコミュニケーションに関する基礎的知識と技術を、個別指導並びに集団指導を通して身につける。</p> <p>具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とした演習形式により、心理学的支援の視点を踏まえた実践に必要な人間の理解（自己覚知と他者理解）や、他者との情報伝達に必要な基礎的なコミュニケーション能力を養い、相談援助技術の土台となる基本的なコミュニケーション技術の修得を図る。</p>	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・援助の専門家になるためには「自己覚知」「他者理解」といった人間理解、コミュニケーションの基礎となる人間の関係性を理解する必要があることを説明でき、その探求を行う姿勢を身に付ける。</li> <li>・非言語コミュニケーションと言語コミュニケーションの内容と技法を学び、人間関係の形成とコミュニケーションの基礎に関する知識、技術を修得する。</li> </ul>	
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt; 落合克能、横尾恵美子</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>1回 オリエンテーション、グループ分けの発表、グループ作りのゲームやバズセッション、自己紹介 他己紹介</p> <p>2回 初めての人と会う時の「自分」理解——アイコンタクト・表情・姿勢についての自己分析</p> <p>3回 自己理解と他者理解① エゴグラム等心理性格テストによる自己理解</p> <p>4回 自己理解と他者理解② ジョハリの窓、自分イメージ、ジェノグラム・ファミリーマップ・エコマップ</p> <p>5回 自己理解と他者理解③ 食べさせられる体験、聞こえない体験</p> <p>6回 自己理解と他者理解④ 話せない体験、見えない体験</p> <p>7回 自己理解と他者理解⑤ 車いす体験、高齢者体験、振り返り</p> <p>8回 コミュニケーションの基礎① 対人援助に必要な人間の関係性とコミュニケーション機能の理解、ラポール確立のための面接者の態度；視線、姿勢、癖、空間、表情、スピード等（ビデオ）</p> <p>9回 コミュニケーションの基礎② ノンバーバルコミュニケーションの点検と実際；自分のノンバーバルコミュニケーションの点検</p> <p>10回 コミュニケーションの基礎③ 対人援助における人間関係の形成とコミュニケーションの基礎、面接におけるラポールと傾聴の重要性（ビデオ）</p> <p>11回 コミュニケーションの基礎④ 日常会話と面接場面でのバーバルコミュニケーションの実際</p> <p>12回 コミュニケーション技法と面接の基礎① 促しの技法、繰返しの技法、要約の技法、</p> <p>13回 コミュニケーション技法と面接の基礎② 共感の技法、開いた質問、閉じた質問、対決の技法、沈黙の技法</p> <p>14回 コミュニケーション技法と面接の基礎③ ロールプレイ</p> <p>15回 まとめ</p>	

アクティブ ラーニング	毎回、グループディスカッションやロールプレイを用いた演習を行います。課題提出などは、Moodle を活用します。
評価方法	授業への取組姿勢（小レポート等の内容等含む）50%、定期試験（レポート）50%として評価します。授業はグループ学習が中心とした形態になるため、取組の姿勢では、単に出席するだけではなく、積極的にグループに参加する姿勢などを評価します。 ※定期試験レポートは、ルーブリックを用いて評価します。
課題に対する フィード バック	①演習グループに教員が随時関与しフィードバックを行います。 ②リアクションペーパー・事後学習課題は全体場でフィードバックを行います。 ③個別に質問がある場合は、オフィスアワーで対応します。
指定図書	授業ごとに教員作成の資料等を配布します。ビデオ教材を使用し（視聴していただき）ます。
参考図書	『対人援助のための相談面接技術—逐語で学ぶ21の技法』中央法規2008
事前・ 事後学修	【事前学修】専門職として、対象者とコミュニケーションを図る上で必要な視点および対象者を理解する上で、自己理解が必要となる理由について考えてきてください。（20分） 【事後学修】課題やリアクションを期日までにMoodleに入力してください（20分）
オフィスア ワー	社会福祉学部所属の落合研究室（2613 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。場所と時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は、社会福祉法人が経営する社会福祉事業における実務経験、また、成年後見人等のフィールドソーシャルワークの実務経験を有する講師(社会福祉士)が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅱ	※介護福祉学科
科目責任者	落合 克能	
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 介護 3セメスター	
DP 番号と科目領域	DP3 専門	
科目の位置付	様々な価値観を持つ人々を理解・受容できる対人関係力と論理的表現力を身につけている。	
科目概要	ソーシャルワークにかかわる他の科目との関連性を反映させながら、ソーシャルワーカーに求められる知識と技術について実践的に習得することを目的とする。具体的な支援場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とした演習形式により、基本的な面接技法を習得するために、「価値」と「面接におけるコミュニケーション」の2つの内容に焦点化する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己覚知の必要性を理解し、それを深める。</li> <li>2. 受容的・共感的態度をもって、対人関係を形成できるようにする。</li> <li>3. 相談援助における価値と倫理について理解を深める。</li> </ol>	
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt; 落合克能、横尾恵美子</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：社会福祉専門職の価値 ①（価値と倫理）</p> <p>第3回：社会福祉専門職の価値 ②（社会正義）</p> <p>第4回：社会福祉専門職の価値 ③（社会公正）</p> <p>第5回：自他の価値 ①（価値と価値観）</p> <p>第6回：自他の価値 ②（個人的価値と社会的価値）</p> <p>第7回：自他の価値 ③（価値の形成）</p> <p>第8回：自他の価値 ④（価値の変位）</p> <p>第9回：自他の価値 ⑤（価値の定着）</p> <p>第10回：面接におけるコミュニケーション ①（援助者の基本姿勢と原則）</p> <p>第11回：面接におけるコミュニケーション ②（基本的コミュニケーション）</p> <p>第12回：面接におけるコミュニケーション ③（基本的応答技法とその活用）</p> <p>第13回：面接におけるコミュニケーション ④（傾聴・共感・指示・焦点化）</p> <p>第14回：面接におけるコミュニケーション ⑤（対象者の意味世界を捉える）</p> <p>第15回：まとめ</p>	

アクティブ ラーニング	毎回、グループディスカッションやロールプレイを用いた演習を行います。課題提出などは、Moodle を活用します。
評価方法	授業への取り組み姿勢：30%、前半レポート：40%、後半レポート：30%として評価します。授業はグループ学習を中心とした形態になります。したがって、取組の姿勢では、単に出席するだけではなく、積極的にグループに参加する姿勢などを評価します。 ※定期試験レポートは、ルーブリックを用いて評価します。
課題に対する フィード バック	①演習グループに教員が随時関与しフィードバックを行います。 ②リアクションペーパー・事後学習課題は全体場でフィードバックを行います。 ③個別に質問がある場合は、オフィスアワーで対応します。
指定図書	『シリーズ 社会福祉の視座 ソーシャルワークへの招待』ミネルヴァ書房 2017
参考図書	授業の際に配布します。
事前・ 事後学修	【事前学修】次回演習への準備をして頂きます。(20分) 【事後学修】課題や授業へのリアクションを期日までにMoodleに入力して頂きます。(20分)
オフィス アワー	自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。場所と時間については、各担当教員の初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は、社会福祉法人が経営する社会福祉事業における実務経験、また、成年後見人等のフィールドソーシャルワークの実務経験を有する講師(社会福祉士)が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅲ	※介護福祉学科
科目責任者	落合 克能	
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 介護 4 セメスター	
DP 番号と 科目領域	DP4 専門	
科目の 位置付	自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。	
科目概要	<p>本科目では、ソーシャルワークにかかわる他の科目との関連性を反映させながら、ソーシャルワーカーに求められる知識と技術について、実践的に習得することを目的とする。そのために、具体的な支援場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とした演習形式により、ソーシャルワークにおけるケアマネジメントの手法（インテークからアセスメント）を、様々な事例を用い理解・習得する。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者、児童、障がい、低所得、社会的排除など、危機状態にある事例をとおして相談援助の実際を理解する</li> <li>2. 上記の事例をもとに、相談援助の過程、特にインテークからアセスメントまでの意義・目的・方法・留意点等について理解する</li> </ol>	
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt; 落合克能、横尾恵美子</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：オリエンテーション（授業の目的・授業計画・授業方法の説明） 面接技法の復習（促し、繰り返し、要約、解釈、共感等）</p> <p>第 2 回：社会的排除にかかわる事例の理解</p> <p>第 3 回：高齢者にかかわる事例① 事例の理解</p> <p>第 4 回：高齢者にかかわる事例② インテーク面接</p> <p>第 5 回：高齢者にかかわる事例③ アセスメント</p> <p>第 6 回：高齢者にかかわる事例④ まとめ</p> <p>第 7 回：低所得者・知的障害にかかわる事例① 事例の理解</p> <p>第 8 回：低所得者・知的障害にかかわる事例② インテーク面接</p> <p>第 9 回：低所得者・知的障害にかかわる事例③ アセスメント</p> <p>第 10 回：低所得者・知的障害④ まとめ</p> <p>第 11 回：児童にかかわる事例① 事例の理解</p> <p>第 12 回：児童にかかわる事例② インテーク面接</p> <p>第 13 回：児童にかかわる事例③ アセスメント</p> <p>第 14 回：児童にかかわる事例④ まとめ</p> <p>第 15 回：全体のまとめ</p>	

アクティブ ラーニング	毎回、グループディスカッションを行います。 第4回、第8回、第12回ではロールプレイングやワークシートを使用します。 課題提出などは、Moodleを活用します。
評価方法	授業への取り組み姿勢50%、定期試験（レポート）50%として評価します。授業はグループ学習を中心とした形態になる。したがって、取組の姿勢では、単に出席するだけでなく、積極的にグループに参加する姿勢などを評価します。 ※定期試験レポートは、ルーブリックを用いて評価します。
課題に対する フィード バック	①演習グループに教員が随時関与しフィードバックを行います。 ②Moodleへのリアクション・事後学修課題は全体場でフィードバックを行います。 ③個別に質問がある場合は、オフィスアワーで対応します。
指定図書	授業ごとに教員作成の資料等を配布します。ビデオ教材を使用し（視聴していただき）ます。
参考図書	『対人援助のための相談面接技術—逐語で学ぶ21の技法』中央法規2008 『シリーズ 社会福祉の視座 ソーシャルワークへの招待』ミネルヴァ書房2017
事前・ 事後学修	【事前学修】次回の事前学修課題を期日までにMoodleに入力して下さい。 【事後学修】当回事後学修課題を期日までにMoodleに入力して下さい。 (目安時間40分)
オフィス アワー	自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。場所と時間については、各担当教員の初回授業時に提示します。事前にメールで連絡をしてください。
実務経験に 関する記述	本科目は、社会福祉法人が経営する社会福祉事業における実務経験、また、成年後見人等のフィールドソーシャルワークの実務経験を有する講師(社会福祉士)が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅳ	※介護福祉学科
科目責任者	落合 克能	
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 介護 5 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP5 専門	
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。	
科目概要	本科目は、ケースマネジメント実践関連知識・技術（支援サイクル、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発）について、他の関連科目との関係性を含め実践的に習得することを目的としている。総合的かつ包括的な援助にかかわる相談援助事例を体系的に学ぶために、実践場面を想定した実技指導を中心に個別指導並びに集団指導を展開する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 個人や家族を対象とした相談援助の実際について理解を深め、対象に合わせてさまざまな関連施策を適用できる。</li> <li>2. 事例をもとにアセスメントから評価まで、できる力を養う。</li> <li>3. グループ討議を通じて、自分の役割を把握し、的確にその役割を果たすことができる。</li> </ol>	
授業計画	<p>&lt;担当教員名&gt; 落合克能、横尾恵美子</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：オリエンテーション（授業の目的・授業計画・授業方法の説明）</p> <p>第 2 回：事例研究①－支援計画①  (② 役割の決定 ②事例の理解 ③何を聴くかの整理・面接の準備)</p> <p>第 3 回：事例研究①－支援計画②  (② 模擬面接（援助計画作成のための面接）②不足情報の収集)</p> <p>第 4 回：事例研究①－支援計画③（援助計画の策定：本人・環境のニーズの整理）</p> <p>第 5 回：事例研究①－支援計画④（援助計画の策定）：ニーズと社会資源のマッチング）</p> <p>第 6 回：事例研究①－支援計画⑤（援助計画の策定）：まとめ</p> <p>第 7 回：事例研究①－支援計画⑥（①事例の発表 ②ロールプレイの実施）</p> <p>第 8 回：事例研究①のまとめ</p> <p>第 9 回：事例研究②－①（事例研究①で作成した支援計画からその後の大まかな展開を検討する）</p> <p>第 10 回：事例研究②－②（「支援の実施」→「支援の実施の結果」までの詳細な物語を創る）</p> <p>第 11 回：事例研究②－③「支援の実施の結果」→「モニタリング」までの物語を創る）</p> <p>第 12 回：事例研究②－④発表会にむけてこれまで作成してきた物語の提示の仕方などを検討し、準備を整える：①発表会に向けての役割分担 ②発表の予行演習</p> <p>第 13～14 回：発表会</p> <p>第 15 回：効果測定、終結、アフターケアに関する解説およびまとめ</p>	

アクティブ ラーニング	毎回、グループディスカッションやロールプレイを用いた演習を行います。課題提出などは、Moodle を活用します。
評価方法	授業への取組姿勢 50%、定期試験（レポート） 50%として評価する。授業はグループ学習が中心とした形態になるため、取組の姿勢では、単に出席するだけではなく、積極的にグループに参加する姿勢などを評価します。 ※定期試験レポートは、ルーブリックを用いて評価します。
課題に対する フィード バック	①演習グループに教員が随時関与しフィードバックを行います。 ②リアクションペーパー・事後学習課題は全体場でフィードバックを行います。 ③個別に質問がある場合は、オフィスアワーで対応します。
指定図書	授業ごとに教員作成の資料等を配布します。
参考図書	『高齢者援助における相談面接の理論と実際 第2版』医歯薬出版 2011
事前・ 事後学修	【事前学修】各回の授業で達成課題を提示します。ソーシャルワーク論で使用した（いる）テキストなどを用いてあらかじめ必要な知識を復習したり、授業時間内で達成できない場合には、次回の授業までに授業時間外で自主的に集まり、課題を達成しておくことが必要となります。 【事後学修】上記の事前学修同様であり、事前事後学修は一体的となる。（各 20 分）
オフィスア ワー	社会福祉学部所属の落合研究室（2613 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。場所と時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は、社会福祉法人が経営する社会福祉事業における実務経験、また、成年後見人等のフィールドソーシャルワークの実務経験を有する講師(社会福祉士)が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅴ	※介護福祉学科
科目責任者	落合 克能	
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 介護 6セメスター	
DP 番号と科目領域	DP7 専門	
科目の位置付	社会福祉に関する地域社会および国際社会のニーズを捉え、社会福祉専門職として貢献し、自己研鑽することができる。	
科目概要	ソーシャルワークにかかわる他の科目との関連性を反映させながら、ソーシャルワーカーに求められる知識と技術について、実践的に習得することを目的としている。具体的な支援場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とした演習形式により、ソーシャルワークにおける地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用し実技指導を行う。	
到達目標	福祉に関する地域社会のニーズや背景を論理的に把握し、専門職として貢献することができる実践力を身につけるために以下の到達目標を上げる。 1. 地域福祉の援助技術の概要を理解する。 2. 地域・コミュニティ、住民の意味を理解する。 3. コミュニティワーク、コミュニティソーシャルワークの方法として、住民ニーズの把握方法、住民参加の促進方法、社会資源の活用・開発、要援護者に関する情報収集、アウトリーチ、ネットワークづくりについて理解し、技術を修得する。	
授業計画	<p>&lt;担当教員&gt; 落合克能、横尾恵美子</p> <p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：オリエンテーション（授業の目的・授業計画・授業方法の説明） 実習中に体験した「地域との関わり」</p> <p>第 2 回： 地域を知る①</p> <p>第 3 回： 住民を知る②</p> <p>第 4 回： 地域住民のニーズを知る</p> <p>第 5 回： 地域課題解決のためのプログラム案（社会資源開発）検討</p> <p>第 6 回： 地域課題解決のためのプログラム案（社会資源開発）検討</p> <p>第 7 回： 地域課題解決のためのプログラム案（社会資源開発）発表</p> <p>第 8 回： 前半振り返り</p> <p>第 9 回： 個別ニーズを把握する</p> <p>第 10 回： 個別相談をアセスメントする</p> <p>第 11 回： 個別相談をアセスメントする</p> <p>第 12 回： 個別支援計画を策定する</p> <p>第 13 回： 個別支援計画を策定する</p> <p>第 14 回： 地域における展開を考える</p> <p>第 15 回： まとめ</p>	

アクティブ ラーニング	毎回、グループディスカッション等による演習形式の授業を行います。
評価方法	授業への取組姿勢 30%、事前課題 20%、定期試験（レポート） 50%として評価します。 レポートについてはルーブリックを用いて評価する。ルーブリックの内容は授業中に提示する。
課題に対する フィード バック	①演習グループに教員が随時関与しフィードバックを行います。 ②グループワークで取組んだ課題、リアクションペーパーに対するフィードバックを行います。 ③個別に質問がある場合は、オフィスアワーで対応します。
指定図書	授業ごとに教員作成の資料等を配布します。ビデオ教材を使用し（視聴していただき）ます。
参考図書	筒井のり子著『ワークブック社会福祉援助技術演習⑤コミュニティソーシャルワーク』ミネル ヴァ書房
事前・ 事後学修	【事前学修】地域福祉論 I・II の内容、特に地域福祉の実践例や推進方法について、復習をし ておくこと。また、地域住民の一人として、自分や家族の地域での生活に関する意識、地域で の助け合い活動などに対する考えを把握して臨むこと。さらには、過去の実習体験を振り返り、 社会福祉施設・事業所、利用者と地域との関係についてあらかじめ考察しておくこと。(20分) 【事後学修】事後学修課題を提示しますので、必ず取り組んでください。(20分)
オフィスア ワー	社会福祉学部所属の落合研究室 (2613 研究室) にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設 定します。場所と時間については、授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は、社会福祉法人が経営する社会福祉事業における実務経験、また、成年後見人等のフ ィールドソーシャルワークの実務経験を有する講師(社会福祉士)が実務の観点を踏まえて教授 する科目です。

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅵ	※介護福祉学科
科目責任者	落合 克能	
単位数他	1単位 (15時間) 選択 介護 7セメスター	
DP番号と科目領域	DP6 専門	
科目の位置付	社会福祉専門職としての責務と役割を自覚し、住民や多様な専門職と連携・協働することができる。	
科目概要	ソーシャルワークにかかわる他の科目との関連性を反映させながら、ソーシャルワーカーに求められる知識と技術について、実践的に習得することを目的としている。ソーシャルワーク実習での個別的体験を踏まえ、具体的な相談援助事例を学生自ら作成することで、相談援助に係る実践的な知識と技術を習得できるようになることを目的とする。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習体験の中から利用者とのかかわりから事例を作成する作業を通じて、分析的思考に基づいた援助者としての行動目標を設定できる。</li> <li>2. これまでのソーシャルワーク関連科目との関連を意識しながら、人間の多様性を踏まえた事例を作成することができる。</li> <li>3. グループ討議を通じて、他者と協働することができる。</li> </ol>	
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;                      &lt;担当教員&gt; 落合克能、横尾恵美子</p> <p>第1回：オリエンテーション・ガイダンス 小グループに分かれて、実習での学びの振り返り</p> <p>第2回： ジレンマ事例の作成① ジレンマ事例の共有、大まかな筋書きの作成</p> <p>第3回： ジレンマ事例の作成② 大まかな筋書きの作成</p> <p>第4回： ジレンマ事例の作成③ 大まかな筋書きの作成、プレゼンテーションの準備</p> <p>第5回： ジレンマ事例の作成④ プレゼンテーションの準備</p> <p>第6回： ジレンマ事例の作成⑤ 発表会の予行演習</p> <p>第7・8回： 事例発表会、まとめ ロールプレイによるジレンマ事例から、「ソーシャルワーカーの強み」についての考察を発表する (1グループ20分を予定)</p>	

アクティブ ラーニング	毎回、グループディスカッションやロールプレイを用いた演習を行います。課題提出などは、Moodle を活用します。
評価方法	授業への取組姿勢（小レポート等の内容等含む）50%、定期試験（レポート）50%として評価します。授業はグループ学習が中心とした形態になるため、取組の姿勢では、単に出席するだけでなく、積極的にグループに参加する姿勢などを評価します。 ※定期試験レポートは、ルーブリックを用いて評価します。
課題に対する フィード バック	①演習グループに教員が随時関与しフィードバックを行います。 ②リアクションペーパー・事後学習課題は全体場でフィードバックを行います。 ③個別に質問がある場合は、オフィスアワーで対応します。
指定図書	授業ごとに教員作成の資料等を配布します。
参考図書	『価値と倫理を根底に置いたソーシャルワーク演習』中央法規 2012
事前・ 事後学修	【事前・事後学修共通】各回の授業では、達成課題が提示されます。予め必要となる知識を復習したり、授業時間内で達成できない場合には、次回の授業までに授業時間外で自主的に集まり、課題を達成しておいたりすることが必要となります。（事前・事後各 20 分）
オフィスア ワー	社会福祉学部所属の落合研究室（2613 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。場所と時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は、社会福祉法人が経営する社会福祉事業における実務経験、また、成年後見人等のフィールドソーシャルワークの実務経験を有する講師(社会福祉士)が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	介護福祉管理論
科目責任者	落合 克能
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 介護 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	社会福祉専門職としての責務と役割を自覚し、住民や多様な専門職と連携・協働することができる。
科目概要	<p>本科目は、介護福祉士として福祉サービス提供組織の運営管理を行う上で、介護の質を高めるために必要となるチームマネジメントの基礎的知識について、実際に高齢者福祉施設における福祉サービスの第三者評価を実施することなどを通して、リアリティーをもって理解する科目である。介護福祉施設における福祉サービス第三者評価の実施プロセスを通して介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理、人材の育成や活用などの人材管理、それらに必要なリーダーシップ・フォロワーシップなど、チーム運営の基本を理解し、チームで働くための能力の修得を図ることを目的としている。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉サービスの制度および福祉サービス提供組織のサービスマネジメントに関する基礎的知識を修得する。</li> <li>・適切なサービスマネジメントを行う上で必要となる介護サービス提供チームのマネジメントに必要な知識・技術やシステムについて理解できる。</li> <li>・介護福祉サービス事業を行う組織における運営管理の実態について把握するとともに介護福祉サービスの管理運営について実体験をもとに説明できるようになる。</li> </ul>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>1 回 オリエンテーション、介護保険サービスに関する制度の理解</p> <p>2 回 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）の概要、介護の質を高めるために必要な、チームマネジメント</p> <p>3 回 介護老人福祉施設の経営（理念・事業計画・人事・労務管理）</p> <p>4 回 介護老人福祉施設の経営（財務・会計・経理）</p> <p>5 回 介護老人福祉施設の経営を取り巻く環境（ICT を含む福祉工学の活用）</p> <p>6 回 福祉サービス第三者評価基準（サービスマネジメント部分）について</p> <p>7 回 福祉サービス第三者評価基準（具体的サービス内容）について</p> <p>8 回 介護老人福祉施設における第三者評価実施</p> <p>9 回 介護老人福祉施設における第三者評価実施</p> <p>10 回 介護老人福祉施設における第三者評価実施</p> <p>11 回 介護老人福祉施設における第三者評価実施</p> <p>※8-11 回は、実際に介護老人福祉施設において模擬的に第三者評価（模擬）を実施する</p> <p>12 回 第三者評価結果に関する検討 ※事前に調査後のまとめ（文書化）をしてくる。</p> <p>13 回 第三者評価結果に関する報告書作成</p> <p>14 回 第三者評価結果に関する施設へのフィードバック</p> <p>15 回 まとめ ーチームで働くために必要となる能力とは</p>

アクティブ ラーニング	産学協同による授業であり、授業として特別養護老人ホームに出向きサービスの第三者評価を実施する。評価結果を施設にフィードバックし共に改善点を探る。
評価方法	授業への取り組み状況（中間課題含む）40%、調査・報告の内容30%、定期試験（レポート）30%
課題に対する フィード バック	中間課題やリアクションペーパーに関しては、次回の授業の冒頭でフィードバックします。
指定図書	『シリーズ「新・社会福祉士養成講座」11 福祉サービスの組織と経営』中央法規 2012年
参考図書	『福ナビへGO！－第三者評価を活用しよう』環境新聞社2014 「静岡県福祉サービス第三者評価基準」
事前・ 事後学修	【事前・事後学修】①第1回～第4回では、対象施設の経営内容等に関する情報を「福祉サービス第三者評価」、「介護サービスの情報公表制度」等により調べてまとめて頂きます。②第5回～第6回では、第三者評価基準を把握してきて頂きます。③第7回（調査前）に施設の自己評価の読み込みをして頂きます。第8回～11回では、調査後のまとめをして頂きます。第13回では、調査後の評価に関する合議結果をレポートにまとめて頂きます。（各40分）
オフィスア ワー	自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。場所と時間には、初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は、特別養護老人ホームにおける様々な職種（生活相談員、介護職員、介護支援専門員、施設長補佐、事務長）の実務経験、また、第三者評価の受審経験、調査員としての調査経験等の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	自立支援介護論
科目責任者	植田 裕太郎
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 介護 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	社会福祉専門職としての責務と役割を自覚し、住民や多様な専門職と連携・協働することができる。
科目概要	自立支援介護の理論と実践方法の習得を目的とする。要介護高齢者の自立に向けた支援に必要な生理学、運郷学に基づく基礎理論を解説するとともに、先進施設における実践例なども紹介しながら講義を行う。
到達目標	1. 要介護高齢者の自立性回復に向けた支援のために必要な自立支援介護の基礎知識について、適切な用語を用いて説明できる。 2. 自らの役割を理解し、他者と協働するために必要な自立支援介護の支援方法について、自らの言葉で説明できる。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回：自立支援介護と生理学 自立支援介護および高齢者ケアの基本について理解する。</p> <p>第 2 回：水の生理学(1) 体内における水分のはたらきについて理解する。</p> <p>第 3 回：水の生理学(2) 水分のケアがもたらす効果について理解する。</p> <p>第 4 回：水の生理学(3) 慢性心不全と水分ケアについて理解する。</p> <p>第 5 回：食事ケアの生理学(1) 口腔機能の廃用症候群について理解する。</p> <p>第 6 回：食事ケアの生理学(2) むせの原因とむせさせないための 5 原則について理解する。</p> <p>第 7 回：食事ケアの生理学(3) 常食化のための基礎理論について理解する。</p> <p>第 8 回：排泄ケアの生理学(1) 排泄をトイレで行うための 4 つのケアと戦略について理解する。</p> <p>第 9 回：排泄ケアの生理学(2) 高齢者の便秘と下剤について理解する。</p> <p>第 10 回：排泄ケアの生理学(3) おむつはずしのための支援方法について理解する。</p> <p>第 11 回：歩行の生理学(1) 自立支援介護における歩行の重要性について理解する。</p> <p>第 12 回：歩行の生理学(2) 歩行能力の再獲得について理解する。</p> <p>第 13 回：歩行の生理学(3) 運動学習のステージについて理解する。</p> <p>第 14 回：認知症ケアの生理学(1) 認知の構造について理解する。</p> <p>第 15 回：認知症ケアの生理学(2) 認知症ケアの 4 原則について理解する。</p>

アクティブ ラーニング	毎回、タブレット端末と電子黒板を用いた双方向授業を行う。また、調べ学修、グループディスカッション、発表なども行う。リアクションペーパーはmoodleにて提出する。
評価方法	筆記試験 60%、授業態度 20%、課題提出物 20%によって評価する。
課題に対する フィード バック	moodleにて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。
指定図書	授業中に随時提示
参考図書	『新版 介護基礎学』医歯薬出版、『介護の生理学』秀和システム
事前・ 事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40分) 事後学習：授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。(40分)
オフィス アワー	専門学校所属の植田裕太郎研究室(1608 研究室)にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	チーム介護論
科目責任者	井川 淳史
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 介護 7セメスター
DP 番号と科目領域	DP6 専門
科目の位置付	社会福祉専門職としての責務と役割を自覚し、住民や多様な専門職と連携・協働することができる。
科目概要	本科目は、大学で履修した講義、演習、実習を通して理解した人間の多様性を踏まえ、共生の価値観をもち人や社会と協調できることを目的とする。また、より質の高い介護サービス提供に向けて、介護福祉施設におけるチームの役割、多職種との連携を学ぶ科目である。
到達目標	1. 介護福祉施設における組織の役割を理解することができる。 2. 職場のチームワークの向上のための多職種連携について考えることができる。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回： ガイダンス、チームとは</p> <p>第 2 回： 多職種の理解と介護福祉士の役割（基礎）</p> <p>第 3 回： 多職種の理解と介護福祉士の役割（事例検討）</p> <p>第 4 回： 多職種の理解と介護福祉士の役割（事例まとめ）</p> <p>第 5 回： 多職種の理解と介護福祉士の役割（発表）</p> <p>第 6 回： チームメンバーの役割（基礎）</p> <p>第 7 回： チームメンバーの役割（グループワーク）</p> <p>第 8 回： チームメンバーの役割（グループワークまとめ、発表）</p> <p>第 9 回： チームでのコミュニケーション（基礎）</p> <p>第 10 回： チームでのコミュニケーション（グループワーク）</p> <p>第 11 回： チームでのコミュニケーション（グループワークまとめ）</p> <p>第 12 回： チームでのコミュニケーション（発表）</p> <p>第 13 回： 組織の中でのチームの役割（基礎）</p> <p>第 14 回： 組織の中でのチームの役割（グループワーク）</p> <p>第 15 回： 組織の中でのチームの役割（グループワークまとめ、発表）</p>

アクティブ ラーニング	グループディスカッション、発表、ロールプレイングを通して双方向授業を実施する。また、 リアクションペーパーはMoodleに提出する。
評価方法	レポート50%、課題提出（リアクションペーパー）30%、授業参加度20% レポートは、ルーブリックを用いて評価する。ルーブリック内容は授業中に配布資料等によっ て提示する。
課題に対す るフィード バック	Moodleに提出されたリアクションペーパーについては、次の授業時冒頭でフィードバックを行 うこととする。
指定図書	なし
参考図書	授業中に随時連絡
事前・ 事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40分) 事後学習：授業内容を復習し、内容について自らの言葉で説明できるようにする。(40分)
オフィス アワー	社会福祉学部所属の井川淳史研究室（1608研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワー を設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	介護福祉実践演習 I
科目責任者	秋山 恵美子
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 介護 7 セメスター
DP 番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	対人援助・社会支援の専門職として、保健医療職などの他職種の役割を理解し連携するために、介護福祉士に値する知識を定着させ、自らの人間的成長と役割を自覚し、他者や組織との協働を理解する。さまざまな対象者の課題解決に向け実践する能力を身につける。
到達目標	1. 介護福祉士に値する知識・学力として、領域「人間と社会」の内容のすべてが理解できる。 2. 介護福祉士に値する知識・学力として、領域「介護」の内容のすべてが理解できる
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回 人間と社会①・・・人間の尊厳と自立</p> <p>第2回 人間と社会②・・・人間関係とコミュニケーション</p> <p>第3回 人間と社会③・・・社会の理解</p> <p>第4回 介護の基本①・・・介護福祉士を取り巻く状況、 介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ、尊厳を支える介護、</p> <p>第5回 介護の基本②・・・自立に向けた介護、介護を必要とする人の理解 介護サービス、介護実践における連携</p> <p>第6回 介護の基本③・・・ 介護従事者の倫理、介護従事者の安全、 介護における安全の確保とリスクマネジメント</p> <p>第7回 コミュニケーション技術①・・・介護におけるコミュニケーションの基本、</p> <p>第8回 コミュニケーション技術②・・・介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション、介護におけるコミュニケーション</p> <p>第9回 生活支援技術①・・・生活支援、自立に向けた居住環境の整備、 自立に向けた身じたくの介護、</p> <p>第10回 生活支援技術②・・・自立に向けた移動の介護、自立に向けた食事の介護、</p> <p>第11回 生活支援技術③・・・自立に向けた入浴・清潔保持の介護、自立に向けた排泄の介護、</p> <p>第12回 生活支援技術④・・・自立に向けた移動の介護、自立に向けた移動の介護、</p> <p>第13回 生活支援技術⑤・・・自立に向けた家事の介護、自立に向けた睡眠の介護、 自立に向けた終末期の介護、</p> <p>第14回 介護過程①・・・介護過程の意義、介護過程の展開</p> <p>第15回 介護過程②・・・介護過程の実践的展開、介護過程とチームアプローチ</p>

アクティブ ラーニング	グループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。 リアクションペーパーは moodle にて提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりと りを紙上で実現する。
評価方法	授業態度 20%、課題提出物 20%、筆記試験 60%によって総合的に評価する。 演習で評価するが、ルーブリックは使用しない。
課題に対す るフィード バック	moodle にて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバック を行う。
指定図書	教科書全書
参考図書	介護福祉絶対合格テキスト/大和書房
事前・ 事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読する。(40分) 事後学修：演習問題の根拠をテキストと照合し、ノートにまとめる。(40分)
オフィス アワー	社会福祉学部所属の秋山恵美子研究室 (2611 研究室) にて、自由に相談に応じるオフィスアワ ーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	

科目名	介護福祉実践演習Ⅱ
科目責任者	秋山 恵美子
単位数他	1単位 (30時間) 選択 介護 8 Semester
DP番号と科目領域	DP5 専門
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。
科目概要	対人援助・社会支援の専門職として、保健医療職などの他職種の役割を理解し連携するために、介護福祉士に値する知識を定着させ、自らの人間的成長と役割を自覚し、他者や組織との協働を理解する。
到達目標	1. 介護福祉士に値する知識・学力として、領域「介護」の内容のすべてが理解できる。 2. 介護福祉士に値する知識・学力として、領域「こころとからだのしくみ」の内容のすべてが理解できる
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回 発達と老化の理解①・・・人間の成長と発達の基礎的理解、老年期の発達と成熟 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活</p> <p>第2回 発達と老化の理解②・・・高齢者と健康</p> <p>第3回 認知症の理解①・・・認知症を取り巻く状況、</p> <p>第4回 認知症の理解①・・・ 医学的側面からみた認知症の基礎</p> <p>第5回 認知症の理解②・・・認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活、連携と協働、 家族への支援</p> <p>第6回 障害の理解①・・・障害の基礎的理解、 障害の医学的側面の基礎的理解 (身体障害、精神障害)</p> <p>第7回 障害の理解②・・・障害の医学的側面の基礎的理解 (知的障害、発達障害、難病、 障害のある人の心理、障害に伴う機能の変化と影響) 連携と協働、家族への支援</p> <p>第8回 こころとからだのしくみ①・・・こころのしくみの理解、からだのしくみの理解</p> <p>第9回 こころとからだのしくみ②・・・ 身じたくに関連したこころとからだのしくみ、 移動に関連したこころとからだのしくみ 食事に関連したこころとからだのしくみ</p> <p>第10回 こころとからだのしくみ③・・・ 入浴・清潔に関連したこころとからだのしくみ、 排泄に関連したこころとからだのしくみ</p> <p>第11回 こころとからだのしくみ④・・・ 睡眠に関連したこころとからだのしくみ 死にゆく人のこころとからだのしくみ</p> <p>第12回 医療的ケア・・・医療的ケア実施の基礎</p> <p>第13回 医療的ケア・・・喀痰吸引 (口腔内、鼻腔内、気管カニューレ内) 経管栄養 (胃ろうによる経管栄養、経鼻経管栄養)</p> <p>第14回 医療的ケア・・・総合問題</p> <p>第15回 まとめ</p>

アクティブ ラーニング	グループ学修、グループディスカッション、発表などを実施する。 リアクションペーパーは moodle にて提出する。大福帳により、個々の学生との双方向のやりと りを紙上で実現する。
評価方法	授業態度 20%、課題提出物 20%、筆記試験 60%によって総合的に評価する。 演習で評価するが、ルーブリックは使用しない。
課題に対す るフィード バック	moodle にて提出されたリアクションペーパーについては、次回の授業の冒頭でフィードバック を行う。
指定図書	教科書全書
参考図書	介護福祉絶対合格テキスト/大和書房
事前・ 事後学修	事前学修：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読する。(40分) 事後学修：演習問題の根拠をテキストと照合し、ノートにまとめる。(40分)
オフィス アワー	社会福祉学部所属の秋山恵美子研究室 (2611 研究室) にて、自由に相談に応じるオフィスアワ ーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	

科目名	福祉支援工学入門
科目責任者	大川井 宏明
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 介護 5 セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	(1) 排泄の背景に観えた日本人の偉大さー尊厳、畏敬、羞恥、健康。 (2) 道具を発明した理由とその効果。介護用道具による支援の例と利点欠点。 (3) 寝たきりにさせない、しない、ならない、ためにすることとは (4) 職業としての介護があるからこそ考え得る健康と生活上にある健康要素。 (5) 各項目において工学、医学の基礎を盛り込む。
到達目標	(1) 日常における自分の生活上の動作・思考と、障害を持つ人の動作・思考を関連付けて考えるようになること。 (2) 日常における自分の健康を社会や環境と関連付けて考えるようになること。 (3) 職業としての福祉を福祉工学の視点を含めて考えるようになること。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;</p> <p>第 1 回：導入ー福祉と福祉工学</p> <p>第 2 回：身体の障害に対する支援-1(排泄の意味と排泄支援)</p> <p>第 3 回：身体の障害に対する支援-2 (排せつ、ベッド、移乗、移動)</p> <p>第 4 回：心の障害に対する支援-1(コミュニケーション支援)</p> <p>第 5 回：心の障害に対する支援-2(認知症者の支援、独居者の支援)ー健康見守りー</p> <p>第 6 回：道具の歴史、道具とは、技術開発の歴史そしてロボット</p> <p>第 7 回：医工学機器の発展と福祉機器の発展の相違点</p> <p>第 8 回：興奮と癒し、遊びとしごと (意識に依存する快と不快)</p> <p>第 9 回：食環境を福祉工学で観る (健康の要素-1)</p> <p>第 10 回：住まい環境を福祉工学で観る (健康の要素-2)</p> <p>第 11 回：生活習慣を福祉工学で観る (健康の要素-3)</p> <p>第 12 回：社会環境を福祉工学で観る (健康の要素-4)</p> <p>第 13 回：自然環境を福祉工学で観る (健康の要素-5)</p> <p>第 14 回：寝たきりにさせない、しない、ならない</p> <p>第 15 回：介護の手段と介護職の目的を考える</p>

アクティブ ラーニング	問題点を喚起し考える、発言する。
評価方法	期末レポート 50%、平常点(積極性等の受講姿勢) 50%。レポートはいくつかの課題から選択して自分の考えを中心に作成する。ポイントは単に正解を求めるのではなく、介護、医学、心理学、福祉工学の視点と、健康に関して取り組姿勢を盛り込んだ思考の流れに重点をおく。
課題に対する フィード バック	レポートに表現した内容および思考の流れ等に関して、掲示、配布、口頭等によって講評する。
指定図書	なし。
参考図書	なし。
事前・ 事後学修	単に聞くだけではなく、単に単語を覚えるだけでもない。日常生活と健康について考える契機とする。命を引き継いできた人の営みの歴史に表現された神秘性と具体性を知り、現在命を引き継いでいる我々の営みを工夫し、併せて心の居場所を考える視点をもつ。これら視点を具体的に見えるようにして、かつ、次代に引き継ぐ手段とする工学の視点を採り入れる。これらを一つにして考える工夫と意欲をもって体調を整えて受講することを望む。したがって受講の度に事前事後の細かい学習を課すことはない。
オフィス アワー	2714 室に表示する。
実務経験に 関する記述	本科目は「医学、工学、福祉工学」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	福祉サービス工学入門
科目責任者	大川井 宏明
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 介護 6 セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	われわれは日々、種々の影響を含めサービスを受けながら生活している。または、サービスなしでは生きられない。本科目はこのような社会科学、人文科学、自然科学にわたる学際的広範囲な分野を満足の科学、健康の科学としてとらえた福祉工学を実践的に構成する一つの手法である。各項目において工学、医学の基礎を盛り込む。
到達目標	(1)我々は人、社会、人為環境、自然環境からサービスの提供を受けていることを理解する。 (2)そのサービスが心の満足、身体の満足を誘導し、その結果健康を作るということを理解する。 (3)他の人に提供するサービスが持つ意味を考える。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;</p> <p>第 1 回：導入—サービスを受けて生活していること (システム工学の考え方)</p> <p>第 2 回：することと、してもらうことの関係 (提供者と被提供者)</p> <p>第 3 回：心の満足・身体の満足と健康</p> <p>第 4 回：モノ、情報、動作等というサービスがもたらす満足</p> <p>第 5 回：言語と非言語によるコミュニケーション(意識・無意識との関連)</p> <p>第 6 回：屋内環境が提供するサービスがもたらす満足</p> <p>第 7 回：社会環境、自然環境が提供するサービスがもたらす満足</p> <p>第 8 回：おもてなし(提供する心と享受する心の整合)</p> <p>第 9 回：ストレスと満足と無関心</p> <p>第 10 回：健康をつくる 5 個の要素</p> <p>第 11 回：社会参加とコミュニティー</p> <p>第 12 回：願望と畏敬が導いた満足と健康 (道具の歴史に託された心)</p> <p>第 13 回：身体の衣食住と心の衣食住</p> <p>第 14 回：介護というサービスを提供する立場</p> <p>第 15 回：職業としての福祉と福祉工学を考える</p>

アクティブ ラーニング	問題点を喚起し考える、発言する。
評価方法	期末レポート 50%、平常点(積極性等の受講姿勢)50%。レポートはいくつかの課題から選択して自分の考えを中心に作成する。ポイントは単に正解を求めるのではなく、介護、医学、心理学、福祉工学の視点と、健康に関して取り組姿勢を盛り込んだ思考の流れに重点をおく。
課題に対する フィード バック	レポートに表現した内容および思考の流れ等に関して、掲示、配布、口頭等によって講評する。
指定図書	なし。
参考図書	なし。
事前・ 事後学修	単に聞くだけではなく、単に単語を覚えるだけでもない。日常生活において我々は人、社会、自然からサービス(=刺激)を受けている。逆に他の人にサービスを届けている。中には健康を作るものもあれば蝕むものもある。これを福祉工学の視点で具体的に見えるようにして、かつ、次代に引き継ぐという視点を日々心がけることを求める。このため、新たな視点を学び気がつくという意欲をもって体調を整えて受講することを望む。したがって受講の度に事前事後の細かい学習を課すことはない。
オフィス アワー	2714 室に表示する。
実務経験に 関する記述	本科目は「医学、工学、福祉工学」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	福祉生体工学入門
科目責任者	大川井 宏明
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 介護 7セメスター
DP 番号と科目領域	DP4 専門
科目の位置付	自らの専門分野や関連諸学の学識を用いて、生活問題、社会問題を認識し、課題を探求・設定し、多面的に考察することができる。
科目概要	福祉生体工学によって介護学、リハビリテーション学等及びその実務における質の向上を図るための要素である生理学を身体の物理学の視点で学ぶ。これを基にして身体の観測、身体の保護、身体の動作について原理と方法を理解する。
到達目標	(1)身体を計測し、解釈し、表現することを身体の物理学を使って考える。 (2)介護動作の意味と負荷軽減の利点と欠点について物理学を使って考える。 (3)日常生活動作、体操、ストレッチ等の意味と、効率よく安全に他を介護したり、自他の健康維持を図ったりすることについて物理学を使って考える。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt; &lt;担当教員名&gt;</p> <p>第 1 回：導入ーライフサイエンスの中の福祉生体工学</p> <p>第 2 回：ボディーメカニクスによる介護者と被介護者の保護-1 (脊柱と関節と筋)</p> <p>第 3 回：ボディーメカニクスによる介護者と被介護者の保護-2 (てこの原理)</p> <p>第 4 回：ボディーメカニクスによる介護者と被介護者の保護-3 (骨格筋の収縮活動と相補構造)</p> <p>第 5 回：ボディーメカニクスによる介護者と被介護者の保護-4 (負荷と負荷軽減という相反性のもつ意義)</p> <p>第 6 回：生体組織のゆるやかな変形 (静的歪み。主動的な運動と受動的な運動)</p> <p>第 7 回：生体組織の俊敏な変形 (動的歪み。主動的な運動と受動的な運動)</p> <p>第 8 回：細胞と組織の構造と機能／水の恩恵</p> <p>第 9 回：重力の恩恵／廃用症候群</p> <p>第 10 回：歩行様態から観える骨格筋の生理学(身体を電気で観る／力学で観る)</p> <p>第 11 回：物理学の視点で観える循環器系の生理学(身体を電気で観る／力学で観る)</p> <p>第 12 回：骨格筋と心筋における構造と機能の差異(制御、疲れ、痛み) (身体を電気で観る／力学で観る)</p> <p>第 13 回：歩行、睡眠からわかる健康様態の変化</p> <p>第 14 回：身体を光、電波、電磁波で観る (計測と治療)</p> <p>第 15 回：職業としての福祉と福祉工学を考える</p>

アクティブ ラーニング	問題点を喚起し考える、発言する。
評価方法	期末レポート 50%、平常点(積極性等の受講姿勢) 50%。レポートはいくつかの課題から選択して自分の考えを中心に作成する。ポイントは単に正解を求めるのではなく、介護、医学、心理学、福祉工学の視点と、健康に関して取り組姿勢を盛り込んだ思考の流れに重点をおく。
課題に対する フィード バック	レポートに表現した内容および思考の流れ等に関して、掲示、配布、口頭等によって講評する。
指定図書	なし
参考図書	なし
事前・ 事後学修	単に聞くだけではなく、単に単語を覚えるだけでもない。日常生活と健康について考える契機とする。命を引き継いできた人の営みの歴史に表現された神秘性と具体性を知り、現在命を引き継いでいる我々の営みを工夫し、併せて心の居場所を考える視点をもつ。これら視点を具体的に見えるようにして、かつ、次代に引き継ぐ手段とする工学の視点を採り入れる。これらを一つにして考える工夫と意欲をもって体調を整えて受講することを望む。したがって受講の度に事前事後の細かい学習を課すことはない。
オフィス アワー	2714 室に表示する。
実務経験に 関する記述	本科目は「医学、工学、福祉工学」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	インターンシップ I	※介護福祉学科
科目責任者	井川 淳史	
単位数他	2単位 (90 時間) 選択 介護 5～8 セメスター	
DP 番号と科目領域	DP 1 専門	
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。	
科目概要	<p>本科目は、インターンシップを通して管理者としての自覚を持ち、多角的に経営をする大規模法人における社会福祉及び地域福祉における介護福祉士の特性を活かす活動について提案ができる力を修得し、対人援助職の役割を理解することを目的としている。さらに、キャリアモデルについて考える機会を提供する科目である。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護福祉士養成教育及び社会福祉士養成教育で習得した知識を就職への動機づけとして考えることができる。</li> <li>2. 介護実習Ⅰ・介護実習Ⅱ・介護実習Ⅲ・ソーシャルワーク実習で習得できた技術をもって利用者に主体的に関わることができる。</li> <li>3. 地域貢献を目指す法人の機能及び実質的な役割の理解ができる。</li> <li>4. 専門職教育の理解ができ、介護福祉士の専門性について言語化できる。</li> <li>5. 大規模法人の役割・地域で果たす役割や地域資源について理解することができる。</li> <li>6. 多くの職員や法人スタッフとの交流を通してキャリアデザインを描くことができる。</li> </ol>	
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回 オリエンテーション</p> <p>【インターンシップ先の理解】</p> <p>第 2 回 配属発表・配属先研究</p> <p>第 3 回 問題意識の明確化、自己課題の抽出</p> <p>第 4 回 インターンシップ計画</p> <p>【インターンシップの実際】</p> <p>第 5 回 インターンシップ：事前訪問</p> <p>第 6 回 インターンシップ：施設見学及び施設利用法</p> <p>第 7 回 インターンシップの振り返り</p> <p>第 8 回 インターンシップ：配属部署の見学</p> <p>第 9 回 インターンシップ：配属先の会議への参加</p> <p>第 10 回 インターンシップ：配属先の管理者との面談</p> <p>第 11 回 インターンシップの振り返り</p> <p>【インターンシップを通しての専門職理解】</p> <p>第 12 回 インターンシップ体験に関するアウトプット</p> <p>第 13 回 インターンシップを通しての自己覚知</p> <p>第 14 回 報告会準備</p> <p>第 15 回 報告会</p>	

アクティブ ラーニング	グループディスカッション、発表、ロールプレイングを通して双方向授業を実施する。また、課題はMoodleに提出する。
評価方法	課題レポート2回(100%)
課題に対する フィード バック	Moodleに提出された課題については、次の授業時にフィードバックを行う。
指定図書	なし
参考図書	授業中に随時連絡
事前・ 事後学修	事前学習：インターンシップ計画の目的、毎回の目標をしっかりと設定するために事前学習を丁寧に行いましょう。(40分) 事後学修：インターンシップ後、振り返りレポートの作成をしてください。事後学習は必ず40分程度を行いましょう。振り返りをしっかり行い、今後の就職活動に活用して下さい。(40分)
オフィス アワー	社会福祉学部所属の井川淳史研究室(1608研究室)にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	インターンシップⅡ	※介護福祉学科
科目責任者	井川 淳史	
単位数他	2単位 (90 時間) 選択 介護 5～8セメスター	
DP 番号と科目領域	DP1 専門	
科目の位置付	建学の精神である「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた高邁な精神と豊かな教養に裏付けられた倫理観を身につけている。	
科目概要	本科目は、インターンシップを通して管理者としての自覚を持ち、地域福祉における介護福祉士の特性を活かす活動について提案ができる力を修得し、対人援助職の役割を理解することを目的としている。さらに、キャリアビジョンについて考える機会を提供する科目である。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護福祉士養成教育及び社会福祉士養成教育で習得した知識を就職への動機づけとして考えることができる。</li> <li>2. 介護実習Ⅰ・介護実習Ⅱ・介護実習Ⅲ・ソーシャルワーク実習で習得できた技術をもって利用者に主体的に関わることができる。</li> <li>3. 地域貢献を目指す法人の機能及び実際的な役割の理解ができる。</li> <li>4. 専門職教育の理解ができ、介護福祉士の専門性について言語化できる。</li> <li>5. 大規模法人の役割・地域で果たす役割や地域資源について理解することができる。</li> <li>6. 多くの職員や法人スタッフとの交流を通してキャリアデザインを描くことができる。</li> </ol>	
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第 1 回 オリエンテーション</p> <p>【インターンシップ先の理解】</p> <p>第 2 回 配属発表・配属先研究</p> <p>第 3 回 問題意識の明確化、自己課題の抽出</p> <p>第 4 回 インターンシップ計画</p> <p>【インターンシップの実際】</p> <p>第 5 回 インターンシップ：事前訪問</p> <p>第 6 回 インターンシップ：施設見学及び施設利用法</p> <p>第 7 回 インターンシップの振り返り</p> <p>第 8 回 インターンシップ：配属部署の見学</p> <p>第 9 回 インターンシップ：配属先の会議への参加</p> <p>第 10 回 インターンシップ：配属先の管理者との面談</p> <p>第 11 回 インターンシップの振り返り</p> <p>【インターンシップを通しての専門職理解】</p> <p>第 12 回 インターンシップ体験に関するアウトプット</p> <p>第 13 回 インターンシップを通しての自己覚知</p> <p>第 14 回 報告会準備</p> <p>第 15 回 報告会</p>	

アクティブ ラーニング	グループディスカッション、発表、ロールプレイングを通して双方向授業を実施する。また、課題はMoodleに提出する。
評価方法	課題レポート2回(100%)
課題に対する フィード バック	Moodleに提出された課題については、次の授業時にフィードバックを行う。
指定図書	なし
参考図書	授業中に随時連絡
事前・ 事後学修	事前学習：インターンシップ計画の目的、毎回の目標をしっかりと設定するために事前学習を丁寧に行いましょう。(40分) 事後学修：インターンシップ後、振り返りレポートの作成をしてください。振り返りをしっかり行い今後の就職活動に活用して下さい。(40分)
オフィス アワー	社会福祉学部所属の井川淳史研究室(1608研究室)にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。
実務経験に 関する記述	本科目は「介護福祉士」の実務経験を有する講師が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	福祉実習 I	※介護福祉学科
科目責任者	落合 克能	
単位数他	2単位(90時間) 選択 介護 4～8セメスター	
DP番号と科目領域	DP5 専門	
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。	
科目概要	<p>自らの関心領域において実習することで、その領域の学習を促進したり、将来の進路を決定する。</p> <p>注) 福祉実習は、I～IVまであり、一か所10日間の実習であればIのみ履修、20日間の場合はI・IIを同時に履修できる。また、3～8セメスターの範囲でIVまで履修でき、Iを履修済の場合はII、I・IIを履修済の場合は、IIIを履修するということになる。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>福祉サービス利用者の状況等を含む福祉実践の場を体験的に理解する。</li> <li>福祉職従事者の視点や実践方法(実習目的に合致した形で基本的コミュニケーションや支援方法から応用まで)を学ぶ。</li> <li>卒業後の進路を決定するための素材を得る。</li> </ol>	
授業計画	<p>学生各自の関心や目的に応じて、担当教員と相談しつつ自主的に実習を計画する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>事前学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>担当教員によるオリエンテーション</li> <li>実習計画書の作成</li> </ul> </li> <li>配属実習 <ul style="list-style-type: none"> <li>一つの社会福祉施設・機関・団体においてI～IV各10日間の実習を実施</li> <li>日ごとの実習目標の立案</li> <li>実習記録の作成</li> <li>実習先におけるスーパービジョン</li> </ul> </li> <li>事後学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>学内におけるスーパービジョン</li> </ul> </li> </ol>	

アクティブ ラーニング	実習科目です。
評価方法	事前学習 20%、実習 60%、事後学習 20%  【事前学習・事後学修】 授業中への参加度、リアクション等により評価します。  【実習】 実習指導者の評価（基準あり）に基づき評価します。
課題に対する フィード バック	課題に関しては、教員が必要に応じて関与し、フィードバック、スーパービジョンを行います。 オフィスアワーで個別対応します。
指定図書	本学発行のソーシャルワーク実習の手引きおよび実習日誌
参考図書	なし
事前・ 事後学修	【事前学習】実習までに、実習施設の概要を十分に把握しておいて下さい。(180分) 【事後学修】実習後は、体験したことを振り返り整理して頂きます。(180分)
オフィス アワー	自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。場所と時間については、初回授業時に提示 します。
実務経験に 関する記述	本科目は、特別養護老人ホームにおける様々な職種（生活相談員、介護職員、介護支援専門員、 施設長補佐、事務長）の実務経験、また、第三者評価の受審経験、調査員としての調査経験等 の実務経験を有する講師（社会福祉士）が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	福祉実習Ⅱ	※介護福祉学科
科目責任者	落合 克能	
単位数他	2単位(90時間) 選択 介護 4～8セメスター	
DP番号と科目領域	DP5 専門	
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。	
科目概要	<p>自らの関心領域において実習することで、その領域の学習を促進したり、将来の進路を決定する。</p> <p>注) 福祉実習は、Ⅰ～Ⅳまであり、一か所10日間の実習であればⅠのみ履修、20日間の場合はⅠ・Ⅱを同時に履修できる。また、3～8セメスターの範囲でⅣまで履修でき、Ⅰを履修済の場合はⅡ、Ⅰ・Ⅱを履修済の場合は、Ⅲを履修するということになる。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>福祉サービス利用者の状況等を含む福祉実践の場を体験的に理解する。</li> <li>福祉職従事者の視点や実践方法(実習目的に合致した形で基本的コミュニケーションや支援方法から応用まで)を学ぶ。</li> <li>卒業後の進路を決定するための素材を得る。</li> </ol>	
授業計画	<p>学生各自の関心や目的に応じて、担当教員と相談しつつ自主的に実習を計画する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>事前学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>担当教員によるオリエンテーション</li> <li>実習計画書の作成</li> </ul> </li> <li>配属実習 <ul style="list-style-type: none"> <li>一つの社会福祉施設・機関・団体においてⅠ～Ⅳ各10日間の実習を実施</li> <li>日ごとの実習目標の立案</li> <li>実習記録の作成</li> <li>実習先におけるスーパービジョン</li> </ul> </li> <li>事後学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>学内におけるスーパービジョン</li> </ul> </li> </ol>	

アクティブ ラーニング	実習科目です。
評価方法	事前学習 20%、実習 60%、事後学習 20%  【事前学習・事後学修】 授業中への参加度、リアクション等により評価します。  【実習】 実習指導者の評価（基準あり）に基づき評価します。
課題に対する フィード バック	課題に関しては、教員が必要に応じて関与し、フィードバック、スーパービジョンを行います。 オフィスアワーで個別対応します。
指定図書	本学発行のソーシャルワーク実習の手引きおよび実習日誌
参考図書	なし
事前・ 事後学修	【事前学習】 実習までに、実習施設の概要を十分に把握しておいて下さい。(180分) 【事後学修】 実習後は、体験したことを振り返り整理して頂きます。(180分)
オフィス アワー	自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。場所と時間については、初回授業時に提示 します。
実務経験に 関する記述	本科目は、特別養護老人ホームにおける様々な職種（生活相談員、介護職員、介護支援専門員、 施設長補佐、事務長）の実務経験、また、第三者評価の受審経験、調査員としての調査経験等 の実務経験を有する講師（社会福祉士）が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	福祉実習Ⅲ	※介護福祉学科
科目責任者	落合 克能	
単位数他	2単位(90時間) 選択 介護 4～8セメスター	
DP番号と科目領域	DP5 専門	
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。	
科目概要	<p>自らの関心領域において実習することで、その領域の学習を促進したり、将来の進路を決定する。</p> <p>注) 福祉実習は、Ⅰ～Ⅳまであり、一か所10日間の実習であればⅠのみ履修、20日間の場合はⅠ・Ⅱを同時に履修できる。また、3～8セメスターの範囲でⅣまで履修でき、Ⅰを履修済の場合はⅡ、Ⅰ・Ⅱを履修済の場合は、Ⅲを履修するということになる。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>福祉サービス利用者の状況等を含む福祉実践の場を体験的に理解する。</li> <li>福祉職従事者の視点や実践方法(実習目的に合致した形で基本的コミュニケーションや支援方法から応用まで)を学ぶ。</li> <li>卒業後の進路を決定するための素材を得る。</li> </ol>	
授業計画	<p>学生各自の関心や目的に応じて、担当教員と相談しつつ自主的に実習を計画する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>事前学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>担当教員によるオリエンテーション</li> <li>実習計画書の作成</li> </ul> </li> <li>配属実習 <ul style="list-style-type: none"> <li>一つの社会福祉施設・機関・団体においてⅠ～Ⅳ各10日間の実習を実施</li> <li>日ごとの実習目標の立案</li> <li>実習記録の作成</li> <li>実習先におけるスーパービジョン</li> </ul> </li> <li>事後学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>学内におけるスーパービジョン</li> </ul> </li> </ol>	

アクティブ ラーニング	実習科目です。
評価方法	事前学習 20%、実習 60%、事後学習 20%  【事前学習・事後学修】 授業中への参加度、リアクション等により評価します。  【実習】 実習指導者の評価（基準あり）に基づき評価します。
課題に対する フィード バック	課題に関しては、教員が必要に応じて関与し、フィードバック、スーパービジョンを行います。 オフィスアワーで個別対応します。
指定図書	本学発行のソーシャルワーク実習の手引きおよび実習日誌
参考図書	なし
事前・ 事後学修	【事前学習】 実習までに、実習施設の概要を十分に把握しておいて下さい。(180分) 【事後学修】 実習後は、体験したことを振り返り整理して頂きます。(180分)
オフィス アワー	自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。場所と時間については、初回授業時に提示 します。
実務経験に 関する記述	本科目は、特別養護老人ホームにおける様々な職種（生活相談員、介護職員、介護支援専門員、 施設長補佐、事務長）の実務経験、また、第三者評価の受審経験、調査員としての調査経験等 の実務経験を有する講師（社会福祉士）が実務の観点を踏まえて教授する科目です。

科目名	福祉実習Ⅳ	※介護福祉学科
科目責任者	落合 克能	
単位数他	2単位(90時間) 選択 介護 4～8セメスター	
DP番号と科目領域	DP5 専門	
科目の位置付	社会福祉分野の知識・技能を総合的に活用し、対象・課題に応じた支援を提供する実践力を身につけている。	
科目概要	<p>自らの関心領域において実習することで、その領域の学習を促進したり、将来の進路を決定する。</p> <p>注) 福祉実習は、Ⅰ～Ⅳまであり、一か所10日間の実習であればⅠのみ履修、20日間の場合はⅠ・Ⅱを同時に履修できる。また、3～8セメスターの範囲でⅣまで履修でき、Ⅰを履修済の場合はⅡ、Ⅰ・Ⅱを履修済の場合は、Ⅲを履修するということになる。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>福祉サービス利用者の状況等を含む福祉実践の場を体験的に理解する。</li> <li>福祉職従事者の視点や実践方法(実習目的に合致した形で基本的コミュニケーションや支援方法から応用まで)を学ぶ。</li> <li>卒業後の進路を決定するための素材を得る。</li> </ol>	
授業計画	<p>学生各自の関心や目的に応じて、担当教員と相談しつつ自主的に実習を計画する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>事前学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>担当教員によるオリエンテーション</li> <li>実習計画書の作成</li> </ul> </li> <li>配属実習 <ul style="list-style-type: none"> <li>一つの社会福祉施設・機関・団体においてⅠ～Ⅳ各10日間の実習を実施</li> <li>日ごとの実習目標の立案</li> <li>実習記録の作成</li> <li>実習先におけるスーパービジョン</li> </ul> </li> <li>事後学習 <ul style="list-style-type: none"> <li>学内におけるスーパービジョン</li> </ul> </li> </ol>	

アクティブ ラーニング	実習科目です。
評価方法	事前学習 20%、実習 60%、事後学習 20%  【事前学習・事後学修】 授業中への参加度、リアクション等により評価します。  【実習】 実習指導者の評価（基準あり）に基づき評価します。
課題に対する フィード バック	課題に関しては、教員が必要に応じて関与し、フィードバック、スーパービジョンを行います。 オフィスアワーで個別対応します。
指定図書	本学発行のソーシャルワーク実習の手引きおよび実習日誌
参考図書	なし
事前・ 事後学修	【事前学習】実習までに、実習施設の概要を十分に把握しておいて下さい。(180分) 【事後学修】実習後は、体験したことを振り返り整理して頂きます。(180分)
オフィス アワー	自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。場所と時間については、初回授業時に提示 します。
実務経験に 関する記述	本科目は、特別養護老人ホームにおける様々な職種（生活相談員、介護職員、介護支援専門員、 施設長補佐、事務長）の実務経験、また、第三者評価の受審経験、調査員としての調査経験等 の実務経験を有する講師（社会福祉士）が実務の観点を踏まえて教授する科目です。